

令和4年度
障害者のスポーツに関する意識調査
報告書



東京都生活文化スポーツ局

目 次

1 調査概要.....	1
1.1 調査目的.....	1
1.2 調査方法及び回答結果.....	1
(1) 調査方法.....	1
(2) 調査内容.....	1
(3) 調査期間.....	2
(4) 調査対象及び回答結果.....	2
(5) 利用上の注意.....	3
2 調査結果.....	4
2.1 障害者の属性.....	4
(1) 年齢.....	4
(2) 性別.....	4
(3) 障害の種類.....	5
(4) 車いすの必要性の有無.....	7
(5) 障害者手帳の保有状況.....	8
(6) 障害が発生した年齢.....	14
(7) 過去1年間の就業状況(18歳以上).....	17
(8) 過去1年間の平日・日中の居場所(18歳以上).....	21
(9) 学校の種別(7～25歳の在学中の方).....	24
(10) 放課後の居場所(在学中、高校生まで).....	27
2.2 情報の入手先.....	30
(1) スポーツ・運動に関する情報の入手先.....	30
(2) 日常的な情報の入手先.....	33
2.3 スポーツ・運動の実施状況.....	36
(1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無.....	36
(2) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数.....	43
(3) 過去1年間に行ったスポーツ・運動.....	50
(4) スポーツ・運動を実施する場所.....	58
(5) スポーツ・運動を一緒に実施する人.....	64
(6) スポーツ・運動を実施する理由.....	71
(7) 東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化.....	75
(8) スポーツ・運動を実施しない理由.....	81
(9) 活動したいと思わない理由.....	85

(10) 新型コロナウイルス感染症による影響(感染拡大前との比較)	90
(11) 学校体育の参加状況(在学中、高校生まで)	100
(12) 学校体育に参加しない理由(在学中、高校生まで)	103
(13) 学校におけるスポーツ・運動活動(在学中、高校生まで)	104
(14) 参加したいスポーツ活動	105
(15) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援	110
(16) 現在のスポーツ・運動への取組	120
(17) スポーツ・運動以外の関心	127
3 まとめ(調査結果の概要)	131
○ 参考文献・付録	

注)「しょうがい」の用語は、「障がい」「障碍」などがあるが、本報告書では、法令等における表記である「障害」を使用した。

1 調査概要

1.1 調査目的

今後の東京都におけるパラスポーツ振興に向け、障害者のスポーツに関する意識を調査し、「『未来の東京』戦略」（令和3年3月策定）における政策目標の達成度や事業の効果等を把握する。

1.2 調査方法及び回答結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

(2) 調査内容

- ・回答者本人および同居する家族における障害の有無
- ・障害者手帳の保有状況
- ・障害が発生した年齢
- ・過去1年間の収入を伴う仕事の従事状況
- ・過去1年間の平日・日中の居場所
- ・学校の種別（7～25歳対象）
- ・放課後の居場所（在学中、高校生まで）
- ・スポーツ・運動に関する情報の入手先
- ・日常的な情報の入手先
- ・過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無
- ・過去1年間に行ったスポーツ・運動の実施種目
- ・過去1年間に行ったスポーツ・運動の実施頻度
- ・スポーツや運動を実施した場所
- ・スポーツや運動を一緒に実施する人
- ・スポーツや運動を実施した理由
- ・スポーツ・運動を実施する上で東京オリンピック・パラリンピック前後で変わったと感じること
- ・スポーツや運動を実施していない理由
- ・実施していない理由で「活動したいと思わない」と回答した理由
- ・新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響
- ・学校体育の参加状況（在学中、高校生まで）
- ・学校体育の授業に参加しない理由（在学中、高校生まで）
- ・学校体育以外のスポーツ・運動の機会（在学中、高校生まで）
- ・スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援
- ・スポーツ・運動への取組の満足度
- ・スポーツ・運動以外に関心のあること

(3) 調査期間

2022 年 9 月 6 日（火曜日）～2022 年 9 月 16 日（金曜日）

(4) 調査対象及び回答結果

インターネット市場でモニター登録をしている方のうち、都内に居住する障害者本人あるいは同居する家族に障害者（7 歳以上）がいる方を調査対象とした。

なお、同居する家族として障害者が複数いる場合は、そのうちの 1 名についてのみ回答してもらった結果、対象となる 7 歳以上の障害者の総数は 3,531 人となった。

【図表 1】 回答者の居住地

居住地	回収数	比率（％）
23 区	2,449	69.4
多摩	1,079	30.6
島しょ	3	0.1
合計	3,531	

【図表 2】 回答者の年齢

年代	回収数	比率（％）
7 歳～17 歳	16	0.5
18 歳～19 歳	12	0.3
20 歳代	284	8.0
30 歳代	597	16.9
40 歳代	873	24.7
50 歳代	878	24.9
60 歳代	576	16.3
70 歳代以上	295	8.4
合計	3,531	

【図表 3】 回答者の性別

性別	回収数	比率（％）
男性	2, 212	62. 6
女性	1, 319	37. 4
合計	3, 531	

【図表 4】 回答者からみた障害者の続柄

回答者との続柄	回収数	比率（％）
本人	1, 153	32. 7
配偶者	894	25. 3
父親	224	6. 3
母親	460	13. 0
兄弟	87	2. 5
姉妹	49	1. 4
子ども	664	18. 8
合計	3, 531	

(5) 利用上の注意

(ア) 比率の単位は「％」、実数の単位は「人」である。

(イ) 百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入したため、内訳の合計が 100%にならない場合がある。

(ウ) 障害程度の分類〔重度／軽度〕については、以下のとおり分類した。

- ・ 軽度：身体障害者手帳 3 ～ 6 級、療育手帳 3 ～ 4 度、精神障害者保健福祉手帳 2 ～ 3 級の保持者
- ・ 重度：上記以外の障害者手帳保持者

(エ) 昨年度までの調査対象者は 18 歳以上としていたが、今年度新たに 7 ～ 17 歳を対象に加えたため、経年比較の際は注意が必要である。

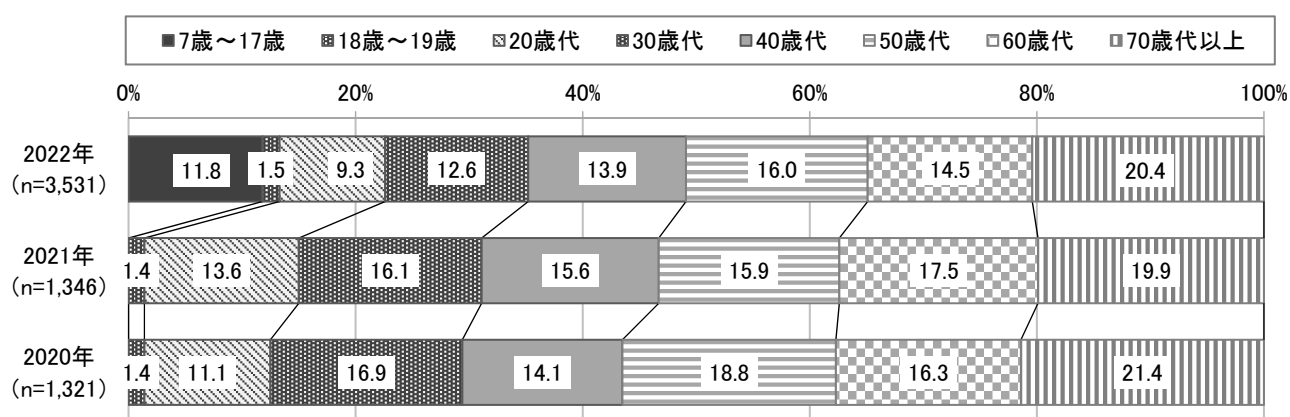
2 調査結果

2.1 障害者の属性

(1) 年齢

総務省の令和2年国勢調査では、東京都の7歳以上の人口のうち、7～17歳が8.8%、18～19歳が1.9%、20歳代が13.3%、30歳代が16.1%、40歳代が17.0%、50歳代が14.8%、60歳代が10.6%、70歳代以上が18.9%であり、本調査では都民全体と比べて年齢構成に大きな差はなかった。【図表5】

【図表5】 年齢

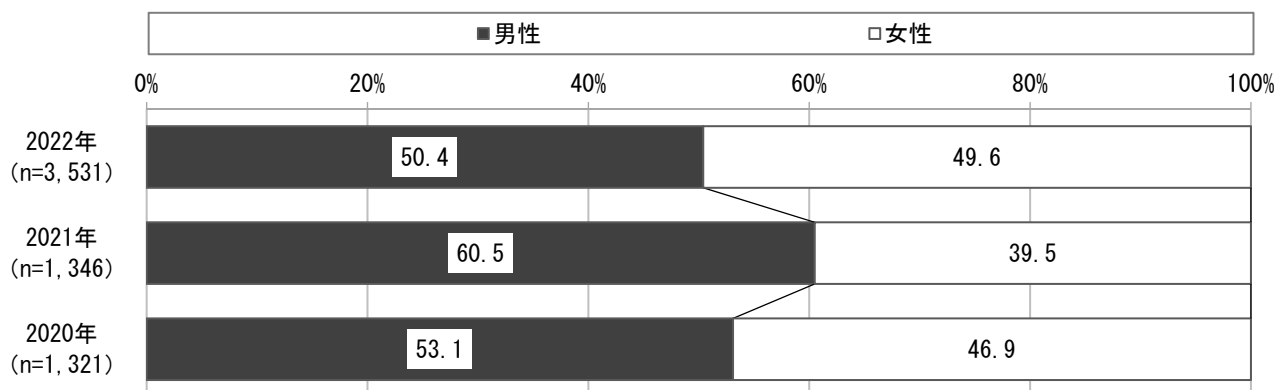


注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

(2) 性別

総務省の令和2年国勢調査では、東京都の人口のうち、男性が49.1%、女性が50.9%であり、都民全体と比べて大きな差はなかった。【図表6】

【図表6】 性別

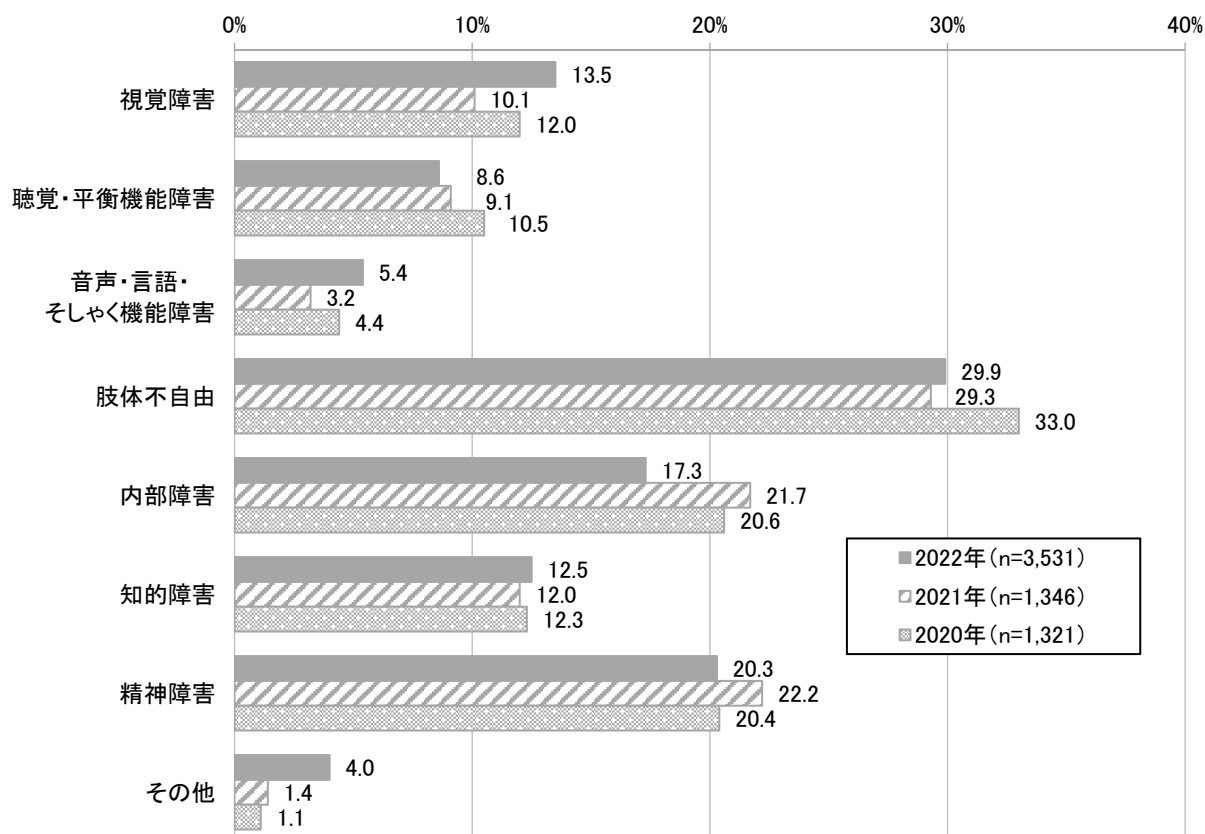


注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

(3) 障害の種類

障害の種類は、「肢体不自由」が 29.9%と最も多く、次いで「精神障害」（20.3%）、「内部障害」（17.3%）、「視覚障害」（13.5%）、「知的障害」（12.5%）の順であった。【図表 7】

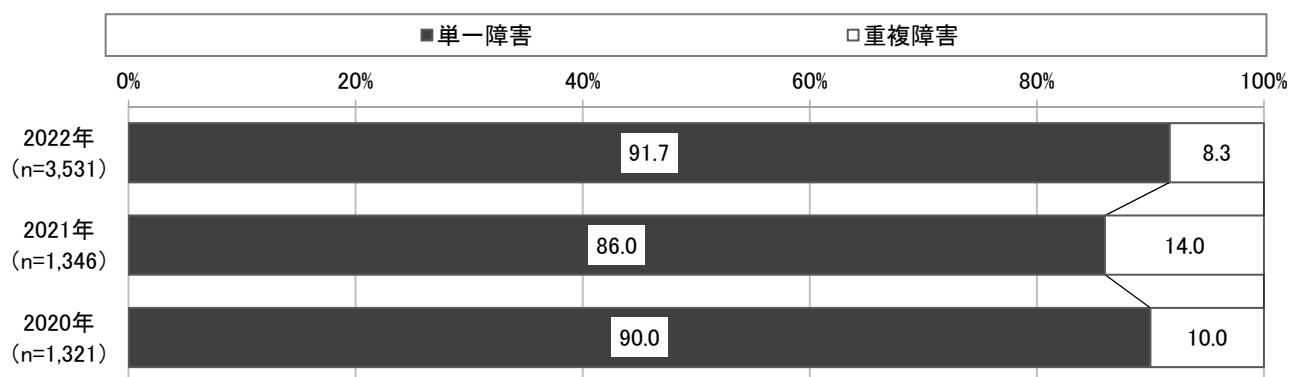
【図表 7】 障害の種類〔複数回答〕



注：2021 年までは 18 歳以上、2022 年は 7 歳以上を調査対象としている。

単一障害・重複障害の比率をみると、重複障害の比率は 8.3%であった。【図表 8】

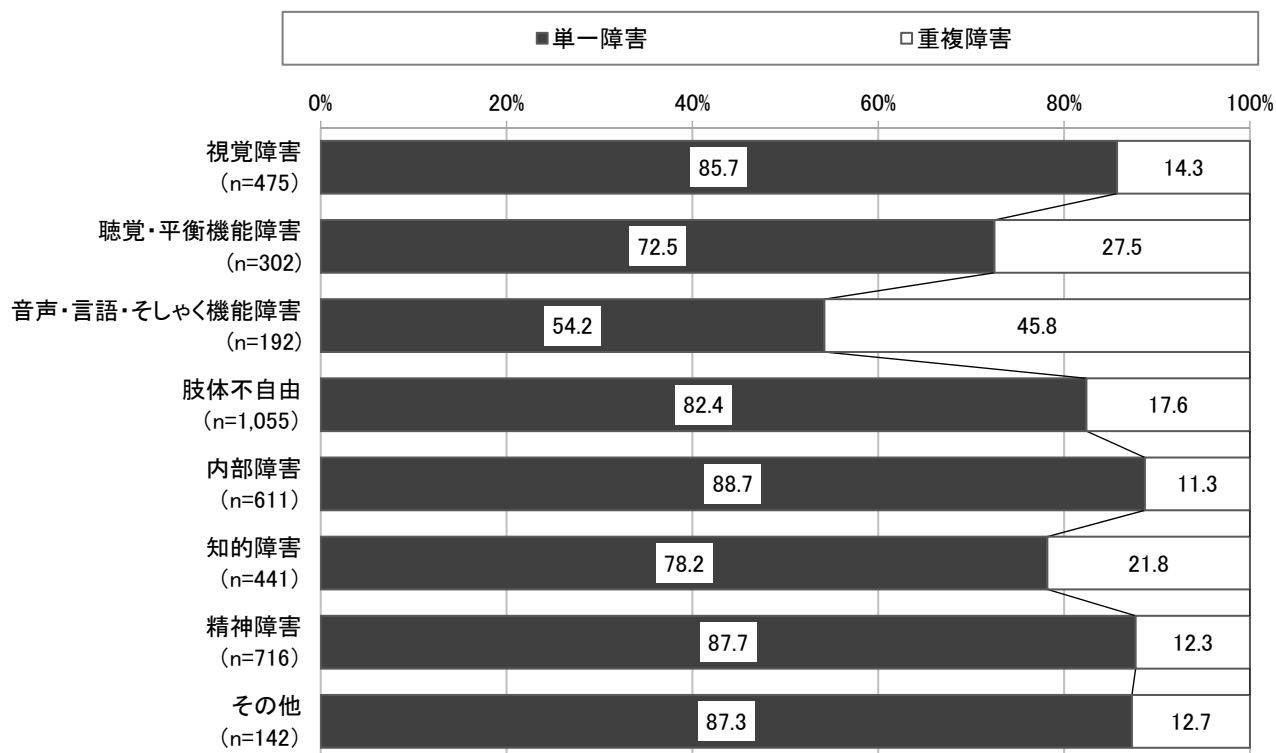
【図表 8】 単一障害・重複障害の比率



注：2021 年までは 18 歳以上、2022 年は 7 歳以上を調査対象としている。

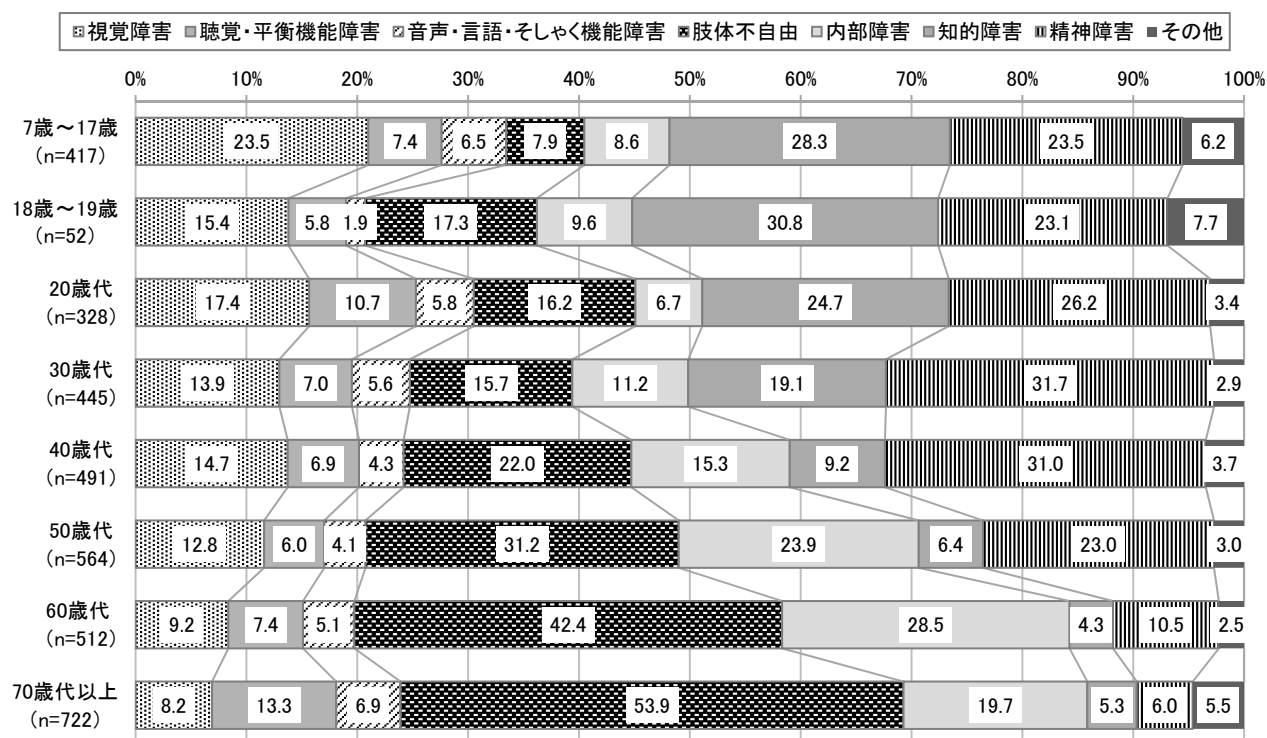
障害種別にみると、重複障害を回答した割合が最も高いのは「音声・言語・そしゃく機能障害」で45.8%、次いで「聴覚・平衡機能障害」（27.5%）、「知的障害」（21.8%）の順であった。【図表9】

【図表9】 単一障害・重複障害の比率（障害種別）



障害種別と年齢の関係では、低年齢層で「視覚障害」、「知的障害」、「精神障害」が比較的高い割合を占めたのに対し、年齢層が上がるほど「肢体不自由」が大きな割合を占め、30歳代までの2割以下に対して、60歳代では42.4%と約4割、70歳代以上では53.9%と半数以上となった。【図表10】

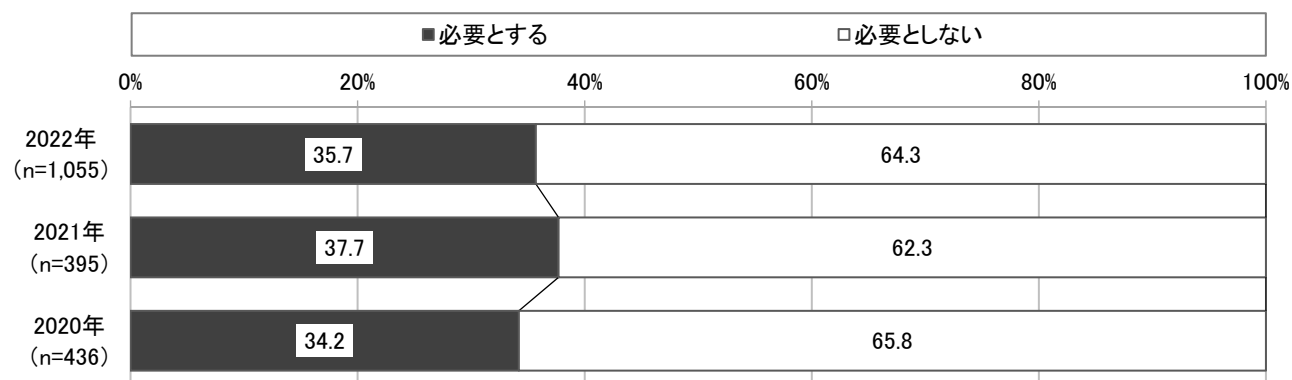
【図表10】 障害種別と年齢層



(4) 車いすの必要性の有無

車いすの必要性については、肢体不自由と回答のあった1,055人のうち、「日常生活で車いすを必要とする」が35.7%を占めた。【図表11】

【図表11】 日常生活での車いすの必要性の有無



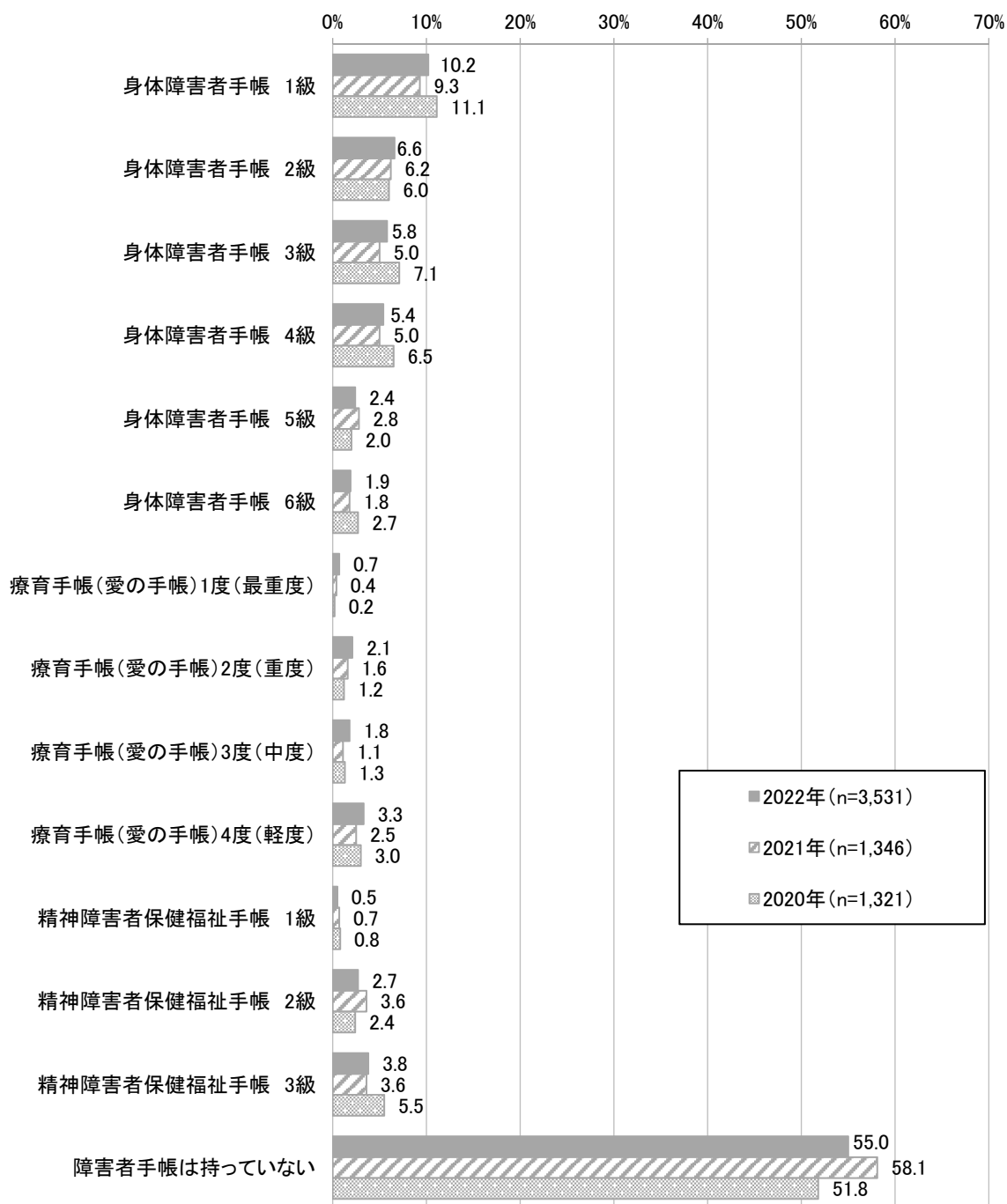
注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

(5) 障害者手帳の保有状況

障害者手帳の保有状況については、「障害者手帳は持っていない」が 55.0%であった。障害者手帳を持っている人の中では「身体障害者手帳 1 級」が 10.2%と最も割合が高く、次いで「身体障害者手帳 2 級」が 6.6%、「身体障害者手帳 3 級」が 5.8%の順であった。

【図表 12】

【図表 12】 障害者手帳の保有状況《手帳の種類》〔複数回答〕

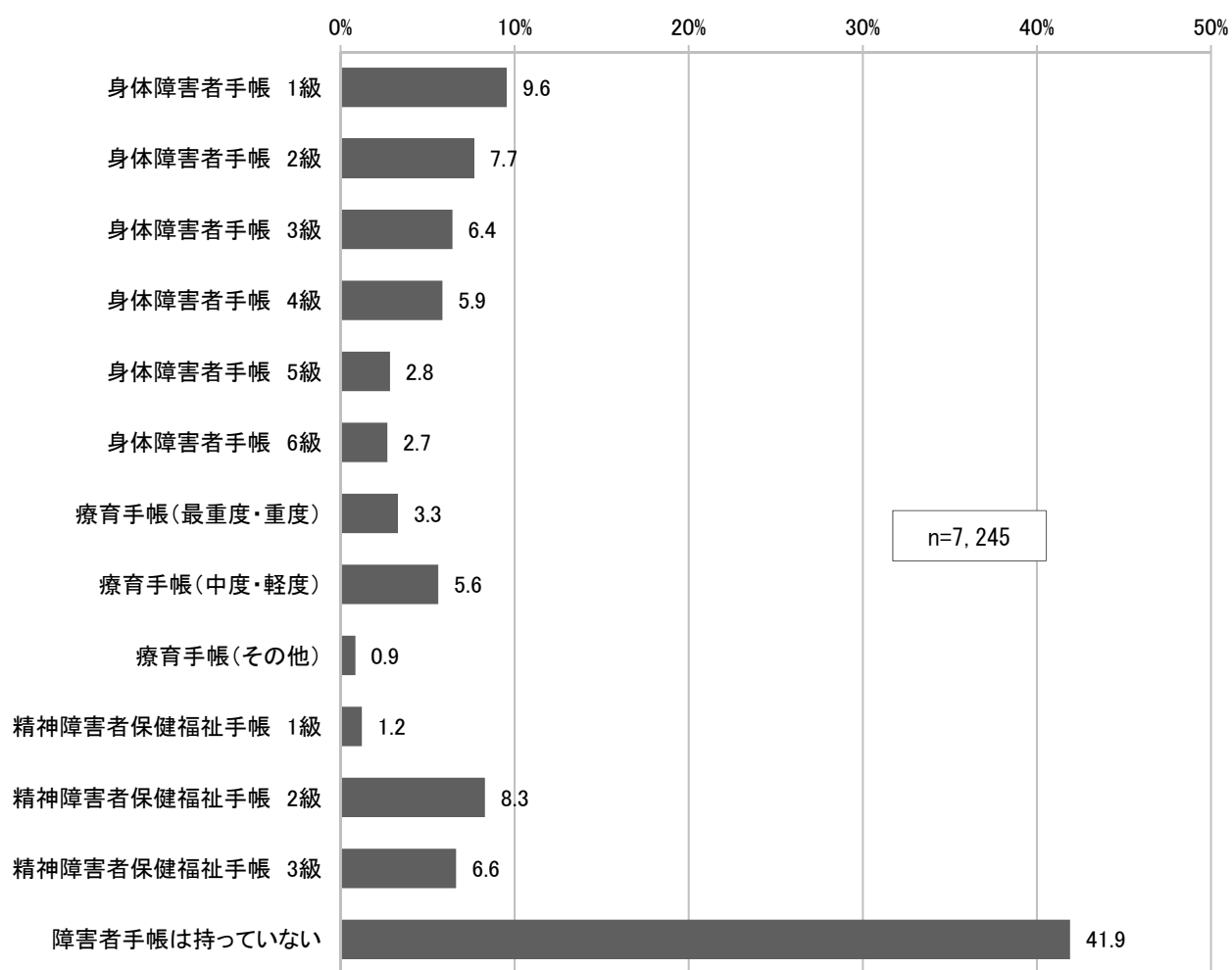


注：2021 年までは 18 歳以上、2022 年は 7 歳以上を調査対象としている。

スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）』（スポーツ庁：令和4年3月）と比較し、本調査では「障害者手帳は持っていない」非保持者の割合が13.1ポイント高かった。【図表13】

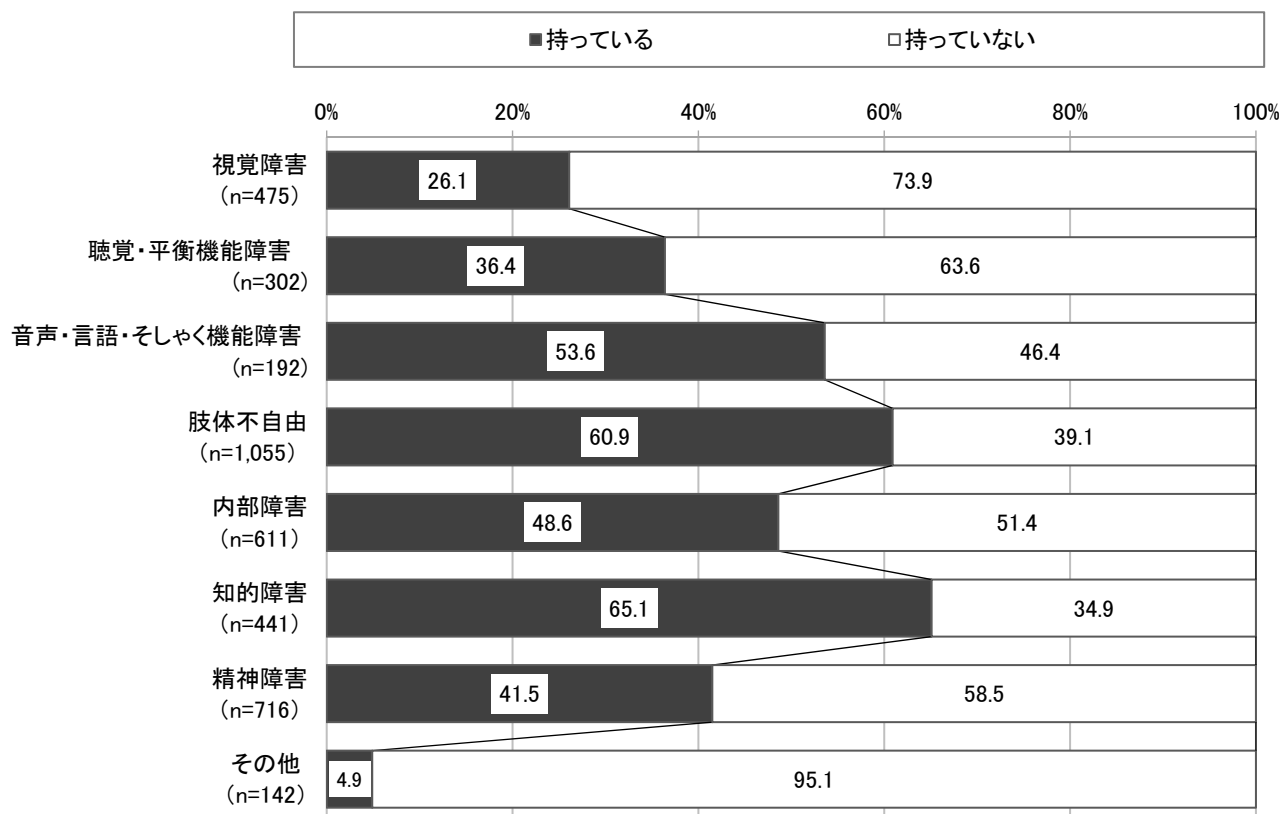
【図表13】 障害者手帳の保有状況《手帳の種類》〔複数回答〕

『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）』（スポーツ庁：令和4年3月）



障害種別にみると、障害者手帳の保有率は、「知的障害」（65.1％）の割合が最も高く、次いで「肢体不自由」（60.9％）、「音声・言語・そしゃく機能障害」（53.6％）、「内部障害」（48.6％）の順であった。【図表 14】

【図表 14】 障害者手帳の保有状況《保有の有無》（障害種別）



また、障害者手帳の保有状況を障害種別にみると、重複して障害者手帳を保持している方もいた。

【図表 15】

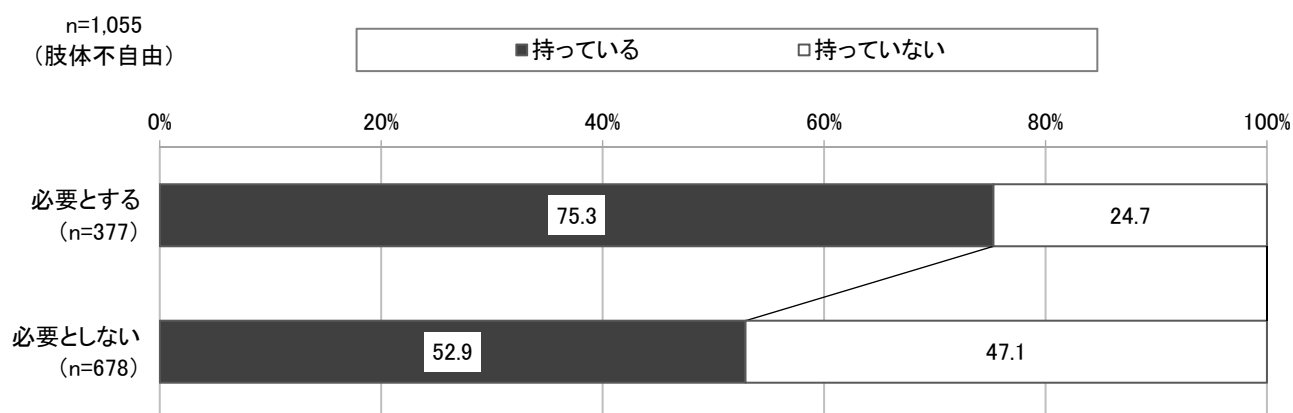
【図表 15】 障害者手帳の保有状況《手帳の種類》（障害種別）〔複数回答〕

(単位: %)

	身体障害者手帳 1 級	身体障害者手帳 2 級	身体障害者手帳 3 級	身体障害者手帳 4 級	身体障害者手帳 5 級	身体障害者手帳 6 級	療育手帳（愛の手帳） 1 度（最重度）	療育手帳（愛の手帳） 2 度（重度）	療育手帳（愛の手帳） 3 度（中度）	療育手帳（愛の手帳） 4 度（軽度）	精神障害者保健福祉手帳 1 級	精神障害者保健福祉手帳 2 級	精神障害者保健福祉手帳 3 級	障害者手帳は持っていない
視覚障害 (n=475)	6.9	4.0	5.1	2.5	3.2	1.7	1.5	0.2	0.4	1.1	1.1	1.1	0.6	73.9
聴覚・平衡機能障害 (n=302)	10.9	6.0	5.3	4.6	3.6	2.3	2.3	0.7	0.7	1.0	1.7	0.3	1.0	63.6
音声・言語・そしゃく機能障害 (n=192)	19.8	7.8	7.8	8.9	2.6	1.6	4.2	5.2	0.5	0.5	2.6	0.5	1.0	46.4
肢体不自由 (n=1,055)	14.8	13.6	10.2	11.3	5.1	3.1	1.3	1.5	0.9	1.1	0.6	1.0	1.0	39.1
内部障害 (n=611)	24.1	4.9	6.2	6.5	1.1	1.8	1.3	0.5	0.7	1.5	0.5	1.1	1.0	51.4
知的障害 (n=441)	9.8	4.1	2.7	2.5	0.9	0.9	3.9	12.7	10.9	20.4	0.9	1.4	3.9	34.9
精神障害 (n=716)	2.9	3.4	2.7	1.0	0.8	0.3	1.1	1.5	0.7	1.8	1.5	11.9	16.5	58.5
その他 (n=142)	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	1.4	95.1

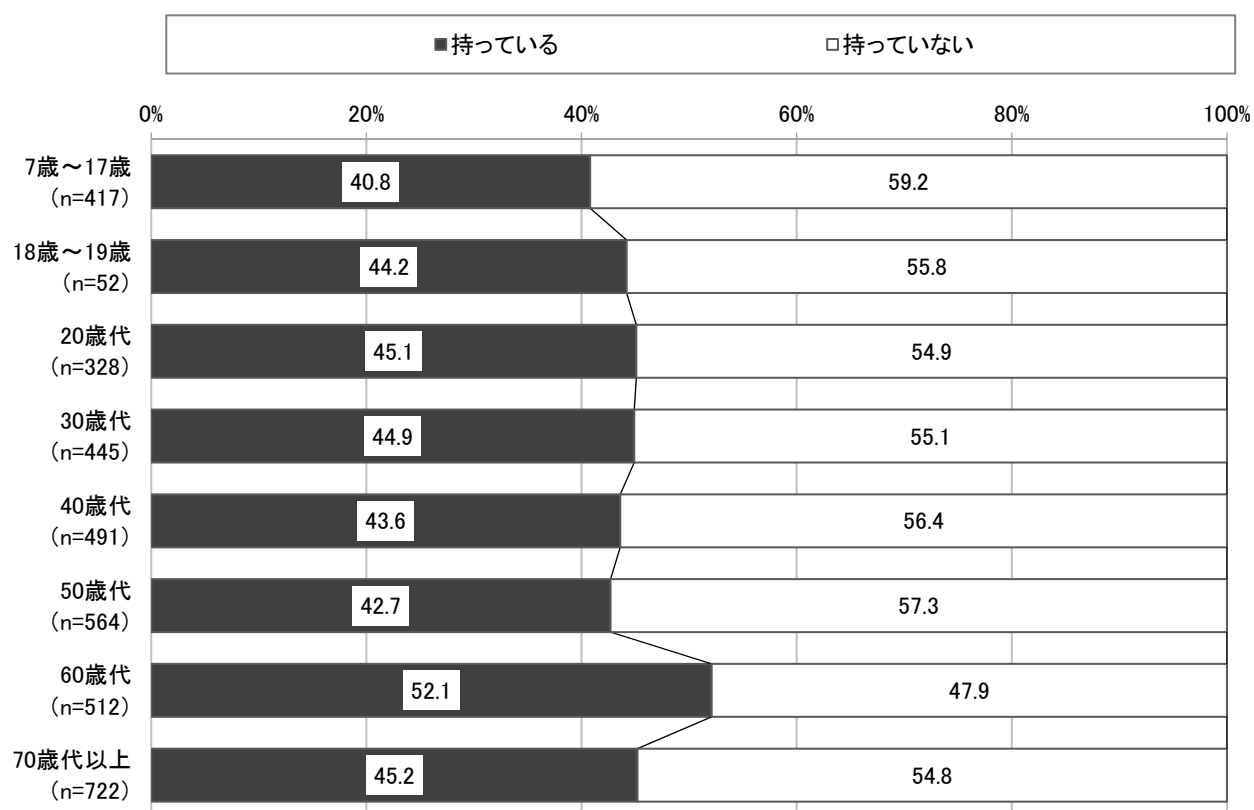
日常生活で車いす必要／不要別にみると、障害者手帳の保有率は「車いすを必要とする」で 75.3%、「車いすを必要としない」では 52.9%となった。【図表 16】

【図表 16】 障害者手帳の保有状況《保有の有無》（日常生活で車いす必要／不要）



年齢別でみると、60歳代で52.1%と最も高く、いずれの年齢層でも40%を超えた。【図表 17】

【図表 17】 障害者手帳の保有状況《保有の有無》（年齢別）



年齢別の障害者手帳の保有率は、身体障害者手帳では年齢が上がるにつれて高くなる傾向となった。
精神障害者保健福祉手帳では1～3級のいずれも40歳代が最も保有率が高かった。【図表18】

【図表18】 障害者手帳の保有状況《手帳の種類》（年齢別）〔複数回答〕

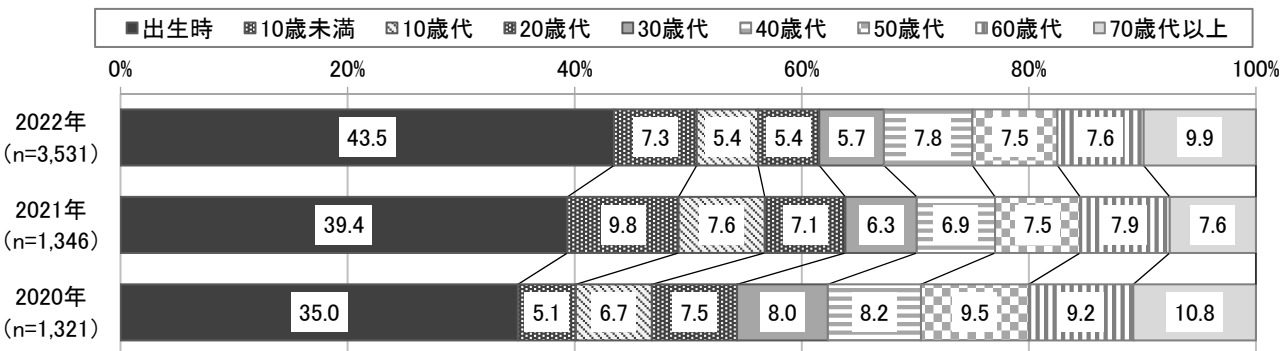
(単位: %)

	身体障害者手帳 1級	身体障害者手帳 2級	身体障害者手帳 3級	身体障害者手帳 4級	身体障害者手帳 5級	身体障害者手帳 6級	療育手帳（愛の手帳）1度（最重度）	療育手帳（愛の手帳）2度（重度）	療育手帳（愛の手帳）3度（中度）	療育手帳（愛の手帳）4度（軽度）	精神障害者保健福祉手帳 1級	精神障害者保健福祉手帳 2級	精神障害者保健福祉手帳 3級	障害者手帳は持っていない
7歳～17歳(n=417)	6.2	6.0	3.6	1.9	1.7	1.7	1.4	4.6	5.3	8.4	0.7	1.4	1.0	59.2
18歳～19歳(n=52)	1.9	1.9	5.8	1.9	5.8	1.9	5.8	1.9	3.8	9.6	0.0	3.8	7.7	55.8
20歳代(n=328)	8.5	5.5	3.0	2.4	1.5	0.6	1.2	7.3	3.0	9.8	0.6	2.1	3.4	54.9
30歳代(n=445)	7.9	3.4	4.0	3.1	2.9	2.5	0.4	3.6	4.0	5.4	0.4	4.0	7.6	55.1
40歳代(n=491)	9.0	3.5	5.9	4.1	0.8	2.4	0.4	1.4	1.2	1.2	1.2	5.9	8.8	56.4
50歳代(n=564)	11.2	8.0	4.1	5.3	1.4	2.5	0.2	0.9	0.4	1.1	0.4	3.4	4.8	57.3
60歳代(n=512)	14.5	10.9	8.0	8.6	3.7	2.1	0.6	0.2	0.0	0.8	0.0	2.3	1.8	47.9
70歳代以上(n=722)	12.5	7.6	9.1	8.9	3.7	1.1	0.6	0.3	0.4	0.8	0.3	0.1	0.4	54.8

(6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢については、「出生時」が 43.5%と最も高かったが、障害が発生した年齢は多様であった。【図表 19】

【図表 19】 障害が発生した年齢



注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

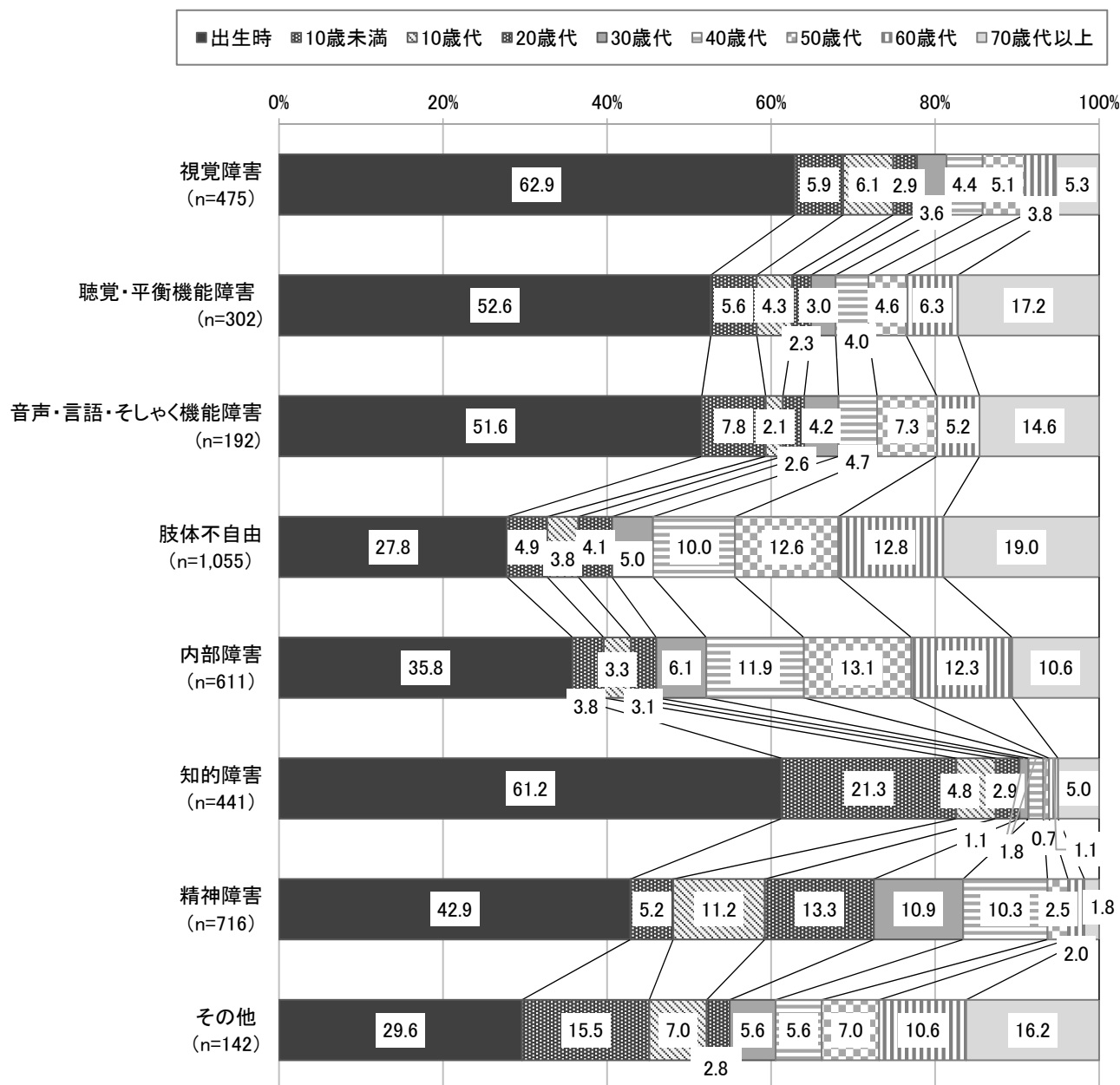
障害が発生した年齢をさらに年齢別に詳しくみると、7～17歳では「出生時」が68.3%と高い割合を占めた。一方、高齢者層においては、60歳代では50歳以降の発生割合が合計48%と約5割、70歳代以上では74.6%で約7割を超えた。【図表 20】

【図表 20】 障害が発生した年齢（年齢別）

		出生時	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
障害をお持ちの方の年齢	7歳～17歳 (n=417)	68.3	25.9	5.8						
	18歳～19歳 (n=52)	50.0	30.8	19.2						
	20歳代 (n=328)	68.6	10.4	11.9	9.1					
	30歳代 (n=445)	66.1	5.2	6.3	13.0	9.4				
	40歳代 (n=491)	49.5	5.5	6.9	9.0	13.0	16.1			
	50歳代 (n=564)	40.8	2.1	5.0	7.1	9.6	18.6	16.7		
	60歳代 (n=512)	23.4	4.5	3.7	2.9	4.9	12.5	24.0	24.0	
	70歳代以上 (n=722)	15.7	1.9	1.2	0.4	2.4	3.7	6.5	19.8	48.3

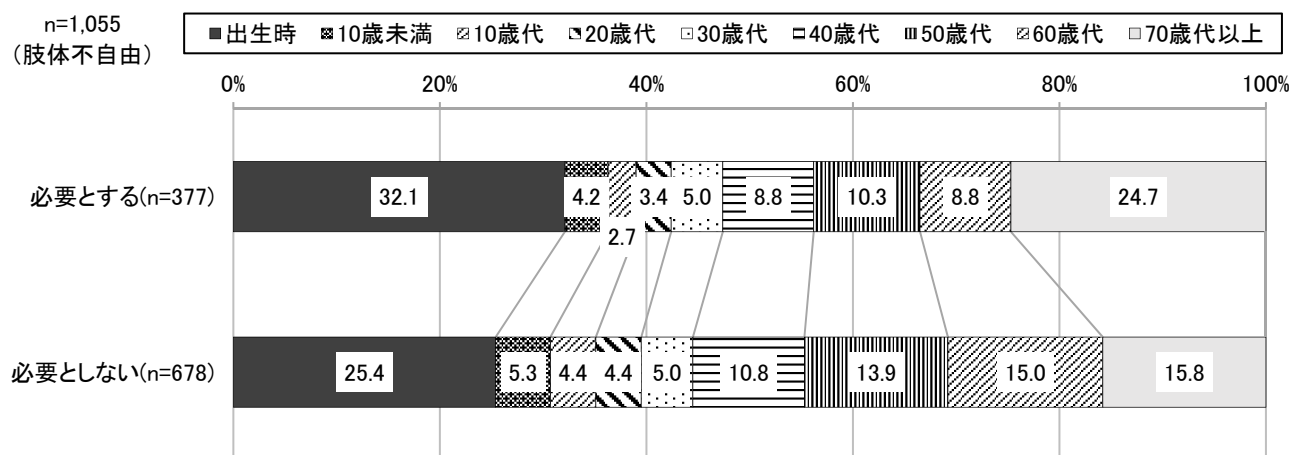
障害種別にみると、他の障害と比べて「視覚障害」(62.9%)と「知的障害」(61.2%)は「出生時」の割合が高かった。また、「知的障害」は低年齢時の発生割合が他の障害に比べて高く、「肢体不自由」及び「内部障害」は「40歳代」以上の発生割合が他の障害に比べて高かった。【図表 21】

【図表 21】 障害が発生した年齢（障害種別）



日常生活で車いす必要／不要別にみると、「車いすを必要とする」と回答した人においては、「出生時」（32.1％）が最も高く、次いで「70 歳代以上」（24.7％）が多かった。【図表 22】

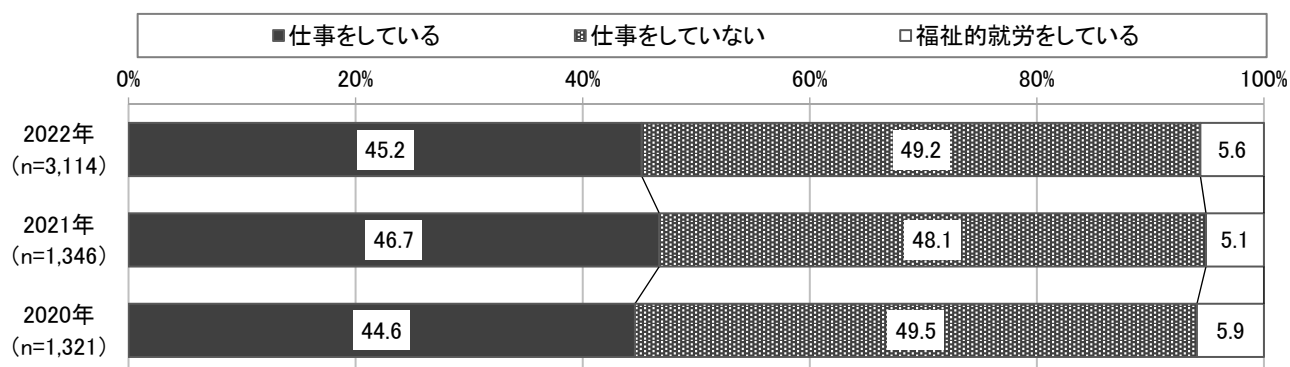
【図表 22】 障害が発生した年齢（日常生活で車いす必要／不要）



(7) 過去1年間の就業状況（18歳以上）

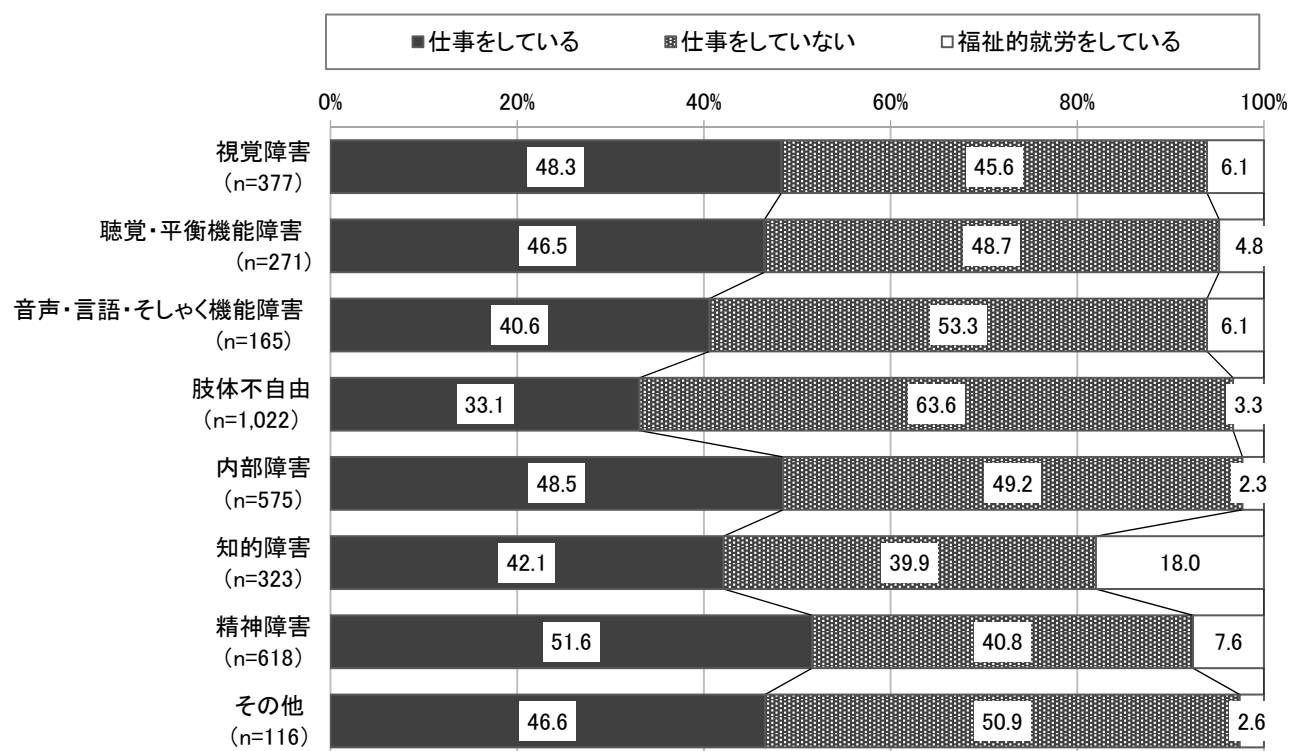
過去1年間の就業状況は、「仕事をしている」（45.2%）と「福祉的就労をしている」（5.6%）の合計が50.8%となり、約半数が何らかの就労をしていた。【図表23】

【図表23】 過去1年間の就業状況



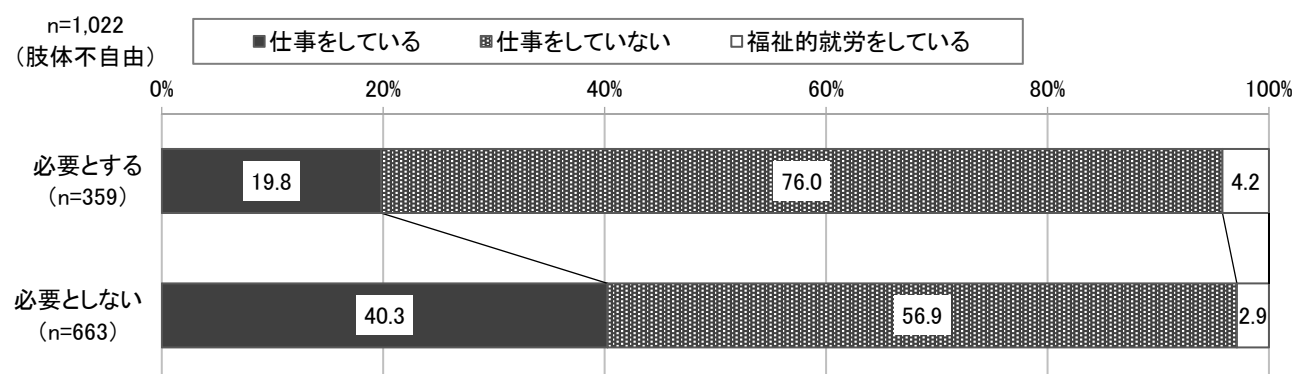
障害種別にみると、「仕事をしている」割合は「精神障害」（51.6%）が最も高く、次いで「内部障害」（48.5%）、「視覚障害」（48.3%）の順であった。「福祉的就労をしている」割合は「知的障害」が約2割と最も高い。【図表24】

【図表24】 過去1年間の就業状況別（障害種別）



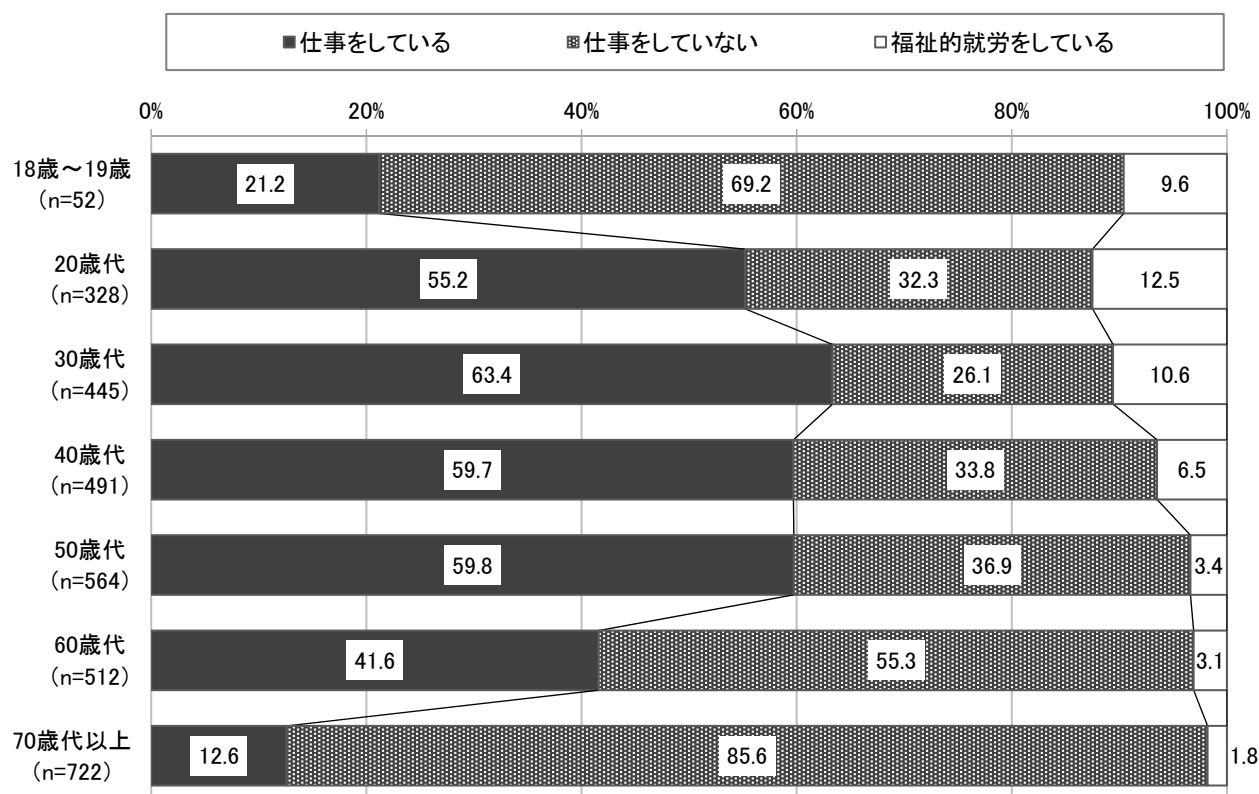
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「必要とする」とした人のうち約2割、「必要としない」では約4割が「仕事をしている」と回答した。【図表 25】

【図表 25】 過去1年間の就業状況（日常生活で車いす必要／不要）



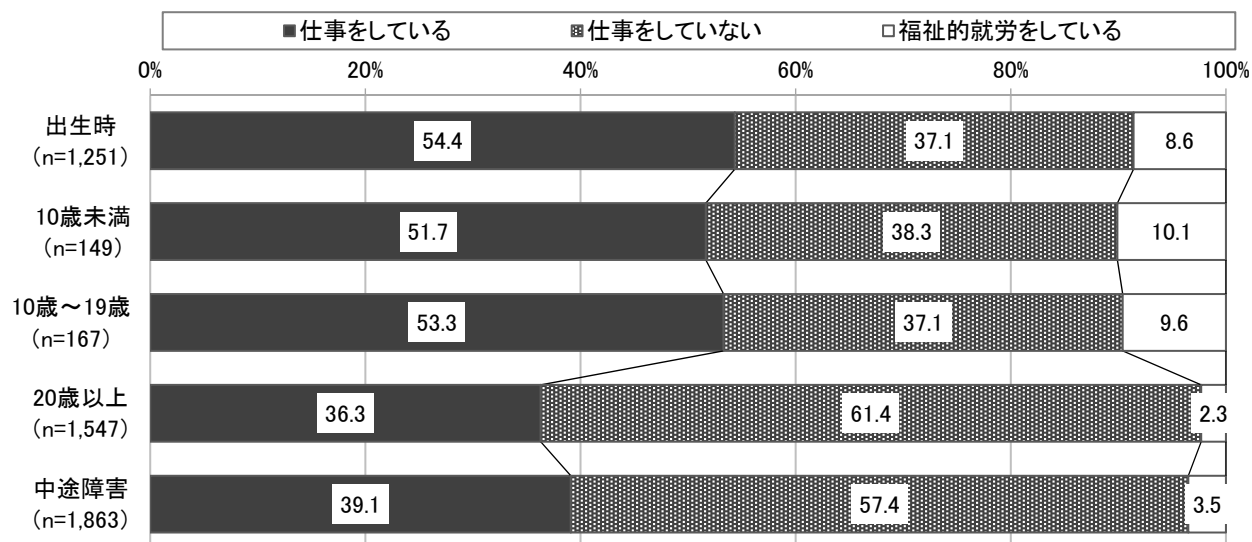
年齢別でみると、「仕事をしている」割合は20歳代～50歳代で5割を超えた。【図表 26】

【図表 26】 過去1年間の就業状況（年齢別）



障害が発生した年齢別でみると、「仕事をしている」割合は「中途障害」の39.1%に対し、「出生時」は54.4%と5割を超えた。【図表 27】

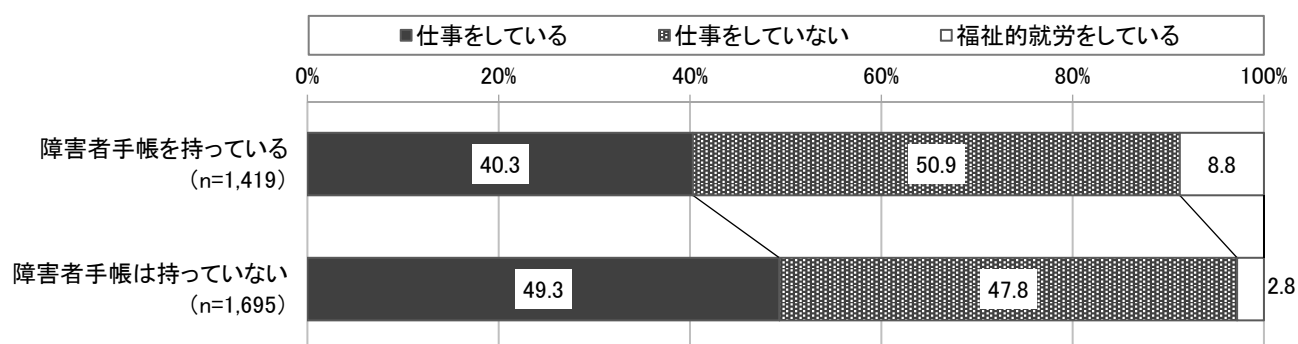
【図表 27】 過去1年間の就業状況(障害が発生した年齢別)



注：「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和を示す。

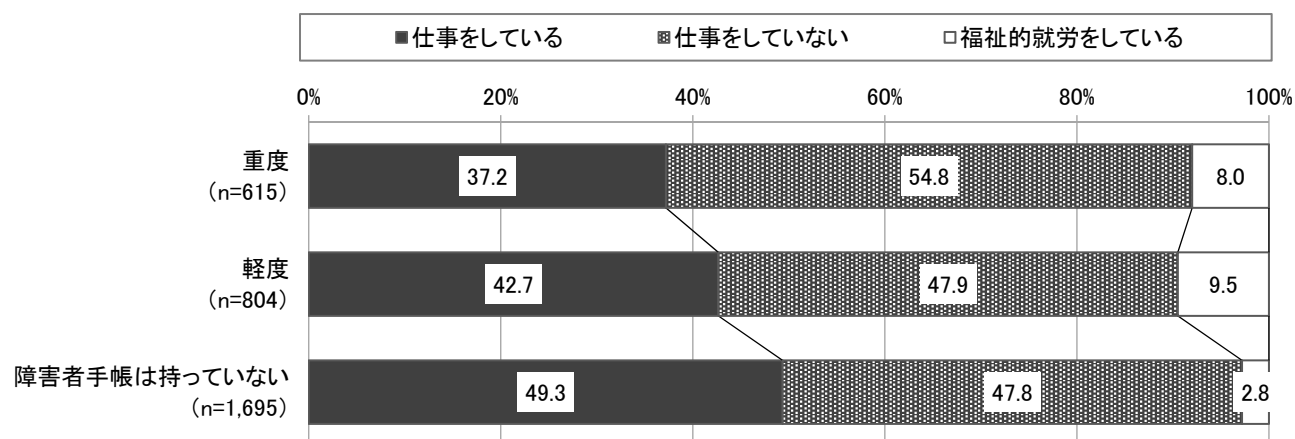
障害者手帳の保有状況別でみると、「障害者手帳は持っていない」(49.3%)の方が「障害者手帳を持っている」(40.3%)よりも高かったが、「福祉的就労をしている」をあわせた何らかの就労を行っている割合は、ほぼ同程度となった。【図表 28】

【図表 28】 過去1年間の就業状況(障害者手帳の保有状況別)



障害の程度別でみると、「仕事をしている」と回答した割合は「重度」で 37.2%であったのに対し、「軽度」(42.7%)、「障害者手帳は持っていない」(49.3%)ではやや高くなった。「福祉的就労をしている」と回答をした人は「軽度」(9.5%)と「重度」(8.0%)のそれぞれ 1 割弱に対して、「障害者手帳は持っていない」では 2.8%と低い割合となった。【図表 29】

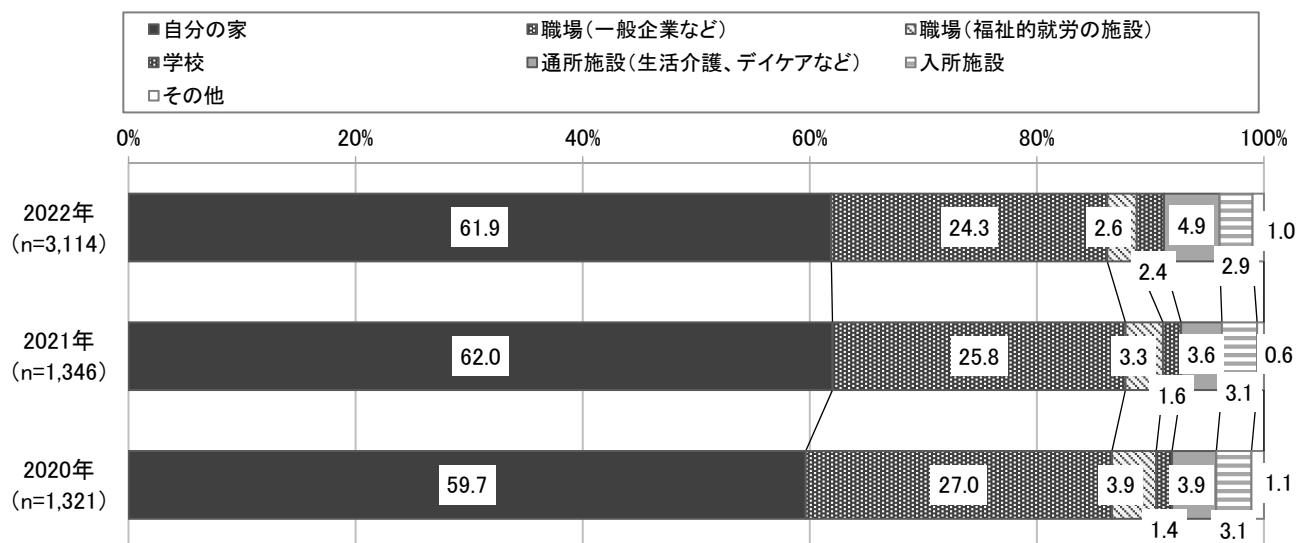
【図表 29】 過去1年間の就業状況(障害の程度別)



(8) 過去1年間の平日・日中の居場所（18歳以上）

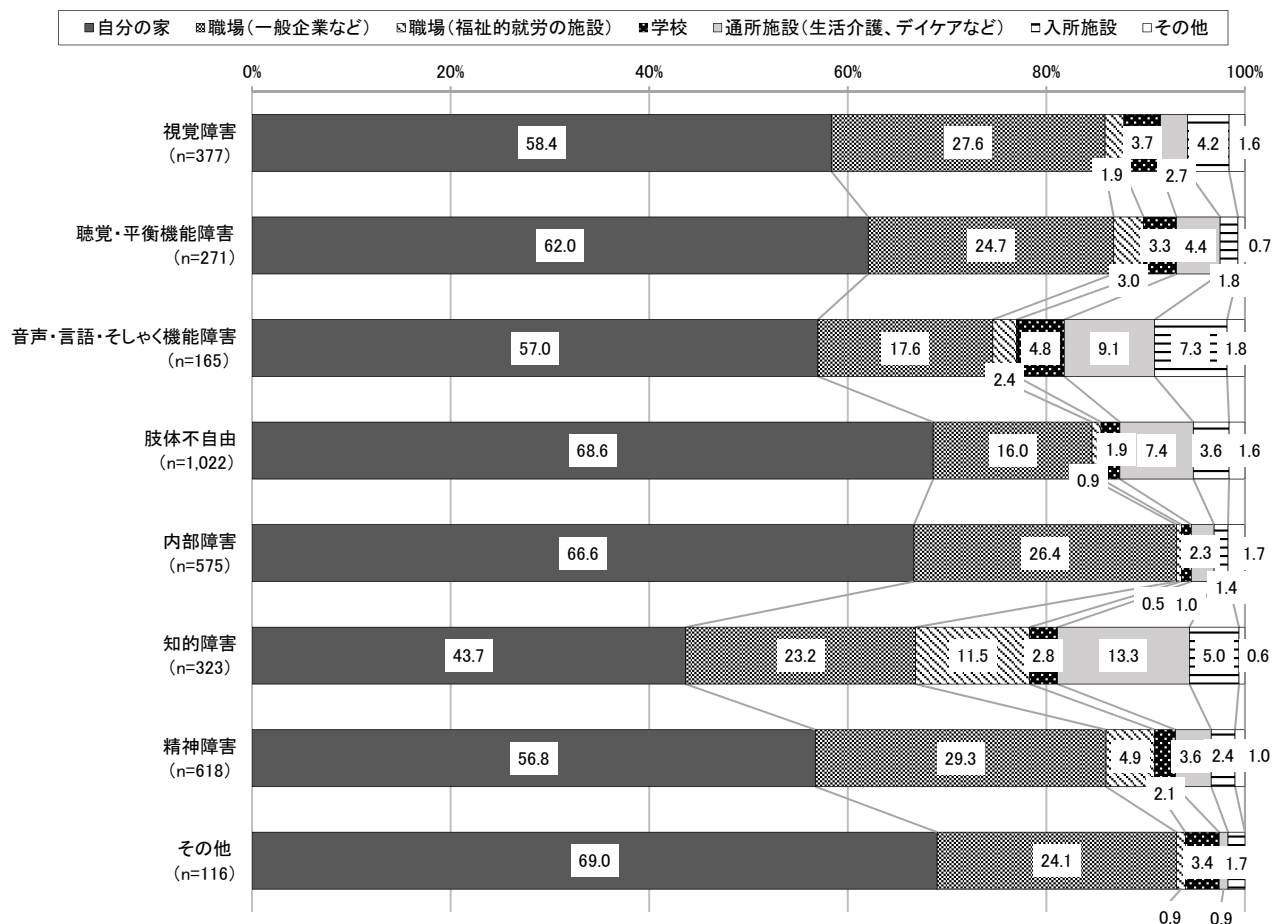
過去1年間の平日・日中の居場所については、「自分の家」が61.9%を占め、次いで「職場（一般企業など）」（24.3%）、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」（4.9%）の順であった。「職場（一般企業など）」と「職場（福祉的就労の施設）」を合わせた「職場」の割合は、26.9%であった。【図表30】

【図表30】 過去1年間の平日・日中の居場所



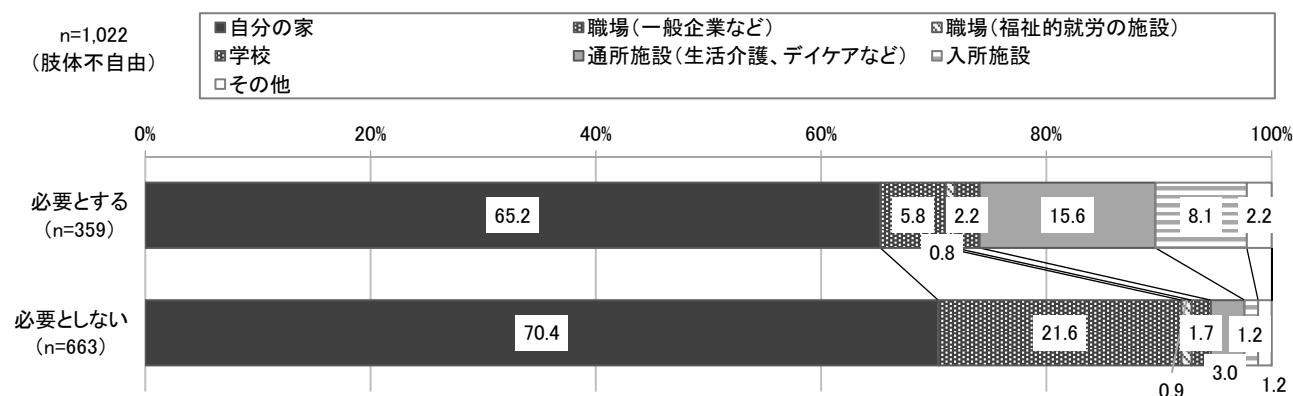
障害種別にみると、「自分の家」がいずれの障害でも最も高い割合を占め、中でも「肢体不自由」では約7割であった。【図表 31】

【図表 31】 過去1年間の平日・日中の居場所(障害種別)



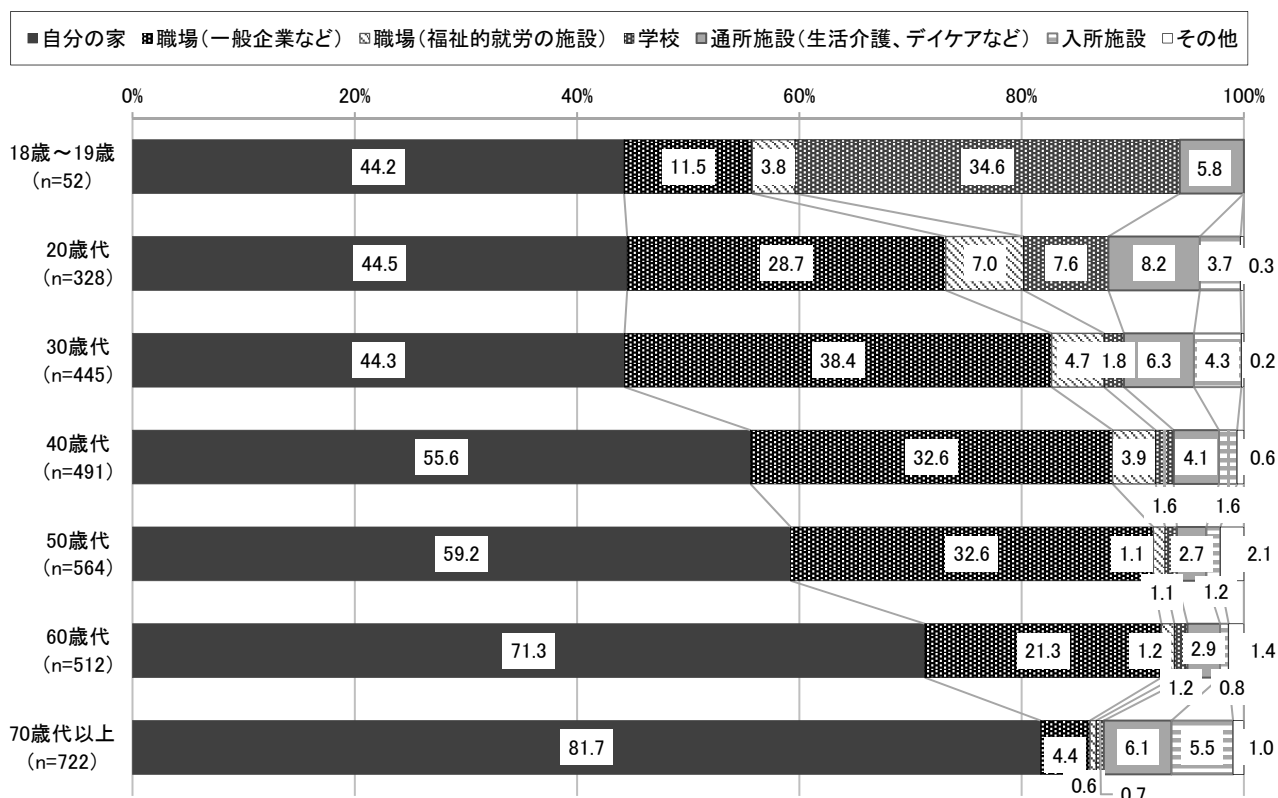
日常生活の車いす必要／不要別にみると、「自分の家」がいずれも高い割合を占め、「必要とする」（65.2%）よりも「必要としない」（70.4%）で高い割合となった。「必要としない」では「職場（一般企業など）」が2割を超えた。【図表 32】

【図表 32】 過去1年間の平日・日中の居場所（日常生活で車いす必要／不要）



年齢別でみると、年齢が上がるにつれて、平日の日中に「自分の家」にいる割合が高くなる傾向であった。また、30歳～50歳代で「職場（一般企業など）」にいる割合が3割を超えた。【図表 33】

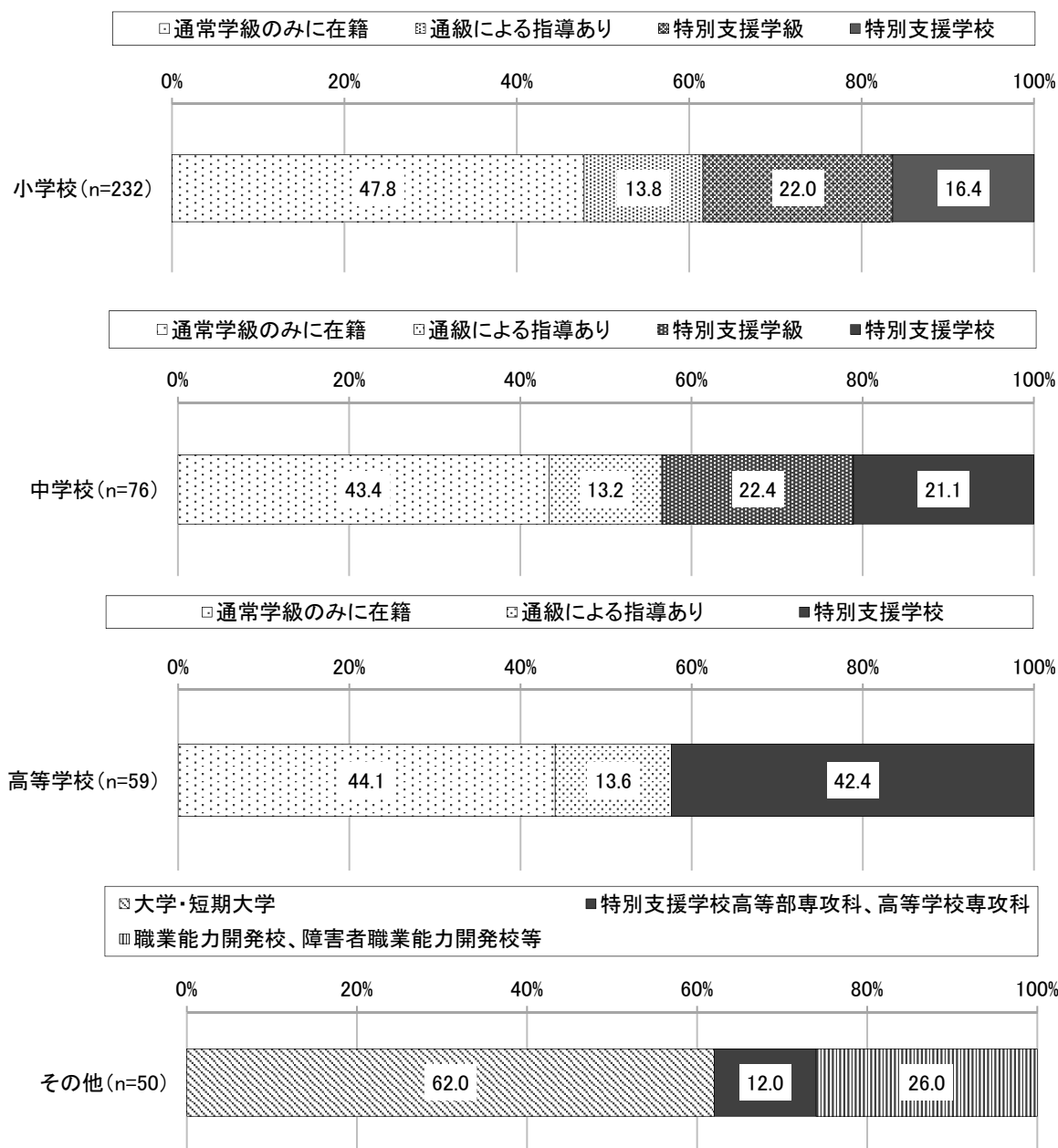
【図表 33】 過去1年間の平日・日中の居場所（年齢別）



(9) 学校の種別（7～25歳の在学中の方）

在籍している学校の種別では、小学校・中学校・高等学校のどの段階においても「通常学級のみ在籍」が約半数となり、在籍している学校種別の構成比はほぼ同じであった。【図表 34】

【図表 34】 学校の種別



障害の種別でみると、小学校・中学校・高等学校ではいずれも「知的障害」の割合が最も高かった。また、通常学級のみに在籍している割合は「視覚障害」が約3割と最も高く、特別支援学級及び特別支援学校に在籍している割合は「知的障害」が5割を超えた。【図表 35】

【図表 35】学校の種別(障害種別) [複数回答]

(単位: %)

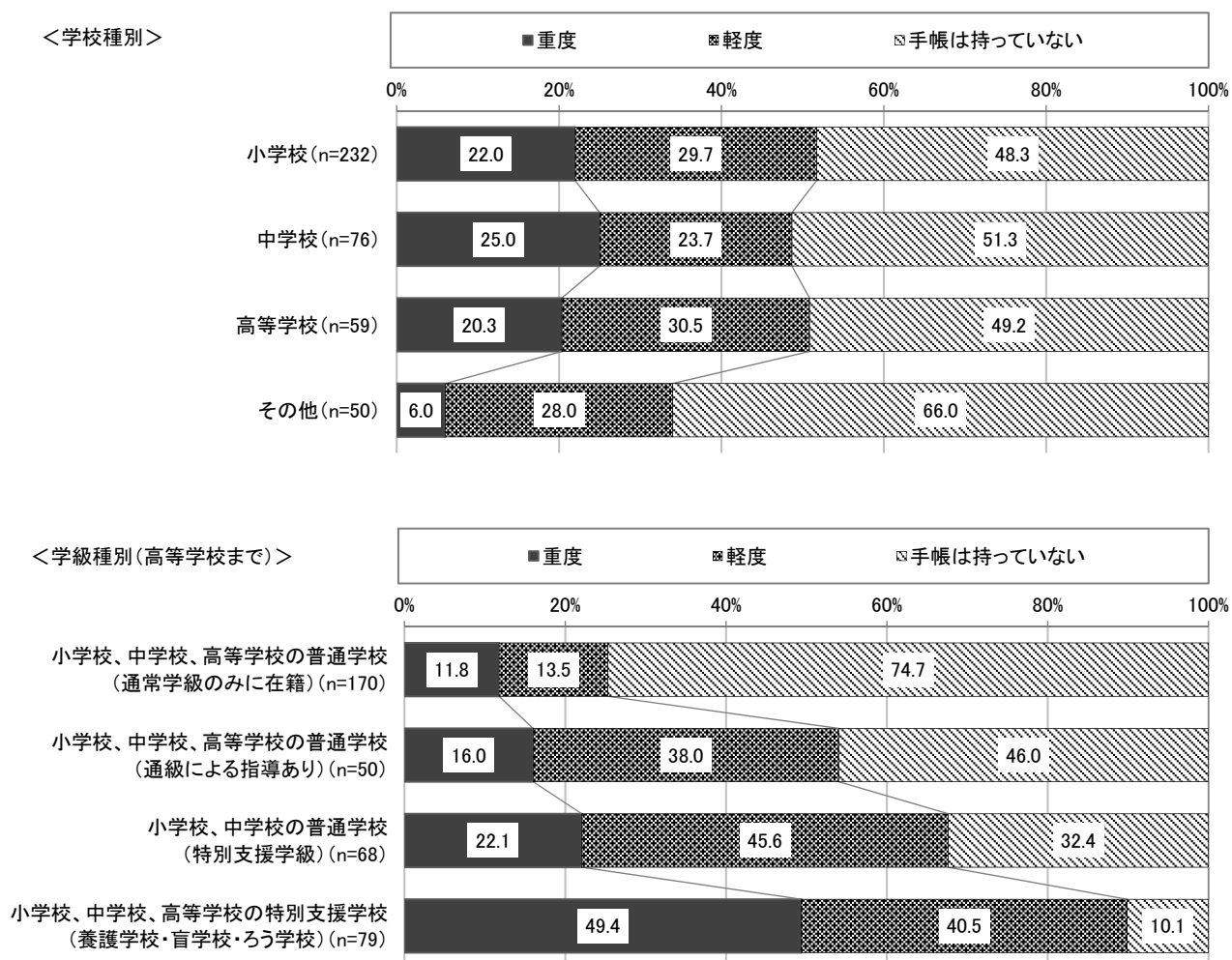
＜学校種別＞	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語機能障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	その他
小学校(n=232)	22.8	10.3	8.6	11.6	7.8	30.2	21.1	6.5
中学校(n=76)	19.7	6.6	10.5	9.2	7.9	28.9	18.4	7.9
高等学校(n=59)	15.3	6.8	3.4	11.9	13.6	42.4	16.9	1.7
その他(n=50)	16.0	8.0	2.0	6.0	10.0	28.0	24.0	12.0

＜学級種別(高等学校まで)＞

小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通常学級のみ)に在籍(n=170)	30.6	7.6	8.8	8.2	11.8	13.5	20.6	2.4
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通級による指導あり)(n=50)	14.0	14.0	14.0	10.0	4.0	24.0	24.0	12.0
小学校、中学校の普通学校 (特別支援学級)(n=68)	16.2	5.9	4.4	8.8	4.4	52.9	26.5	11.8
小学校、中学校、高等学校の特別支援学校 (養護学校・盲学校・ろう学校)(n=79)	8.9	11.4	6.3	20.3	8.9	58.2	10.1	5.1

障害の程度別でみると、特別支援学校では「重度」（49.4％）の割合が最も高く、特別支援学級では「軽度」（45.6％）の割合が最も高かった。通常学級においても約1割が「重度」であった。【図表 36】

【図表 36】学校の種別（障害の程度別）

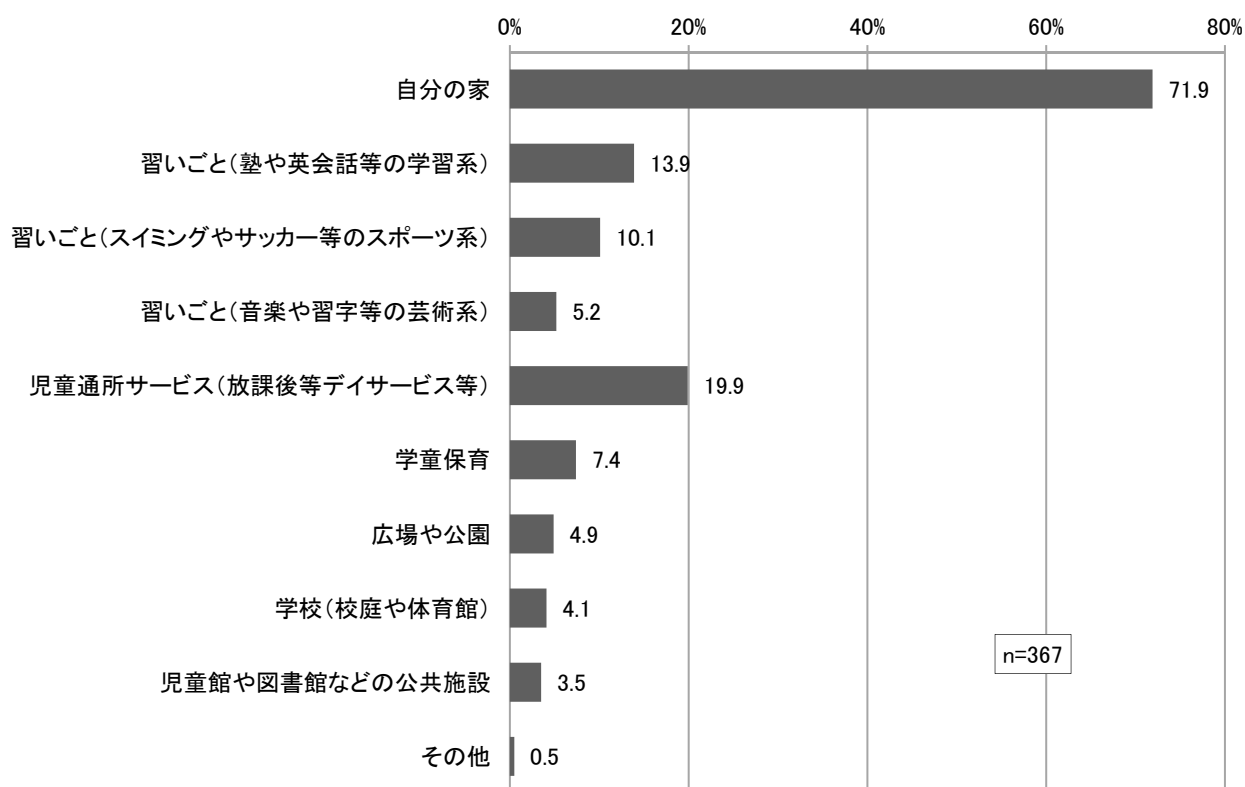


(10) 放課後の居場所（在学中、高校生まで）

放課後の居場所について、「自分の家」が 71.9%で最も高く、次いで「児童通所サービス（放課後等デイサービス等）」（19.9%）、「習い事（塾や英会話等の学習系）」（13.9%）の順であった。

【図表 37】

【図表 37】 放課後の居場所[複数回答]



障害種別にみると、いずれの障害も「自分の家」が最も大きな割合を占めた。知的障害については、「自分の家」の割合が他の障害に比べて 64.1%と低く、「児童通所サービス」（46.2%）が約 5 割と高い値であった。【図表 38】

【図表 38】放課後の居場所(障害種別) [複数回答]

(単位: %)

	自分の家	学習いごと (塾や英会話等の 学習系)	習いごと (スイミングや サッカー等の スポーツ系)	習いごと (音楽や習字等の 芸術系)	児童通所サービス (放課後 等デイサービス等)	児童保育	広場や公園	学校 (校庭や体育館)	児童館や図書館などの 公共施設	その他
視覚障害 (n=77)	80.5	19.5	10.4	9.1	5.2	7.8	3.9	3.9	3.9	0.0
聴覚・平衡機能障害 (n=33)	69.7	18.2	24.2	15.2	15.2	15.2	18.2	12.1	18.2	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害 (n=30)	66.7	30.0	26.7	20.0	23.3	6.7	16.7	16.7	10.0	0.0
肢体不自由 (n=41)	78.0	14.6	22.0	12.2	26.8	12.2	9.8	7.3	9.8	0.0
内部障害 (n=32)	78.1	25.0	18.8	9.4	18.8	15.6	6.3	6.3	9.4	0.0
知的障害 (n=117)	64.1	7.7	7.7	5.1	46.2	6.8	4.3	5.1	3.4	1.7
精神障害 (n=73)	74.0	16.4	9.6	8.2	20.5	11.0	6.8	5.5	5.5	0.0
その他 (n=22)	81.8	13.6	13.6	0.0	27.3	13.6	13.6	4.5	4.5	0.0

車いすの要／不要別にみると、いずれも「自分の家」が 7 割以上であった。「必要とする」では、「自分の家」に次いで「児童通所サービス」（45.5%）が高く、「必要としない」と比較して、学校以外で過ごす場所が多様な傾向にあった。【図表 39】

【図表 39】放課後の居場所(日常生活で車いす必要／不要) [複数回答]

(単位: %)

	自分の家	学習いごと (塾や英会話等の 学習系)	習いごと (スイミングや サッカー等の スポーツ系)	習いごと (音楽や習字等の 芸術系)	児童通所サービス (放課後 等デイサービス等)	児童保育	広場や公園	学校 (校庭や体育館)	児童館や図書館などの 公共施設	その他
n=41 (肢体不自由)										
必要とする (n=22)	77.3	18.2	27.3	18.2	45.5	13.6	18.2	13.6	18.2	0.0
必要としない (n=19)	78.9	10.5	15.8	5.3	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0

障害の程度別では、いずれも「自分の家」の割合が最も高かった。「重度」と「軽度」では、「児童通所サービス」の割合が「自分の家」に次いでそれぞれ 32.9%と 31.4%であった。【図表 40】

【図表 40】放課後の居場所(障害の程度別) [複数回答]

(単位: %)

	自分の家	学習いごと (塾や英会話等の 学習系)	習いごと (サッカー等のスポーツ系)	習いごと (音楽や習字等の 芸術系)	児童通所サービス等 (放課後 等デイサービス等)	学童保育	広場や公園	学校(校庭や体育館)	児童館や図書館などの公共施設	その他
重度(n=82)	59.8	8.5	12.2	9.8	32.9	8.5	3.7	4.9	4.9	0.0
軽度(n=105)	64.8	8.6	9.5	5.7	31.4	6.7	4.8	2.9	2.9	1.9
障害者手帳は持っていない (n=180)	81.7	19.4	9.4	2.8	7.2	7.2	5.6	4.4	3.3	0.0

学校種別では、いずれも「自分の家」の割合が最も高かった。学級種別でみると、特別支援学級と特別支援学校で「児童通所サービス」の割合が高く、特別支援学校では「自分の家」と同率であった。

【図表 41】

【図表 41】放課後の居場所(学校種別) [複数回答]

(単位: %)

	自分の家	会話等 (塾や英 会話等の 学習系)	習いごと (サッカー 等のスポーツ系)	習いごと (音楽や 習字等の 芸術系)	児童通所サービス等 (放課後等 デイサービス等)	学童保育	広場や公園	学校(校庭や体育館)	児童館や図書館などの公共施設	その他
<学校種別>										
小学校(n=232)	73.7	15.5	12.9	6.0	19.4	10.3	6.0	3.0	3.9	0.4
中学校(n=76)	71.1	9.2	5.3	5.3	18.4	2.6	3.9	5.3	3.9	1.3
高等学校(n=59)	66.1	13.6	5.1	1.7	23.7	1.7	1.7	6.8	1.7	0.0
<学級種別>										
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通常学級のみ在籍)(n=170)	84.7	20.0	8.2	2.9	1.8	5.3	4.7	3.5	2.9	0.0
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通級による指導あり)(n=50)	70.0	20.0	12.0	6.0	6.0	16.0	10.0	6.0	6.0	0.0
小学校、中学校の普通学校 (特別支援学級)(n=68)	64.7	5.9	17.6	5.9	38.2	5.9	4.4	4.4	4.4	1.5
小学校、中学校、高等学校の特別支援学校 (養護学校・盲学校・ろう学校)(n=79)	51.9	3.8	6.3	8.9	51.9	7.6	2.5	3.8	2.5	1.3

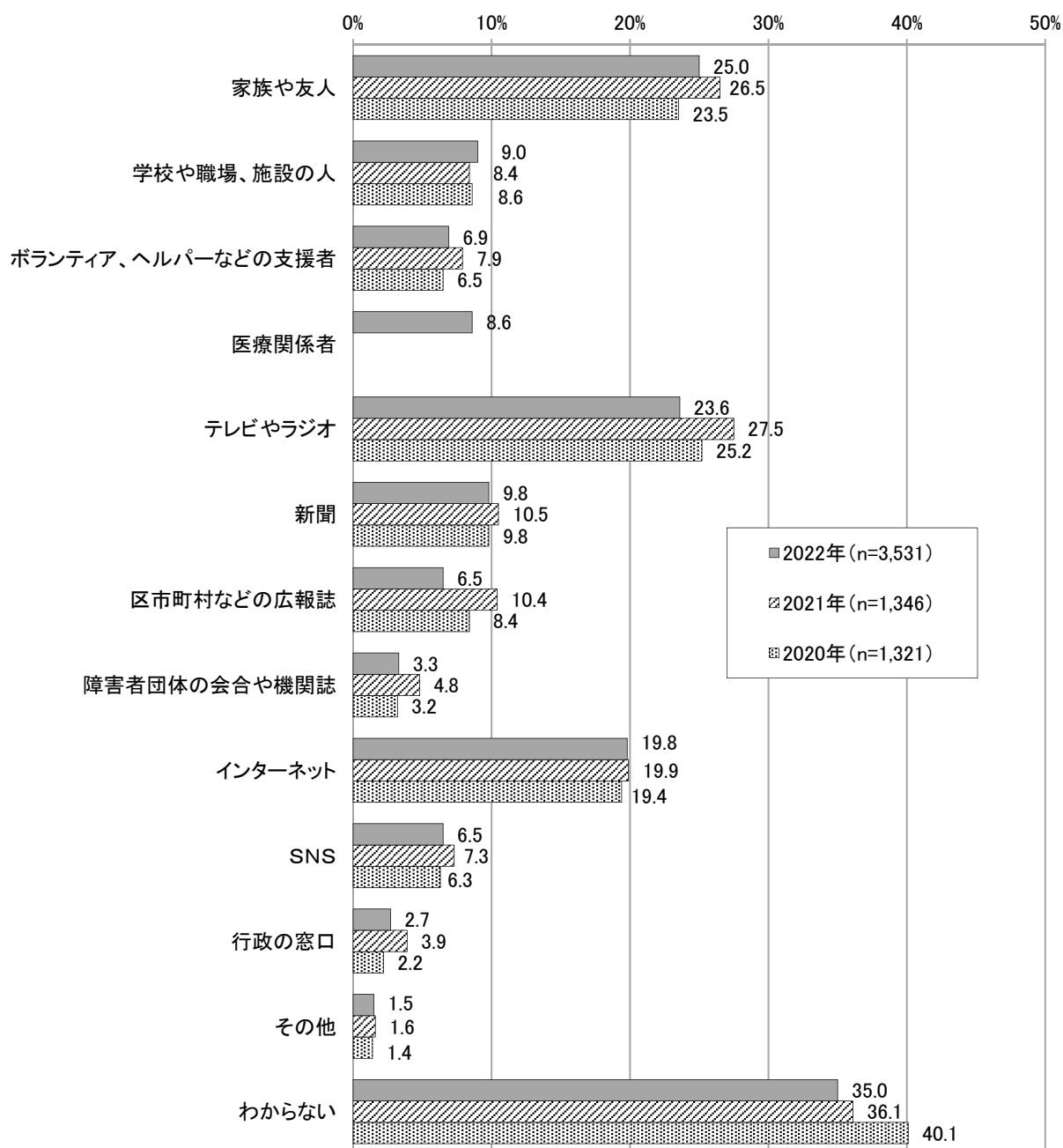
2.2 情報の入手先

(1) スポーツ・運動に関する情報の入手先

スポーツ・運動に関する情報の入手先については、「わからない」を除くと「家族や友人」が 25.0% と最も高く、次いで「テレビやラジオ」(23.6%)、「インターネット」(19.8%) の順であった。

【図表 42】

【図表 42】スポーツ・運動に関する情報の入手先〔複数回答〕



注1：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は次ページを参照

注2：「医療関係者」は医師や看護師、理学療法士、作業療法士等を指し、2022年度調査から選択肢を追加

年齢別にみると、年齢が低いほど「家族や友人」、「学校や職場、施設の人」の割合が高く、年齢が高くなるにつれて「テレビやラジオ」、「新聞」の割合が高い傾向にあった。【図表 43】

【図表 43】スポーツ・運動に関する情報の入手先(年齢別) [複数回答]

(単位: %)

	家族 や友人	学校 や職場、 施設の人	ボラン タース などの 支援者 、ヘル パー	医療 関係者	テレビ やラジオ	新聞	区市 町村な どの広 報誌	障害 者団体 の会合 や 機関誌	イン ターネ ット	S N S	行政 の窓口	その他	わから ない
7歳～17歳 (n=267)	41.5	24.5	7.2	5.5	9.6	3.8	5.8	3.8	14.6	4.3	1.9	0.2	29.3
18歳～19歳 (n=28)	40.4	21.2	1.9	1.9	11.5	5.8	3.8	3.8	11.5	5.8	1.9	0.0	38.5
20歳代 (n=213)	26.2	14.9	8.2	7.9	13.4	4.9	6.1	8.5	20.1	9.1	4.0	0.9	35.1
30歳代 (n=267)	26.7	12.4	9.4	6.7	17.3	5.8	4.3	4.0	20.2	10.6	1.6	1.1	37.3
40歳代 (n=282)	24.8	7.5	4.5	6.7	24.0	8.8	6.9	3.1	22.2	7.9	3.5	1.2	36.7
50歳代 (n=312)	20.6	3.5	4.4	5.0	26.1	6.4	4.1	1.8	26.8	7.8	1.8	1.8	37.4
60歳代 (n=300)	21.5	5.1	5.9	14.5	32.8	13.1	9.0	2.7	27.0	6.8	3.7	2.1	31.8
70歳代以上 (n=329)	18.7	2.5	9.0	12.0	32.5	19.3	8.6	2.1	10.9	1.8	2.6	2.5	36.0
18歳以上 (n=3,114)	22.8	6.9	6.8	9.0	25.5	10.6	6.6	3.3	20.5	6.8	2.8	1.7	35.8

障害種別にみると、「視覚障害者」（32.2%）と「聴覚・平衡機能障害」（27.8%）、「音声・言語・そしゃく機能障害」（27.1%）、「知的障害」（30.6%）で「家族や友人」の割合が最も高かった。一方で、「肢体不自由」と「内部障害」では、「テレビやラジオ」がそれぞれ 30.6%と 27.7%で最も高く、「精神障害」では「インターネット」が 22.2%で最も高かった。【図表 44】

【図表 44】スポーツ・運動に関する情報の入手先(障害種別) [複数回答]

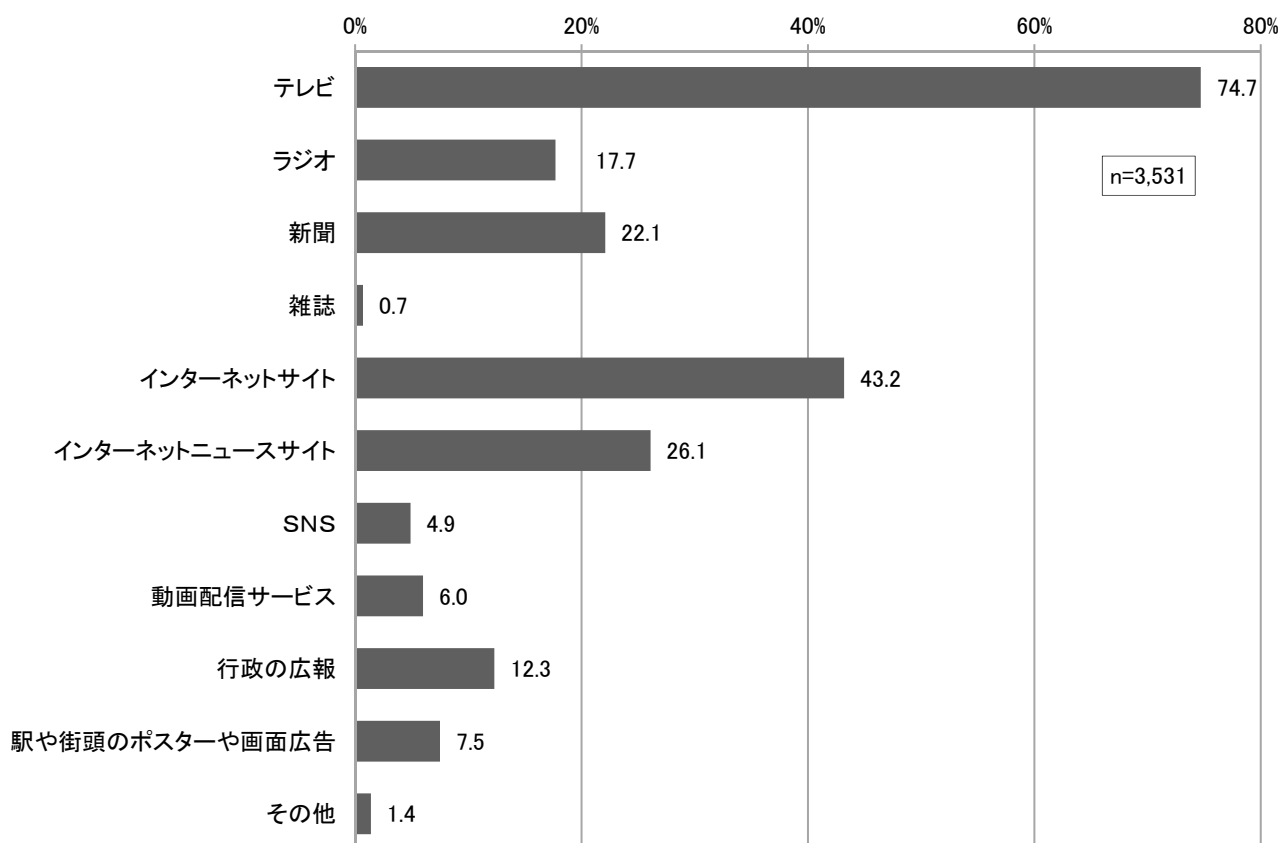
	家族 や 友人	学 校 や 職 場 、 施 設 の 人	バ ー ン テ イ ア 、 ヘル プ な ど の 支 援 者	医 療 関 係 者	テ レ ビ や ラ ジ オ	新 聞	区 市 町 村 な ど の 広 報 誌	関 連 障 害 者 団 体 の 会 合 や 機	イ ン タ ー ネ ッ ト	S N S	行 政 の 窓 口	そ の 他	わ か ら な い
視覚障害(n=475)	32.2	9.9	6.7	6.3	18.7	7.6	5.9	3.6	14.9	5.9	3.4	0.6	37.9
聴覚・平衡機能障害 (n=302)	27.8	11.9	10.3	11.3	26.2	14.6	9.9	6.6	15.9	7.6	5.0	1.3	34.4
音声・言語・そしゃく 機能障害(n=192)	27.1	14.1	13.0	13.5	23.4	9.4	9.9	4.7	21.9	8.9	5.2	2.6	30.7
肢体不自由 (n=1,055)	21.8	6.4	10.1	15.3	30.6	14.4	8.6	4.1	22.0	6.6	3.5	2.6	28.5
内部障害(n=611)	25.9	6.7	6.7	10.8	27.7	12.9	7.7	3.6	23.4	6.1	2.9	1.5	35.4
知的障害(n=441)	30.6	23.1	11.8	6.3	14.1	4.5	5.9	8.2	17.7	5.9	4.3	1.1	37.0
精神障害(n=716)	20.7	8.7	3.1	5.7	20.8	7.1	6.1	3.5	22.2	10.9	2.9	1.0	41.1
その他(n=142)	29.6	10.6	3.5	5.6	24.6	12.7	9.2	2.1	26.8	9.2	0.7	4.2	34.5

(2) 日常的な情報の入手先

日常的な情報の入手先は、回答者全体に対する割合では「テレビ」が 74.7%と最も高く、次いで「インターネットサイト」(43.2%)、「インターネットニュースサイト」(26.1%)の順であった。

【図表 45】

【図表 45】 日常的な情報の入手先[複数回答]



年齢別では、「18～19 歳」を除いた全年齢層で「テレビ」が最も高い割合となった。「インターネットサイト」の割合は「18～19 歳」で 63.5%と最も高く、「70 歳代以上」を除く年齢層で 4 割を超えた。

【図表 46】

【図表 46】日常的な情報の入手先(年齢別)[複数回答]

(単位: %)

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	インターネット	インターネットサイト	SNS	動画配信サービス	行政の広報	駅や街頭のポスターや画面広告	その他
7歳～17歳(n=417)	71.2	10.1	8.4	0.2	40.3	12.0	2.2	12.0	5.5	7.9	1.9
18歳～19歳(n=52)	59.6	13.5	11.5	3.8	63.5	19.2	7.7	11.5	13.5	11.5	1.9
20歳代(n=328)	64.6	14.0	11.0	0.9	47.0	23.2	7.3	8.2	11.9	12.2	1.5
30歳代(n=445)	65.2	15.3	15.1	0.4	42.5	28.3	7.9	4.9	8.1	13.3	1.3
40歳代(n=491)	68.4	19.6	17.7	0.2	51.5	34.6	7.1	6.7	10.0	7.1	0.6
50歳代(n=564)	73.8	18.4	16.0	0.7	55.1	38.8	6.6	7.4	10.5	6.7	0.2
60歳代(n=512)	83.4	20.7	31.1	0.8	49.4	30.9	4.7	3.5	20.3	5.1	1.4
70歳代以上(n=722)	86.8	21.7	41.4	1.0	23.0	15.5	0.7	2.1	16.2	4.0	2.4
18歳以上(n=3,114)	75.1	18.8	23.9	0.7	43.6	28.0	5.3	5.2	13.2	7.5	1.3

障害種別では、いずれの障害も「テレビ」が最も高い割合であった。「インターネットサイト」及び「インターネットニュースサイト」については、どの障害種別においても高い傾向にあるが、「知的障害」においてはやや低く、他の区分と比較して「動画配信サービス」が高かった。【図表 47】

【図表 47】 日常的な情報の入手先(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

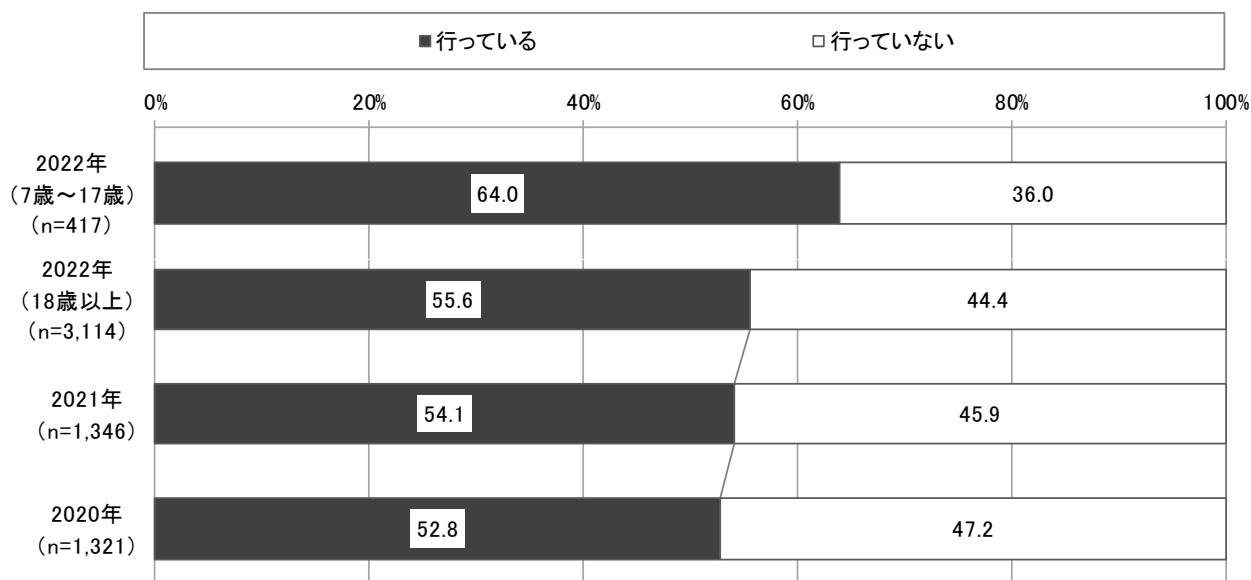
	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	インターネット	インターネットニュースサイト	SNS	動画配信サービス	行政の広報	駅や街頭のポスターや	その他
視覚障害(n=475)	72.4	23.2	18.7	0.2	37.9	21.5	1.5	1.9	7.6	10.5	0.8
聴覚・平衡機能障害(n=302)	77.2	21.5	32.5	1.3	37.7	27.2	2.0	2.3	14.2	10.3	1.3
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	71.9	17.2	18.8	0.0	32.8	24.0	2.6	3.1	10.4	9.9	3.1
肢体不自由(n=1,055)	79.1	20.9	28.2	0.9	41.5	27.6	4.9	5.6	16.4	5.1	2.0
内部障害(n=611)	79.1	18.8	28.8	0.7	47.3	31.3	4.9	4.1	16.9	6.5	0.7
知的障害(n=411)	73.0	10.7	9.5	0.5	38.8	15.2	3.6	10.0	8.4	7.5	5.0
精神障害(n=716)	67.3	15.2	14.4	0.7	49.0	30.4	9.4	9.6	12.0	11.6	0.8
その他(n=142)	77.5	15.5	24.6	0.7	57.0	31.7	9.9	17.6	13.4	9.9	4.2

2.3 スポーツ・運動の実施状況

(1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

18歳以上の過去1年間のスポーツや運動の実施の有無については、「行っている」が55.6%であり、昨年度と比較して1.5ポイント増加した。この3年間においてはやや増加傾向となっている。【図表48】

【図表48】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

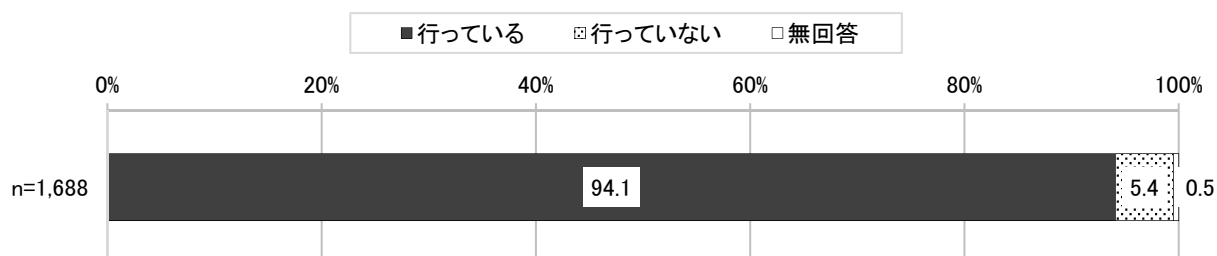


注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

なお、18歳以上の都民全般を対象に実施している『都民のスポーツ活動に関する実態調査』（東京都生活文化スポーツ局：令和5年3月）では、年1日以上スポーツ・運動実施者の割合は94.1%であった【図表49】

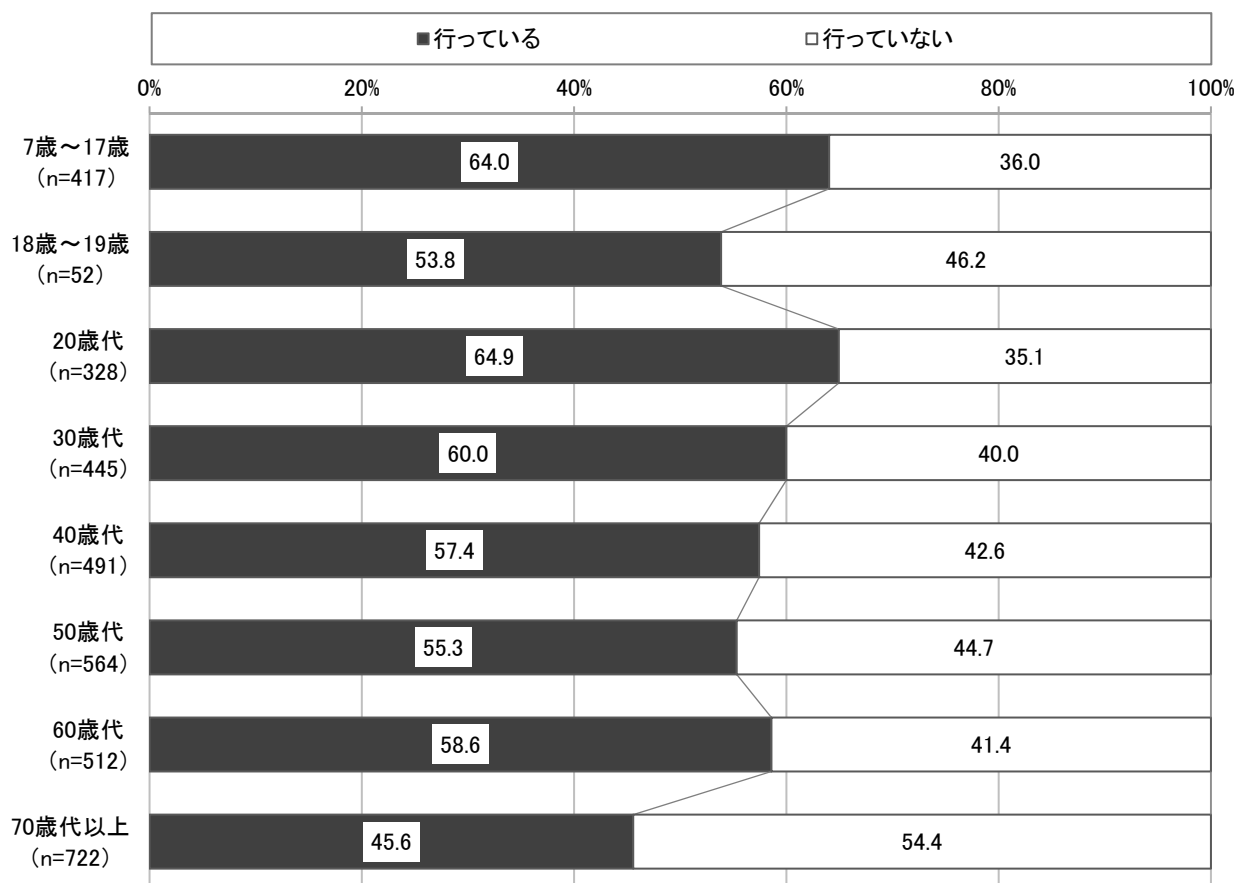
【図表49】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

『都民のスポーツ活動に関する実態調査』（東京都生活文化スポーツ局：令和5年3月）



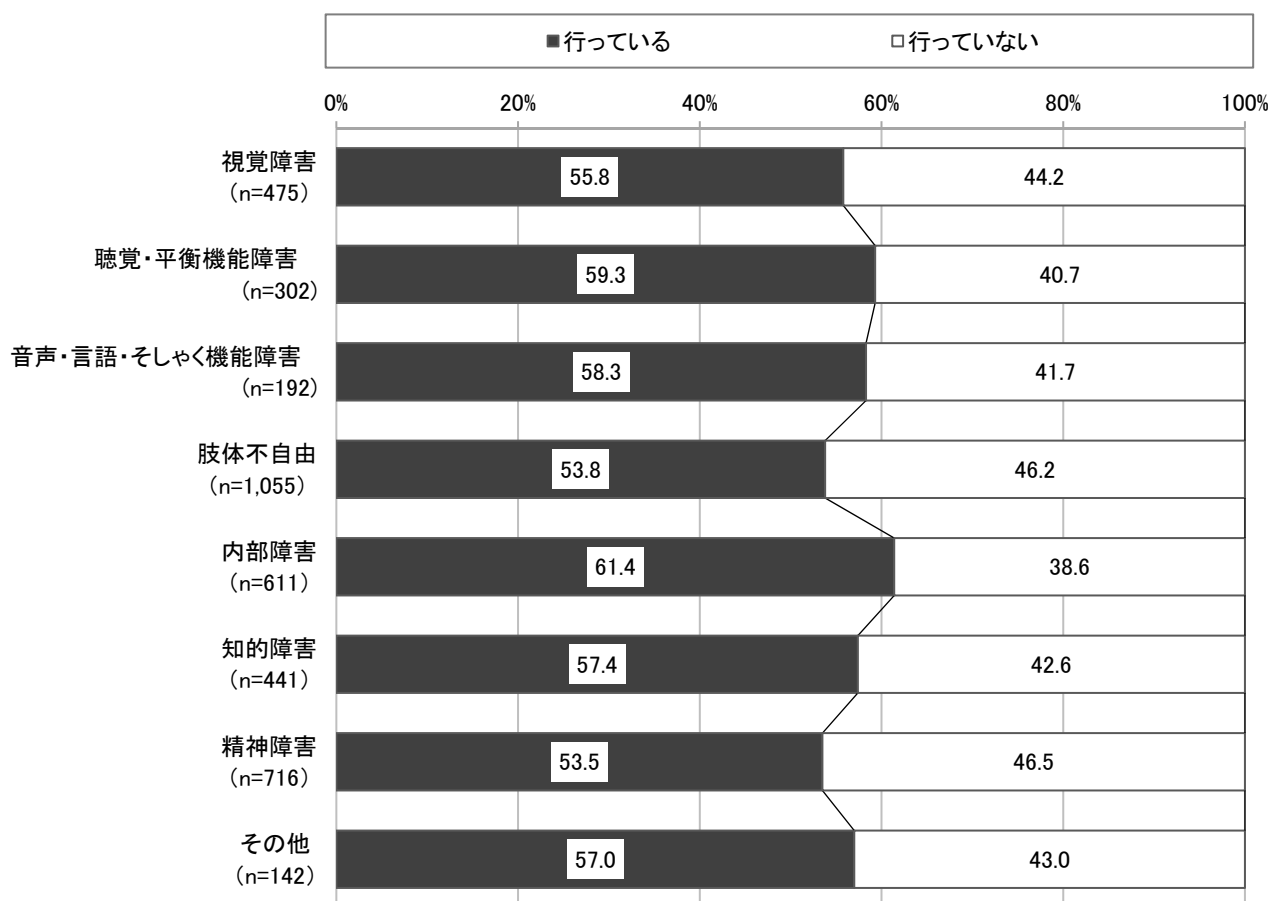
年齢別にみると、「行っている」の割合は「20 歳代」で 64.9%と最も高く、次いで「7～17 歳」(64.0%)、「30 歳代」(60.0%) の順であった。「70 歳代以上」は 45.6%と最も低かった。【図表 50】

【図表 50】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(年齢別)



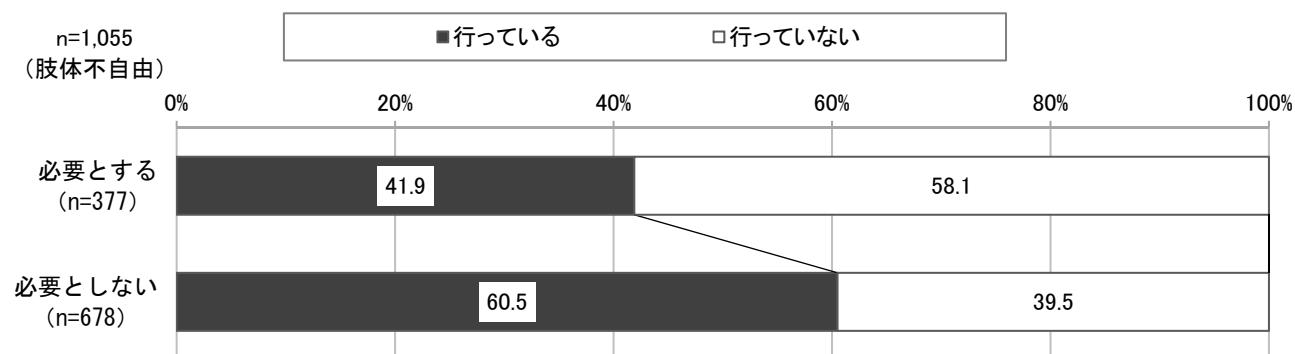
障害種別にみると、「行っている」の割合は「内部障害」で61.4%と最も高く、「精神障害」で53.5%と最も低かったが、いずれの障害種別も5割を超え、大きな差はみられなかった。【図表 51】

【図表 51】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害種別)



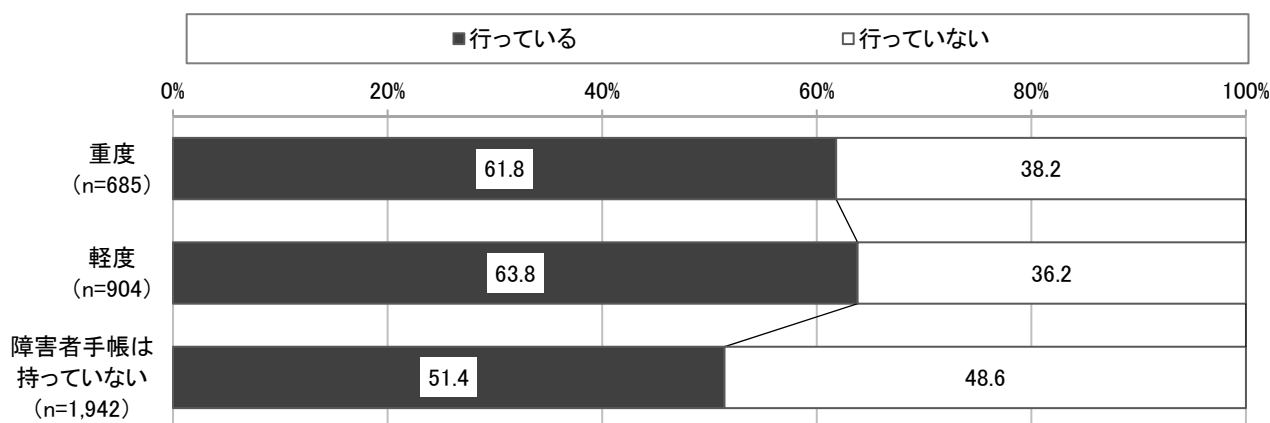
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「行っている」は「必要とする」で41.9%、「必要としない」では60.5%となり、18.6ポイントの差があった。【図表 52】

【図表 52】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(日常生活で車いす必要／不要別)



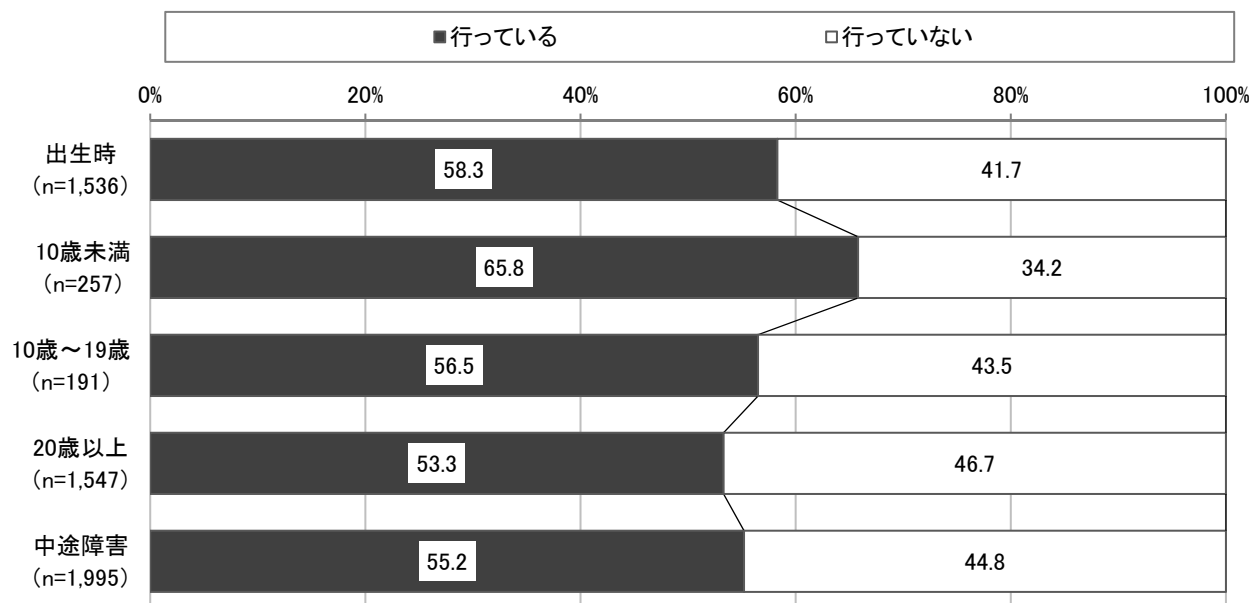
障害の程度別では、「行っている」の割合が「重度」（61.8%）、「軽度」（63.8%）ともに6割を超え、「障害者手帳は持っていない」の51.4%よりも約10ポイント高かった。【図表 53】

【図表 53】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無（障害の程度別）



障害の発生年齢別では、「行っている」の割合が「出生時」では58.3%となり、「中途障害」の55.2%よりも僅かに高かった。【図表 54】

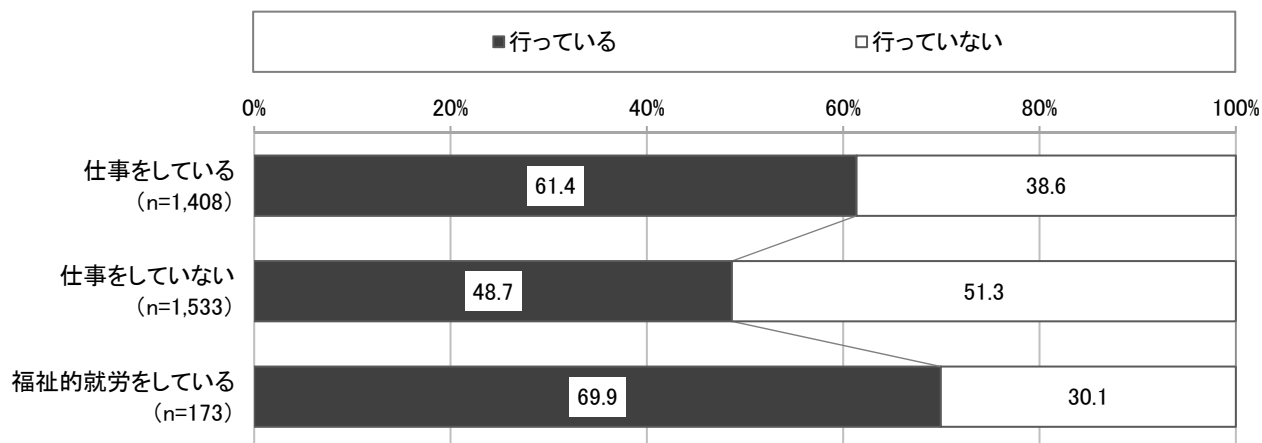
【図表 54】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無（障害発生時の年齢別）



注：「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和を示す。

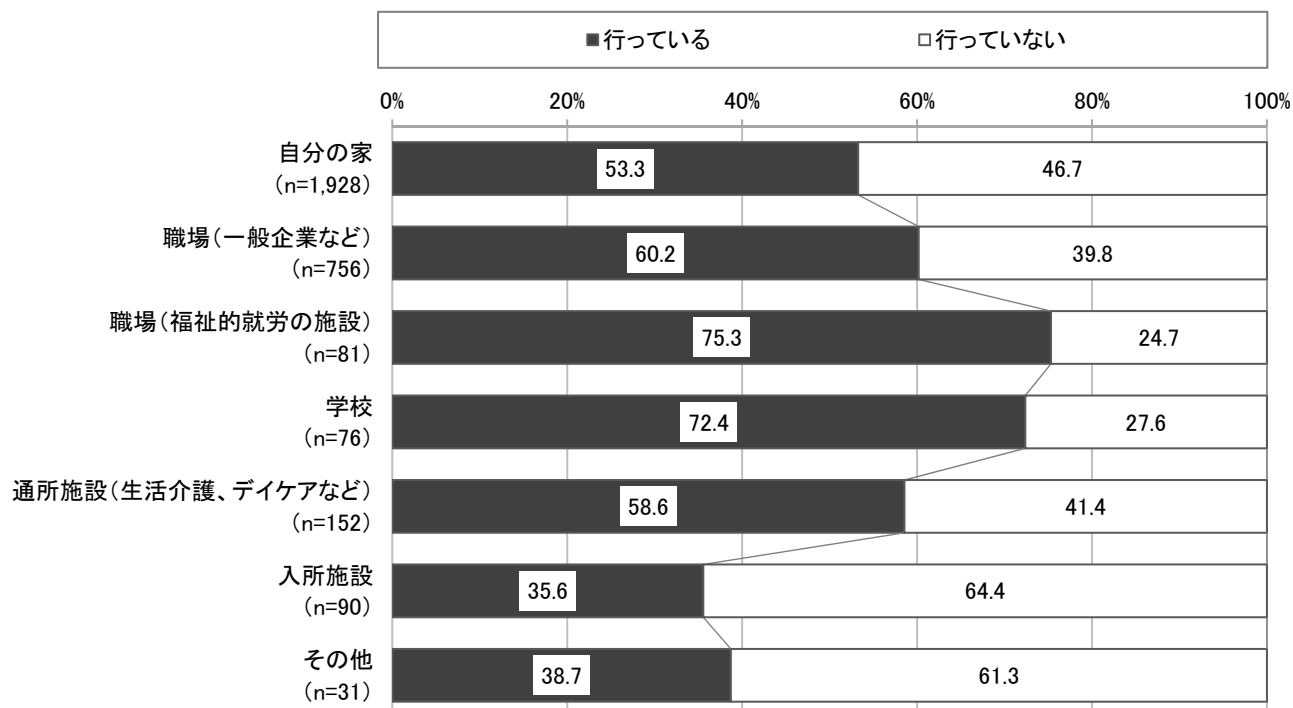
就業状況別にみると、「行っている」の割合は「福祉的就労をしている」（69.9％）が最も高く、次いで「仕事をしている」（61.4％）、「仕事をしていない」（48.7％）の順であった。【図表 55】

【図表 55】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(就業状況別)(18 歳以上)



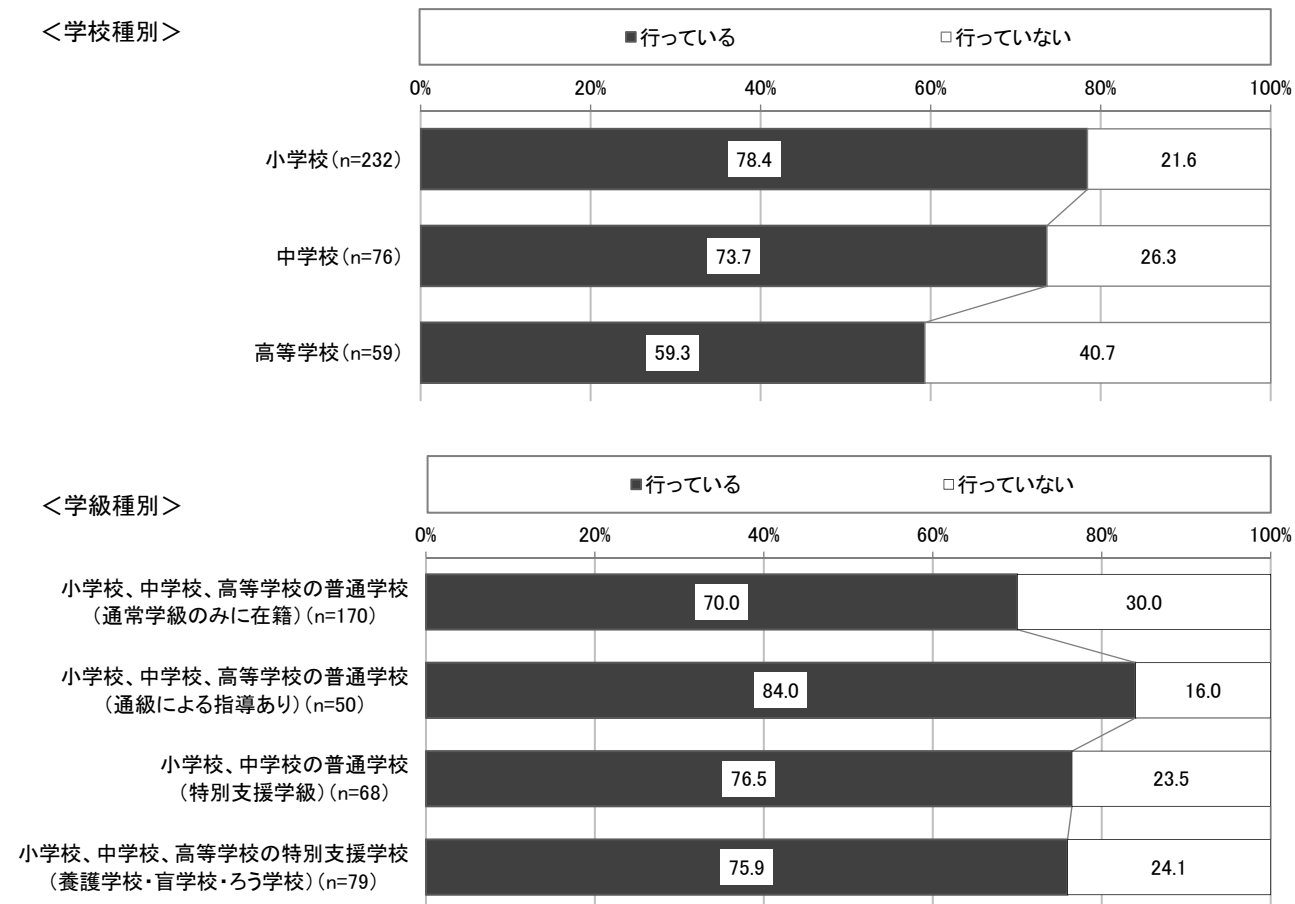
平日・日中の居場所別にみると、「行っている」の割合は「職場（福祉的就労の施設）」（75.3％）が最も高く、次いで「学校」（72.4％）、「職場（一般企業など）」（60.2％）、「通所施設」（58.6％）の順であった。【図表 56】

【図表 56】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(平日・日中の居場所別)(18 歳以上)



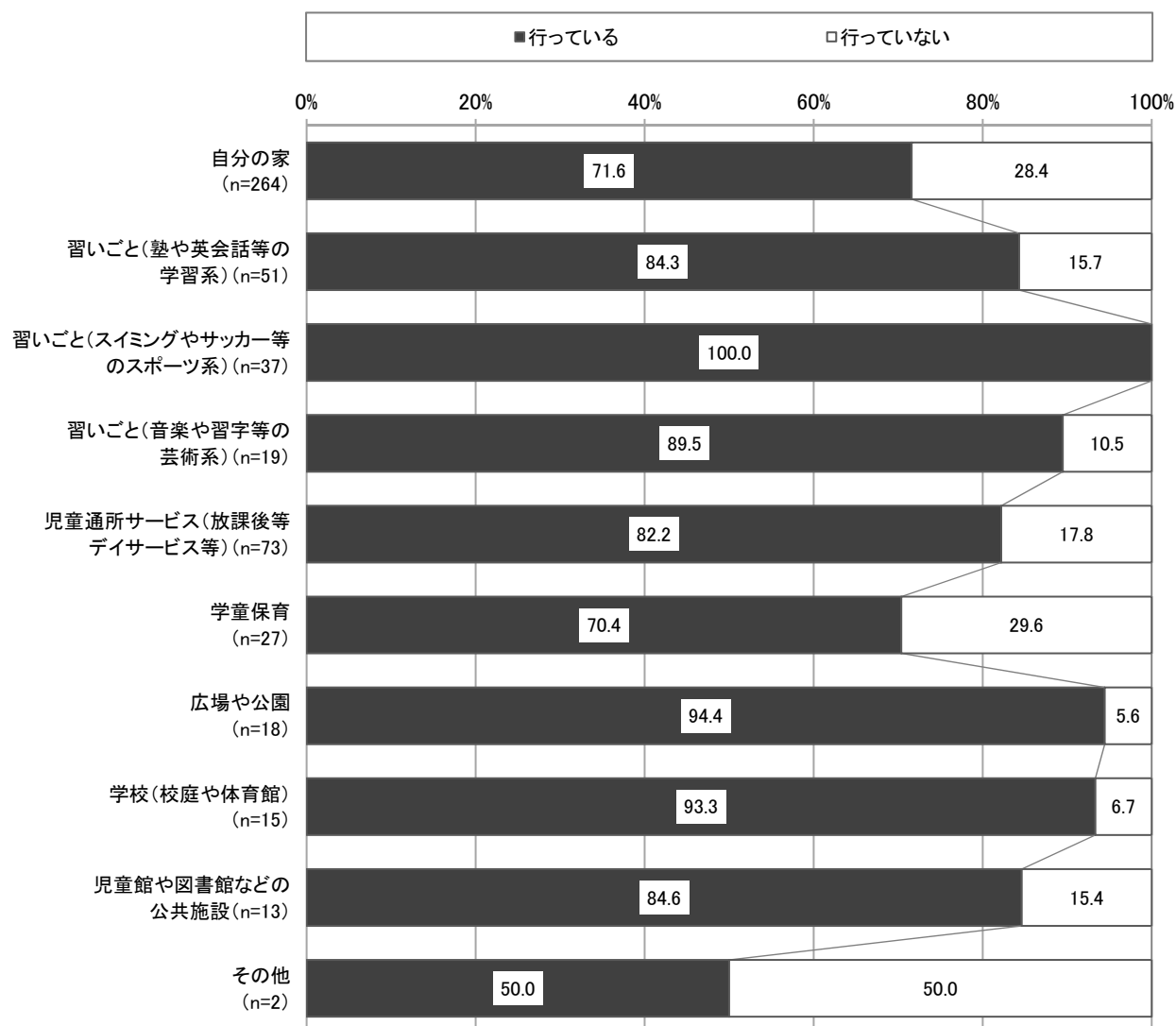
学校種別でみると、小学校では「行っている」の割合が約8割と最も高かった。学級種別では、「行っている」がいずれも7割を超えた。【図表 57】

【図表 57】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(学校種別)



放課後の居場所別についてみると、「習いごと（スイミングやサッカー等のスポーツ系）」（100.0%）、
「広場や公園」（94.4%）、「学校（校庭や体育館）」（93.3%）が9割を超え、特に高い割合となった
【図表 58】

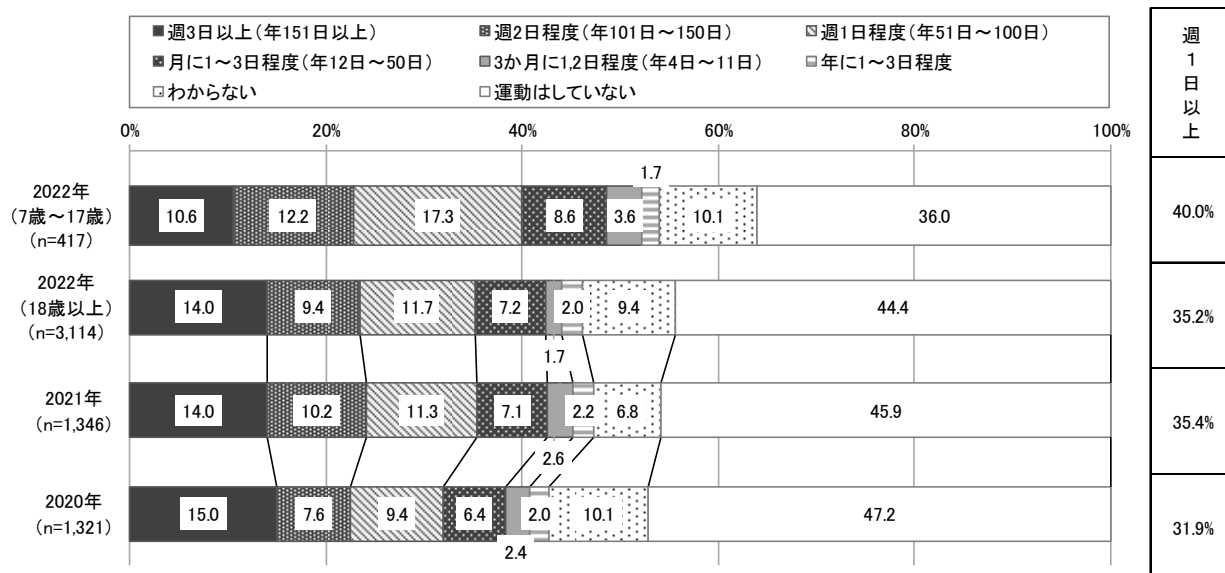
【図表 58】 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無（放課後の居場所別）



(2) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

過去1年間にスポーツや運動を行った日数について、18歳以上では「週3日以上」が14.0%、「週2日程度」が9.4%、週1日程度が11.7%であった。週1日以上の実施者は35.2%であり、昨年度との比較ではほぼ横ばいであった。また、7～17歳の週1日以上の実施者は40.0%であった。【図表59】

【図表59】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数



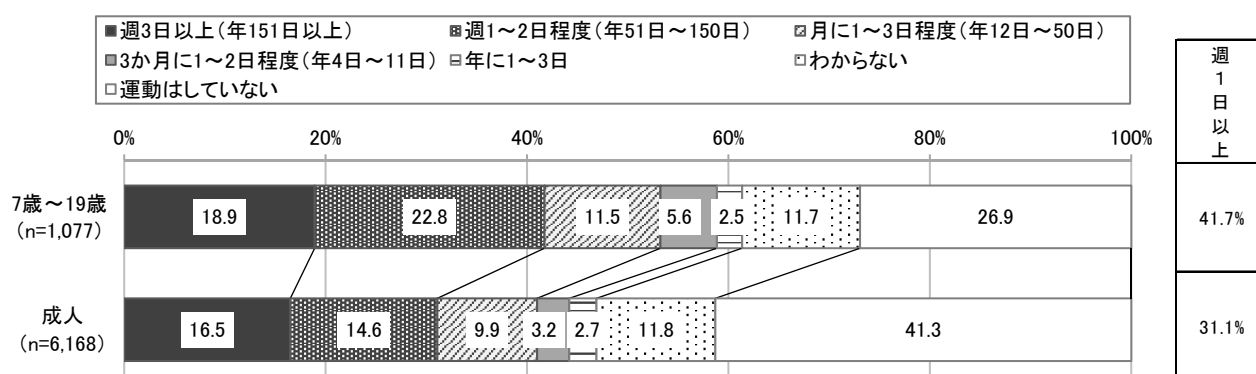
注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。

※本調査の設問10に「運動はしていない」との選択肢はないが、設問9において、過去1年間に実施したスポーツ・運動は「特になし」と回答のあった数値を「運動はしていない」と整理している（以下、同様）。

スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）』（スポーツ庁：令和4年3月）では、7～19歳では週1日以上の実施者は41.7%、成人では31.1%であった。【図表60】

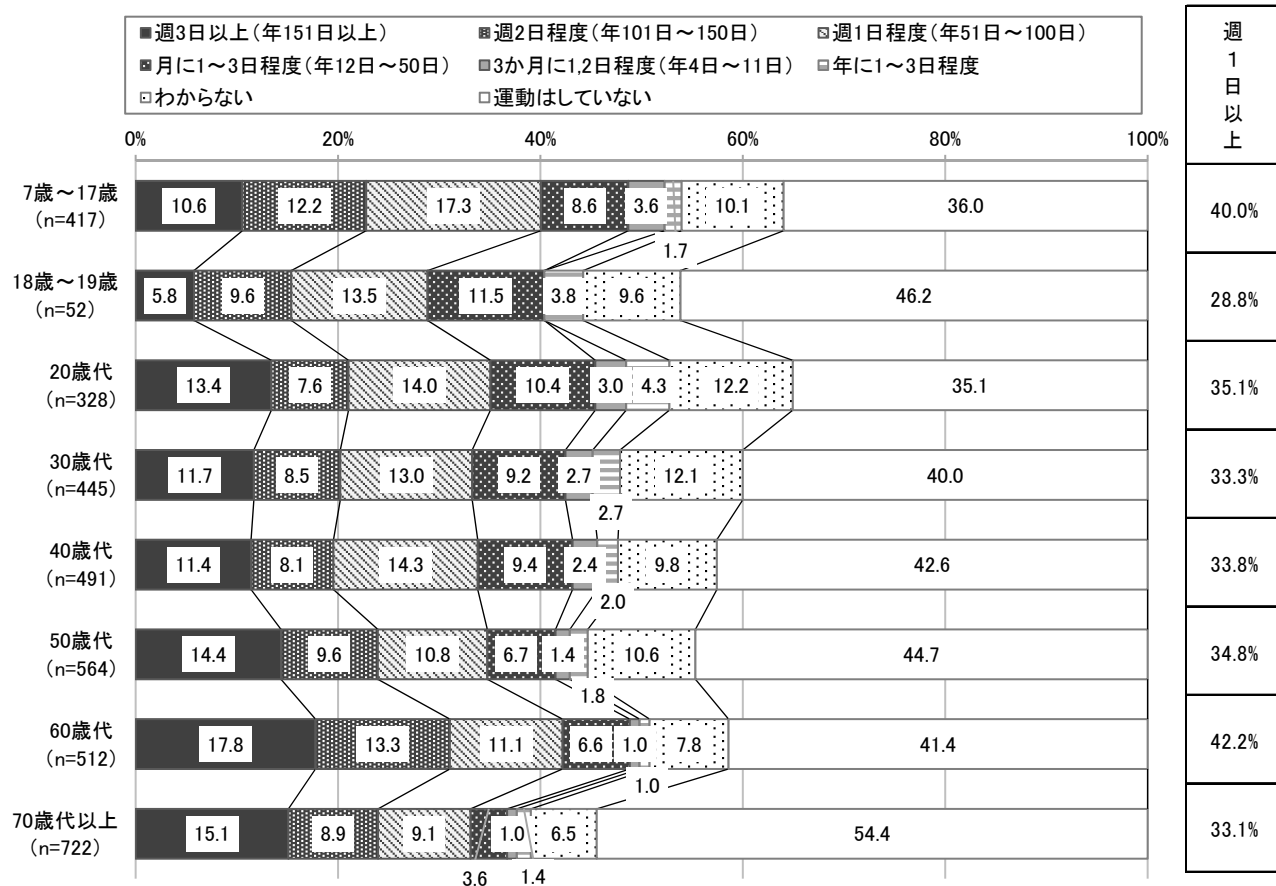
【図表60】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数

『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）』（スポーツ庁：令和4年3月）



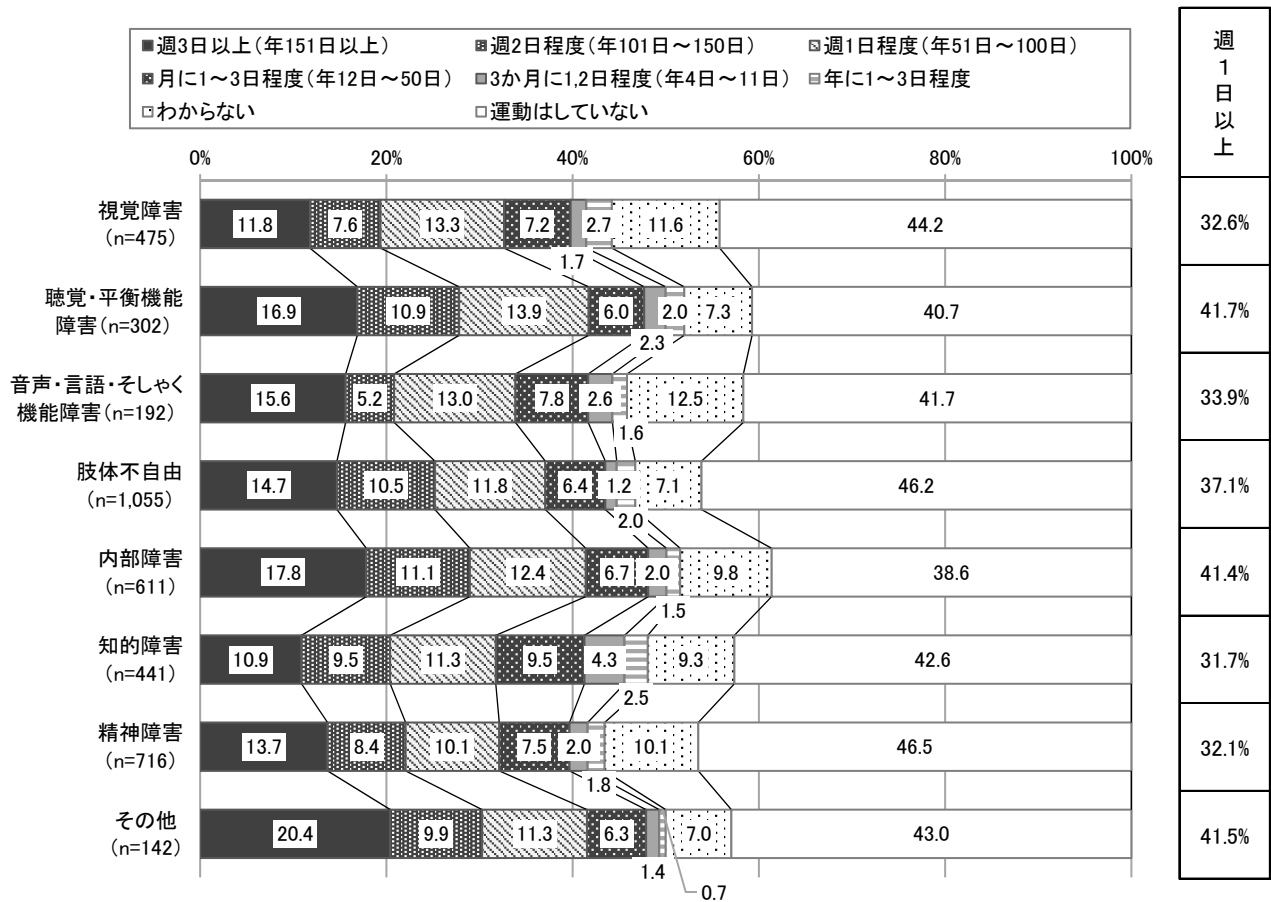
年齢別にみると、週1日以上実施している割合は「60歳代」が42.2%と最も高く、次いで「7～17歳」（40.0%）、「20歳代」（35.1%）の順であった。【図表 61】

【図表 61】 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数（年齢別）



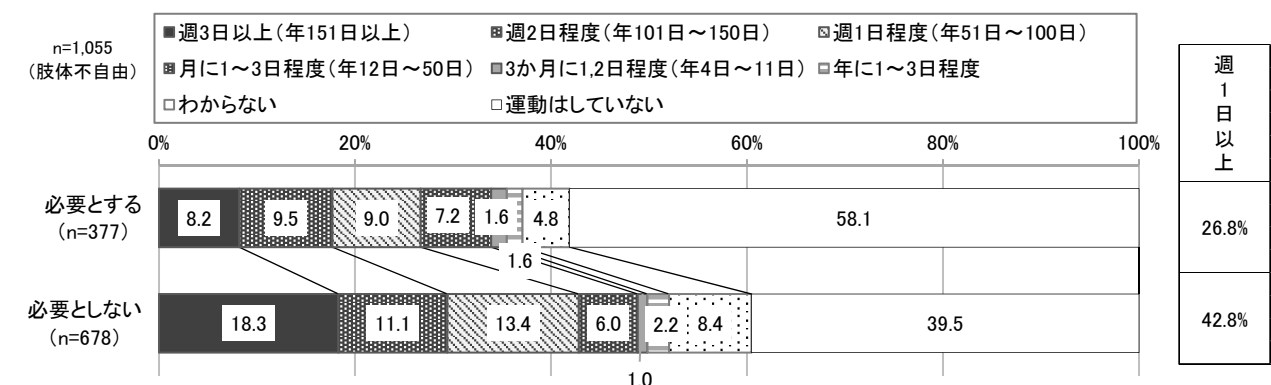
障害種別にみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは「聴覚・平衡機能障害」が41.7%と最も高く、「知的障害」で31.7%と最も低かった。【図表62】

【図表62】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害種別)



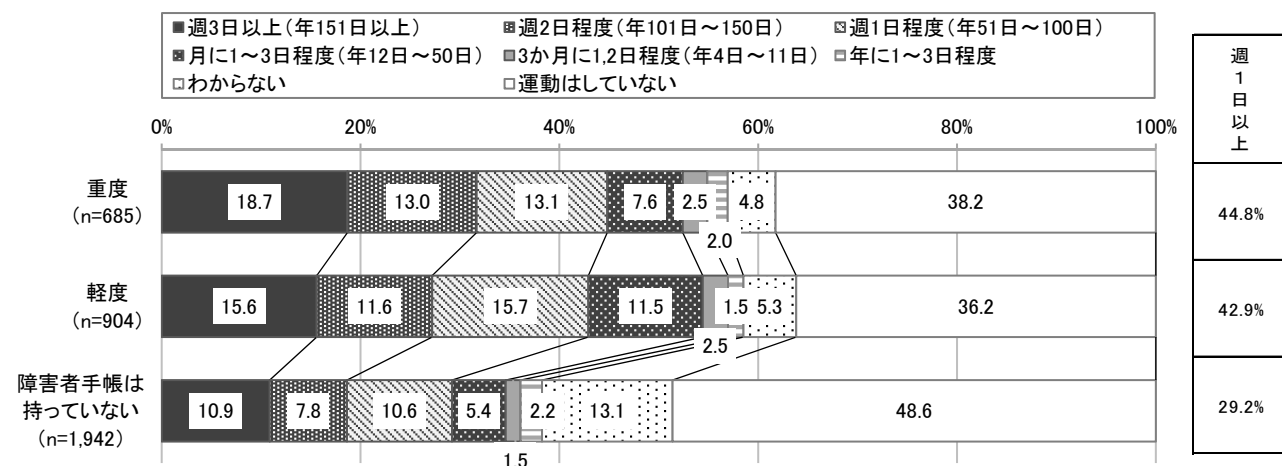
日常生活で車いす必要／不要別にみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは「必要とする」で26.8%、「必要としていない」で42.8%となった。【図表63】

【図表63】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(日常生活で車いす必要／不要別)



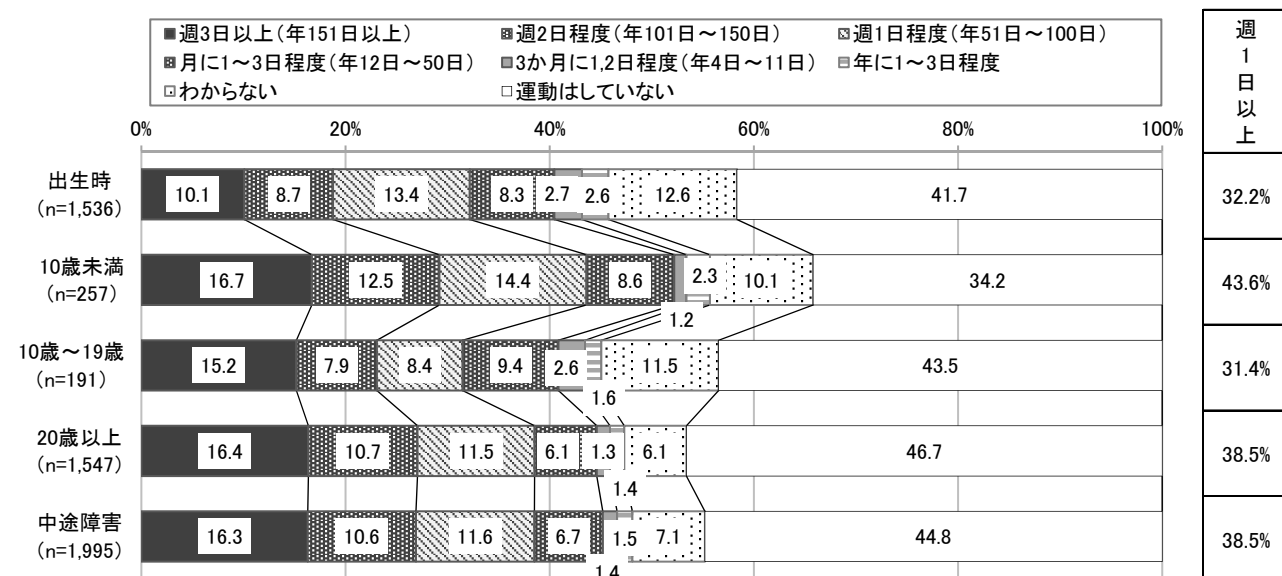
障害の程度別では、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合が「重度」で44.8%、「軽度」で42.9%であった。「障害者手帳は持っていない」は29.2%と他の区分と比較して低かった。【図表64】

【図表64】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害の程度別)



障害の発生年齢別では、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合が「出生時」で32.2%、「中途障害」が38.5%であった。【図表65】

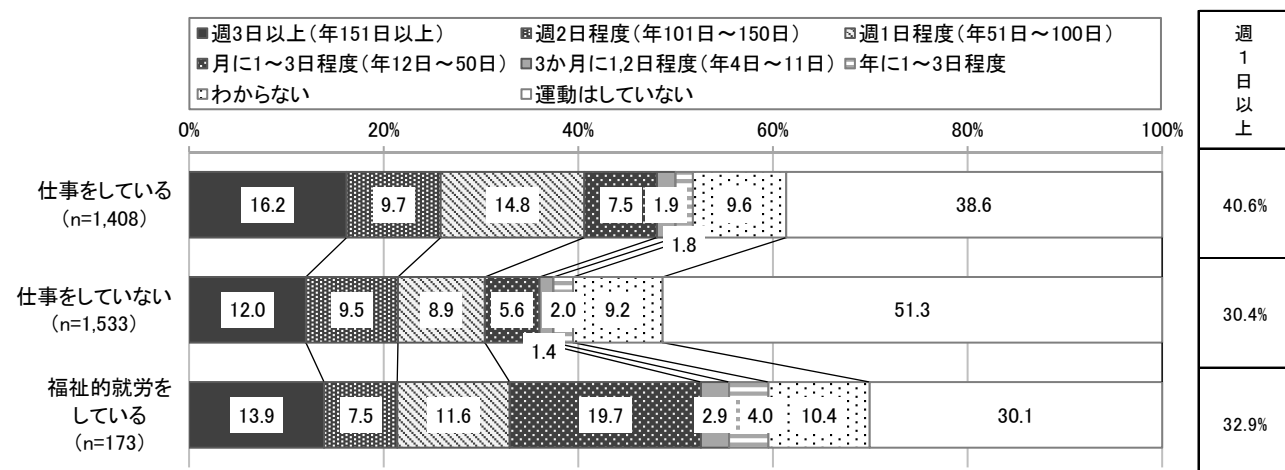
【図表65】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(障害発生時の年齢別)



注: 「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和を示す。

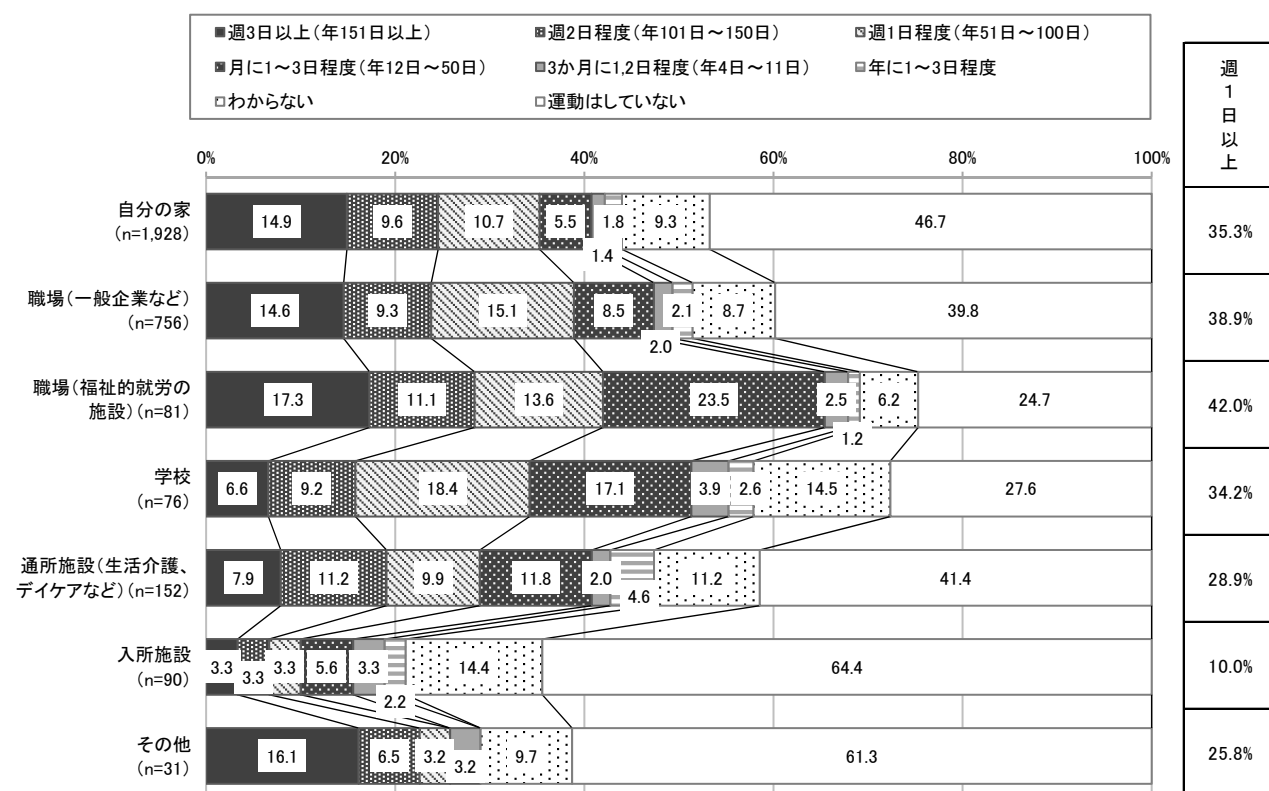
就業状況別では、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合は「仕事をしている」で40.6%、「仕事をしていない」で30.4%、「福祉的就労をしている」で32.9%であった。【図表66】

【図表66】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(就業状況別)(18歳以上)



平日・日中の居場所別では、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合が「職場（福祉的就労の施設）」で42.0%と最も高く、次いで「職場（一般企業など）」（38.9%）、「自分の家」（35.3%）の順であった。【図表67】

【図表67】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(平日・日中の居場所別)(18歳以上)

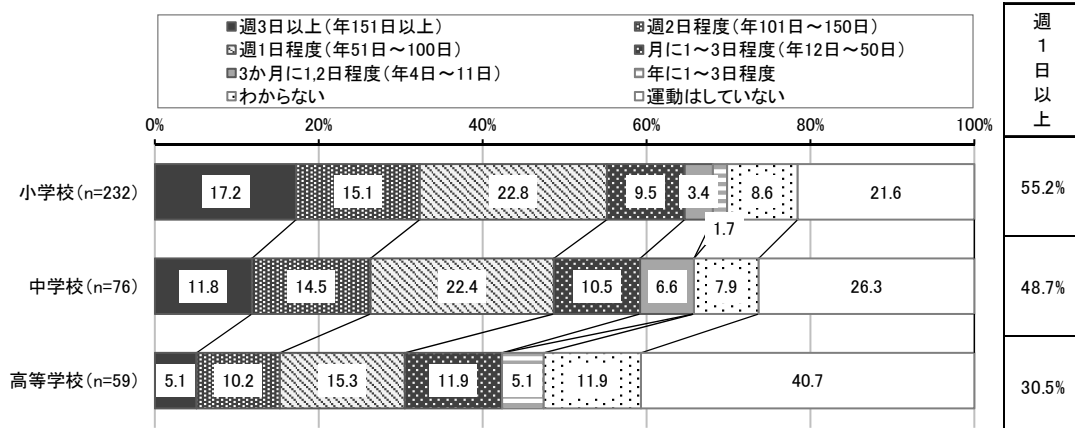


学校種別でみると、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合は小学校で55.2%と最も高かった。

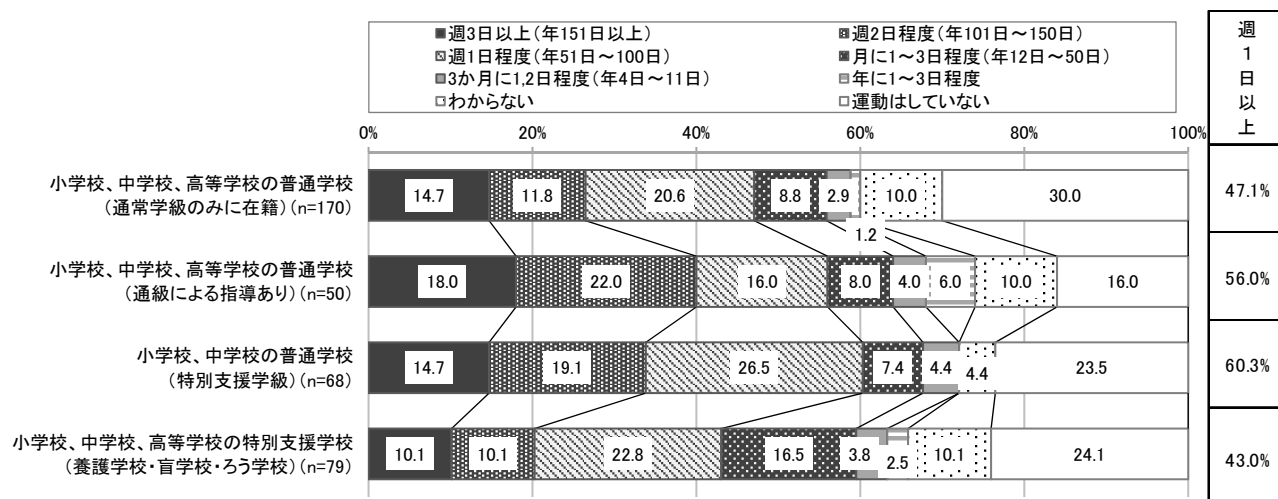
【図表 68】

【図表 68】 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(学校種別)

<学校種別>

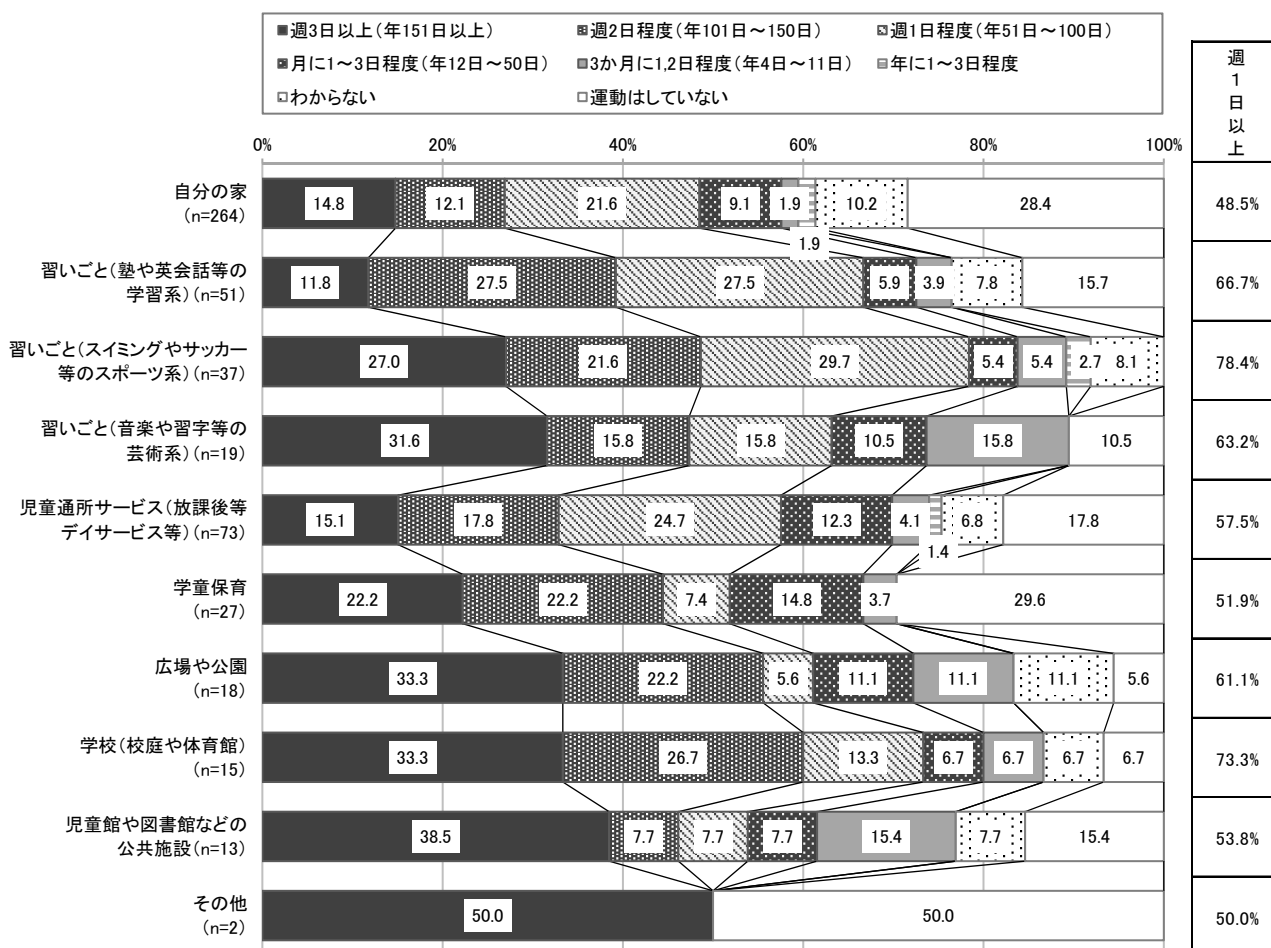


<学級種別>



放課後の居場所別では、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合が「習いごと（スポーツ系）」で78.4%と最も高く、次いで「学校（校庭や体育館）」（73.3%）、「習いごと（学習系）」（66.7%）の順となった。【図表 69】

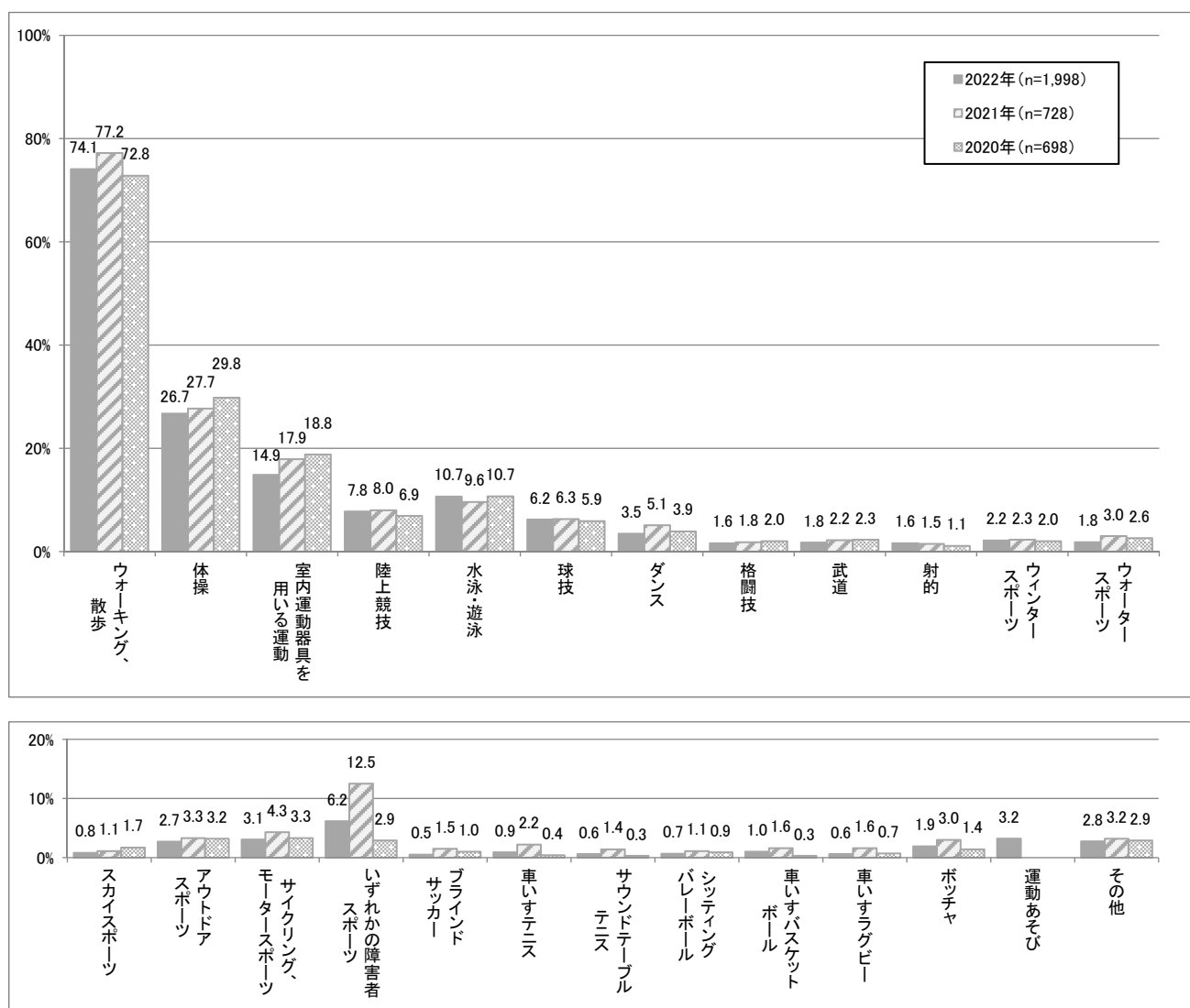
【図表 69】 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数（放課後の居場所別）



(3) 過去1年間に行ったスポーツ・運動

過去1年間にスポーツや運動を「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・運動を行ったかについてみると、実施率の高かったものから順に「ウォーキング、散歩」（74.1%）、「体操」（26.7%）、「室内運動器具を用いる運動」（14.9%）、「水泳・遊泳」（10.7%）、「陸上競技」（7.8%）となった。【図表 70】

【図表 70】 過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉



注1：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は次ページを参照

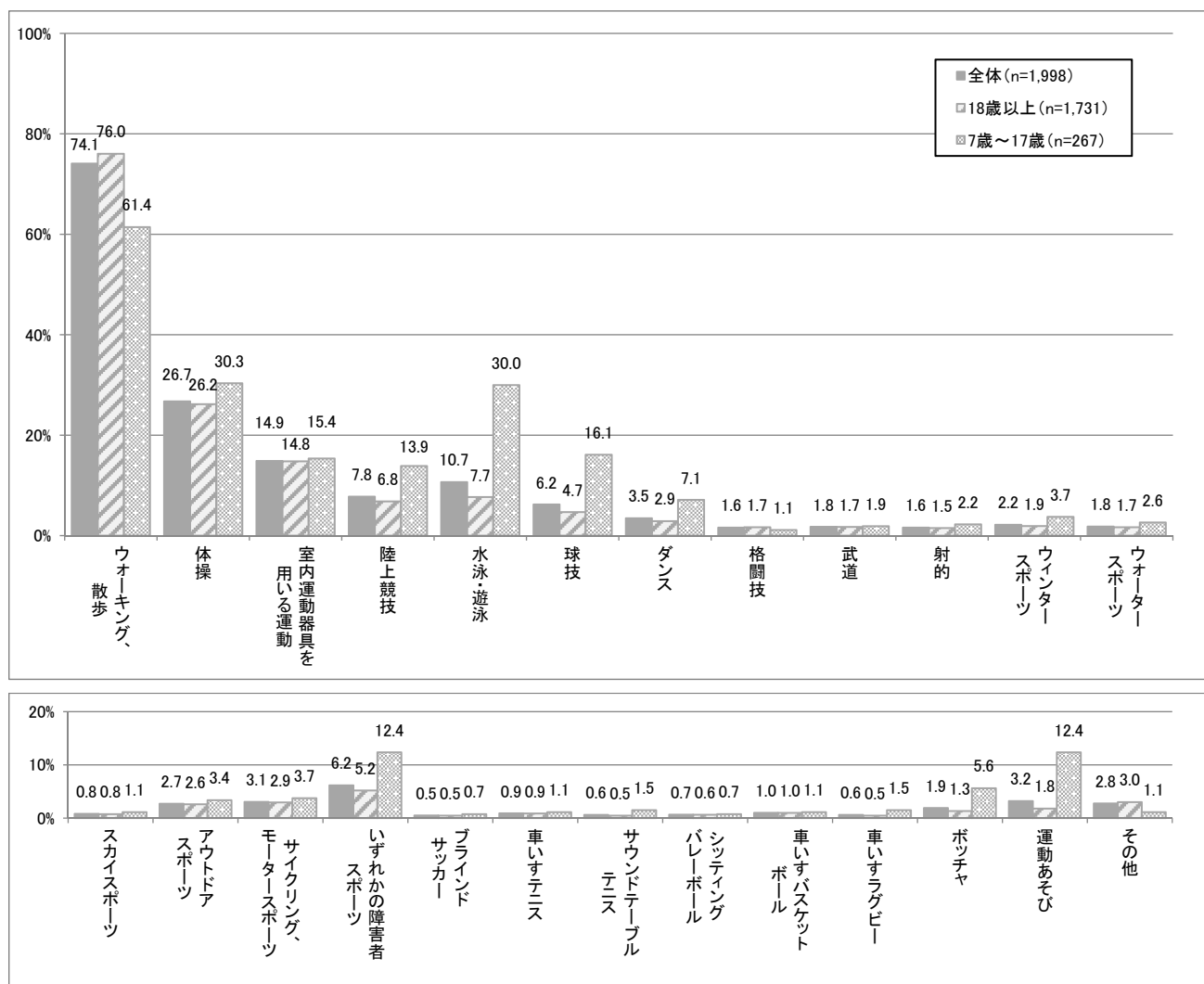
注2：「運動あそび」は鬼ごっこやかくれんぼ、鉄棒、ブランコなどを指し、2022年度調査から選択肢を追加

※実際の調査では、この設問に「いずれかの障害者スポーツ」という選択肢は設定していない。

以降、当報告書内における「いずれかの障害者スポーツ」は「ブラインドサッカー」「車いすテニス」「サウンドテーブルテニス」「シッティングバレーボール」「車いすバスケットボール」「車いすラグビー」「ボッチャ」の各選択肢の回答を合計した数値である。

スポーツ・運動の実施者全体に対する成人（18 歳以上）、子ども（7 歳～17 歳）の比較では、「ウォーキング・散歩」で 18 歳以上（76.0%）が 7～17 歳（61.4%）よりも高い割合であった。一方で、「水泳・遊泳」、「球技」、「陸上競技」、「ボッチャ」、「運動遊び」などは 7～17 歳が 18 歳以上を上回った。【図表 71】

【図表 71】 過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉
（実施者全体、18 歳以上、7 歳～17 歳の実施者）



障害種別にみると、いずれの障害も「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く、次いで「体操」が高かった。「いずれかの障害者スポーツ」の内訳をみると、スポーツの特性と障害種別との関連性はあまりみられなかった。【図表 72】

【図表 72】 過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害種別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>

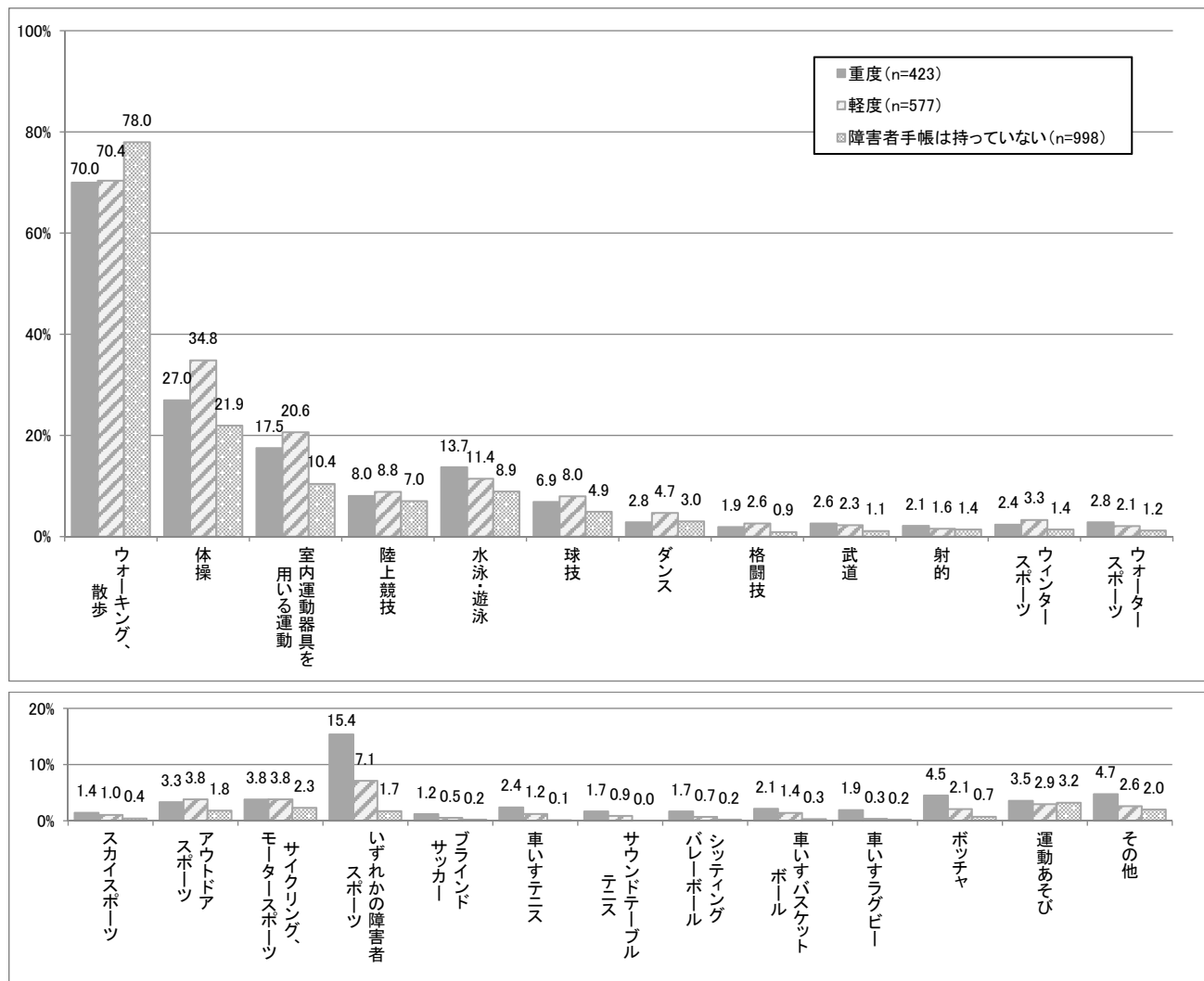
(単位: %)

	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ
視覚障害(n=265)	81.9	24.5	14.7	9.1	10.2	8.3	4.2	3.8	3.4	3.4	4.2	4.2
聴覚・平衡機能障害(n=179)	75.4	26.3	19.6	13.4	17.3	11.7	6.1	5.6	5.0	7.3	5.6	6.1
音声・言語・そしゃく機能障害(n=112)	58.0	31.3	24.1	17.9	17.9	13.4	9.8	8.9	6.3	8.0	7.1	8.9
肢体不自由(n=568)	69.7	32.7	19.5	7.2	8.6	5.5	4.2	2.3	2.3	2.8	2.5	3.3
内部障害(n=375)	80.3	24.5	16.8	6.1	9.1	4.5	1.9	1.9	3.2	1.9	4.0	2.1
知的障害(n=253)	67.2	23.7	13.8	13.0	22.5	11.5	7.1	3.6	2.8	2.8	4.0	2.4
精神障害(n=383)	80.9	26.9	12.3	8.4	11.2	5.0	4.7	2.3	2.3	2.3	2.6	1.6
その他(n=81)	70.4	27.2	17.3	11.1	22.2	14.8	7.4	0.0	0.0	2.5	1.2	1.2

	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	サイクリング、モータースポーツ	いずれかの障害者スポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス	サウンドテーブル	バレーボール	車いすバスケット	車いすラグビー	ボッチャ	運動あそび	その他
視覚障害(n=265)	2.6	3.0	4.2	19.6	2.3	2.6	3.0	2.6	3.4	2.3	3.4	4.9	0.8
聴覚・平衡機能障害(n=179)	4.5	8.9	6.7	21.8	2.8	2.8	3.4	2.8	3.9	2.8	3.4	5.6	2.2
音声・言語・そしゃく機能障害(n=112)	5.4	8.9	8.0	38.4	4.5	5.4	5.4	6.3	8.0	5.4	3.6	7.1	2.7
肢体不自由(n=568)	1.4	2.8	3.9	12.1	1.1	2.6	1.4	1.6	2.3	1.2	1.9	2.3	3.0
内部障害(n=375)	2.1	4.8	5.3	11.7	1.9	1.3	1.3	1.6	1.9	1.3	2.4	3.5	4.3
知的障害(n=253)	2.0	4.3	4.3	20.9	2.0	2.0	2.0	2.4	2.4	2.4	7.9	9.1	2.4
精神障害(n=383)	1.3	3.4	2.3	11.5	1.6	1.0	1.3	1.6	1.3	1.8	2.9	3.9	2.6
その他(n=81)	0.0	7.4	6.2	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	11.1	7.4

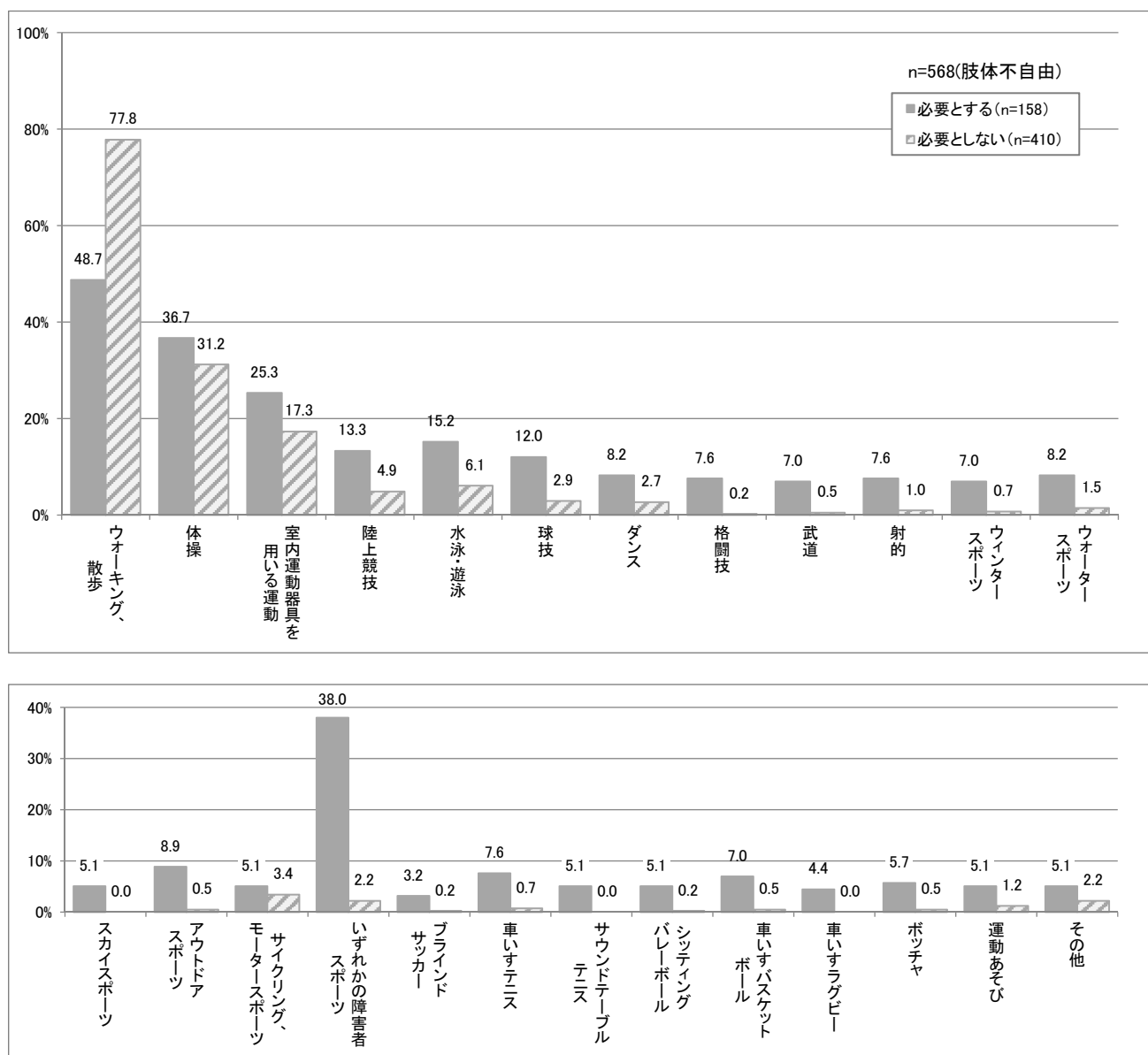
障害の程度別にみると、いずれの区分も実施率の高いものから順に「ウォーキング、散歩」「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」「陸上競技」であった。【図表 73】

【図表 73】 過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害の程度別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



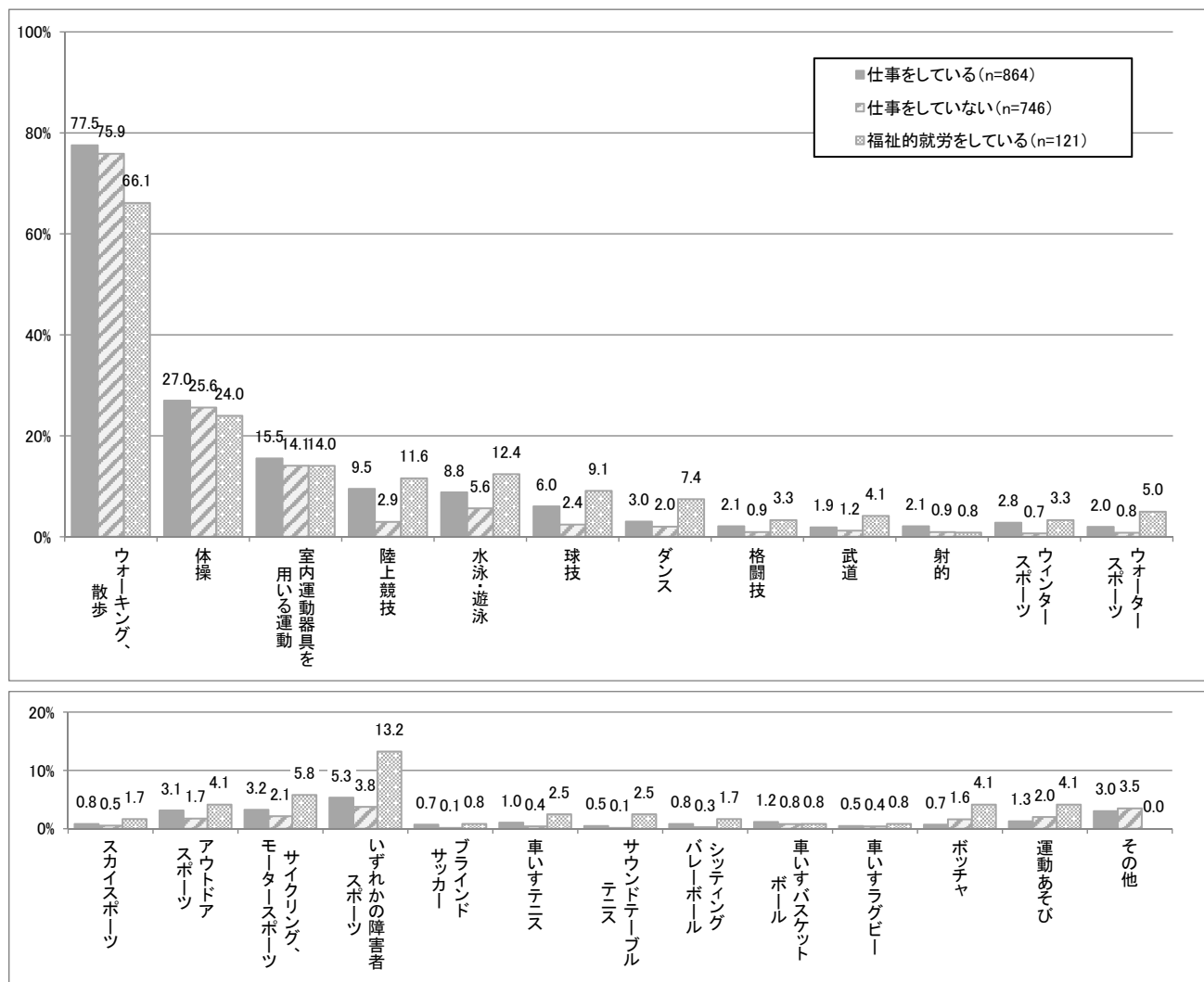
日常生活で車いす必要／不要別にみると、いずれも「ウォーキング、散歩」が最も高かった。次いで「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」「陸上競技」の順であった。また、「必要とする」層では「いずれかの障害者スポーツ」の実施が約4割に上った。【図表 74】

【図表 74】 過去1年間に行ったスポーツ・運動(日常生活で車いす必要／不要別)[複数回答]
 〈スポーツ・運動実施者〉



就業状況別にみると、いずれの区分でも「ウォーキング、散歩」が最も高く、次いで「体操」、「室内運動器具を用いる運動」の順であった。「福祉的就労をしている」では「いずれかの障害者スポーツ」が13.2%と他の区分と比較して高かった。【図表 75】

【図表 75】 過去1年間に行ったスポーツ・運動(就業状況別)(18歳以上)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



平日・日中の居場所別にみると、「ウォーキング、散歩」がいずれの区分でも最も高く、次いで「体操」も高い傾向にあった。「職場（福祉的就労の施設）」「通所施設」「入所施設」では「いずれかの障害者スポーツ」も他の区分と比較して高かった。【図表 76】

【図表 76】過去1年間に行ったスポーツ・運動（平日・日中の居場所別）（18歳以上）〔複数回答〕

〈スポーツ・運動実施者〉

（単位：％）

	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ
自分の家(n=1,027)	80.4	25.5	13.5	5.1	5.8	3.3	2.1	0.8	1.4	0.7	1.1	1.4
職場（一般企業など）(n=455)	75.8	27.7	16.5	9.9	9.9	6.8	2.6	2.9	2.0	2.9	3.1	1.8
職場（福祉的就労の施設）(n=61)	68.9	19.7	18.0	9.8	16.4	8.2	6.6	3.3	4.9	1.6	3.3	6.6
学校(n=55)	49.1	20.0	16.4	5.5	7.3	5.5	7.3	1.8	1.8	0.0	1.8	1.8
通所施設（生活介護、デイケアなど）(n=89)	58.4	33.7	16.9	9.0	12.4	3.4	5.6	1.1	2.2	3.4	3.4	2.2
入所施設(n=32)	37.5	25.0	18.8	12.5	9.4	12.5	6.3	9.4	3.1	6.3	6.3	0.0
その他(n=12)	100.0	33.3	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0

	スカ イス ポ ー ツ	ア ウ ト ド ア ス ポ ー ツ	サイ クリ ング 、 モ ー ター ス ポ ー ツ	い ず れ か の 障 害 者 ス ポ ー ツ	ブ ライ ンド サ ッ カ ー	車 い す テ ニ ス	テ ニ ス	サ ウ ンド テ ー ブル	シ ッ ティ ン グ バ レー ボ ー ル	ボ ー ル 車 い す バ ス ケ ッ ト	車 い す ラ グ ビー	ボ ッ チャ	運 動 あ そ び	そ の 他
自分の家(n=1,027)	0.5	1.6	2.7	3.3	0.2	0.8	0.1	0.4	0.7	0.4	0.8	1.0	2.8	
職場（一般企業など） (n=455)	0.9	4.4	2.4	4.8	0.9	0.7	0.9	0.9	1.1	0.2	0.2	0.9	3.7	
職場（福祉的就労の施設） (n=61)	1.6	3.3	11.5	21.3	1.6	4.9	1.6	1.6	1.6	1.6	8.2	4.9	0.0	
学校(n=55)	1.8	3.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	1.8	
通所施設（生活介護、 デイケアなど）(n=89)	1.1	3.4	1.1	16.9	1.1	1.1	2.2	1.1	3.4	1.1	6.7	6.7	2.2	
入所施設(n=32)	3.1	6.3	0.0	15.6	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	3.1	6.3	9.4	6.3	
その他(n=12)	0.0	0.0	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	8.3	

過去1年間のスポーツ・運動の実施日数別にみると、「ウォーキング、散歩」はいずれの区分においても割合が高く、「週3日以上」では8割を超えた。「体操」は「週1日程度」以上の区分で3割を超えた。

【図表 77】

【図表 77】 過去1年間に行ったスポーツ・運動(スポーツ・運動実施頻度別)[複数回答]

〈スポーツ・運動実施者〉

(単位: %)

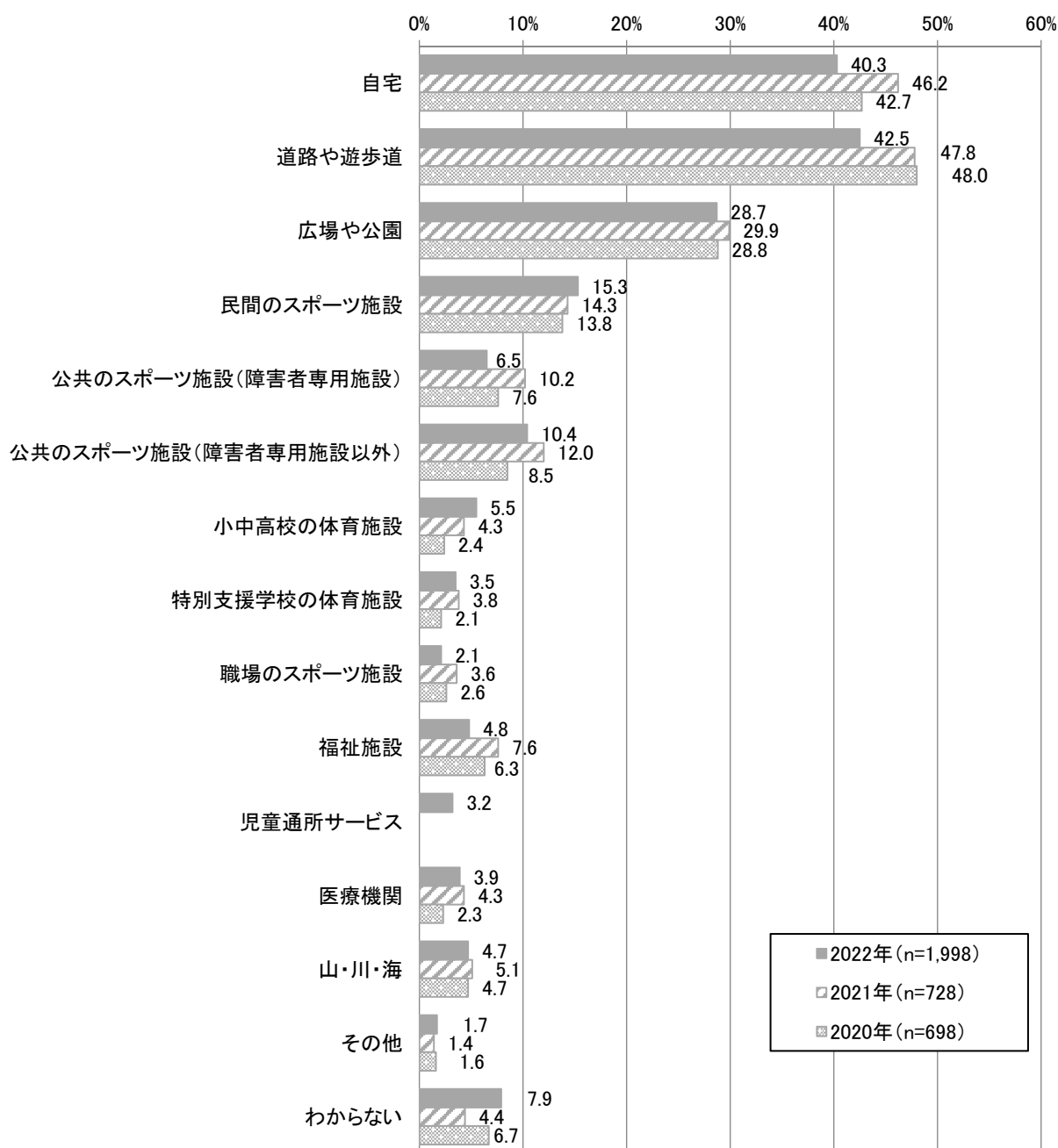
	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ
週3日以上(年151日以上) (n=480)	83.3	32.3	18.5	9.8	9.6	6.5	4.6	2.1	3.3	2.7	2.7	2.1
週2日程度(年101日～150日) (n=345)	77.1	30.1	21.2	11.0	14.2	9.3	3.5	2.3	2.0	0.9	2.3	2.6
週1日程度(年51日～100日) (n=437)	72.1	32.7	15.6	6.2	14.0	7.1	3.7	2.1	1.4	1.8	2.1	2.3
月に1～3日程度(年12日～50日) (n=261)	60.2	24.9	13.4	8.4	12.3	5.0	3.1	0.8	1.1	1.1	3.4	1.5
3か月に1, 2日程度(年4日～11日) (n=69)	62.3	18.8	11.6	5.8	11.6	5.8	4.3	2.9	1.4	2.9	0.0	2.9
年に1～3日程度 (n=70)	68.6	8.6	8.6	7.1	4.3	1.4	2.9	0.0	1.4	1.4	1.4	0.0
わからない (n=336)	74.7	14.3	5.4	3.6	4.2	3.6	1.8	0.3	0.3	0.6	0.9	0.3

	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	モータースポーツ	サイクリング	いずれかの障害者	ブラインドサッカー	車いすテニス	サウンドテーブル	バレーボール	シッティング	車いすバスケット	車いすラグビー	ボッチャ	運動あそび	その他
週3日以上(年151日以上) (n=480)	1.7	3.8	5.0	11.0	1.5	1.7	1.3	1.3	1.9	1.7	1.9	4.0	4.2		
週2日程度(年101日～150日) (n=345)	1.4	4.6	4.1	6.7	0.3	1.2	0.9	0.9	1.2	0.3	2.0	2.6	2.3		
週1日程度(年51日～100日) (n=437)	0.2	1.6	1.6	5.3	0.5	1.4	0.2	0.5	0.9	0.2	1.6	3.7	1.6		
月に1～3日程度(年12日～50日) (n=261)	0.4	3.1	3.1	2.7	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	1.9	1.9	3.4		
3か月に1, 2日程度(年4日～11日) (n=69)	1.4	2.9	4.3	7.2	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	1.4	2.9	2.9	1.4		
年に1～3日程度 (n=70)	0.0	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	4.3		
わからない (n=336)	0.0	0.6	1.2	3.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.3	0.3	2.1	3.6	2.1		

(4) スポーツ・運動を実施する場所

スポーツや運動を実施する場所は、「道路や散歩道」が42.5%と最も高く、次いで「自宅」(40.3%)、「広場や公園」(28.7%)、「民間のスポーツ施設」(15.3%)、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)」(10.4%)の順であった。これら上位実施場所の順位は昨年度と同様であった。【図表 78】

【図表 78】スポーツ・運動を実施する場所〔複数回答〕



注1：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は次ページを参照

注2：「児童通所サービス」は、2022年度調査から選択肢を追加

年齢別にみると、7～17歳では「広場や公園」の割合が40.1%と最も高かった。「自宅」は20歳代で30.0%と最も低く、年代が上がるほど割合が増え、70歳代以上では約5割を占めた。【図表79】

【図表79】スポーツ・運動を実施する場所（年齢別）[複数回答]

(単位: %)

	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	小中学校の体育施設	特別支援学校の体育施設	職場のスポーツ施設	福祉施設	児童通所サービス	医療機関	山・川・海	その他	わからない
7歳～17歳(n=267)	34.5	25.8	40.1	24.0	7.1	10.9	21.3	12.7	3.0	2.6	10.9	1.5	6.0	0.0	6.7
18歳～19歳(n=28)	35.7	35.7	14.3	14.3	7.1	17.9	14.3	3.6	7.1	3.6	0.0	0.0	10.7	3.6	14.3
20歳代(n=213)	30.0	30.5	20.7	16.9	9.4	15.5	5.2	3.8	3.3	8.0	2.8	2.8	6.6	0.9	15.0
30歳代(n=267)	34.8	38.2	28.8	18.7	10.5	13.9	3.7	3.0	3.4	4.9	3.0	2.6	5.2	0.7	10.1
40歳代(n=282)	39.0	44.7	25.2	17.4	6.7	11.0	2.8	2.8	2.1	2.1	2.1	2.5	3.9	1.1	9.2
50歳代(n=312)	44.2	48.4	25.6	14.1	2.9	5.4	2.2	1.0	0.6	2.2	0.3	1.6	2.6	1.9	9.0
60歳代(n=300)	47.3	54.3	31.0	9.7	5.7	9.3	2.0	1.0	1.7	4.7	1.0	8.3	4.7	2.3	2.7
70歳代以上(n=329)	47.7	49.8	29.5	9.1	4.9	8.5	1.8	1.2	0.9	9.4	3.0	7.0	4.0	3.6	4.3
18歳以上(n=1,731)	41.2	45.1	26.9	14.0	6.4	10.3	3.0	2.0	2.0	5.1	2.0	4.2	4.4	1.9	8.0

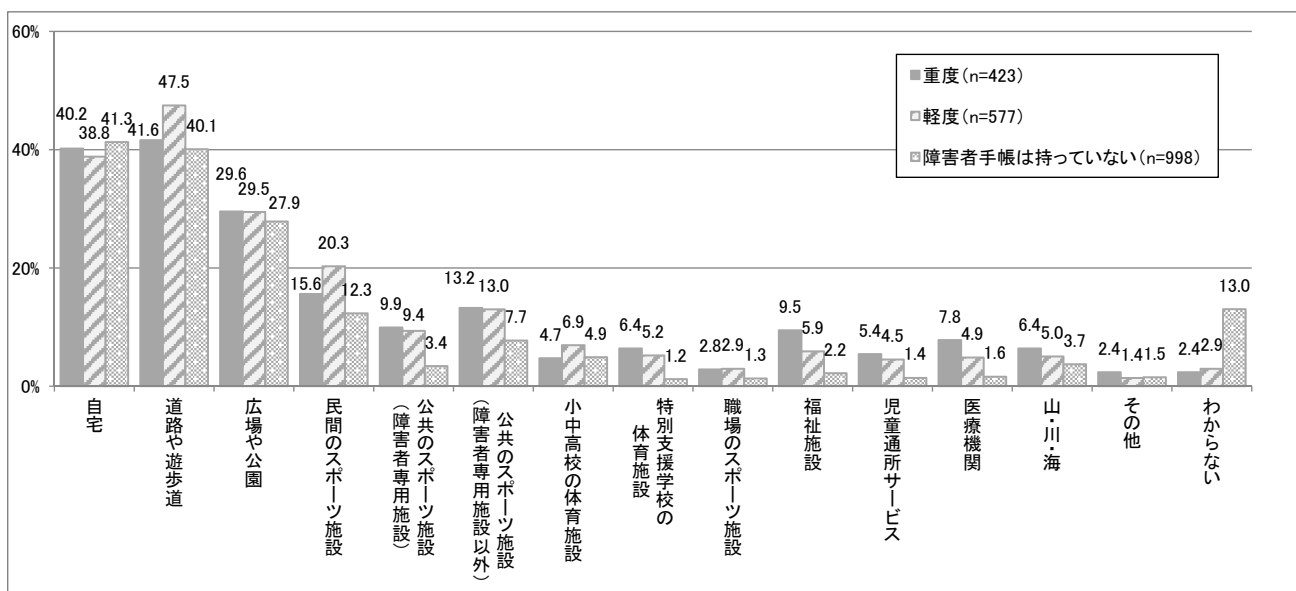
障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」においては、他の障害種別と比較して「民間のスポーツ施設」（24.1%）や「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」（17.0%）などの割合が高く、実施場所が多様であった。また、「知的障害」では「自宅」の割合が29.6%と低く、「特別支援学校の体育施設」（14.2%）や「児童通所サービス」（11.9%）が他の障害種別と比較して高かった。【図表 80】

【図表 80】スポーツ・運動を実施する場所(障害種別)[複数回答]

	自宅	道路 や遊歩道	広場 や公園	民間 のスポーツ 施設	公共のスポーツ 施設 （障害者専用施設）	公共のスポーツ 施設 （障害者専用施設以外）	小中 高校の 体育施設	特別 支援学 校の体 育施設	職 場の スポー ツ施設	福 祉施 設	児 童通 所サー ビス	医 療機 関	山・ 川・ 海	そ の 他	わ か ら な い
視覚障害(n=265)	46.4	34.7	30.6	18.1	7.9	11.3	6.4	5.7	4.2	5.7	4.5	6.0	6.0	0.4	13.2
聴覚・平衡機能障害 (n=179)	37.4	48.6	34.6	19.0	10.1	16.2	7.3	5.0	5.6	9.5	4.5	7.3	10.1	2.2	5.6
音声・言語・そしゃく機能障害 (n=112)	31.3	30.4	32.1	24.1	15.2	17.0	14.3	8.9	6.3	14.3	8.9	6.3	5.4	0.9	8.0
肢体不自由(n=568)	47.7	44.0	24.3	14.4	9.2	9.5	5.8	3.7	2.5	9.7	3.5	7.4	3.3	2.6	4.4
内部障害(n=375)	40.5	53.6	32.0	16.3	5.3	11.2	4.3	2.9	4.0	2.7	2.9	4.3	7.7	2.1	6.7
知的障害(n=253)	29.6	38.3	34.8	17.0	9.5	14.2	12.3	14.2	4.3	10.7	11.9	4.3	7.5	2.0	7.5
精神障害(n=383)	42.8	47.8	28.2	15.7	7.0	10.7	6.3	2.6	2.6	4.7	4.2	4.7	5.5	1.3	9.4
その他(n=81)	34.6	40.7	38.3	18.5	0.0	13.6	9.9	2.5	1.2	6.2	6.2	3.7	9.9	4.9	4.9

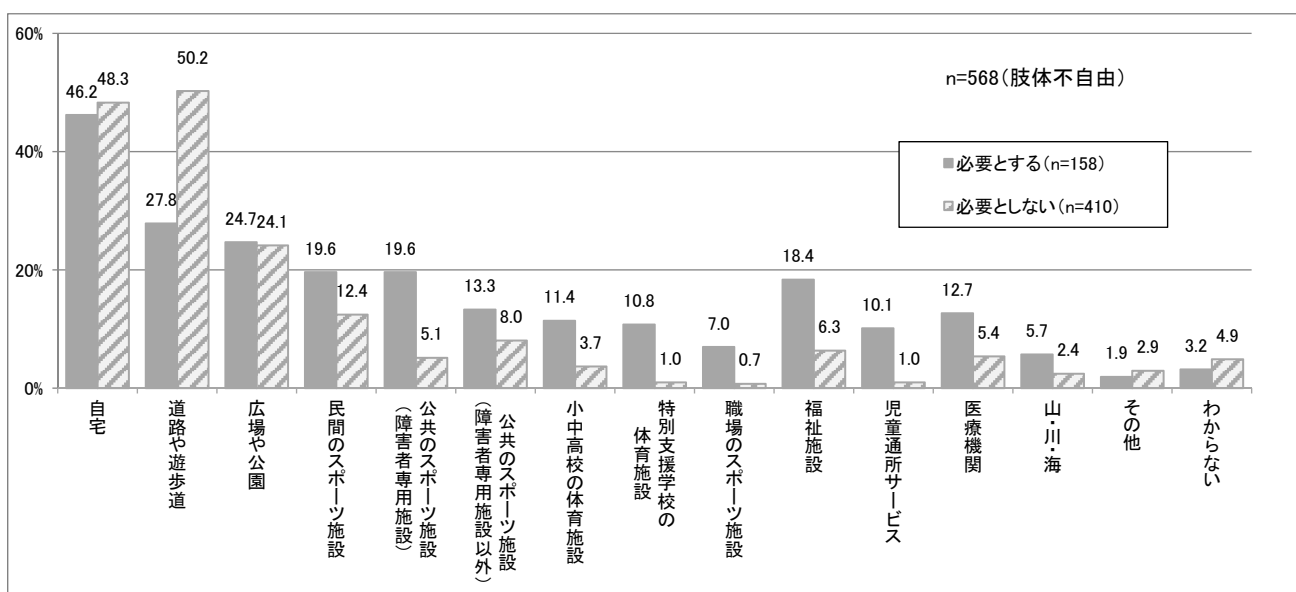
障害の程度別ではいずれの区分でも「自宅」「道路や散歩道」「広場や公園」の身近な場所での実施が多かった。「障害者手帳は持っていない」では、「公共のスポーツ施設」の割合が他の区分に比べて低く、「重度」では「福祉施設」（9.5%）や「医療機関」（7.8%）の割合が高かった。【図表 81】

【図表 81】スポーツ・運動を実施する場所(障害の程度別)[複数回答]



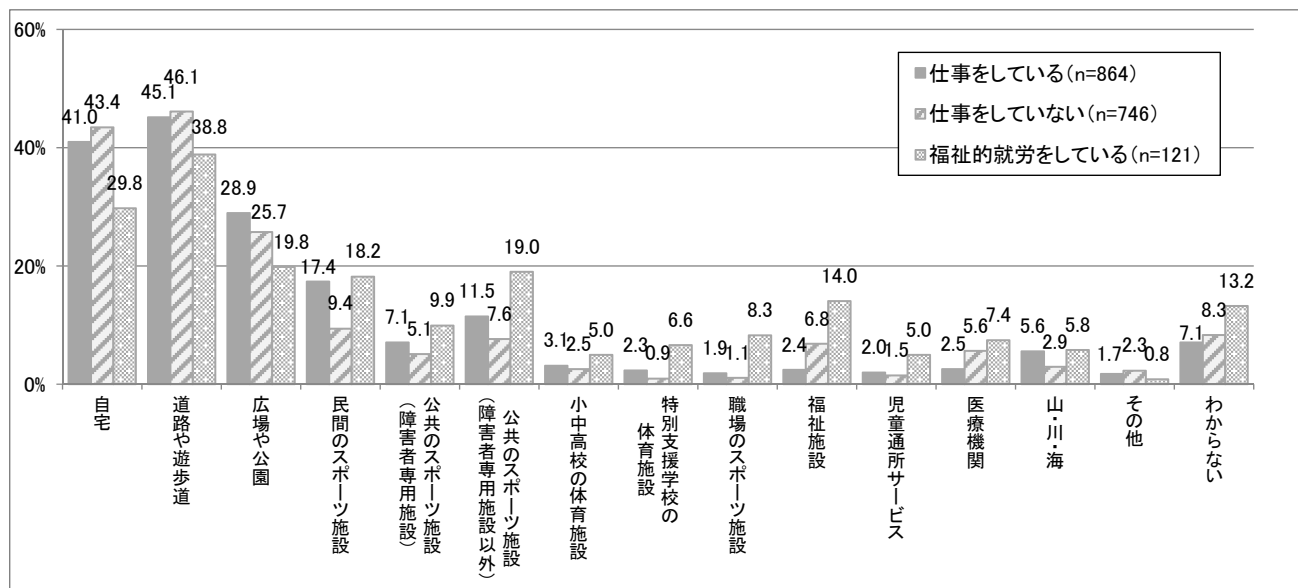
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「必要とする」ではスポーツ施設、学校の体育施設、福祉施設など各種施設での実施が「必要としない」と比較して高い割合であった。【図表 82】

【図表 82】スポーツ・運動を実施する場所(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



就業状況別にみると、「福祉的就労をしている」では、「自宅」(29.8%)や「道路や遊歩道」(38.8%)などの割合が他の区分に比べて低く、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)」(19.0%)や「福祉施設」(14.0%)の割合が高かった。【図表 83】

【図表 83】スポーツ・運動を実施する場所(就業状況別)(18歳以上)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、「自分の家」で過ごす人は「自宅」(48.6%)、「道路や遊歩道」(48.2%)での実施が高く、「職場(一般企業など)」と「職場(福祉的就労の施設)」で過ごす人では「道路や遊歩道」での実施がそれぞれ4割を超え高かった。【図表 84】

【図表 84】スポーツ・運動を実施する場所(平日・日中の居場所別)(18歳以上)[複数回答]

(単位: %)

	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	小中学校の体育施設	特別支援学校の体育施設	職場のスポーツ施設	福祉施設	児童通所サービス	医療機関	山・川・海	その他	わからない
自分の家(n=1,027)	48.6	48.2	27.3	9.8	4.5	7.4	2.2	1.3	0.9	4.5	1.8	3.5	3.1	1.8	7.6
職場(一般企業など) (n=455)	34.7	45.7	31.4	21.5	8.8	12.1	2.6	2.9	2.2	1.5	1.8	2.6	6.8	2.0	6.4
職場(福祉的就労の施設)(n=61)	29.5	45.9	24.6	26.2	13.1	23.0	8.2	6.6	9.8	19.7	4.9	13.1	9.8	0.0	8.2
学校(n=55)	21.8	25.5	9.1	18.2	7.3	18.2	10.9	3.6	5.5	0.0	0.0	1.8	3.6	1.8	10.9
通所施設(生活介護、デイケアなど) (n=89)	22.5	27.0	16.9	12.4	9.0	19.1	5.6	1.1	4.5	22.5	4.5	11.2	2.2	4.5	13.5
入所施設(n=32)	6.3	12.5	15.6	15.6	12.5	18.8	3.1	6.3	6.3	12.5	3.1	6.3	6.3	3.1	25.0
その他(n=12)	41.7	66.7	25.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	8.3

放課後の居場所別にみると、いずれの区分においても、「自宅」「道路や遊歩道」「広場や公園」の割合が比較的高かった。「習いごと（スポーツ系）」や「習いごと（芸術系）」では「民間のスポーツ施設」がそれぞれ4割を超えた。【図表 85】

【図表 85】スポーツ・運動を実施する場所（放課後の居場所別）[複数回答]

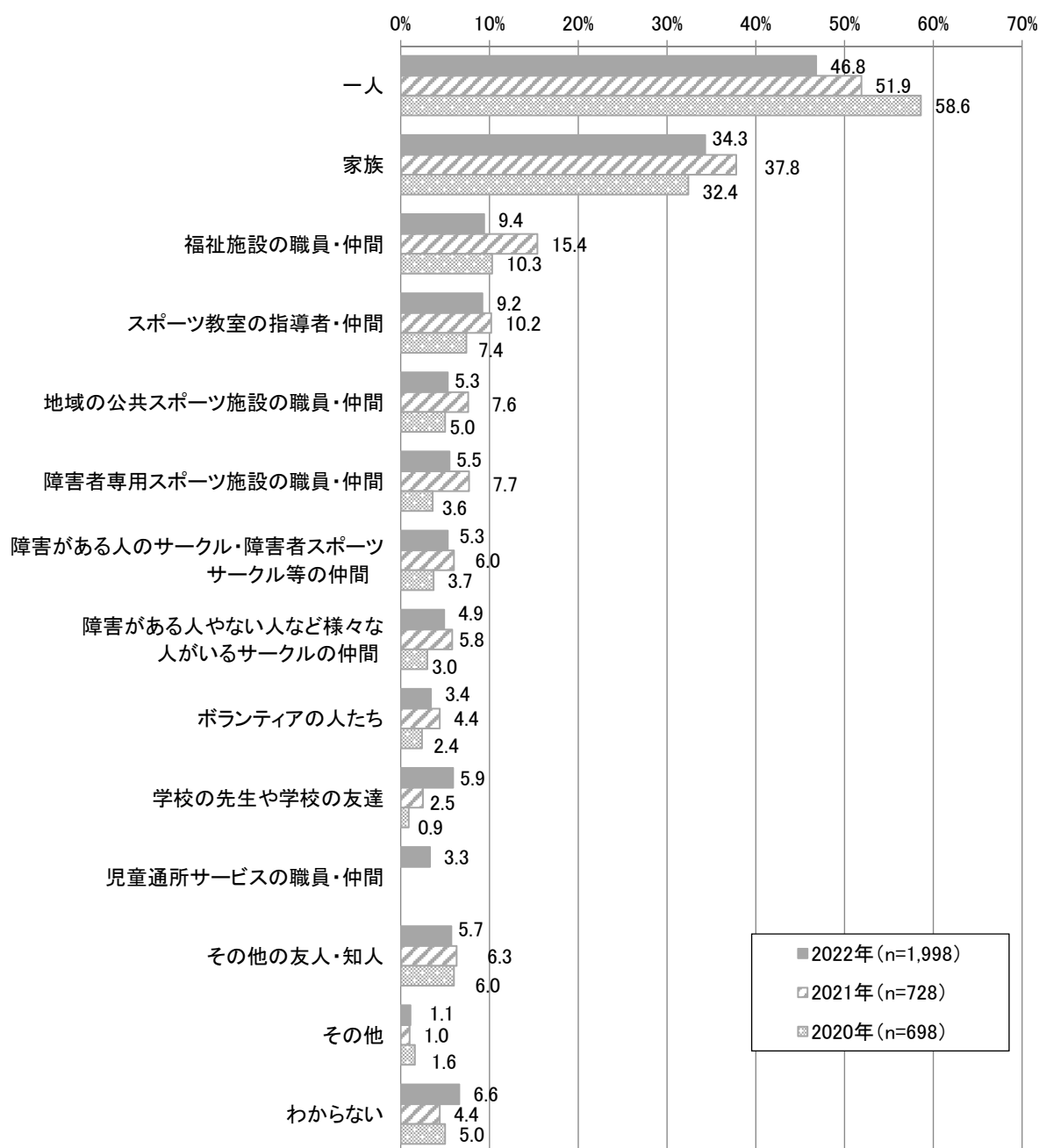
(単位: %)

	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	小中学校の体育施設	特別支援学校の体育施設	職場のスポーツ施設	福祉施設	児童通所サービス	医療機関	山・川・海	その他	わからない
自分の家(n=264)	31.1	18.9	28.8	18.9	4.2	6.8	14.4	5.7	1.9	3.0	6.4	0.8	4.2	0.0	4.9
習いごと(塾や英会話等の学習系) (n=51)	35.3	19.6	41.2	35.3	11.8	25.5	23.5	9.8	5.9	5.9	5.9	5.9	9.8	0.0	5.9
習いごと(スイミングやサッカー等のスポーツ系) (n=37)	29.7	24.3	40.5	48.6	24.3	24.3	35.1	10.8	10.8	13.5	10.8	5.4	13.5	0.0	5.4
習いごと(音楽や習字等の芸術系) (n=19)	26.3	31.6	31.6	42.1	31.6	21.1	47.4	31.6	10.5	26.3	21.1	10.5	21.1	0.0	5.3
児童通所サービス(放課後等デイサービス等) (n=73)	21.9	30.1	41.1	13.7	11.0	9.6	20.5	37.0	5.5	5.5	34.2	4.1	9.6	0.0	1.4
学童保育(n=27)	25.9	33.3	40.7	33.3	18.5	14.8	29.6	14.8	14.8	14.8	18.5	11.1	14.8	0.0	0.0
広場や公園(n=18)	33.3	27.8	44.4	33.3	38.9	27.8	44.4	16.7	27.8	16.7	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1
学校(校庭や体育館)(n=15)	33.3	26.7	46.7	26.7	33.3	40.0	53.3	13.3	20.0	26.7	20.0	13.3	20.0	0.0	0.0
児童館や図書館などの公共施設(n=13)	53.8	61.5	53.8	46.2	30.8	38.5	38.5	23.1	23.1	30.8	15.4	15.4	23.1	0.0	0.0
その他(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(5) スポーツ・運動を一緒に実施する人

スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「一人」の割合が 46.8%と最も高く、次いで「家族」(34.3%)、「福祉施設の職員・仲間」(9.4%)、「スポーツ教室の指導者・仲間」(9.2%)の順であった。これら上位項目の順は昨年度と同様であった。【図表 86】

【図表 86】スポーツ・運動を一緒に実施する人〔複数回答〕



注 1 : 2021 年までは 18 歳以上、2022 年は 7 歳以上を調査対象としている。2022 年分の 18 歳以上の数値は次ページを参照

注 2 : 「児童通所サービスの職員・仲間」は 2022 年度調査から選択肢に追加

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「一人」の割合が高くなり、「50 歳代」で 67.3%と最も高い。「7～17 歳」では「家族」（55.4%）と「学校の先生や学校の友達」（29.2%）が高かった。【図表 87】

【図 87】スポーツ・運動と一緒に実施する人(年齢別)[複数回答]

(単位: %)

	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害者スポーツサークル等の仲間	障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	児童通所サービスの職員・仲間	その他の友人・知人	その他	わからない
7歳～17歳(n=267)	18.0	55.4	9.0	19.1	6.0	6.7	7.1	5.2	5.6	29.2	11.6	6.4	0.0	5.6
18歳～19歳(n=28)	28.6	25.0	7.1	14.3	7.1	3.6	7.1	14.3	0.0	14.3	0.0	10.7	3.6	10.7
20歳代(n=213)	37.1	27.2	11.7	11.3	6.1	7.0	8.9	6.6	6.6	5.2	2.8	5.6	0.0	11.3
30歳代(n=267)	41.6	30.3	10.5	8.2	6.7	10.5	7.5	7.9	3.4	4.1	1.9	6.0	1.1	7.5
40歳代(n=282)	52.1	24.8	7.1	9.9	4.6	5.0	5.0	4.3	1.8	1.8	1.8	3.5	1.1	8.9
50歳代(n=312)	67.3	29.8	6.7	5.1	3.5	2.6	1.6	2.6	1.6	1.3	1.0	4.2	1.0	5.8
60歳代(n=300)	57.7	35.3	7.3	5.3	4.7	4.3	4.3	3.3	3.0	0.3	1.7	6.3	1.7	3.0
70歳代以上(n=329)	48.6	37.1	14.0	6.7	5.5	4.0	4.0	4.6	3.0	1.2	3.3	7.3	2.1	5.5
18歳以上(n=1,731)	51.3	31.0	9.5	7.6	5.1	5.3	5.0	4.9	3.0	2.3	2.0	5.6	1.3	6.8

障害種別にみると、「視覚障害」と「音声・言語・そしゃく機能障害」、「知的障害」では「家族」が、その他の障害種では「一人」の割合が最も高かった。「知的障害」では「一人」（24.9％）の割合が他の障害に比べて低く、「学校の先生や学校の友達」（16.6％）や「児童通所サービスの職員や仲間」（12.3％）の割合が高かった。【図表 88】

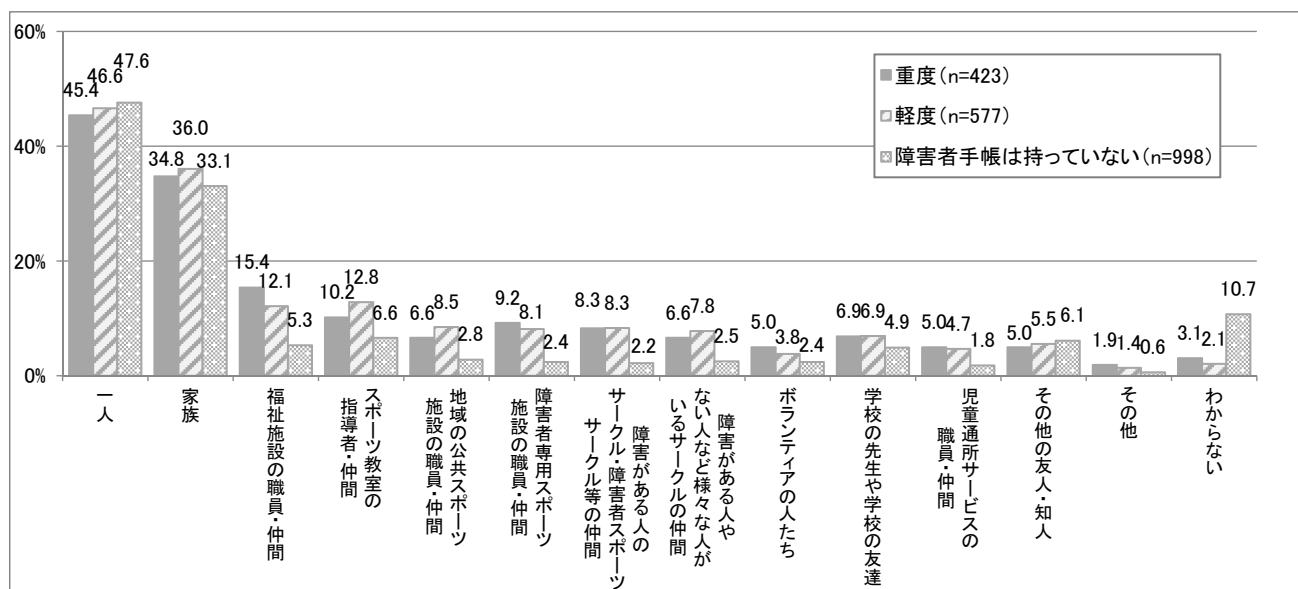
【図表 88】スポーツ・運動を一緒に実施する人(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害がある人のサークル等の仲間・障害者スポーツサークルの仲間	障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	児童通所サービスの職員・仲間	その他の友人・知人	その他	わからない
視覚障害(n=265)	37.4	40.0	11.3	14.7	7.5	8.7	8.3	7.2	6.4	7.2	4.5	5.3	0.4	12.1
聴覚・平衡機能障害(n=179)	48.6	38.0	10.6	18.4	11.7	9.5	8.9	9.5	10.6	5.6	6.1	8.9	0.0	3.9
音声・言語・そしゃく機能障害(n=112)	31.3	37.5	14.3	13.4	12.5	16.1	13.4	11.6	11.6	9.8	8.0	10.7	0.9	5.4
肢体不自由(n=568)	51.1	30.1	14.8	8.5	6.3	8.6	7.0	7.2	4.2	4.6	3.7	6.3	2.1	3.9
内部障害(n=375)	57.3	37.1	6.7	8.5	4.5	3.5	3.5	4.8	4.3	4.0	2.7	9.1	0.8	4.8
知的障害(n=253)	24.9	49.0	16.2	13.0	5.5	8.7	9.9	5.1	7.1	16.6	12.3	3.2	1.2	8.3
精神障害(n=383)	56.7	28.7	7.6	8.1	5.5	4.7	5.2	4.4	4.4	6.3	4.2	5.0	1.3	7.8
その他(n=81)	45.7	39.5	9.9	7.4	2.5	2.5	0.0	1.2	3.7	18.5	9.9	8.6	2.5	4.9

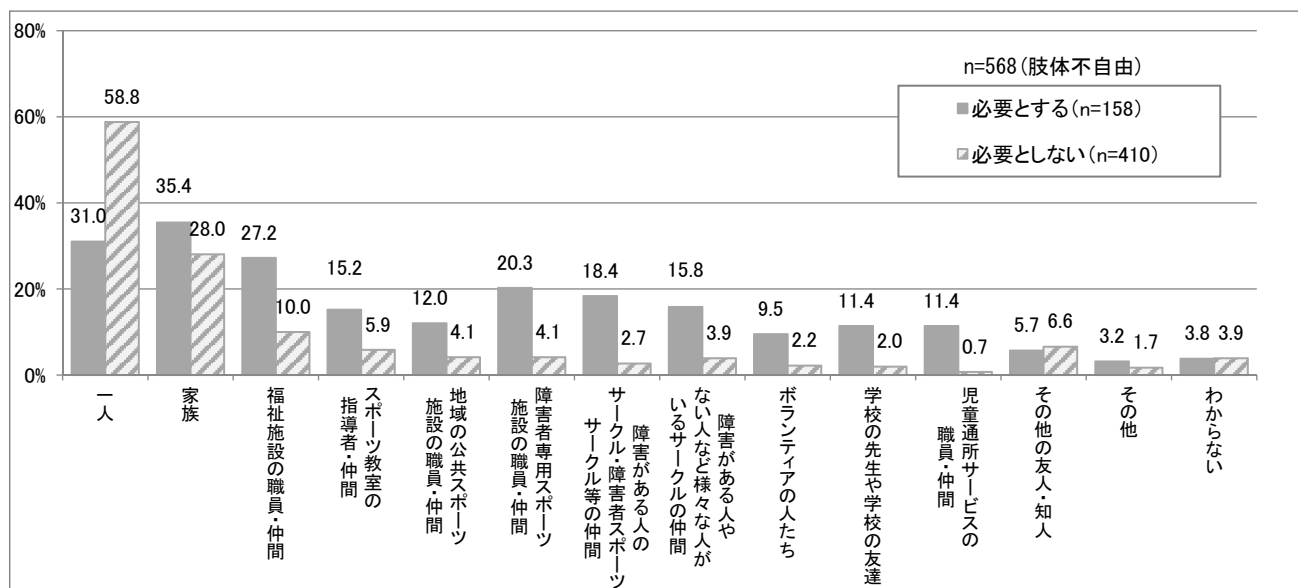
障害の程度別にみると、「重度」と「軽度」では、「福祉施設の職員・仲間」や「スポーツ教室の指導者・仲間」をはじめ、一緒に実施する人は多様であったが、「障害者手帳は持っていない」ではいずれも低い水準であった。【図表 89】

【図表 89】スポーツ・運動と一緒に実施する人(障害の程度別)

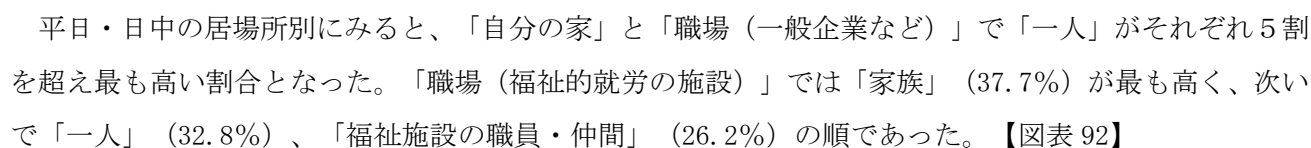


日常生活で車いす必要／不要別にみると、「必要とする」では「家族」(35.4%)、「必要としない」では「一人」(58.8%)が最も高かった。「必要とする」では、「福祉施設の職員・仲間」や「障害者専用スポーツ施設の職員・仲間」をはじめ、様々な人と一緒に実施する傾向がみられた。【図表 90】

【図表 90】スポーツ・運動と一緒に実施する人(日常生活で車いす必要／不要別)[複数回答]



【図表 91】スポーツ・運動を一緒に実施する人(就業状況別)(18 歳以上)[複数回答]



【図表 92】スポーツ・運動を一緒に実施する人(平日・日中の居場所別)(18歳以上)[複数回答]

68

学校種別では、すべての区分で「家族」「学校の先生や学校の友達」の順で高い割合となった。学級種別でみると、特別支援学級及び特別支援学校で「児童通所サービスの職員・仲間」の割合が比較的高かった。【図表 93】

【図表 93】スポーツ・運動を一緒に実施する人(学校種別)[複数回答]

(単位: %)

	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害者スポーツサークル等の仲間	障害がある人やない人などの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	児童通所サービスの職員・仲間	その他の友人・知人	その他	わからない
＜学校種別＞														
小学校(n=232)	16.8	44.0	6.9	18.5	4.7	6.9	7.3	5.2	5.2	19.4	9.5	6.5	0.0	2.6
中学校(n=76)	11.8	35.5	3.9	9.2	6.6	2.6	3.9	2.6	2.6	23.7	7.9	2.6	0.0	3.9
高等学校(n=59)	10.2	32.2	10.2	8.5	3.4	3.4	5.1	3.4	5.1	20.3	8.5	5.1	0.0	0.0
＜学級種別＞														
小学校、中学校、高等学校の普通学校(通常学級のみ)に在籍(n=170)	17.6	40.6	3.5	12.9	4.1	1.8	2.4	2.9	1.8	13.5	0.6	7.1	0.0	4.1
小学校、中学校、高等学校の普通学校(通級による指導あり)(n=50)	16.0	44.0	12.0	22.0	4.0	6.0	10.0	10.0	10.0	18.0	2.0	8.0	0.0	0.0
小学校、中学校の普通学校(特別支援学級)(n=68)	10.3	38.2	11.8	19.1	7.4	8.8	7.4	5.9	7.4	23.5	19.1	2.9	0.0	1.5
小学校、中学校、高等学校の特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)(n=79)	11.4	39.2	6.3	11.4	5.1	10.1	11.4	2.5	5.1	34.2	22.8	2.5	0.0	1.3

学校以外で過ごす場所別にみると、「広場や公園」では「学校の先生や学校の友達」（55.6%）が最も高い割合となったが、それ以外の区分はいずれも「家族」が最も高い割合となった。【図表 94】

【図表 94】スポーツ・運動と一緒に実施する人(放課後の居場所別)[複数回答]

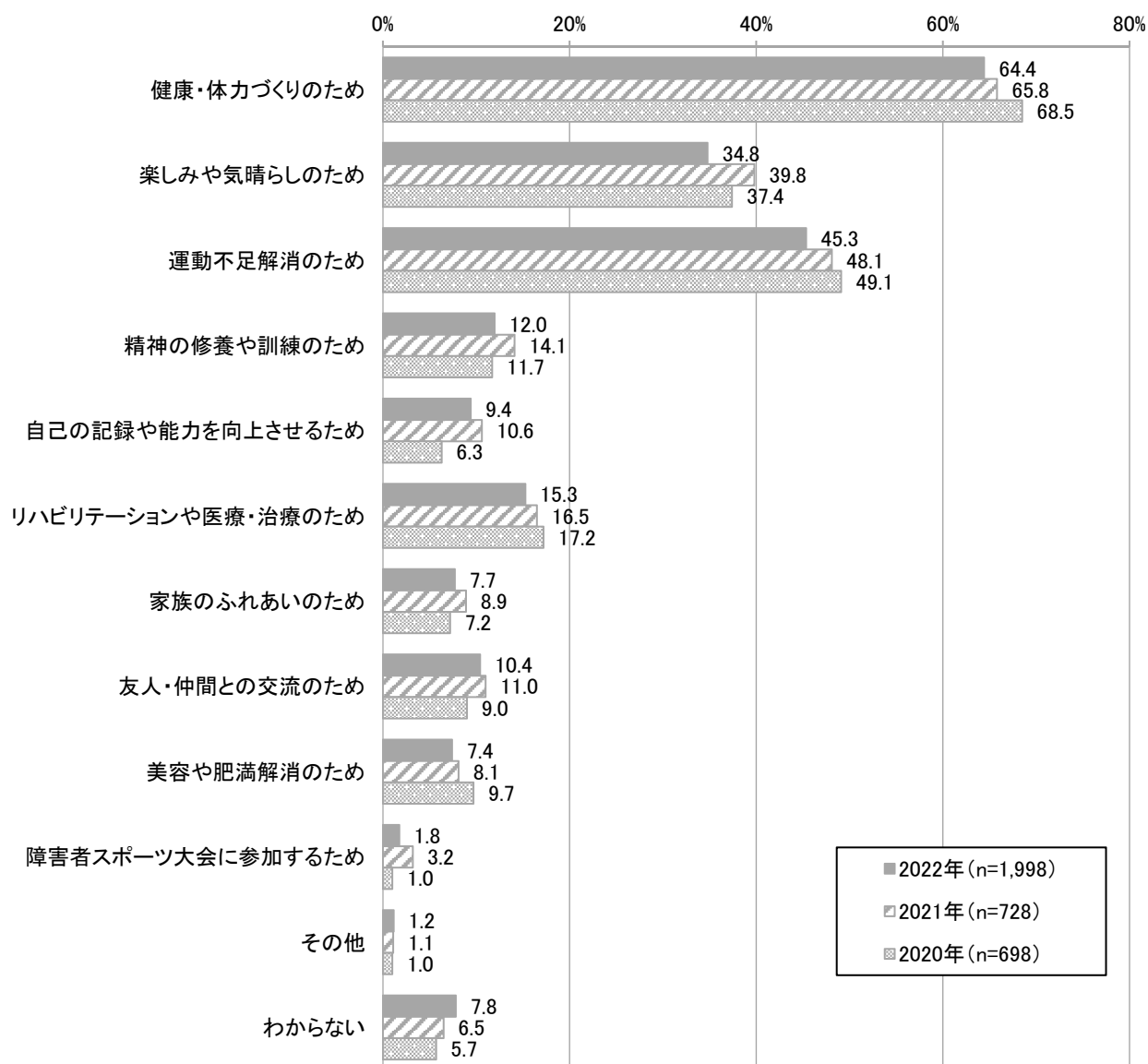
(単位: %)

	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害者がある人とのサークル等・の仲間	障害者がある人ではない人などの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	児童通所サービスの職員・仲間	その他の友人・知人	その他	わからない
自分の家(n=264)	17.4	44.7	5.3	14.0	3.4	4.2	3.0	4.2	3.8	17.4	5.3	6.4	0.0	3.0
習いごと(塾や英会話等の学習系)(n=51)	19.6	49.0	11.8	33.3	7.8	9.8	13.7	17.6	11.8	27.5	7.8	15.7	0.0	0.0
習いごと(スイミングやサッカー等のスポーツ系)(n=37)	18.9	40.5	10.8	56.8	13.5	21.6	18.9	16.2	16.2	35.1	13.5	13.5	0.0	0.0
習いごと(音楽や習字等の芸術系)(n=19)	26.3	47.4	10.5	52.6	21.1	21.1	31.6	15.8	31.6	42.1	21.1	21.1	0.0	0.0
児童通所サービス(放課後等デイサービス等)(n=73)	13.7	50.7	11.0	12.3	6.8	12.3	11.0	6.8	9.6	45.2	41.1	5.5	0.0	1.4
学童保育(n=27)	22.2	37.0	22.2	33.3	14.8	18.5	33.3	14.8	18.5	18.5	18.5	11.1	0.0	0.0
広場や公園(n=18)	44.4	50.0	11.1	22.2	22.2	16.7	33.3	27.8	22.2	55.6	16.7	27.8	0.0	0.0
学校(校庭や体育館)(n=15)	33.3	46.7	26.7	26.7	26.7	20.0	26.7	26.7	33.3	46.7	20.0	13.3	0.0	0.0
児童館や図書館などの公共施設(n=13)	38.5	53.8	23.1	38.5	30.8	23.1	38.5	30.8	30.8	46.2	30.8	46.2	0.0	0.0
その他(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(6) スポーツ・運動を実施する理由

スポーツや運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」(64.4%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」(45.3%)、「楽しみや気晴らしのため」(34.8%)、「リハビリテーションや医療・治療のため」(15.3%)、「精神の修養や訓練のため」(12.0%)の順であった。これら上位項目の順位は昨年度と同様であった。【図表 95】

【図表 95】スポーツ・運動を実施する理由〔複数回答〕



注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は次ページを参照

年齢別にみると、すべての年代において「健康・体力づくりのため」の割合が最も高かった。「楽しみや気晴らしのため」「運動不足解消のため」も全ての区分で3～4割と高い割合を占めた。また、「7～17歳」と「18～19歳」では「家族とのふれあいのため」や「友人・仲間との交流のため」も高く、30歳代以降では年齢とともに「リハビリテーションや医療・治療のため」の割合が増加した。【図表 96】

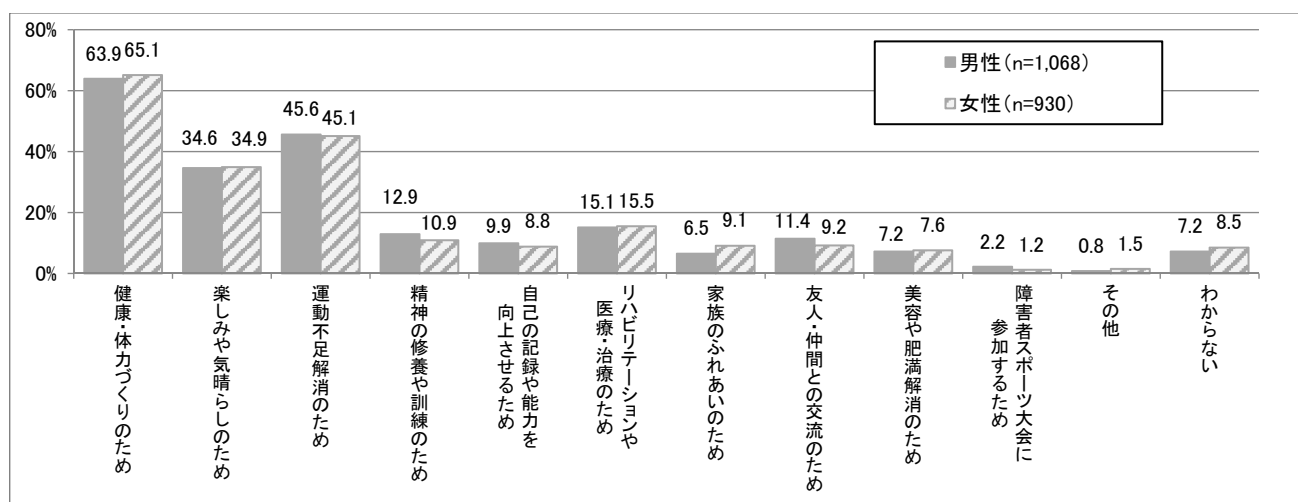
【図表 96】スポーツ・運動を実施する理由(年齢別)[複数回答]

(単位: %)

	健康・体力づくりのため	楽しみや気晴らしのため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	医療・治療のため	リハビリテーションや	家族のふれあいのため	友人・仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	障害者スポーツ大会に参加するため	その他	わからない
7歳～17歳 (n=267)	59.6	46.8	42.3	14.6	13.1	9.7	13.1	19.5	1.9	2.6	0.7	7.5	
18歳～19歳 (n=28)	53.6	42.9	39.3	3.6	10.7	7.1	14.3	21.4	0.0	3.6	0.0	17.9	
20歳代 (n=213)	49.3	31.9	36.6	14.6	9.4	11.7	8.0	14.6	11.3	3.3	0.5	12.2	
30歳代 (n=267)	53.9	31.8	40.8	13.5	8.6	9.7	7.5	10.5	10.5	3.4	1.9	10.5	
40歳代 (n=282)	61.0	31.6	38.7	14.9	10.3	12.8	8.2	8.2	11.3	1.1	2.1	8.9	
50歳代 (n=312)	67.6	30.4	47.4	9.0	6.4	13.1	5.1	4.5	8.3	0.3	2.2	7.1	
60歳代 (n=300)	77.0	34.0	52.0	11.0	6.7	19.3	7.0	8.0	7.7	1.0	0.3	5.0	
70歳代以上 (n=329)	76.0	36.2	55.3	8.8	11.6	27.7	5.5	9.1	3.0	1.2	0.3	4.6	
18歳以上 (n=1,731)	65.2	32.9	45.8	11.6	8.8	16.1	6.9	9.0	8.3	1.6	1.2	7.9	

性別でみると、男女とも「健康・体力づくりのため」(男性 63.9%、女性 65.1%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」、「リハビリテーションや医療・治療のため」の順となり、男女で大きな違いはみられなかった。【図表 97】

【図表 97】スポーツ・運動を実施する理由(性別)[複数回答]



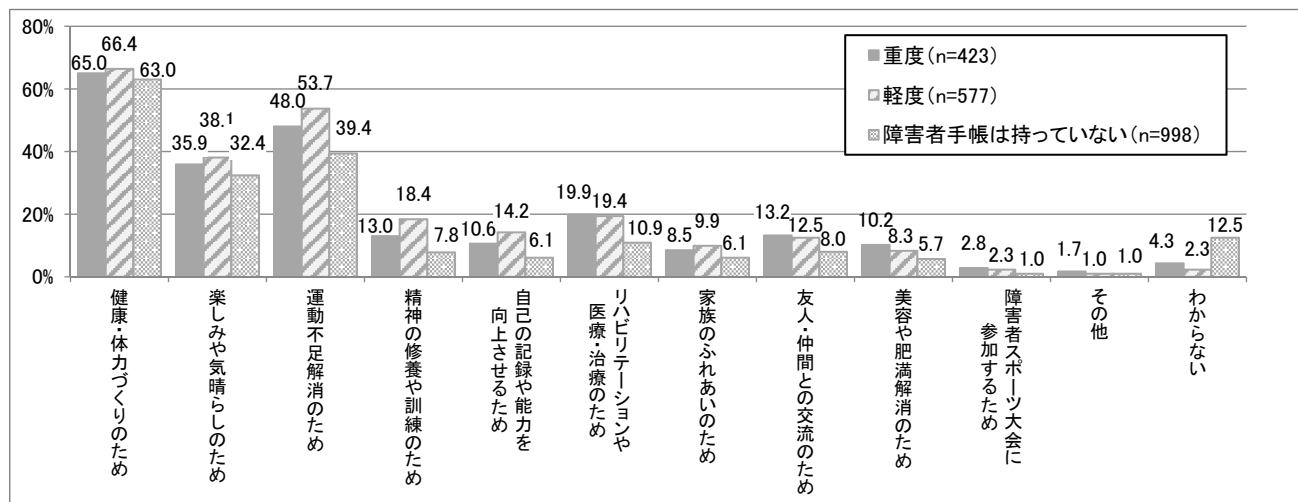
障害種別にみると、全ての種別で「健康・体力づくりのため」の割合が最も高く、次いで「運動不足解消のため」の順であった。これに続く3位は「肢体不自由」を除いて「楽しみや気晴らしのため」であった。「肢体不自由」の3位は「リハビリテーションや医療・治療のため」であり、32.4%と他の区分と比較して割合が高かった。【図表 98】

【図表 98】スポーツ・運動を実施する理由(障害種別)[複数回答]

(単位: %)													
	健康・体力づくりのため	楽しみや気晴らしのため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	医療・治療のため	リハビリテーションや医療・治療のため	家族のふれあいのため	友人・仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	障害者スポーツ大会に参加するため	その他	わからない
視覚障害 (n=265)	58.5	34.0	37.4	14.7	12.5	12.1	11.7	11.7	7.2	4.2	0.4	12.8	
聴覚・平衡機能障害 (n=179)	69.8	38.0	43.6	17.3	15.6	20.7	10.6	16.8	9.5	5.0	0.6	3.4	
音声・言語・そしゃく機能障害 (n=112)	50.9	33.0	34.8	21.4	20.5	21.4	12.5	18.8	8.9	9.8	0.9	5.4	
肢体不自由 (n=568)	64.3	30.6	49.6	12.0	13.4	32.4	7.0	11.1	7.6	2.1	1.2	4.8	
内部障害 (n=375)	74.1	37.1	50.7	9.3	7.5	10.7	8.3	10.4	9.6	2.4	0.8	6.1	
知的障害 (n=253)	59.3	47.8	51.8	14.2	9.1	11.1	15.8	16.6	9.5	5.9	1.2	8.3	
精神障害 (n=383)	63.4	35.5	44.6	17.5	8.4	11.7	7.8	8.6	11.2	3.4	1.8	11.0	
その他 (n=81)	71.6	37.0	48.1	12.3	8.6	19.8	11.1	12.3	9.9	0.0	4.9	3.7	

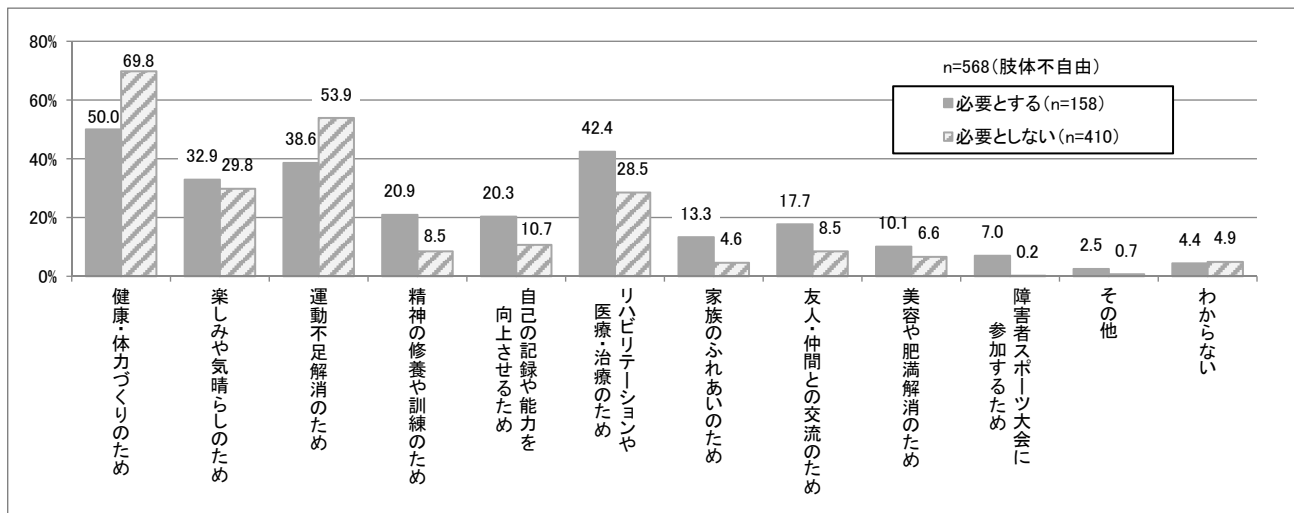
障害の程度別にみると、「重度」「軽度」では「リハビリテーションや医療・治療のため」も比較的高かった。【図表 99】

【図表 99】スポーツ・運動を実施する理由(障害の程度別)[複数回答]



日常生活で車いすの必要／不要別にみると、「必要とする」では「リハビリテーションや医療・治療のため」（42.4％）の割合が「健康・体力づくりのため」に次いで高かった。【図表 100】

【図表 100】スポーツ・運動を実施する理由（日常生活での車いすの必要／不要別）〔複数回答〕



平日・日中の居場所別にみると、いずれの区分も「健康・体力づくりのため」の割合が最も高かった。「職場（福祉的就労の施設）」では「運動不足解消のため」（59.0％）と「楽しみや気晴らしのため」（50.8％）が他の区分に比べて高い割合となった。【図表 101】

【図表 101】スポーツ・運動を実施する理由（平日・日中の居場所別）（18 歳以上）〔複数回答〕

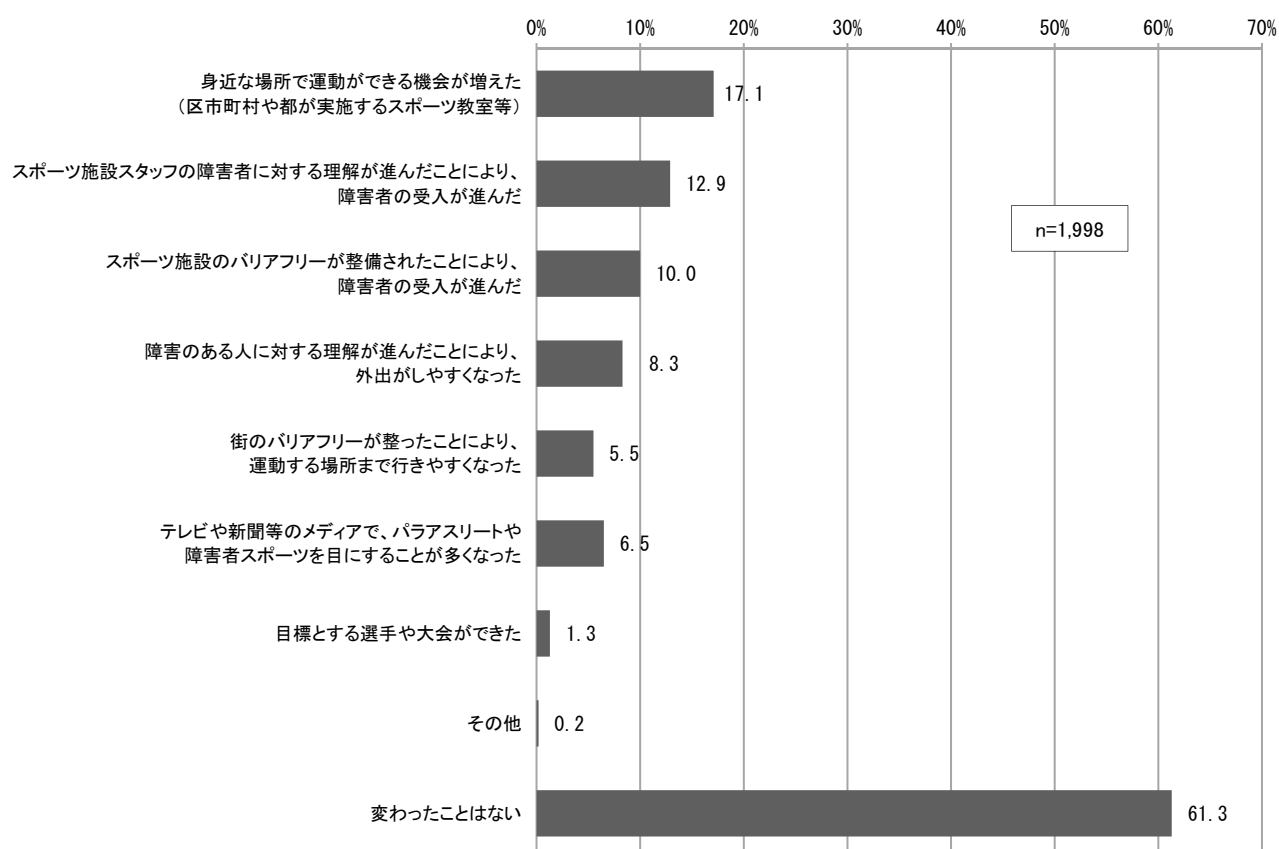
（単位：％）

	健康・体力づくりのため	楽しみや気晴らしのため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の能力や記録を向上させるため	医療・治療のため	リハビリテーションや	家族のふれあいのため	友人・仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	障害者スポーツ大会に参加するため	その他	わからない
自分の家(n=1,027)	69.8	33.8	47.9	10.4	8.1	17.6		5.9	7.1	7.4	1.3	1.4	7.3
職場（一般企業など）(n=455)	65.9	33.2	45.3	12.5	7.9	9.2		6.4	11.2	9.5	1.8	0.7	7.5
職場(福祉的就労の施設)(n=61)	63.9	50.8	59.0	21.3	16.4	19.7		16.4	21.3	18.0	4.9	1.6	8.2
学校(n=55)	30.9	23.6	27.3	12.7	16.4	9.1		9.1	10.9	3.6	1.8	1.8	12.7
通所施設(生活介護、デイケアなど)(n=89)	38.2	22.5	32.6	13.5	12.4	28.1		9.0	10.1	5.6	1.1	1.1	10.1
入所施設(n=32)	31.3	15.6	25.0	6.3	6.3	31.3		12.5	12.5	6.3	6.3	0.0	18.8
その他(n=12)	91.7	25.0	58.3	16.7	16.7	33.3		16.7	0.0	33.3	0.0	8.3	0.0

(7) 東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化

スポーツや運動の実施にあたり東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化については、「変わったことはない」（61.3%）を除くと、「身近な場所で運動ができる機会が増えた（区市町村や都が実施するスポーツ教室等）」（17.1%）、「スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ」（12.9%）、「スポーツ施設のバリアフリーが整備されたことにより、障害者の受入が進んだ」（10.0%）の順となった。【図表 102】

【図表 102】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉



年齢別にみると、スポーツ・運動を実施する場所としてスポーツ施設の割合が比較的高い30歳代までは「身近な場所で運動ができる機会が増えた」や、「スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ」「スポーツ施設のバリアフリーが整備されたことにより、障害者の受入が進んだ」という場所に関する変化を挙げる傾向があった。【図表 103】

【図表 103】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化(年齢別)[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉

(単位:%)

	身近な場所 で運動が できる機 会が増え た(公園 ・教室等 を含む)	スポーツ 施設の 理解が 進んだ ことよ り、障 害者に 対する 受入が 進んだ	スポーツ 施設の バリア フリー が整備 された ことよ り、障 害者の 受入が 進んだ	障害者 に対する 理解が 進んだ ことよ り、外 出がし やすくな った	街のバ リアフ リーが 整備さ れたこ とによ り、運 動する 場所が 増えた	テレビ や新聞 等のメ ディア で、障 害者に 対する 理解が 進んだ	目標と する選 手や大 会がで きた	その他	変わ ったこ とはな い
7歳～17歳(n=267)	23.6	19.1	10.5	9.0	2.6	9.4	2.2	0.0	50.6
18歳～19歳(n=28)	17.9	21.4	7.1	7.1	17.9	14.3	7.1	0.0	57.1
20歳代(n=213)	21.6	13.1	12.2	12.7	8.0	8.0	2.8	0.5	50.2
30歳代(n=267)	22.1	18.4	17.6	10.5	6.7	3.7	0.4	0.0	49.1
40歳代(n=282)	13.8	13.1	8.2	6.7	6.4	7.1	0.4	0.0	61.3
50歳代(n=312)	16.0	9.9	6.4	6.7	4.2	3.8	0.6	0.3	67.9
60歳代(n=300)	16.0	9.3	7.0	6.0	3.7	6.0	0.3	0.7	68.0
70歳代以上(n=329)	9.7	8.5	10.0	8.2	6.1	7.3	1.8	0.0	74.8
18歳以上(n=1,731)	16.1	12.0	9.9	8.2	5.9	6.1	1.1	0.2	62.9

障害種別では、いずれの障害も「身近な場所で運動ができる機会が増えた」と「スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ」が上位であった。「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」では「身近な場所で運動ができる機会が増えた」が約3割であった。一方で、「内部障害」や「知的障害」「精神障害」において「変わったことはない」が約7割と高かった。【図表 104】

【図表 104】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化(障害種別)[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉

(単位: %)

	身近な場所(運動場等)で運動ができる機会が増えた(区市町村や都府県等)	スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ	スポーツ施設のバリアフリーの整備されたことにより、障害者の受入が進んだ	障害のある人に対する理解が進んだことにより、外出がしやすくなった	街のバリアフリーが整ったことにより、運動する場所まで行きやすくなった	テレビや新聞等のメディアで、パラアスリートや障害者スポーツを目にする機会が多くなった	目標とする選手や大会ができた	その他	変わったことはない
視覚障害(n=265)	27.5	21.5	15.1	11.3	8.7	11.3	2.3	0.0	44.9
聴覚・平衡機能障害(n=179)	32.4	20.7	17.9	12.3	9.5	12.3	4.5	0.0	41.9
音声・言語・そしゃく機能障害(n=112)	22.3	25.9	17.9	17.9	11.6	15.2	3.6	0.0	42.9
肢体不自由(n=568)	14.8	15.0	14.1	10.7	9.2	8.6	1.8	0.4	59.3
内部障害(n=375)	14.9	10.1	5.6	7.2	5.9	5.6	2.4	0.0	72.5
知的障害(n=253)	13.0	13.4	9.1	8.7	5.9	10.3	4.0	0.8	66.8
精神障害(n=383)	18.3	9.7	8.6	9.7	4.4	4.7	1.6	0.0	66.8
その他(n=81)	11.1	6.2	6.2	6.2	4.9	4.9	2.5	0.0	75.3

障害の程度別でみると、いずれの区分でも「身近な場所で運動ができる機会が増えた」の割合は同程度であったが、「スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ」以降の各項目で、「重度」と「軽度」は「障害者手帳は持っていない」よりも変化を感じた割合が高かった。【図表 105】

【図表 105】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化(障害の程度別)[複数回答]

〈スポーツ・運動実施者〉

(単位: %)

	身近な場所(区市町村等)で運動ができる実機が	スポーツ施設のスタッフが障害者に	スポーツ施設のスタッフが障害者の	障害のある人に対する理解が	街のバリアフリーが整ったこと	パレビや新聞等のメディアで、	目標とする選手や大会ができた	その他	変わったことはない
重度 (n=423)	16.3	16.3	14.2	10.4	8.5	9.2	1.9	0.2	56.7
軽度 (n=577)	17.0	17.2	13.7	12.0	5.7	7.1	1.4	0.3	57.7
障害者手帳は持っていない (n=998)	17.5	9.0	6.1	5.3	4.0	5.0	0.9	0.1	65.2

日常生活で車いす必要／不要別にみると、「必要とする」では全ての項目で「必要としない」よりも高い割合となり、「変わったことはない」の割合は「必要としない」の 69.3%に対して、33.5%と大幅に低かった。【図表 106】

【図表 106】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化(日常生活で車いす必要／不要別)[複数回答]

〈スポーツ・運動実施者〉

(単位: %)

	身近な場所(区市町村等)で運動ができる実機が	スポーツ施設のスタッフが障害者に	スポーツ施設のスタッフが障害者の	障害のある人に対する理解が	街のバリアフリーが整ったこと	パレビや新聞等のメディアで、	目標とする選手や大会ができた	その他	変わったことはない
n=568(肢体不自由)									
必要とする(n=158)	28.5	28.5	29.7	20.9	19.6	11.4	3.8	0.6	33.5
必要としない(n=410)	9.5	9.8	8.0	6.8	5.1	7.6	1.0	0.2	69.3

障害の発生年齢別でみると、「出生時」は「身近な場所で運動ができる機会が増えた」（22.0%）が最も高く、全ての項目で中途障害よりも変化を感じた割合が高かった。【図表 107】

【図表 107】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化(障害の発生年齢別)[複数回答]

〈スポーツ・運動実施者〉

(単位: %)

	すが身 増近 えな スポ ー ツ 区 市 町 村 等 で 可 能 な 実 施 会	りにス 、対ポ 障害 者理 施の 解設 受が 進ス 入タ がッ 進フ んこ の障 害に 害者	の整ス 受備 入さ がッ 進施 んた こと のバ より ア、 障フ 害リ 者ー が	し進障 やん害 すだの すこあ くこと なとる たに人 たよに 対す 、外 出理 が解 が	行に街 きよの やバ りリ 、ア す運フ く動リ なす った 場所 が整 まっ たこ と	ッパテ をラレ 目アビ にスや すリ新 ること聞 やのメ が障害 多者デ くなイ なスア っポで ー	目標と する選 手や大 会がで きた	その他	変 わ っ た こ と は な い
出生時(n=896)	22.0	18.1	14.8	11.4	7.3	7.4	1.7	0.2	45.5
10歳未満(n=169)	17.2	14.2	7.1	6.5	1.2	8.3	1.2	0.0	69.2
10歳～19歳(n=108)	15.7	8.3	5.6	7.4	4.6	5.6	1.9	0.0	73.1
20歳以上(n=825)	12.0	7.6	5.9	5.5	4.5	5.3	0.7	0.2	75.2
中途障害(n=1,102)	13.2	8.7	6.1	5.8	4.0	5.8	0.9	0.2	74.0

注: 「中途障害」は「10 歳未満」、「10 歳～19 歳」、「20 歳以上」の総和を示す。

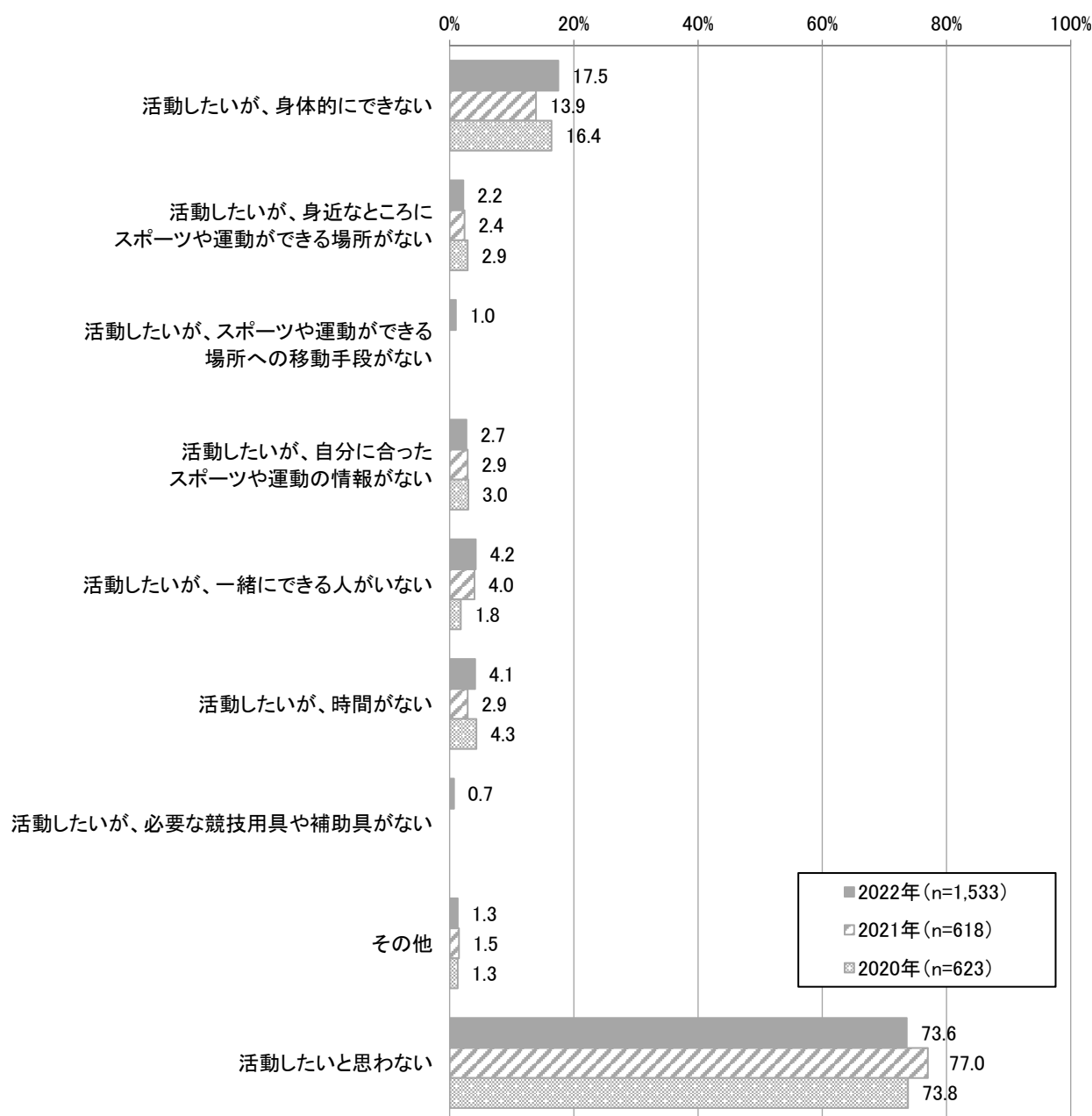
【図表 108】東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化（過去1年間にスポーツ・運動を行った日数別）
[複数回答]〈スポーツ・運動実施者〉

80

(8) スポーツ・運動を実施しない理由

スポーツや運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」が 73.6%と最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」（17.5%）、「活動したいが、一緒にできる人がいない」（4.2%）の順であった。【図表 109】

【図表 109】スポーツ・運動を実施しない理由〔複数回答〕



注 1 : 2021 年までは 18 歳以上、2022 年は 7 歳以上を調査対象としている。2022 年分の 18 歳以上の数値は次ページを参照

注 2 : 「活動したいが、スポーツや運動ができる場所への移動手段がない」及び「活動したいが必要な競技用具や補助具がない」は 2022 年度調査から選択肢に追加

年齢別にみると、「活動したいが、身体的にできない」は「20歳代」（4.3%）が最も低く、年齢とともに割合が増加し、「70歳代以上」（33.8%）で最も高い割合であった。「7～17歳」及び「18～19歳」では「活動したいが、身近なところにスポーツや運動ができる場所がない」と「活動したいが、一緒にできる人がいない」が他の区分と比べて高かった。【図表 110】

【図表 110】スポーツ・運動を実施しない理由（年齢別）[複数回答]

（単位：％）

	活動したいが、身体的にできない	活動したいが、身近なところがない	活動したいが、場所、スポーツや手段がない	活動したいが、自分の情報に合ったスポーツや運動がない	活動したいが、一緒にできる人がいない	活動したいが、時間がない	活動したいが、必要な競技用具や補助具がない	その他	活動したいと思わない
7歳～17歳 (n=150)	5.3	4.7	1.3	3.3	6.7	2.7	0.0	1.3	82.0
18歳～19歳 (n=24)	8.3	4.2	0.0	4.2	8.3	12.5	0.0	0.0	66.7
20歳代 (n=115)	4.3	0.9	1.7	2.6	3.5	7.0	0.0	0.0	83.5
30歳代 (n=178)	6.2	0.6	0.6	0.6	3.4	5.6	0.6	1.7	84.3
40歳代 (n=209)	12.0	1.4	1.0	3.3	3.3	3.8	1.0	1.0	78.5
50歳代 (n=252)	14.7	2.8	0.4	1.2	4.0	7.1	0.4	0.8	77.0
60歳代 (n=212)	22.2	3.3	1.4	3.3	4.2	3.3	0.5	2.4	70.8
70歳代以上 (n=393)	33.8	1.5	1.0	3.6	4.1	1.3	1.5	1.5	59.8
18歳以上 (n=1,383)	18.8	1.9	0.9	2.6	3.9	4.3	0.8	1.3	72.7

障害種別にみると、他の障害に比べて「肢体不自由」では「活動したいが、身体的にできない」(36.6%)の割合が高かった一方で、「活動したいと思わない」(55.4%)が低かった。【図表 111】

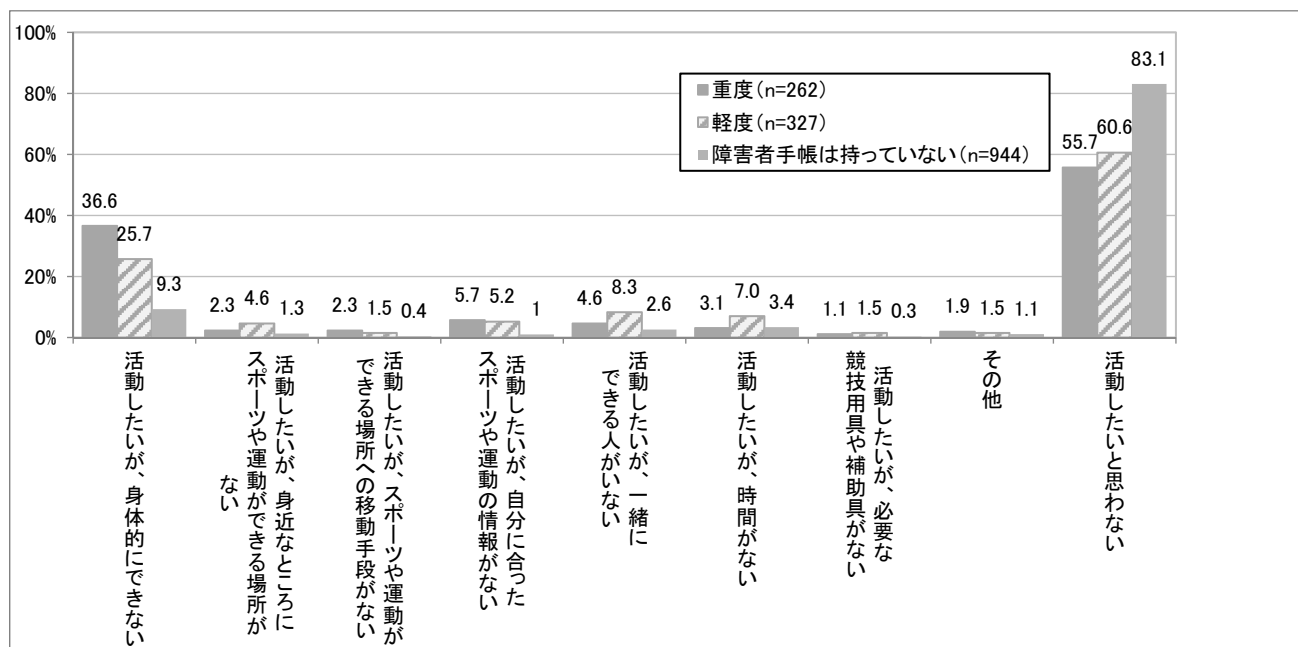
【図表 111】スポーツ・運動を実施しない理由(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

	活動したいが、身体的にできない	活動したいが、場所にスポーツや運動ができない	活動したいが、運動ができる場所への移動や手段がない	活動したいが、スポーツや運動の情報が合っていない	活動したいが、一緒にできない人がいない	活動したいが、時間がない	活動したいが、必要な競技用具や補助具がない	その他	活動したいと思わない
視覚障害(n=210)	7.6	1.4	1.0	2.4	2.4	3.8	1.0	1.0	84.3
聴覚・平衡機能障害(n=123)	21.1	0.0	0.8	0.8	2.4	4.9	0.0	0.8	72.4
音声・言語・そしゃく機能障害(n=80)	26.3	5.0	1.3	1.3	3.8	3.8	1.3	2.5	65.0
肢体不自由(n=487)	36.6	2.9	1.8	4.9	5.1	3.9	1.8	1.4	55.4
内部障害(n=236)	20.3	0.8	0.0	1.3	1.7	4.7	0.0	2.1	72.9
知的障害(n=188)	10.1	4.3	2.1	5.3	9.6	3.2	0.0	0.5	76.1
精神障害(n=333)	9.3	2.1	0.3	1.2	3.9	3.9	0.3	1.5	81.4
その他(n=61)	8.2	0.0	0.0	0.0	3.3	6.6	0.0	6.6	78.7

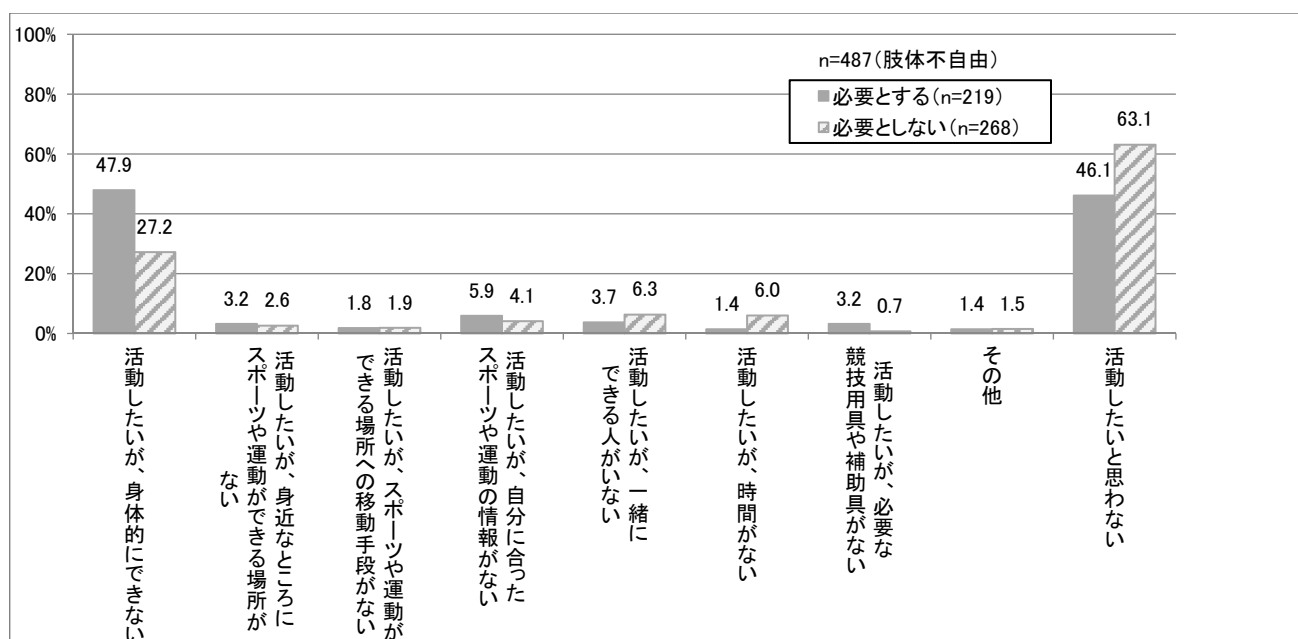
障害の程度別にみると、「重度」で「活動したいが、身体的にできない」が 36.6%と高い割合であった。「障害者手帳は持っていない」では「活動したいと思わない」(83.1%)の割合が最も高かった。【図表 112】

【図表 112】スポーツ・運動を実施しない理由(障害の程度別)[複数回答]



日常生活で車いす必要／不要別にみると、「必要としない」では、「活動したいと思わない」が 63.1%と最も高かったが、「必要とする」では「活動したいが、身体的にできない」が 47.9%であり、「活動したいと思わない」の 46.1%を上回った。【図表 113】

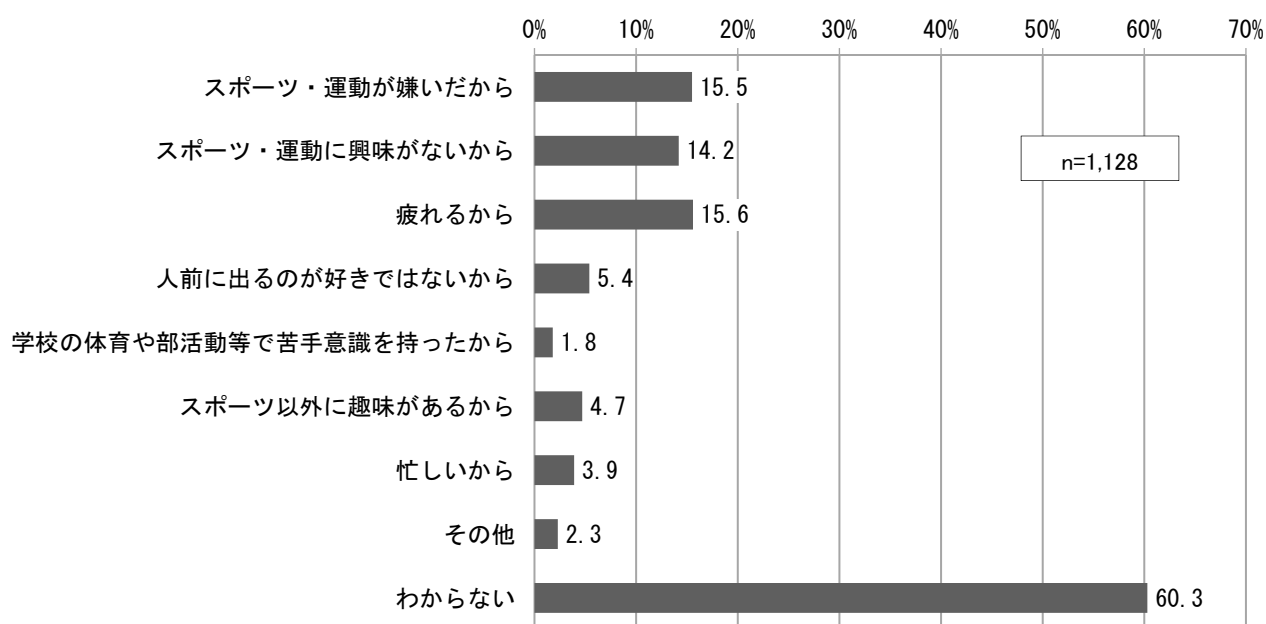
【図表 113】スポーツ・運動を実施しない理由(日常生活で車いす必要／不要別)[複数回答]



(9) 活動したいと思わない理由

スポーツ・運動を実施しない人のうち、「活動したいと思わない」と回答した理由については、「わからない」（60.3％）が最も多かった。次いで「疲れるから」（15.6％）、「スポーツ・運動が嫌いだから」（15.5％）、「スポーツ・運動に興味がないから」（14.2％）の順であった。【図表 114】

【図表 114】活動したいと思わない理由[複数回答]



年齢別にみると、「疲れるから」が「60 歳代」と「70 歳代以上」で 2 割を超え、他の区分に比べて高かった。【図表 115】

【図表 115】活動したいと思わない理由(年齢別)[複数回答]

(単位: %)

	嫌ス いだ から ツ・ 運動 が	興ス 味が ない ツ・ 運動 に	疲 れる から	な人 い前 から 出る のが 好き では	苦学 手の 意校 識の を持 った 部 活 動 等 で	あス るポ ー ツ 以 外 に 趣 味 が	忙 しい から	そ の 他	わ か ら な い
7歳～17歳(n=123)	17.1	11.4	9.8	3.3	2.4	4.9	1.6	0.8	72.4
18歳～19歳(n=16)	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	68.8
20歳代(n=96)	14.6	17.7	11.5	2.1	3.1	3.1	3.1	0.0	65.6
30歳代(n=150)	14.7	10.0	9.3	4.7	2.7	6.7	3.3	0.7	69.3
40歳代(n=164)	16.5	11.6	14.6	6.7	2.4	4.9	6.1	2.4	62.2
50歳代(n=194)	17.0	18.0	12.9	6.7	2.1	4.6	6.2	1.5	58.2
60歳代(n=150)	15.3	14.7	20.7	4.0	0.7	6.7	3.3	2.7	53.3
70歳代以上(n=235)	13.6	15.7	25.1	7.2	0.4	3.0	2.6	5.5	50.2
18歳以上(n=1,005)	15.3	14.5	16.3	5.7	1.7	4.7	4.2	2.5	58.8

障害種別にみると、「肢体不自由」では「疲れるから」（24.1%）、「スポーツ・運動に興味がないから」（18.9%）、「スポーツ・運動が嫌いだから」（17.8%）が2割前後となった一方で、「わからない」（46.3%）が最も低く、他の区分よりも明確な理由がある人が多い傾向がみられた。【図表 116】

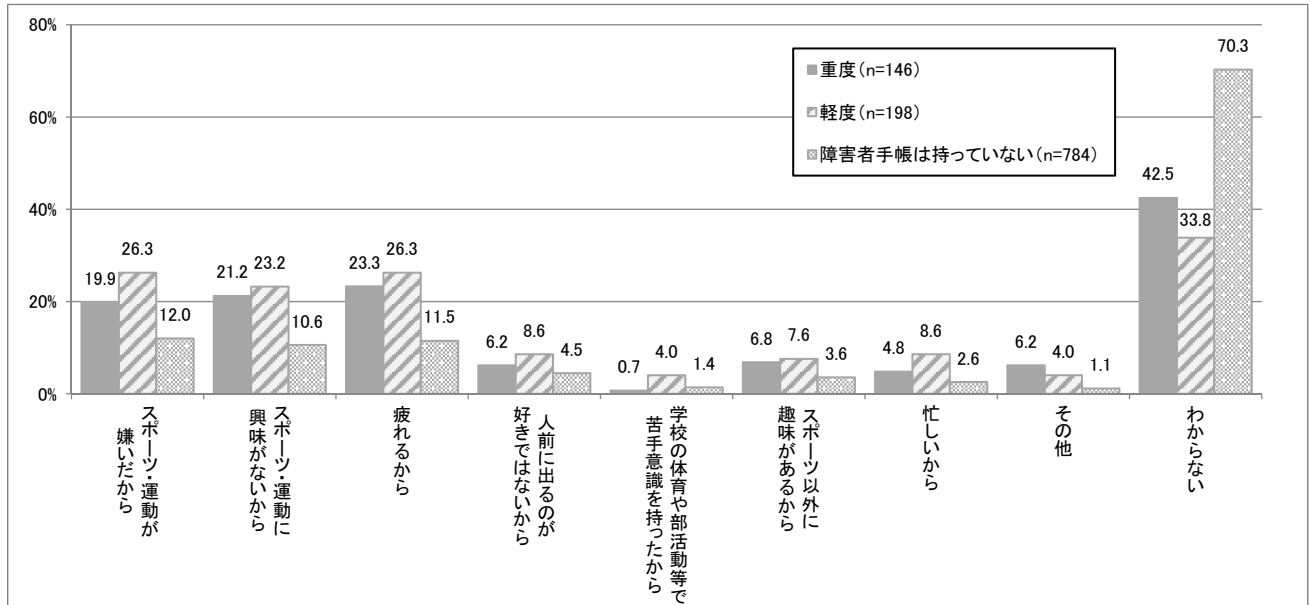
【図表 116】活動したいと思わない理由(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

	嫌いだから スポーツ・運動が	興味がない・運動に	疲れるから	人前に出るのが好きではないから	学校の体育や部活動等で 苦手の意識を持ったから	スポーツ以外に興味があるから	忙しいから	その他	わからない
視覚障害(n=177)	8.5	6.8	7.3	3.4	0.0	1.7	1.7	0.6	78.0
聴覚・平衡機能障害(n=89)	10.1	12.4	10.1	2.2	1.1	4.5	2.2	2.2	69.7
音声・言語・そしゃく機能障害(n=52)	1.9	9.6	9.6	5.8	0.0	7.7	1.9	3.8	69.2
肢体不自由(n=270)	17.8	18.9	24.1	7.0	1.5	4.1	5.6	4.4	46.3
内部障害(n=172)	12.2	13.4	15.7	5.2	0.6	4.7	3.5	4.7	58.7
知的障害(n=143)	17.5	16.8	14.7	4.2	2.1	6.3	5.6	0.7	58.0
精神障害(n=271)	22.9	15.1	16.2	8.1	4.1	4.8	3.7	1.1	60.1
その他(n=48)	20.8	14.6	29.2	6.3	6.3	6.3	4.2	4.2	43.8

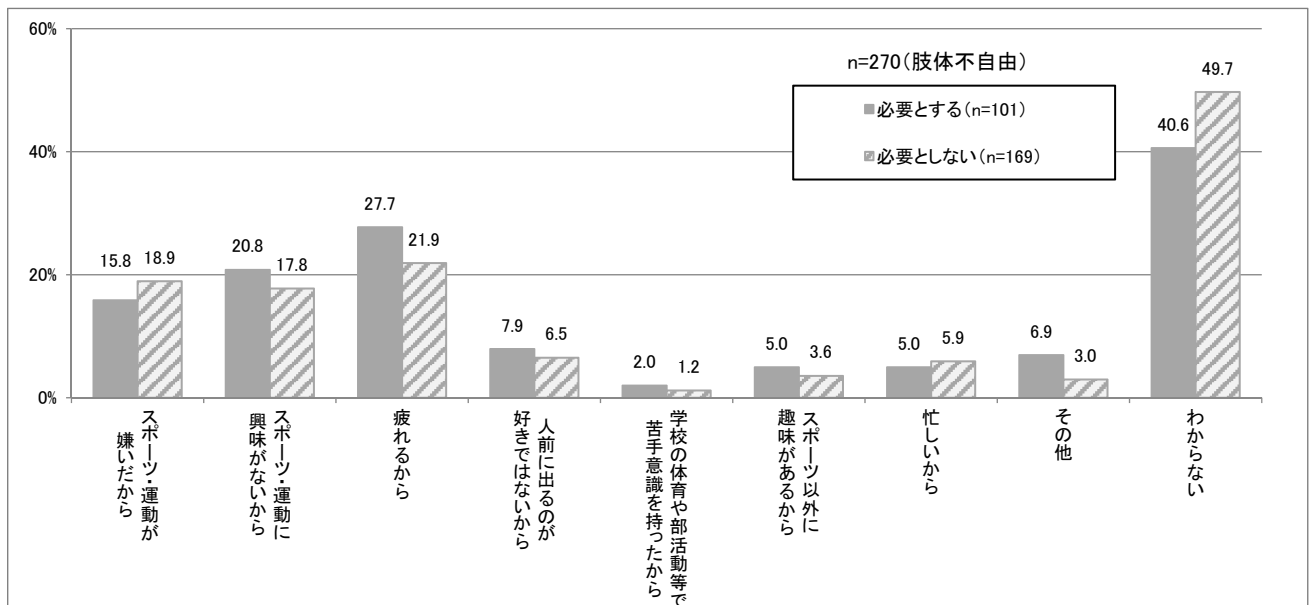
障害の程度別にみると、「重度」と「軽度」では「わからない」がそれぞれ 42.5%と 33.8%であり、「障害者手帳は持っていない」の 70.3%よりも大幅に低かった。【図表 117】

【図表 117】活動したいと思わない理由(障害の程度別)[複数回答]



日常生活での車いす必要／不要別にみると、「わからない」を除き、いずれも「疲れるから」が最も高かった。【図表 118】

【図表 118】活動したいと思わない理由(日常生活で車いす必要／不要別)[複数回答]



障害が発生した年齢別にみると、「出生時」で「わからない」の割合が約8割と高かった。「中途障害」ではいずれの発生年齢でも「わからない」の割合が半数を下回り、「スポーツ・運動が嫌いだから」(22.6%)や「スポーツ・運動に興味がないから」(20.7%)、「疲れるから」(24.0%)が2割程度と「出生時」と比較して高かった。【図表 119】

【図表 119】活動したいと思わない理由(障害が発生した年齢別)[複数回答]

	嫌ス いポ だー かッ ら 運 動 が	興ス 味ポ がー なッ い・ か運 ら動 に	疲 れる から	な人 い前 から 出る のが 好き では	苦学 手校 意の 識体 を持 つ育 たや 部活 等 で	あス るポ ーッ 以外 に 趣味 が	忙 しい から	そ の 他	(単位:%) わ か ら な い
出生時(n=562)	8.4	7.7	7.1	2.5	0.9	3.0	2.0	0.5	79.5
10歳未満(n=53)	28.3	28.3	18.9	7.5	5.7	11.3	9.4	1.9	37.7
10歳～19歳(n=60)	26.7	28.3	25.0	13.3	5.0	8.3	10.0	1.7	35.0
20歳以上(n=453)	21.4	18.8	24.5	7.7	2.0	5.5	4.9	4.6	42.4
中途障害(n=566)	22.6	20.7	24.0	8.3	2.7	6.4	5.8	4.1	41.2

注:「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和を示す。

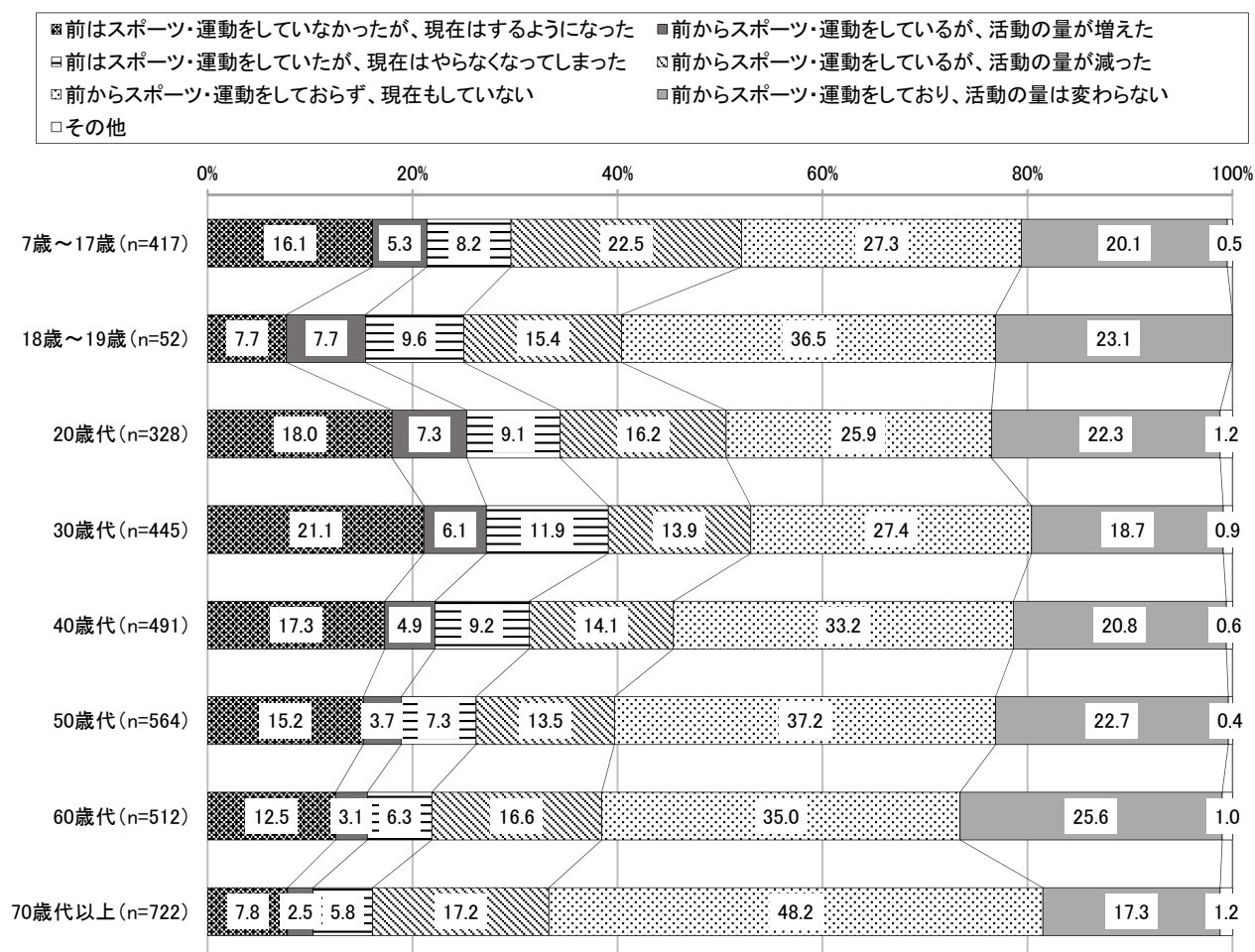
新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響・変化について、「前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が減った」が 16.2%、「前はスポーツ・運動をしていたが、現在はやらなくなってしまった」が 8.0%となり、活動量が減った人が合計で 24.2%であった。一方で、「前はスポーツ・運動をしていなかったが、現在はするようになった」（14.6%）、「前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が増えた」（4.4%）の活動量が増えたとする割合は合計で 19.0%であった。【図表 120】

☐前はスポーツ・運動をしていなかったが、現在はするようになった
 ☐前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が増えた
☐前はスポーツ・運動をしていたが、現在はやらなくなってしまった
 ☐前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が減った
☐前からスポーツ・運動をしておらず、現在もしていない
 ☐前からスポーツ・運動をしており、活動の量は変わらない
☐その他



年齢別では、いずれの年齢でも「前からスポーツはしておらず、現在もしていない」が最も多かった。活動量の増減に着目すると、「7～17 歳」で「現在はやらなくなってしまった」「活動の量が減った」が合計で 30.7% となり、活動量が減った割合が最も高かった。「30 歳代」では「現在はするようになった」「活動の量が増えた」の合計が 27.2% であり、活動量の減（合計 25.8%）を上回った。【図表 121】

【図表 121】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（年齢別）



障害種別でみると、「視覚障害」及び「音声・言語・そしゃく機能障害」、「精神障害」で「前はスポーツ・運動をしていなかったが、現在はするようになった」の割合が比較的高かった（順に 20.2%、18.8%、16.5%）。「知的障害」では「前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が減った」の割合が2割を超えた。【図表 122】

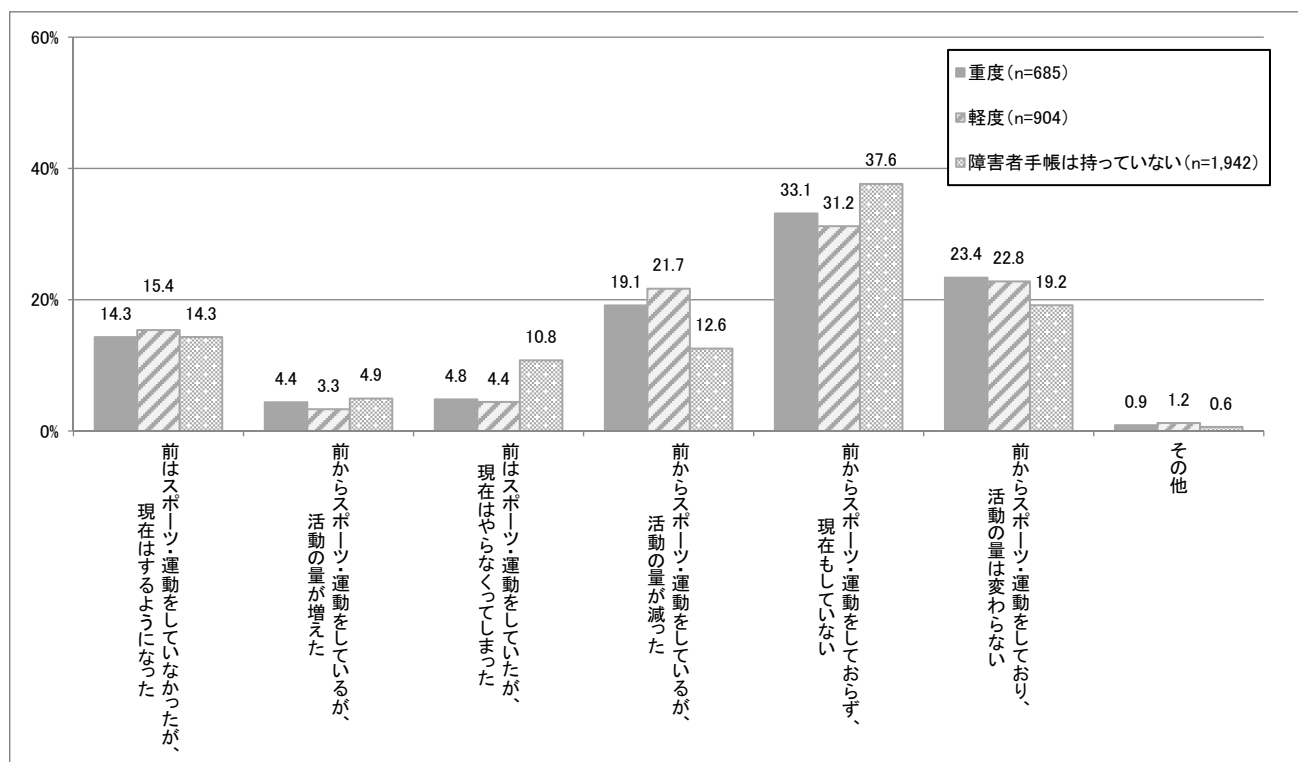
【図表 122】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（障害種別）

（単位：％）

	前は スポーツ をして いたが、 現在は していない	前は スポーツ をして いたが、 現在は 減った	前は スポーツ をして いたが、 現在は 減った	前は スポーツ をして いたが、 現在は 減った	前は スポーツ をして いたが、 現在は 減った	前は スポーツ をして いたが、 現在は 減った	その他
視覚障害(n=475)	20.2	5.9	10.3	13.5	33.9	16.0	0.2
聴覚・平衡機能障害(n=302)	14.9	6.3	6.3	17.2	34.4	20.5	0.3
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	18.8	8.3	8.3	15.6	32.8	14.6	1.6
肢体不自由(n=1,055)	12.5	3.4	6.4	16.9	39.4	20.4	1.0
内部障害(n=611)	13.9	5.1	6.2	16.2	32.2	25.9	0.5
知的障害(n=441)	10.2	4.5	7.5	20.6	34.5	20.6	2.0
精神障害(n=716)	16.5	6.6	10.5	14.2	35.9	15.9	0.4
その他(n=142)	8.5	4.2	5.6	16.2	35.2	26.8	3.5

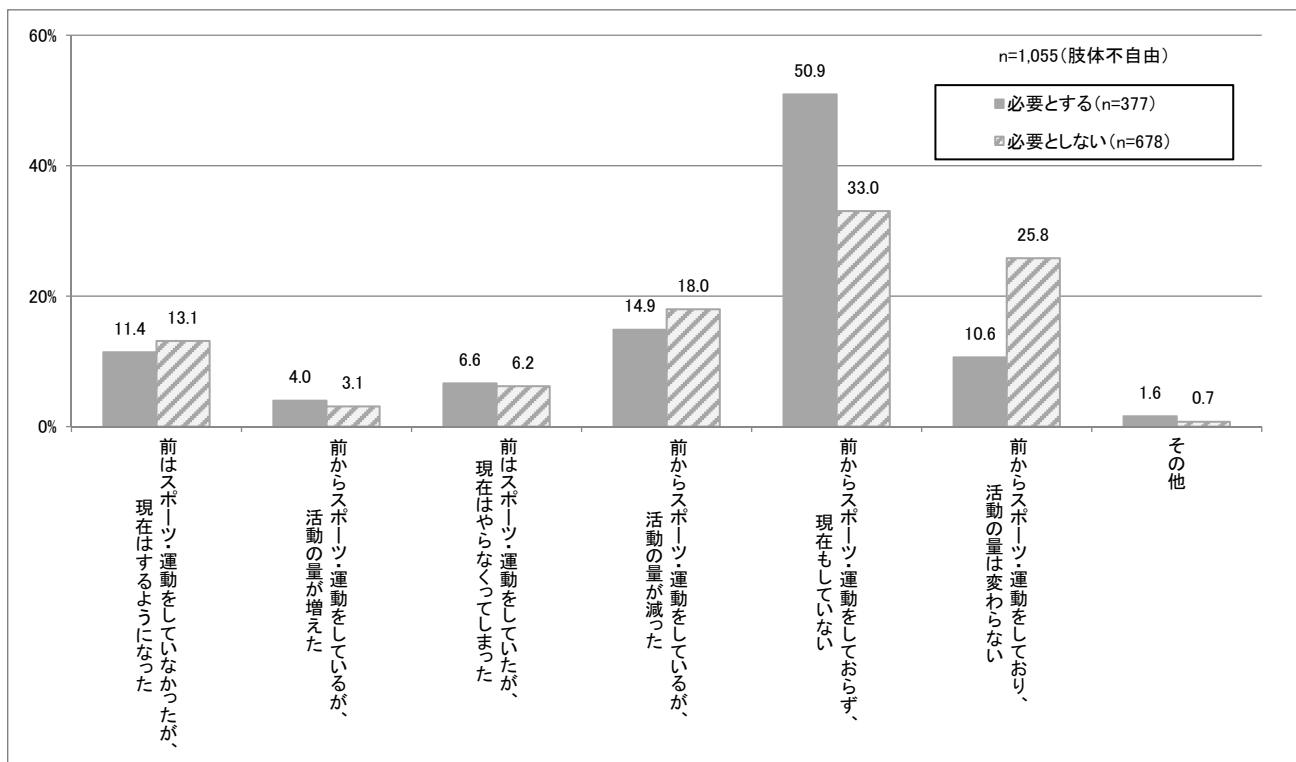
障害の程度別でみると、「重度」と「軽度」では「活動の量が減った」とする割合がそれぞれ 19.1%と 21.7%で、「障害者手帳は持っていない」(12.6%)に比べて高かった。一方で、「現在はやらなくなってしまった」の割合は「障害者手帳は持っていない」において高かった。【図表 123】

【図表 123】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（障害の程度別）



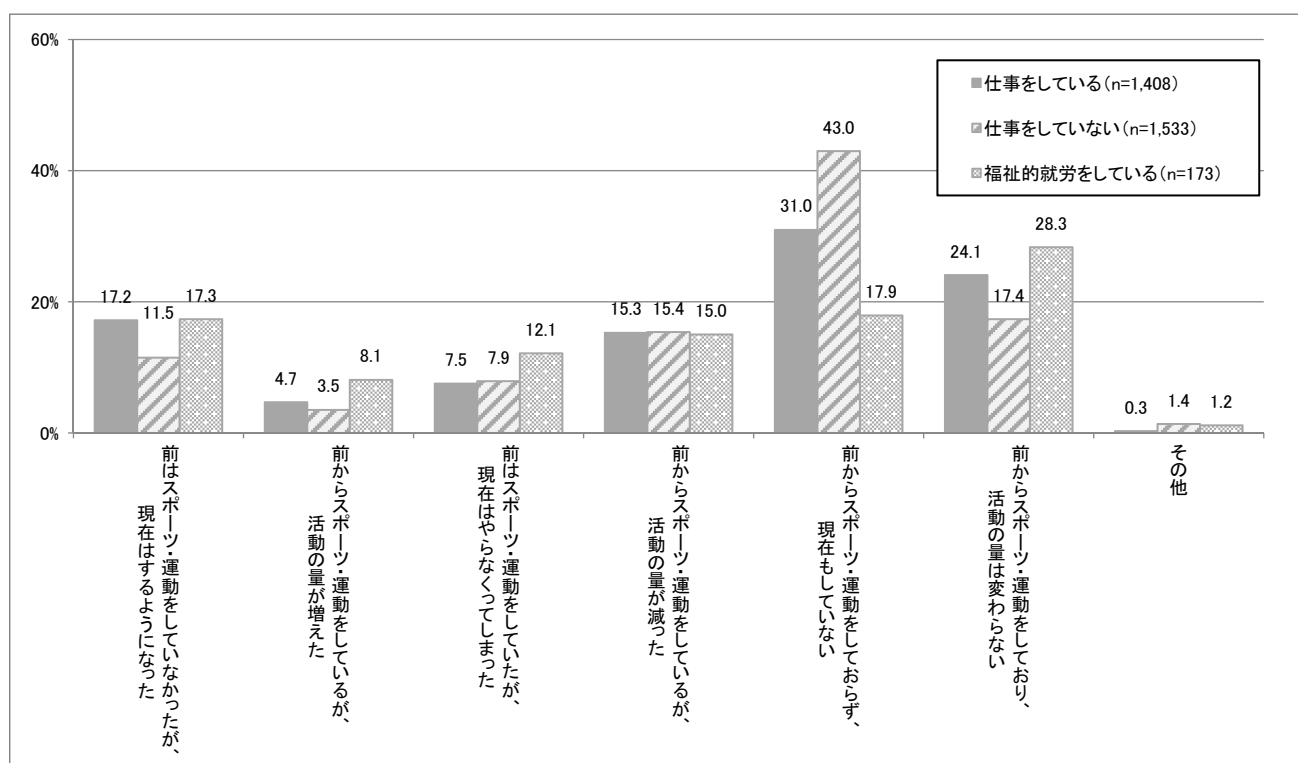
日常生活で車いすの必要／不要別でみると、「必要としない」では「前からスポーツ・運動をしており、活動の量は変わらない」（25.8%）が「必要とする」（10.6%）より高い割合となった。【図表 124】

【図表 124】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（日常生活で車いす必要／不要別）



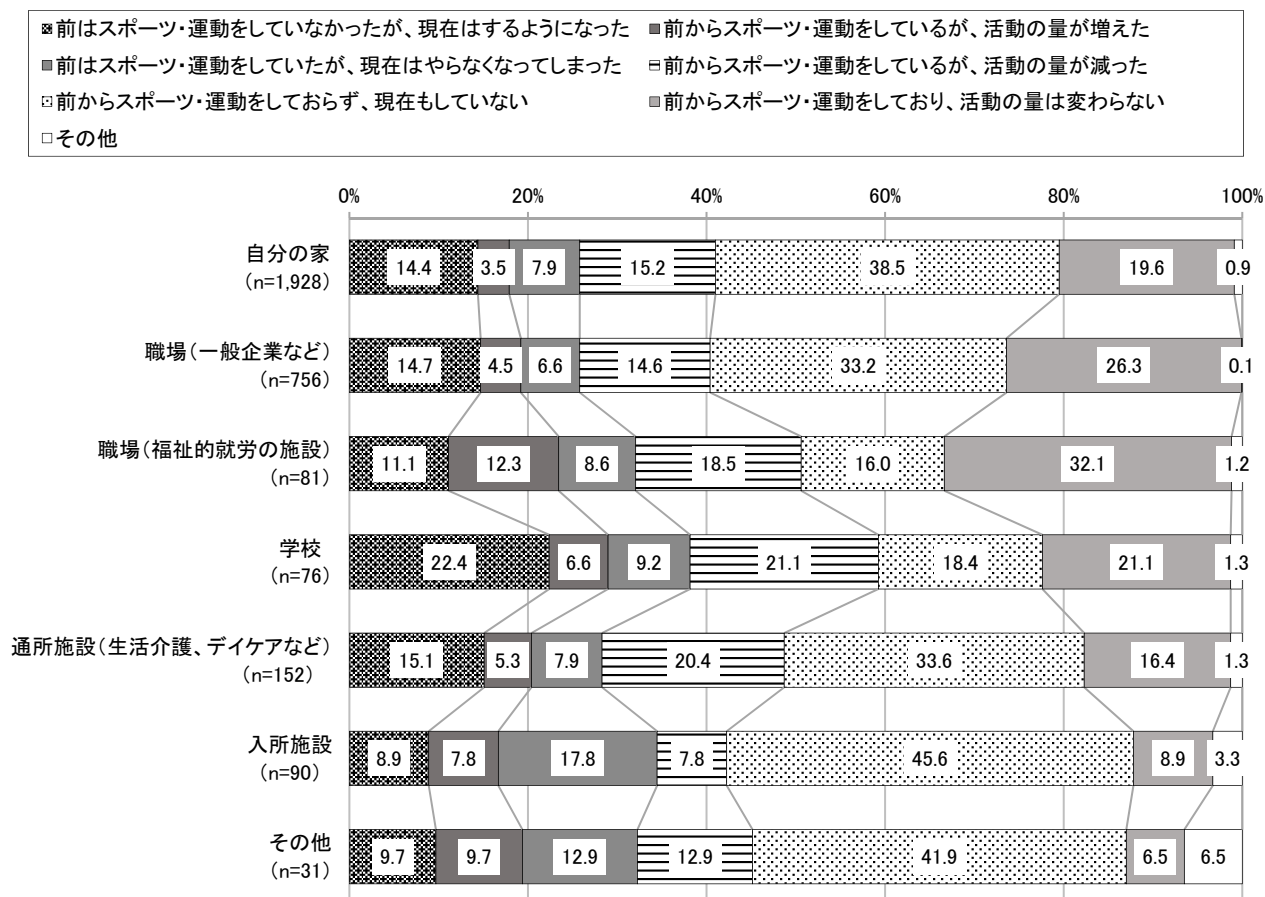
就業状況別では、「仕事をしている」「仕事をしていない」とともに「前からスポーツ・運動をしておらず、現在もしていない」が最も高く、「福祉的就労をしている」では「活動の量は変わらない」が28.3%と最も多かった。また、「仕事をしている」「福祉的就労をしている」で「前はしていなかったが、現在はするようになった」の割合が比較的高かった。【図表 125】

【図表 125】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（就業状況別）



平日・日中の居場所別でみると、入所施設では「前はスポーツ・運動をしていたが、現在はやらなくなってしまった」(17.8%)が他の居場所と比較して高かった。また、「職場(福祉的就労の施設)」では、「活動の量は変わらない」が32.1%で最も高かった。【図表 126】

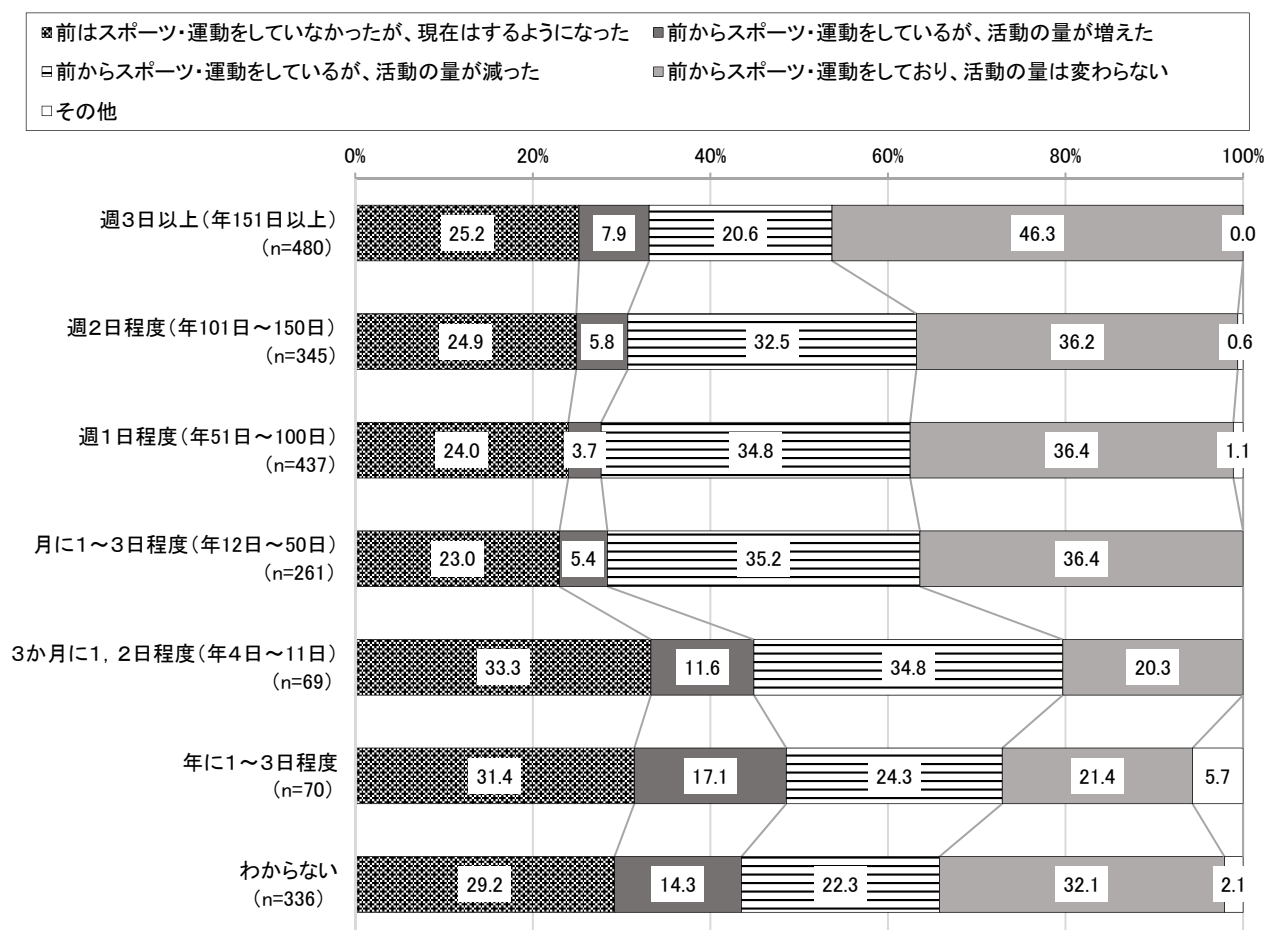
【図表 126】新型コロナウイルス感染症による影響(感染拡大前との比較)(平日・日中の居場所別)



過去1年間のスポーツ・運動の実施日数別にみると、「週3日以上」で「前から運動をしているが、活動の量が減った」(20.6%)の割合が最も低く、また、「活動の量は変わらない」とする割合が46.3%と最も高かった。【図表127】

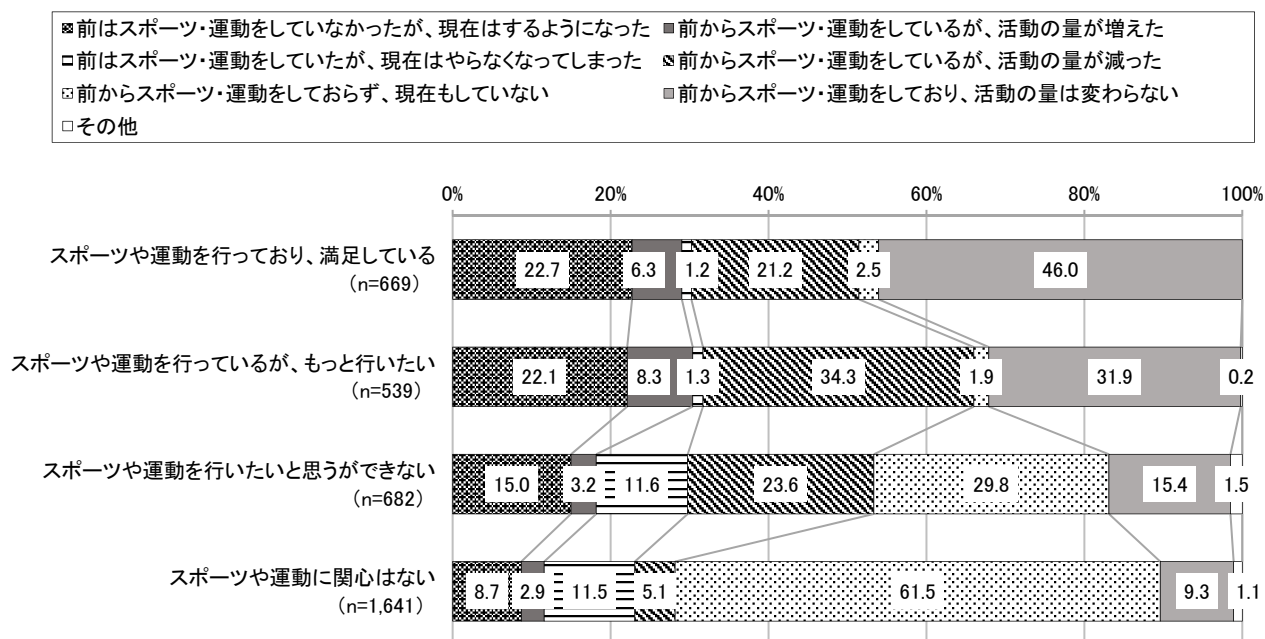
【図表127】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）

（過去1年間のスポーツ・運動の実施日数別）〈スポーツ・運動実施者〉



スポーツ・運動の現在の取組について満足や関心別にみると、「スポーツや運動を行っており、満足している」では半数近くが「前からスポーツ・運動をしており、活動の量は変わらない」と回答している。「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」では「スポーツ・運動をしていたが、活動の量が減った」（34.3%）が他の区分に比べて高い割合であった。【図表 128】

【図表 128】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（スポーツ・運動の取組別）



放課後の居場所別でみると、「自分の家」「習いごと（塾や英会話等の学習系）」「習いごと（音楽や習字等の芸術系）」で「前はスポーツ・運動をしていなかったが、現在はするようになった」の割合が他の区分と比較して高かった。【図表 129】

【図表 129】新型コロナウイルス感染症による影響（感染拡大前との比較）（放課後の居場所別）

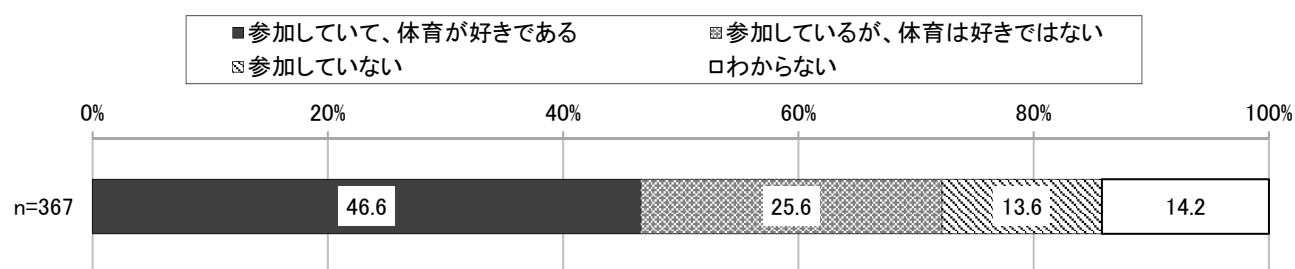
（単位：％）

	よい前は うなは にかス なっポ ったー たがッ ・ 現運 在動 はを する て	たて前 いから るがス ・ポ 活ッ 動の ・運 量動 増をし	ない前 ったは てがス し、ポ ま現ッ つ在ッ たは・ や運 ら動 なく して	たて前 いから るがス ・ポ 活ッ 動の ・運 量動 減をし	いて前 おから らずス ・ポ 現ッ 在ッ も・ し運 て動 いを なし	なて前 いおから りら ・ス 活ポ 動の ・運 量動 は運 変動 わをし	その他
自分の家(n=264)	22.3	2.7	4.5	24.2	23.5	22.3	0.4
習いごと(塾や英会話等の学習系)(n=51)	25.5	5.9	3.9	27.5	11.8	25.5	0.0
習いごと(スイミングやサッカー等のスポーツ系)(n=37)	10.8	8.1	0.0	37.8	0.0	43.2	0.0
習いごと(音楽や習字等の芸術系)(n=19)	21.1	15.8	5.3	21.1	5.3	31.6	0.0
児童通所サービス(放課後等デイサービス等)(n=73)	6.8	5.5	0.0	39.7	17.8	30.1	0.0
学童保育(n=27)	0.0	18.5	7.4	29.6	22.2	22.2	0.0
広場や公園(n=18)	11.1	22.2	0.0	33.3	5.6	27.8	0.0
学校(校庭や体育館)(n=15)	6.7	33.3	0.0	53.3	6.7	0.0	0.0
児童館や図書館などの公共施設(n=13)	7.7	23.1	0.0	53.8	15.4	0.0	0.0
その他(n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0

(11) 学校体育の参加状況(在学中、高校生まで)

学校体育の参加状況をみると、「参加していて、体育が好きである」が46.6%と5割近くを占めた。一方で、「参加しているが、体育は好きではない」(25.6%)や「参加していない」(13.6%)層が一定数存在している。【図表 130】

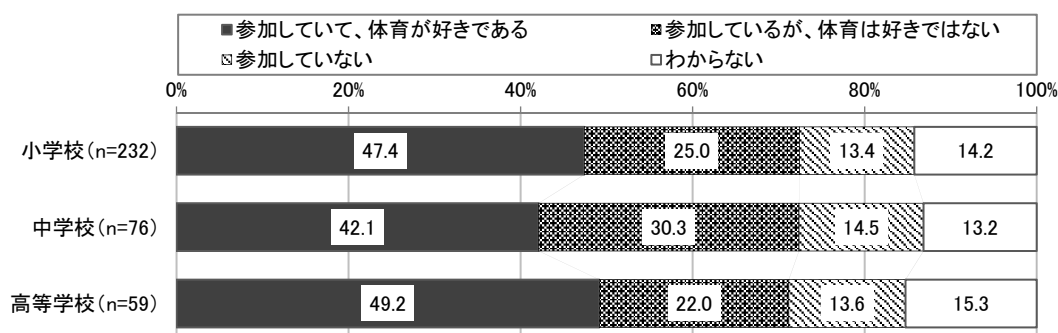
【図表 130】学校体育の参加状況



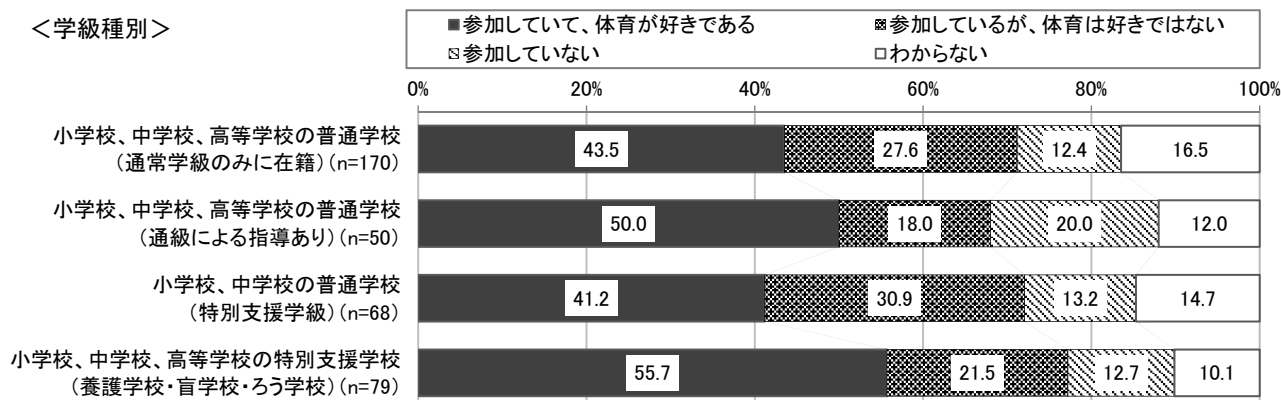
学校種別にみると、「参加していて、体育が好きである」はいずれの区分でも4割を超えた。学級種別では「参加していて、体育が好きである」は特別支援学校(55.7%)で最も高かった。【図表 131】

【図表 131】学校体育の参加状況(学校種別)

<学校種別>

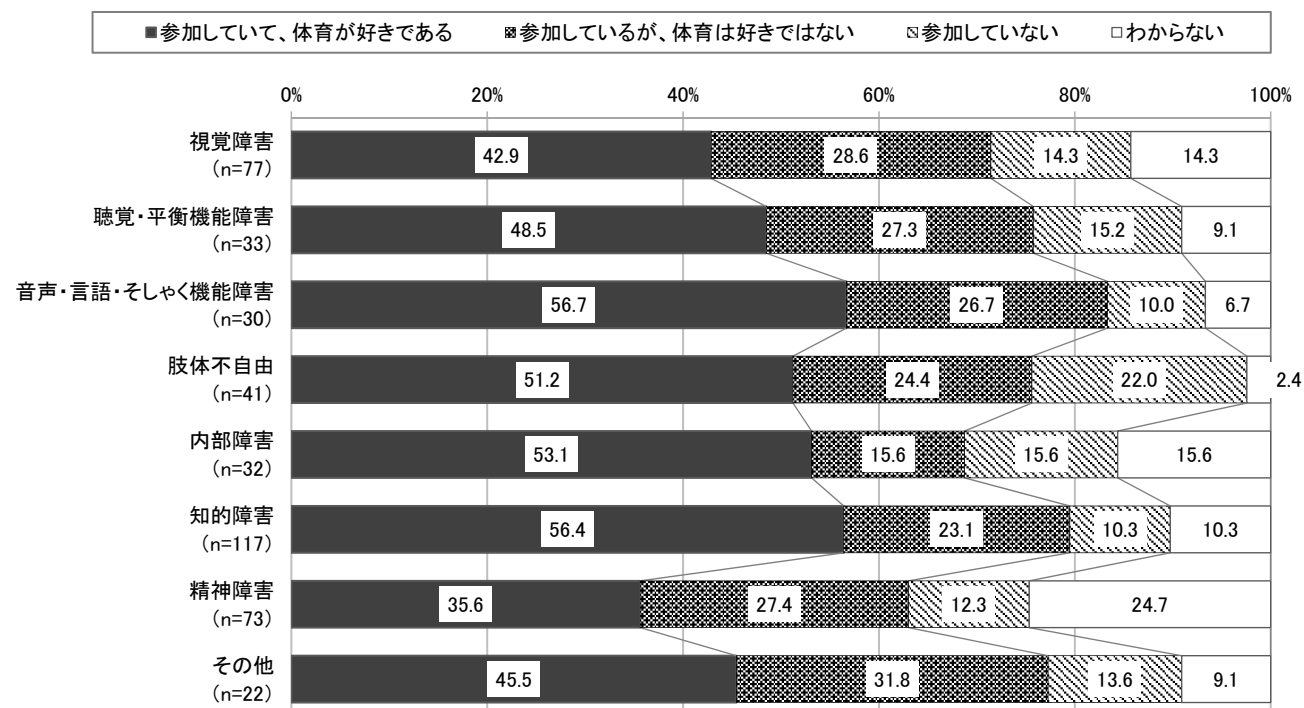


<学級種別>



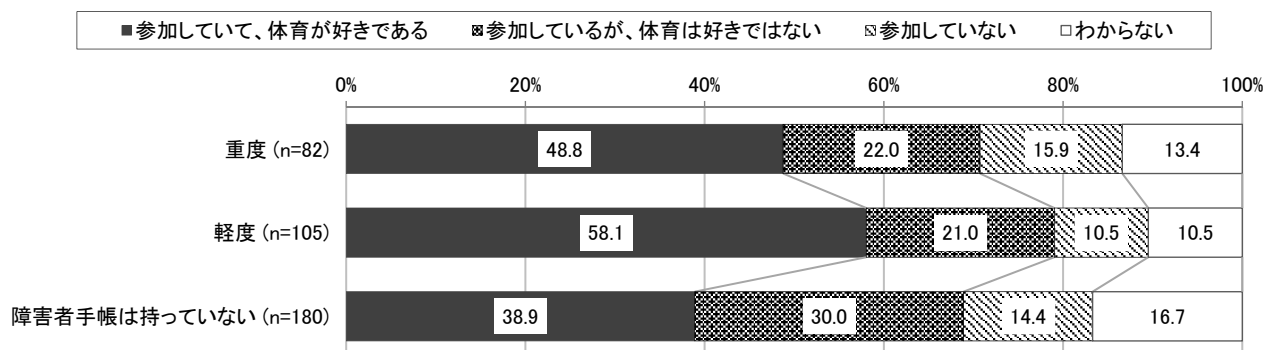
障害種別にみると、「精神障害」（35.6％）と「視覚障害」（42.9％）を除いたすべての区分において「参加していて、体育が好きである」が5割程度であり、「参加しているが、体育は好きではない」を上回った。「肢体不自由」では、「参加していない」（22.0％）が他の障害種と比べて高かった。【図表 132】

【図表 132】 学校体育の参加状況(障害種別)



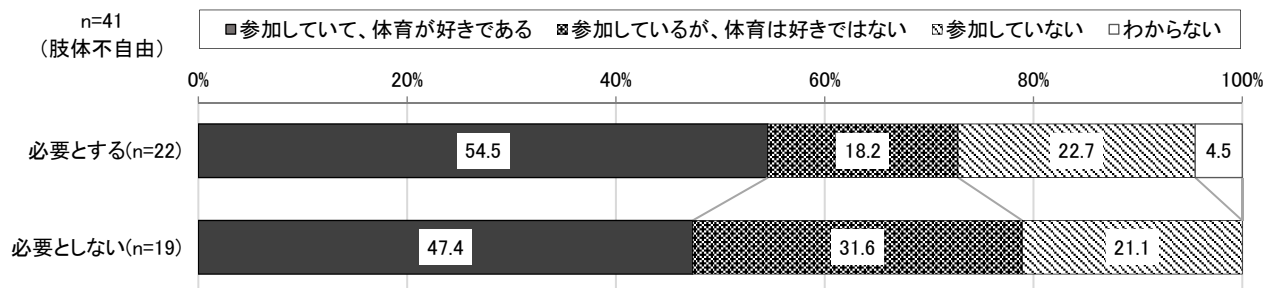
障害の程度別にみると、「軽度」で「参加していて、体育が好きである」（58.1％）の割合が最も高かった。また、「障害者手帳は持っていない」において、「参加しているが、体育は好きではない」が30.0％と他の区分と比較して高かった。【図表 133】

【図表 133】 学校体育の参加状況(障害の程度別)



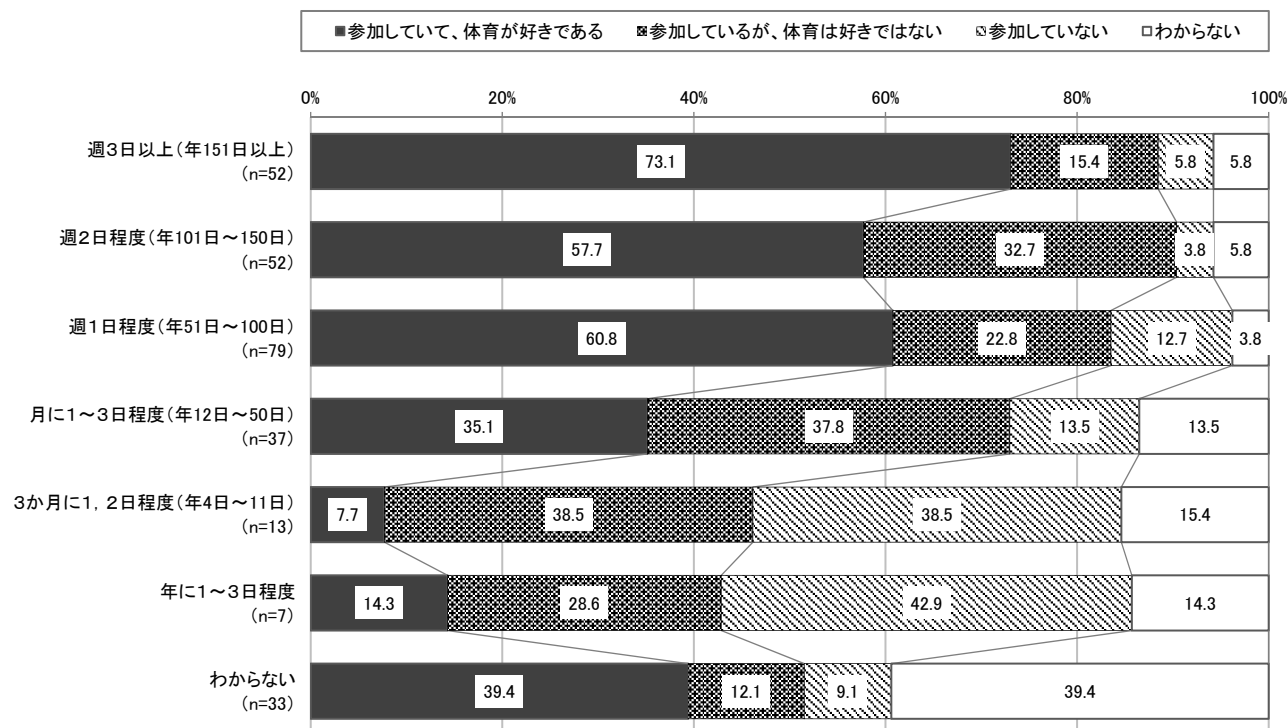
日常生活で車いす必要／不要別にみると、いずれも「参加していて、体育が好きである」が約５割であった。【図表 134】

【図表 134】学校体育の参加状況(日常生活で車いす必要／不要別)



過去１年間のスポーツ・運動の実施日数別にみると、「週１日以上」で「参加していて、体育が好きである」が約６～７割と高かった。「月に１～３日程度」以降の頻度の少ない区分では「参加しているが、体育は好きではない」が「体育が好きである」を上回った。【図表 135】

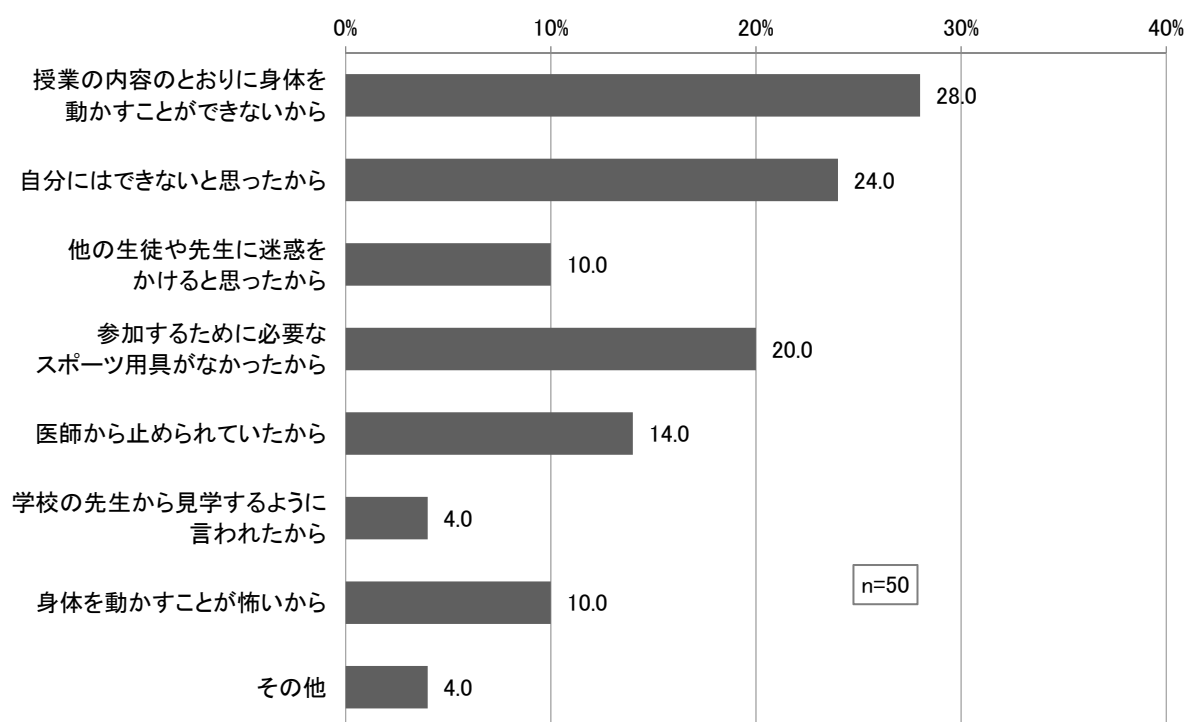
【図表 135】学校体育の参加状況(スポーツ・運動実施頻度別)〈スポーツ・運動実施者〉



(12) 学校体育に参加しない理由(在学中、高校生まで)

学校体育に参加していない理由については、「授業の内容のとおり身体を動かすことができないから」が28.0%と最も高く、次いで「自分にはできないと思ったから」(24.0%)、「参加するために必要なスポーツ用具がなかったから」(20.0%)の順であった。【図表 136】

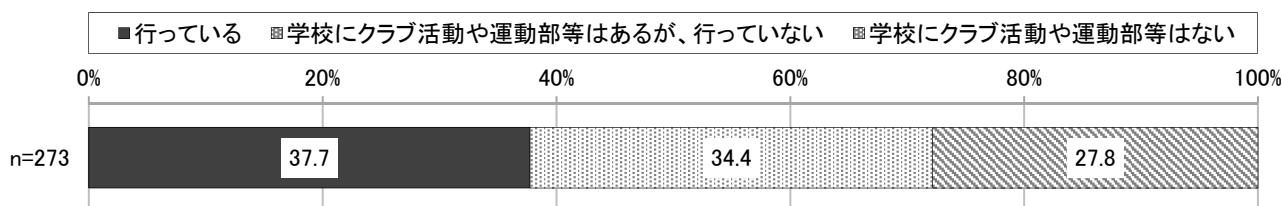
【図表 136】学校体育に参加しない理由〔複数回答〕



(13) 学校におけるスポーツ・運動活動(在学中、高校生まで)

放課後や休日、長期休暇（夏休みや冬休みなど）中に学校でスポーツ・運動を行う機会について、「行っている」（37.7%）が「学校にクラブ活動や運動部等はあるが、行っていない」（34.4%）を3.3ポイント上回った。また、「学校にクラブ活動や運動部等はない」が約3割であった。【図表137】

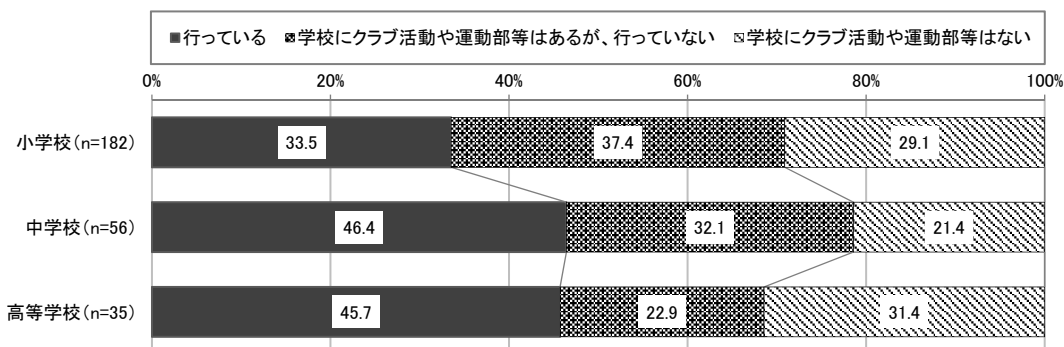
【図表 137】学校におけるスポーツ・運動活動



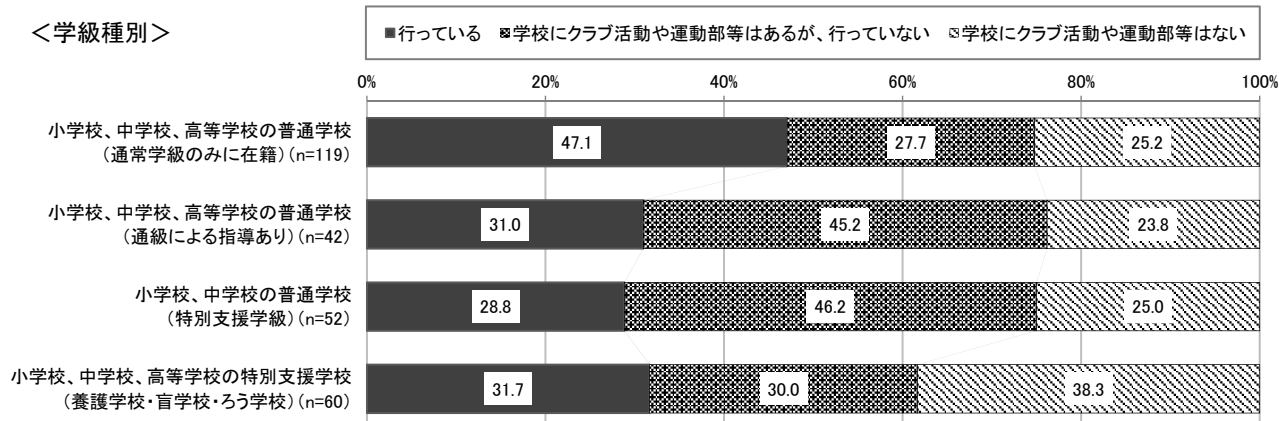
学級種別では、「普通学校（通常学級）」で「行っている」（47.1%）が最も高く、「普通学校（通級による指導あり）」及び「普通学校（特別支援学級）」では「学校にクラブ活動や運動部等はあるが、行っていない」の割合が高かった。「特別支援学校」では「行っている」（31.7%）が「学校にクラブ活動や運動部等はあるが、行っていない」（30.0%）と同程度であった。【図表 138】

【図表 138】学校におけるスポーツ・運動活動(学校種別)

<学校種別>



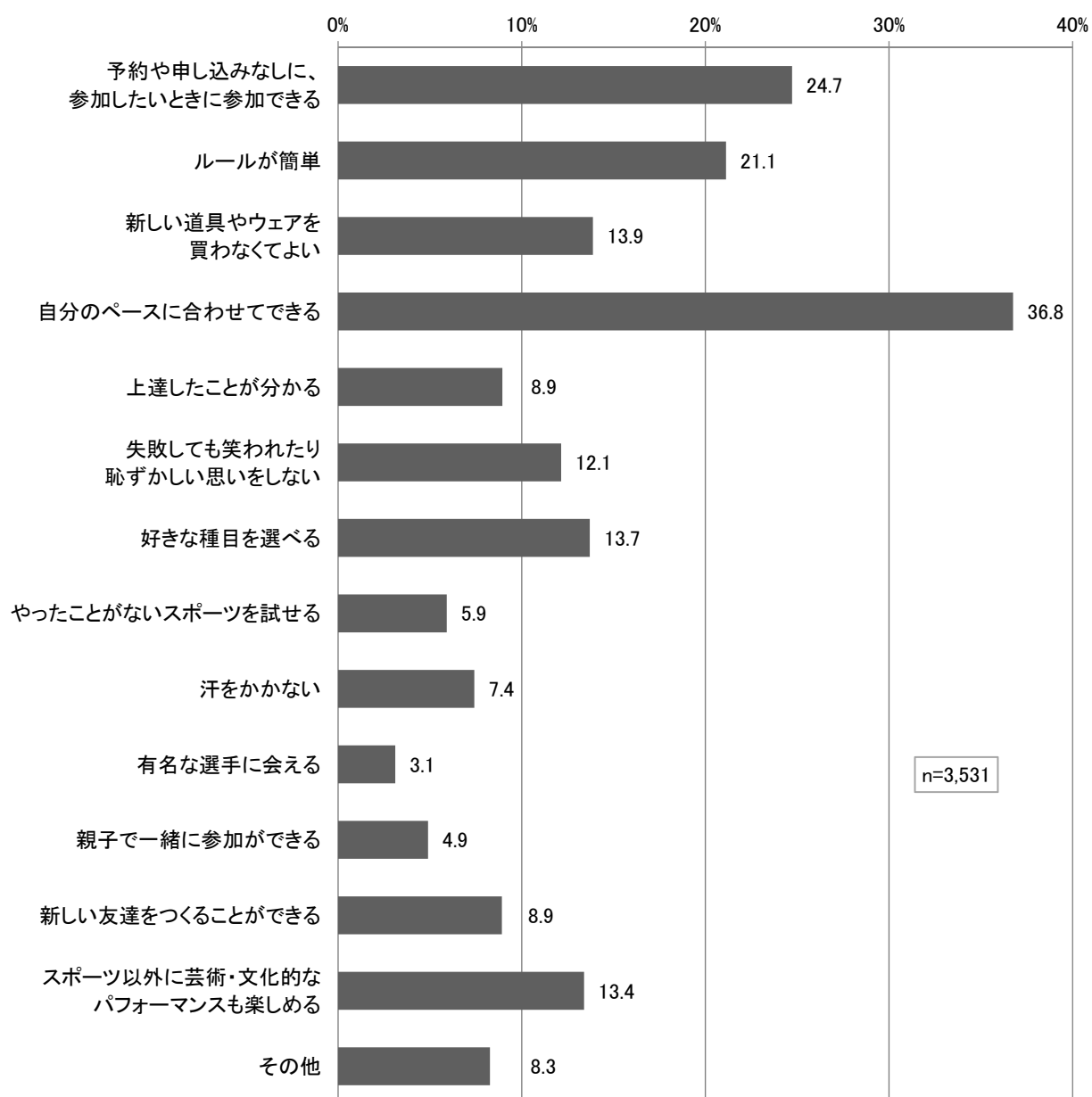
<学級種別>



(14) 参加したいスポーツ活動

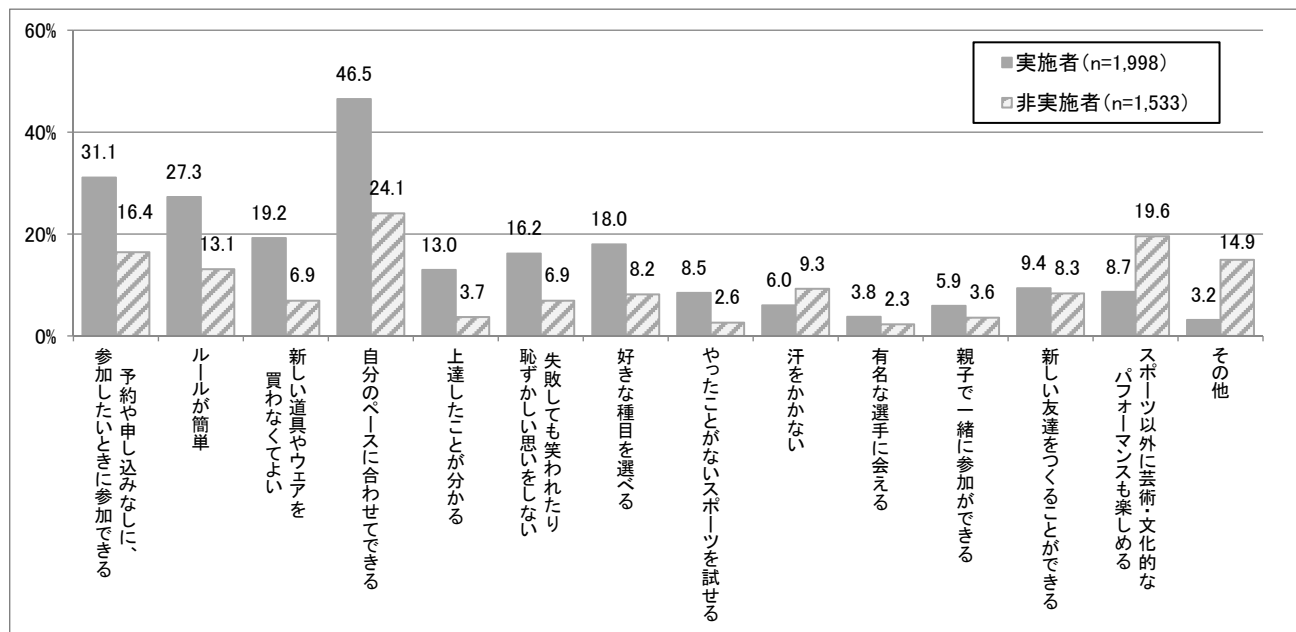
参加したいスポーツ活動では「自分のペースに合わせてできる」(36.8%)が最も高く、次いで「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」(24.7%)、「ルールが簡単」(21.1%)の順であった。【図表 139】

【図表 139】 参加したいスポーツ活動[複数回答]



スポーツ・運動の実施の有無別でみると、いずれも「自分のペースに合わせてできる」が最も高かったが、「実施者」（46.5%）に比べて「非実施者」（24.1%）は低い割合であった。次いで「実施者」では「予約や申し込みなしに、参加したいときにできる」（31.1%）、「非実施者」では「スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる」（19.6%）が高かった。【図表 140】

【図表 140】 参加したいスポーツ活動（運動の実施の有無別）[複数回答]



年齢別でみると、「7～17歳」「18～19歳」では「ルールが簡単」が約3割と高く、「上達したことがわかる」「新しい友達をつくることができる」も他の年齢層と比較して高かった。【図表 141】

【図表 141】 参加したいスポーツ活動(年齢別)[複数回答]

(単位: %)															
	参加予約や申し込み込みに参加できる	ルールが簡単	新しい道具やウェアを買わなくてよい	自分のペースに合わせてできる	上達したことが分かる	失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしな	好きな種目を選べる	試せる	やったことがないスポーツを	汗をかかない	有名な選手に会える	親子で一緒に参加ができる	新しい友達をつくることができる	スポーツ以外に芸術・文化的な楽しみがある	その他
7歳～17歳 (n=417)	26.4	29.7	13.7	34.8	14.4	18.2	18.0	7.4	4.1	3.6	9.1	14.9	12.7	1.9	
18歳～19歳 (n=52)	25.0	30.8	15.4	32.7	19.2	15.4	17.3	7.7	1.9	9.6	11.5	17.3	13.5	3.8	
20歳代 (n=328)	25.0	22.3	11.3	31.7	10.1	12.8	12.5	9.5	6.4	4.0	6.7	9.8	17.4	4.0	
30歳代 (n=445)	22.0	19.6	14.6	33.5	10.1	12.4	12.1	6.5	7.6	2.2	4.9	7.4	15.7	3.8	
40歳代 (n=491)	22.8	18.7	14.1	34.0	8.8	15.1	15.5	7.3	9.4	5.7	4.5	6.5	16.3	7.1	
50歳代 (n=564)	24.8	19.9	12.8	35.3	7.4	10.1	13.8	4.3	8.3	2.7	3.2	7.1	12.1	10.1	
60歳代 (n=512)	29.7	19.7	14.8	41.6	8.0	8.8	13.5	5.1	8.4	1.8	2.7	7.8	10.9	9.0	
70歳代以上 (n=722)	23.0	19.5	14.7	42.1	5.8	10.0	11.4	3.9	7.3	2.1	4.3	9.3	11.4	15.8	
18歳以上 (n=3,114)	24.5	20.0	13.9	37.0	8.2	11.3	13.1	5.7	7.9	3.1	4.3	8.1	13.5	9.1	

(単位: %)

障害種別では、「自分のペースに合わせてできる」がすべての区分で最も多く、「肢体不自由」(43.1%)、「内部障害」(40.9%)、「知的障害」(40.6%)で4割を超えた。「知的障害」では「ルールが簡単」(34.9%)が他の障害と比較して高い割合であった。【図表 142】

【図表 142】 参加したいスポーツ活動(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

	参加 予約 したい と込みに 参加 できる	ル ー ル が 簡 単	新 しい 道 具 や ウ ェ ア を 買 わ な く て よ い	自 分 の ペ ー ス に 合 わ せ て で き る	上 達 し た こ と が 分 か る	失 敗 し て も 笑 わ れ た り い 恥 ず か し い 思 い を し な い	好 き な 種 目 を 選 べ る	試 せ る や っ た こ と が な い ス ポ ー ツ を	汗 を か か な い	有 名 な 選 手 に 会 え る	親 子 で 一 緒 に 参 加 が で き る	新 しい 友 達 を つ く る こ と が で き る	ス ポ ー ツ 以 外 に 芸 術 ・ 文 化 的 な マ ン ス も 楽 し め る	そ の 他
視覚障害(n=475)	24.8	20.2	11.4	28.8	8.8	8.2	14.3	7.4	9.7	6.5	6.1	8.4	17.7	3.2
聴覚・平衡機能障害(n=302)	26.8	23.2	18.5	35.1	12.3	11.9	15.6	6.6	11.9	4.6	4.6	9.6	11.9	6.3
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	22.9	20.8	13.5	31.8	9.4	19.8	17.7	9.4	7.3	8.3	8.9	13.5	13.5	9.9
肢体不自由(n=1,055)	25.5	19.6	16.2	43.1	8.4	13.0	13.1	6.9	6.9	4.0	5.4	9.4	10.4	13.8
内部障害(n=611)	26.4	19.0	14.6	40.9	8.0	10.1	14.1	5.7	9.0	3.9	5.4	9.7	14.2	7.5
知的障害(n=441)	24.7	34.9	12.5	40.6	12.0	15.4	18.1	8.6	5.2	4.3	11.3	14.7	13.8	7.0
精神障害(n=716)	25.6	20.8	15.8	32.7	10.9	16.3	13.7	5.6	10.5	2.7	3.9	9.2	18.4	7.7
その他(n=142)	25.4	24.6	13.4	42.3	10.6	14.8	16.9	4.2	3.5	2.8	8.5	10.6	12.0	16.9

障害発生時の年齢別では、「出生時」で「スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる」（19.2%）の割合が高かった。「10歳未満」は「ルールが簡単」（34.6%）、「好きな種目を選ぶ」（21.0%）、「失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしない」（20.6%）が他の発生年齢よりも比較的高かった。【図表 143】

【図表 143】 参加したいスポーツ活動(障害発生時の年齢別)[複数回答]

	参加予約 したいとき に参加に できる	ルールが 簡単	新しい道具 やウェアを 買わなくて よい	自分のベース に合わせて できる	上達したことが 分かる	失敗しても 笑われたり 恥ずかしい 思いをしない	好きな種目 を選ぶ	試せる やったことが ないスポーツ を	汗をかかない	有名な選手 に会える	親子で一緒 に参加が できる	新しい友達 をつくる ことが できる	スポーツ以外 に芸術・文 化的なパ フォーマンス も楽しめる	その他
出生時(n=1,536)	21.1	18.4	10.8	25.3	9.4	11.4	12.3	7.3	6.7	4.5	5.5	8.1	19.2	3.3
10歳未満(n=257)	29.2	34.6	17.5	46.7	15.6	20.6	21.0	5.8	5.1	1.9	9.7	16.7	7.4	7.8
10歳～19歳(n=191)	25.7	20.4	13.1	44.0	8.4	15.2	17.3	6.8	11.5	3.1	4.7	9.4	9.4	13.1
20歳以上(n=1,547)	27.5	21.7	16.4	45.6	7.5	11.1	13.4	4.5	8.0	1.9	3.6	8.4	9.1	12.7
中途障害(n=1,995)	27.5	23.2	16.2	45.6	8.6	12.7	14.8	4.9	8.0	2.1	4.5	9.6	8.9	12.1

注：「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和を示す。

スポーツ・運動への取組別にみると、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」では「好きな種目を選ぶ」（24.9%）や「やったことがないスポーツを試せる」（12.1%）が他の取組状況と比較して高い。「スポーツや運動に関心はない」では「スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる」が約2割と高かった。【図表 144】

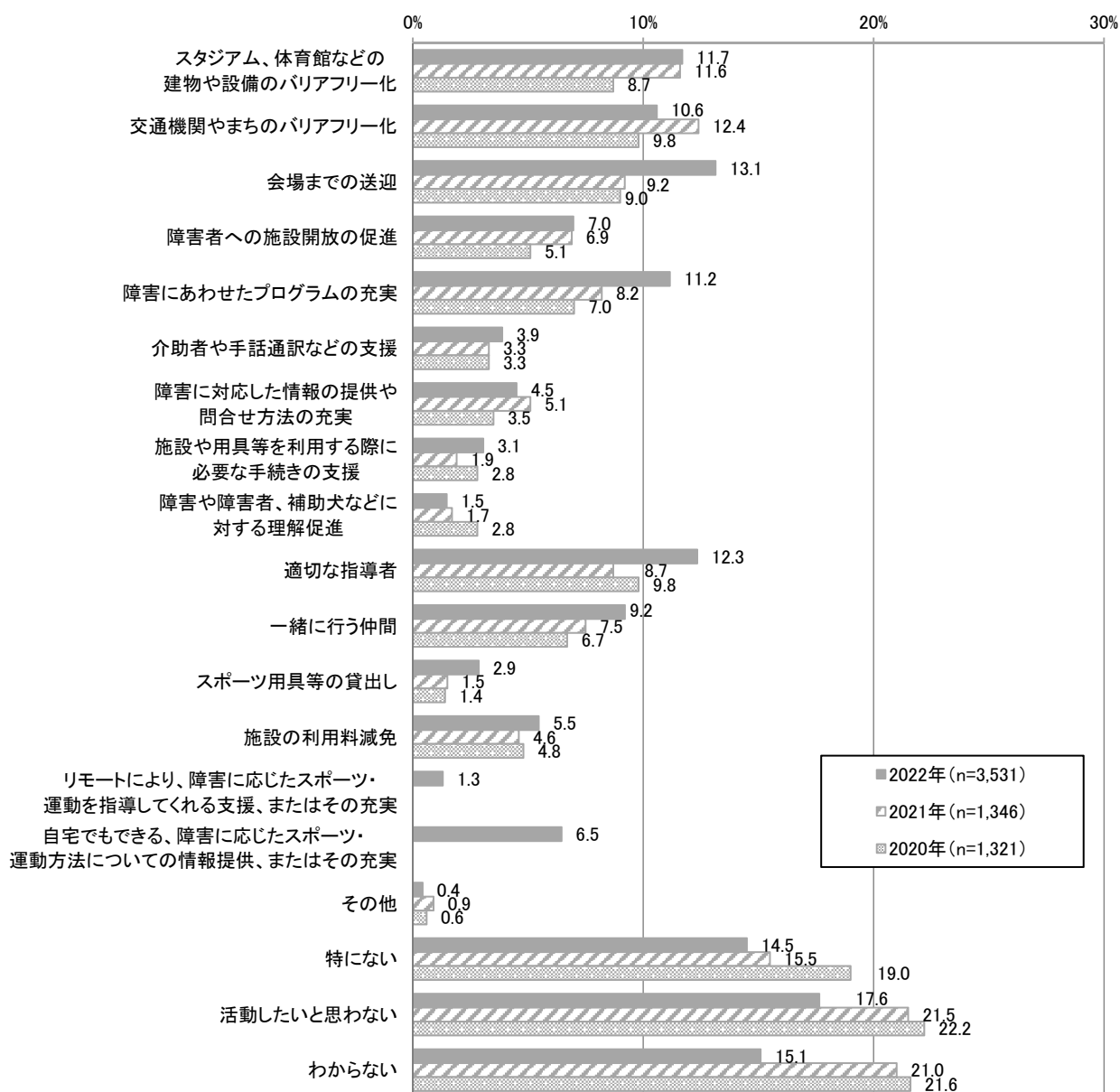
【図表 144】 参加したいスポーツ活動(スポーツ・運動への取組別)[複数回答]

	参加予約 したいとき に参加に できる	ルールが 簡単	新しい道具 やウェアを 買わなくて よい	自分のベース に合わせて できる	上達したことが 分かる	失敗しても 笑われたり 恥ずかしい 思いをしない	好きな種目 を選ぶ	試せる やったことが ないスポーツ を	汗をかかない	有名な選手 に会える	親子で一緒 に参加が できる	新しい友達 をつくる ことが できる	スポーツ以外 に芸術・文 化的なパ フォーマンス も楽しめる	その他
スポーツや運動を行っており、 満足している(n=669)	38.0	29.0	18.5	47.5	11.5	10.6	19.0	8.1	4.5	4.2	6.6	9.4	6.3	2.8
スポーツや運動を行っているが、 もっと行いたい(n=539)	34.3	28.9	24.1	54.0	19.1	22.3	24.9	12.1	5.4	5.8	6.7	13.0	9.3	1.1
スポーツや運動を行いたいと思うが できない(n=682)	27.6	26.5	19.1	47.4	11.0	19.2	17.3	6.3	7.3	2.9	5.6	11.4	8.2	6.9
スポーツや運動に関心はない (n=1,641)	15.0	13.1	6.5	22.3	3.7	6.5	6.4	2.9	9.3	1.9	3.4	6.3	19.8	13.4

(15) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援

スポーツや運動を行う際に必要な支援について、必要な支援があると回答した中では、「会場までの送迎」（13.1%）が最も高く、次いで「適切な指導者」（12.3%）、「スタジアム、体育館など建物や設備のバリアフリー化」（11.7%）、「交通機関やまちのバリアフリー化」（12.4%）、「障害にあわせたプログラムの充実」（11.2%）の順であった。【図表 145】

【図表 145】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援〔複数回答（3つまで）〕

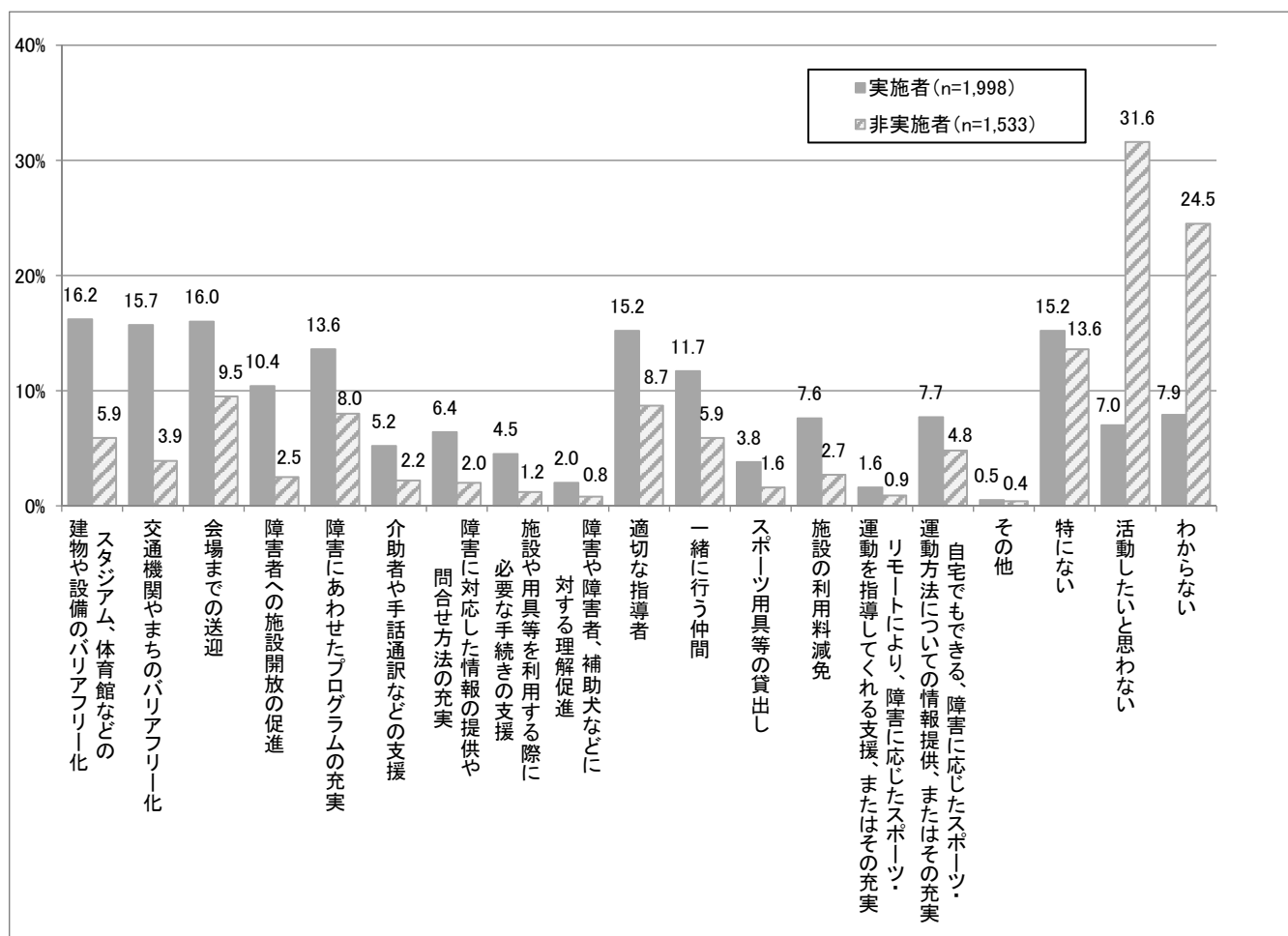


注1：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は図表147を参照

注2：「リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実」、「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」は2022年度調査から選択肢に追加

スポーツ・運動の実施の有無別でみると、実施者では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（16.2%）や「会場までの送迎」（16.0%）、「交通機関やまちのバリアフリー化」（15.7%）、「適切な指導者」（15.2%）の割合が高かった。非実施者が必要であると回答した中では、「会場までの送迎」（9.5%）、「適切な指導者」（8.7%）、「障害にあわせたプログラムの充実」（8.0%）の順に高かった。【図表 146】

【図表 146】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(運動の実施の有無別)[複数回答(3つまで)]



年齢別でみると、「7～17歳」及び「18～19歳」で「適切な指導者」や「障害にあわせたプログラムの充実」、「一緒に行く仲間」が比較的高く、「70歳代以上」では「会場までの送迎」（19.5%）の割合が最も高かった。【図表 147】

【図表 147】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(年齢別)[複数回答(3つまで)]

(単位: %)

	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害者に対する適切な情報提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出し
7歳～17歳(n=417)	13.2	10.1	13.7	10.1	17.5	4.8	4.6	3.4	2.4	18.2	14.4	3.1
18歳～19歳(n=52)	15.4	9.6	9.6	5.8	13.5	3.8	3.8	5.8	0.0	15.4	15.4	3.8
20歳代(n=328)	11.6	10.4	13.1	11.3	10.7	7.0	6.4	4.6	2.4	12.2	9.1	4.6
30歳代(n=445)	15.5	10.8	8.8	9.2	9.7	6.1	4.0	3.8	1.8	7.4	6.5	3.6
40歳代(n=491)	10.8	7.7	9.2	5.3	11.2	2.2	5.5	3.9	1.4	10.8	10.0	3.7
50歳代(n=564)	9.9	12.1	11.7	6.0	7.8	2.7	4.1	0.9	1.2	11.0	7.8	2.5
60歳代(n=512)	13.3	12.7	13.3	6.1	10.4	3.1	3.9	3.9	1.6	13.5	10.0	3.1
70歳代以上(n=722)	9.1	10.2	19.5	4.4	11.6	3.2	4.0	2.1	0.6	13.2	7.5	1.0
18歳以上(n=3,114)	11.5	10.7	13.1	6.6	10.3	3.8	4.5	3.0	1.3	11.6	8.5	2.8

	施設の利用料減免	充実	リモートにより、応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその	その充実	自宅でもできる、障害に 応じたスポーツ・運動方法に ついでの情報提供、または	その他	特にな い	活動したいと思わ ない	わ か ら な い
7歳～17歳 (n=417)	5.8	0.5		2.6	0.5	8.9	11.0	15.8	
18歳～19歳 (n=52)	3.8	0.0		7.7	0.0	13.5	13.5	15.4	
20歳代 (n=328)	7.0	0.9		5.8	0.6	11.6	11.9	15.5	
30歳代 (n=445)	5.2	1.3		4.0	0.0	12.8	16.2	17.8	
40歳代 (n=491)	5.5	2.0		5.9	0.2	13.8	18.9	14.9	
50歳代 (n=564)	5.1	1.8		6.0	0.5	17.9	20.7	16.0	
60歳代 (n=512)	6.1	1.0		8.8	0.8	15.8	17.6	13.9	
70歳代以上 (n=722)	4.7	1.4		9.4	0.4	17.0	22.0	13.2	
18歳以上 (n=3,114)	5.4	1.4		7.0	0.4	15.3	18.5	15.0	

障害種別でみると、「知的障害」において「適切な指導者」（20.2%）や「障害にあわせたプログラムの充実」（18.4%）、「会場までの送迎」（18.4%）が約2割であり、他の区分と比較して高かった。【図表 148】

【図表 148】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(障害種別)[複数回答(3つまで)]

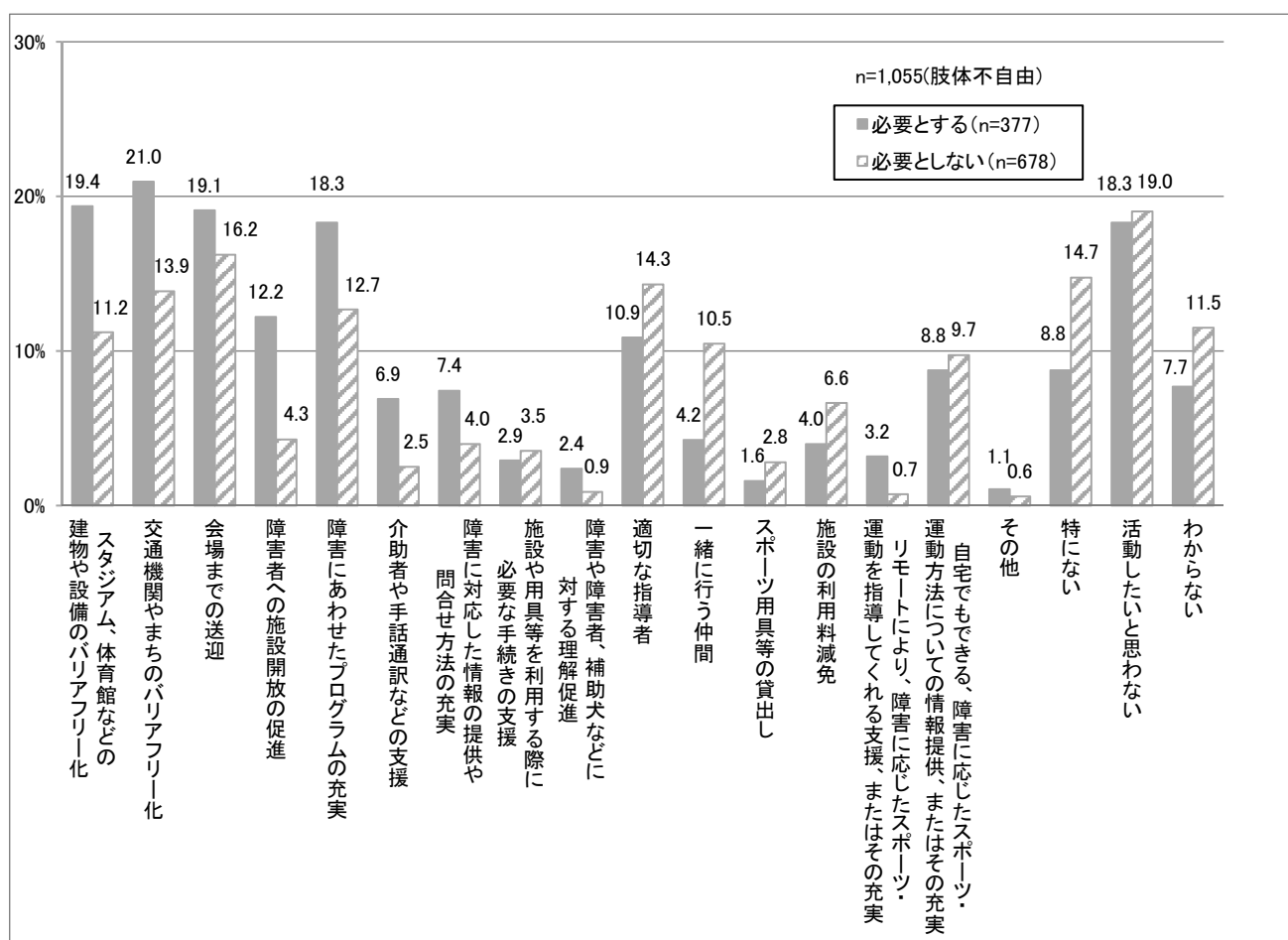
(単位: %)

	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害者に対する適切な情報提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し
視覚障害(n=475)	15.6	12.8	11.8	7.4	8.4	5.3	3.6	2.9	1.5	6.7	5.1	2.1
聴覚・平衡機能障害(n=302)	13.6	12.3	14.2	7.6	9.3	6.6	6.6	5.0	2.3	10.6	8.3	3.6
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	15.1	14.1	14.6	12.0	10.4	7.3	7.8	6.8	3.1	12.0	9.9	2.1
肢体不自由(n=1,055)	14.1	16.4	17.3	7.1	14.7	4.1	5.2	3.3	1.4	13.1	8.2	2.4
内部障害(n=611)	10.0	10.6	11.5	5.4	8.7	2.8	2.9	2.9	1.8	13.6	9.5	1.8
知的障害(n=441)	10.7	5.9	18.4	11.3	18.4	7.3	5.7	4.1	3.2	20.2	13.8	2.5
精神障害(n=716)	9.8	7.8	11.3	5.3	9.2	1.7	4.5	2.0	1.7	9.1	8.7	4.6
その他(n=142)	7.0	4.2	9.9	4.2	7.7	4.2	2.8	0.7	1.4	20.4	11.3	2.8

	施設の利用率減免	充実したプログラムによる支援、また運動指導	リモートによる指導	応じたプログラムによる指導	自宅でもできる、運動方法	その他	特にな	活動したいと思わ	わからない
視覚障害(n=475)	2.3	1.9	4.6	0.0	12.2	17.3	20.4		
聴覚・平衡機能障害(n=302)	3.6	1.7	5.6	0.3	15.6	13.6	15.2		
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	4.2	2.1	5.2	1.0	12.0	12.5	12.5		
肢体不自由(n=1,055)	5.7	1.6	9.4	0.8	12.6	18.8	10.1		
内部障害(n=611)	4.6	1.3	8.5	0.5	20.6	16.9	12.8		
知的障害(n=441)	8.6	0.9	6.6	0.5	10.2	14.3	11.8		
精神障害(n=716)	7.4	1.5	4.6	0.4	12.2	20.4	20.4		
その他(n=142)	9.9	1.4	5.6	1.4	23.2	16.2	14.8		

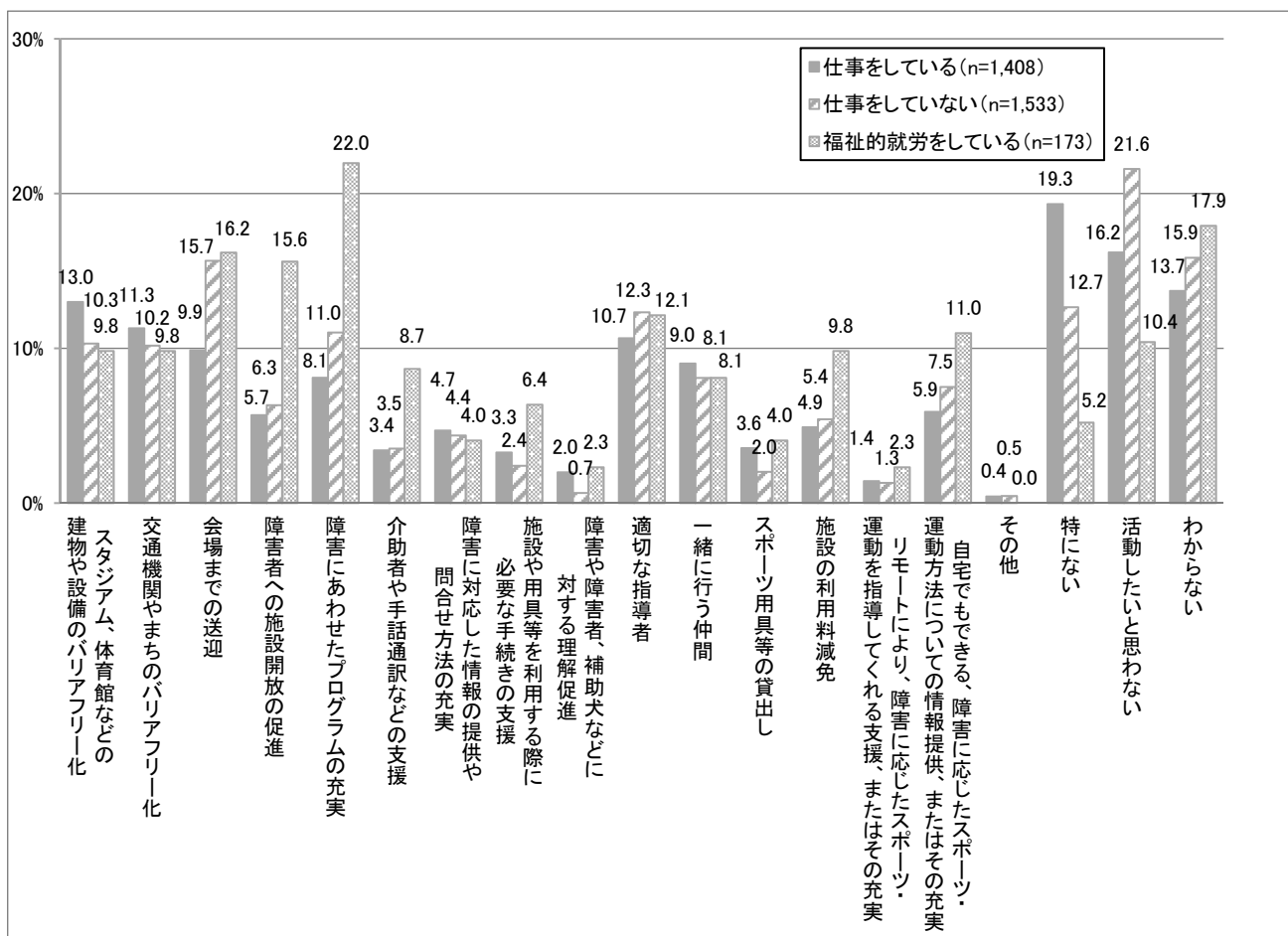
日常生活で車いす必要／不要別でみると、「必要とする」では「交通機関やまちのバリアフリー化」(21.0%)や「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(19.4%)、「会場までの送迎」(19.1%)といったバリアフリー整備や送迎のほか、「障害にあわせたプログラムの充実」(18.3%)も高かった。「必要としない」では「会場までの送迎」(16.2%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(14.3%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.9%)の順であった。【図表 149】

【図表 149】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(日常生活で車いす必要／不要別)
[複数回答(3つまで)]



就業状況別でみると、「仕事をしている」と比べて「仕事をしていない」、「福祉的就労をしている」では「会場までの送迎」が比較的高かった（それぞれ 15.7%、16.2%）。また、「福祉的就労をしている」では「障害にあわせたプログラムの充実」（22.0%）が最も高く、「障害者への施設開放の促進」（15.6%）も他の区分と比べて高い割合であった。【図表 150】

【図表 150】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(就業状況別)(18 歳以上)[複数回答(3つまで)]



平日・日中の居場所別でみると、「職場（福祉的就労の施設）」や「通所施設」「入所施設」の福祉サービスを利用している層で「会場までの送迎」や「障害にあわせたプログラムの充実」の割合が高い傾向であった。【図表 151】

【図表 151】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(平日・日中の居場所別)(18 歳以上)
[複数回答(3つまで)]

(単位: %)

	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に合わせた情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し
自分の家(n=1,928)	11.7	10.0	13.4	5.2	9.8	3.6	4.1	2.6	0.8	11.4	8.1	2.7
職場(一般企業など)(n=756)	11.9	11.6	10.2	5.4	8.2	2.8	4.5	3.0	2.4	11.5	10.4	3.2
職場(福祉的就労の施設)(n=81)	7.4	7.4	19.8	19.8	29.6	6.2	3.7	9.9	2.5	19.8	12.3	6.2
学校(n=76)	9.2	13.2	7.9	15.8	9.2	2.6	6.6	5.3	2.6	11.8	7.9	2.6
通所施設(生活介護、デイケアなど)(n=152)	11.8	17.8	19.7	15.8	15.8	11.8	7.9	4.6	1.3	13.8	6.6	2.6
入所施設(n=90)	8.9	5.6	17.8	10.0	11.1	2.2	5.6	1.1	2.2	6.7	2.2	0.0
その他(n=31)	9.7	12.9	12.9	6.5	16.1	0.0	3.2	0.0	0.0	6.5	6.5	3.2

	施設の利用料減免	充実したスポーツ・運動の指導	リモートによる、障害を指導	その充実	自宅でもできるスポーツ、運動方法に	その他	特にな	活動したいと思わ	わからない
自分の家(n=1,928)	5.4	1.1	7.7	0.5	14.7	20.1	15.9		
職場(一般企業など)(n=756)	5.0	1.6	4.9	0.0	21.0	18.3	11.5		
職場(福祉的就労の施設)(n=81)	13.6	4.9	17.3	0.0	3.7	12.3	9.9		
学校(n=76)	2.6	1.3	3.9	0.0	11.8	6.6	15.8		
通所施設(生活介護、デイケアなど)(n=152)	2.6	0.0	5.3	0.7	6.6	9.2	15.1		
入所施設(n=90)	7.8	4.4	4.4	0.0	8.9	16.7	26.7		
その他(n=31)	6.5	3.2	6.5	9.7	6.5	25.8	19.4		

学校種別では、小学校で「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（20.7%）、「交通機関やまちのバリアフリー化」（15.5%）の割合が比較的高かったが、全体的な回答の傾向には大きな差は見られなかった。一方、学級種別でみると、特別支援学級や特別支援学校で「障害にあわせたプログラムの充実」「適切な指導者」の割合が高かった。【図表 152】

【図表 152】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(学校種別)[複数回答(3 つまで)](高校生まで)

(単位: %)

<学校種別>	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し
小学校(n=232)	20.7	15.5	15.5	11.6	22.0	5.6	6.5	5.2	2.6	20.7	13.8	4.3
中学校(n=76)	7.9	7.9	13.2	10.5	17.1	6.6	5.3	3.9	2.6	22.4	19.7	5.3
高等学校(n=59)	10.2	8.5	15.3	10.2	16.9	3.4	5.1	5.1	6.8	13.6	13.6	1.7

	施設の利用料減免	リモートによる支援、またはその指導	充実したスポーツ、運動方法にその	自宅でもできるスポーツ、運動方法にその	その他	特にな	活動したいと思わ	わからない
小学校(n=232)	6.0	0.9	3.4	0.4	7.8	6.0	7.8	
中学校(n=76)	6.6	0.0	2.6	0.0	7.9	9.2	13.2	
高等学校(n=59)	6.8	0.0	3.4	1.7	6.8	18.6	13.6	

	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害に合わせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し
<学級種別>												
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通常学級のみ)に在籍) (n=170)	19.4	10.6	10.0	6.5	12.9	2.9	3.5	5.9	1.2	12.4	14.1	5.3
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通級による指導あり) (n=50)	24.0	22.0	26.0	6.0	16.0	6.0	8.0	0.0	2.0	20.0	14.0	4.0
小学校、中学校の普通学校 (特別支援学級) (n=68)	14.7	13.2	11.8	17.6	26.5	4.4	7.4	4.4	7.4	32.4	14.7	4.4
小学校、中学校、高等学校の特別支援学校 (養護学校・盲学校・ろう学校) (n=79)	6.3	11.4	21.5	19.0	32.9	11.4	8.9	6.3	5.1	25.3	17.7	1.3

	施設の利用料減免	充実したスポーツ・運動の指導	充実した情報提供、またはその	自宅でもできる、運動方法	特にな	活動したいと思わ	わからない
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通常学級のみ)に在籍) (n=170)	2.9	0.6	4.1	0.0	11.2	12.9	12.9
小学校、中学校、高等学校の普通学校 (通級による指導あり) (n=50)	12.0	0.0	4.0	2.0	8.0	2.0	4.0
小学校、中学校の普通学校 (特別支援学級) (n=68)	7.4	1.5	1.5	0.0	5.9	2.9	7.4
小学校、中学校、高等学校の特別支援学校 (養護学校・盲学校・ろう学校) (n=79)	8.9	0.0	2.5	1.3	1.3	8.9	8.9

放課後の居場所別でみると、「自分の家」では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（19.7%）、「適切な指導者」（19.3%）がともに約2割と高く、一方で「会場までの送迎」（13.3%）や「交通機関やまちのバリアフリー化」（12.1%）といった移動に関係する支援は他の区分と比較して低かった。また、いずれの区分においても「適切な指導者」の割合は高いが、「児童通所サービス（放課後等デイサービス等）」では39.7%と特に高かった。【図表153】

【図表153】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(放課後の居場所別)[複数回答(3つまで)]

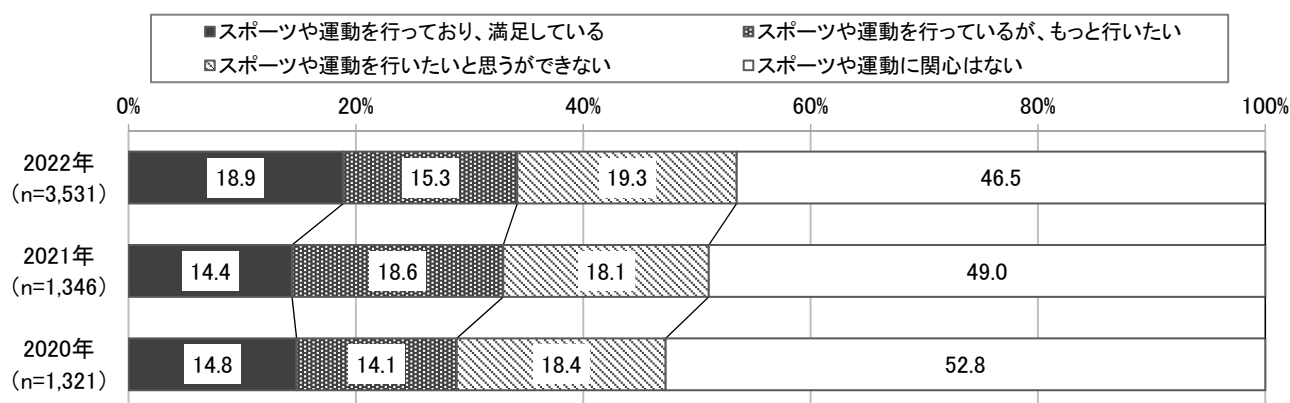
(単位: %)													
	建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害者にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害者に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し	
自分の家(n=264)	19.7	12.1	13.3	9.5	17.4	6.1	4.5	4.9	2.7	19.3	15.9	4.2	
習いごと(塾や英会話等の学習系)(n=51)	27.5	25.5	25.5	7.8	17.6	3.9	3.9	5.9	0.0	27.5	25.5	3.9	
習いごと(スイミングやサッカー等のスポーツ系)(n=37)	13.5	24.3	29.7	13.5	21.6	5.4	10.8	2.7	8.1	29.7	13.5	2.7	
習いごと(音楽や習字等の芸術系)(n=19)	15.8	21.1	31.6	10.5	5.3	10.5	15.8	10.5	5.3	26.3	15.8	0.0	
児童通所サービス(放課後等デイサービス等)(n=73)	13.7	9.6	27.4	15.1	35.6	5.5	6.8	2.7	5.5	39.7	17.8	1.4	
学童保育(n=27)	14.8	18.5	37.0	11.1	29.6	0.0	11.1	11.1	3.7	25.9	14.8	7.4	
広場や公園(n=18)	16.7	27.8	27.8	16.7	11.1	0.0	16.7	0.0	5.6	11.1	16.7	5.6	
学校(校庭や体育館)(n=15)	33.3	20.0	20.0	26.7	20.0	0.0	20.0	0.0	6.7	6.7	6.7	20.0	
児童館や図書館などの公共施設(n=13)	30.8	30.8	30.8	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0	15.4	0.0	0.0	7.7	
その他(n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	

	施設の 利用料減免	充実 したス ポーツ ・運 動を 指 導	リモ ート によ り、 障 害に 応 じ た ス ポ ー ツ ・ 運 動 方 法 に そ の 充 実	自 宅 で も で き る 、 障 害 に 応 じ た ス ポ ー ツ ・ 運 動 方 法 に そ の 充 実	そ の 他	特 に な い	活 動 し た い と 思 わ な い	わ か ら な い
自分の家 (n=264)	4.2	0.8	3.4	0.8	8.3	10.6	10.6	
習いごと(塾や英会話等の学習系) (n=51)	3.9	0.0	5.9	0.0	3.9	9.8	3.9	
習いごと(スイミングやサッカー等の スポーツ系) (n=37)	8.1	0.0	0.0	0.0	5.4	2.7	2.7	
習いごと(音楽や習字等の芸術系) (n=19)	10.5	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3	5.3	
児童通所サービス(放課後等デイ サービス等) (n=73)	13.7	0.0	4.1	1.4	1.4	5.5	6.8	
学童保育 (n=27)	18.5	0.0	3.7	0.0	11.1	0.0	3.7	
広場や公園 (n=18)	11.1	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	
学校(校庭や体育館) (n=15)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
児童館や図書館などの公共施設 (n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	0.0	7.7	
その他 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(16) 現在のスポーツ・運動への取組

現在のスポーツや運動への取組については、「スポーツや運動に関心はない」(46.5%)が最も高かった。次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(19.3%)、「スポーツや運動を行っており、満足している」(18.9%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(15.3%)の順であった。【図表 154】

【図表 154】現在のスポーツ・運動への取組

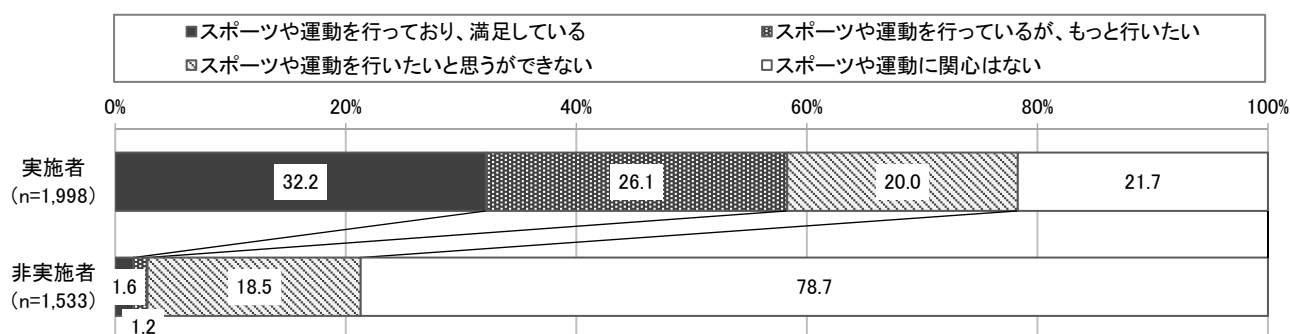


注：2021年までは18歳以上、2022年は7歳以上を調査対象としている。2022年分の18歳以上の数値は図表156を参照

なお、「スポーツや運動に関心はない」の理由として、「観戦するのは好きだが、やるのは好きではない」「スポーツや運動が嫌い」「時間がない(忙しい)」「ほかに興味の対象がある」「疲れる」「身体的・体力的に辛い」等が挙げられた。

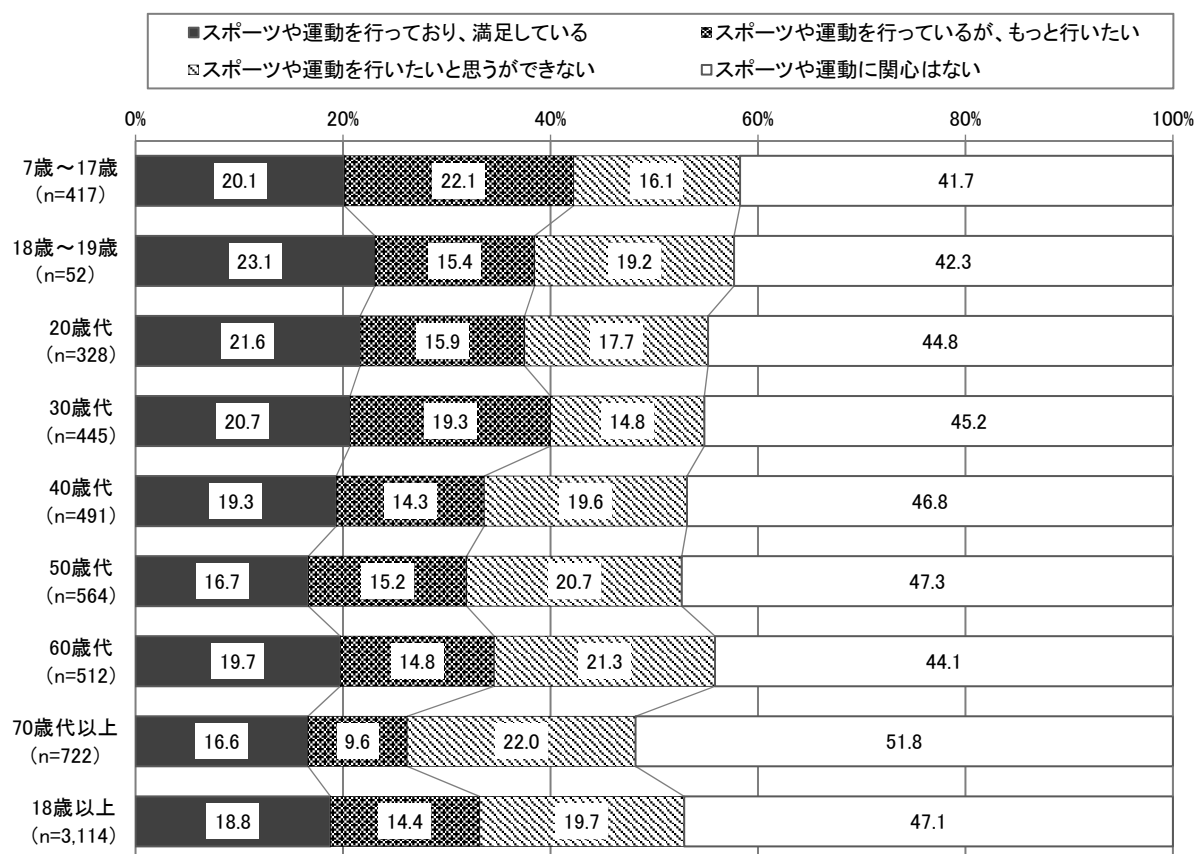
過去1年間のスポーツ・運動の実施有無別にみると、実施者では「スポーツや運動を実施しており、満足している」(32.2%)が約3割いる一方で、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(26.1%)と回答した人も一定程度いた。非実施者では、「スポーツや運動に関心はない」が約8割を占め、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」は18.5%であった。【図表 155】

【図表 155】現在のスポーツ・運動への取組(スポーツ・運動の実施の有無別)



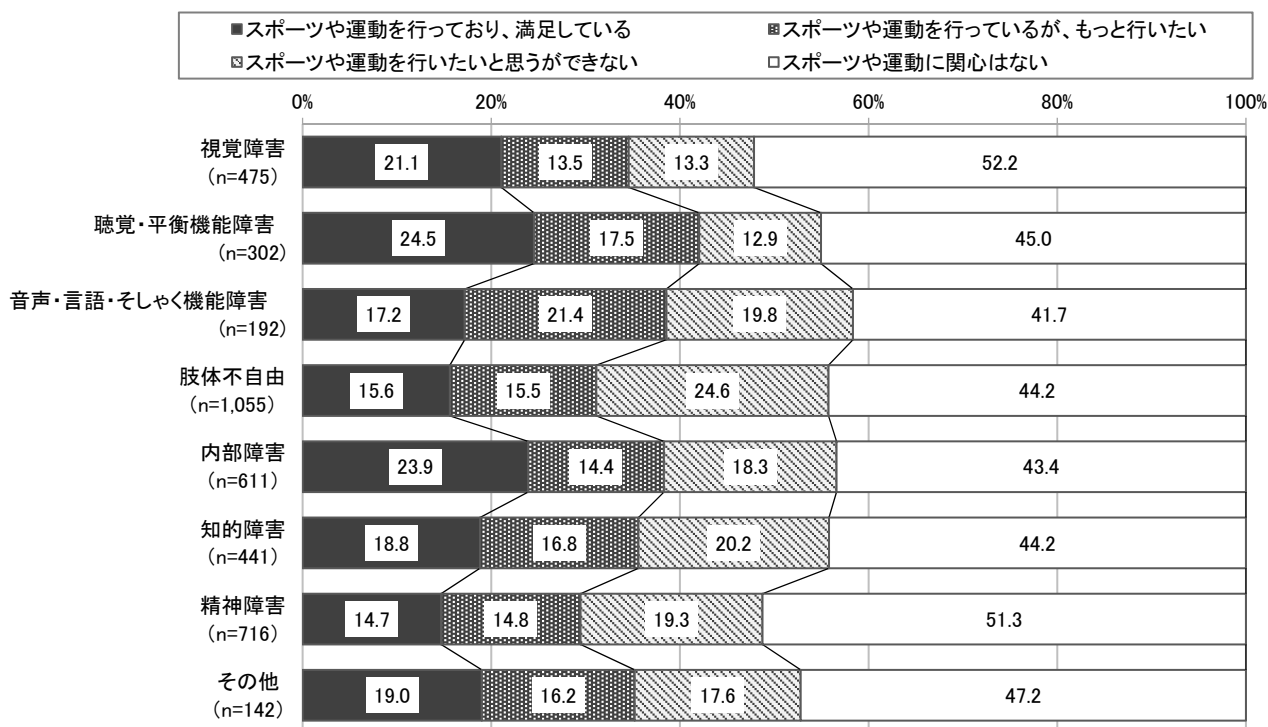
年齢別にみると、「7～17歳」では「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」が22.1%と他の区分と比較して最も高く、「スポーツや運動に関心はない」が41.7%で最も低かった。「スポーツや運動を行いたいと思うができない」は50歳代以降で2割を超え、「スポーツや運動に関心はない」は「70歳代以上」で半数を上回った。【図表 156】

【図表 156】現在のスポーツ・運動への取組（年齢別）



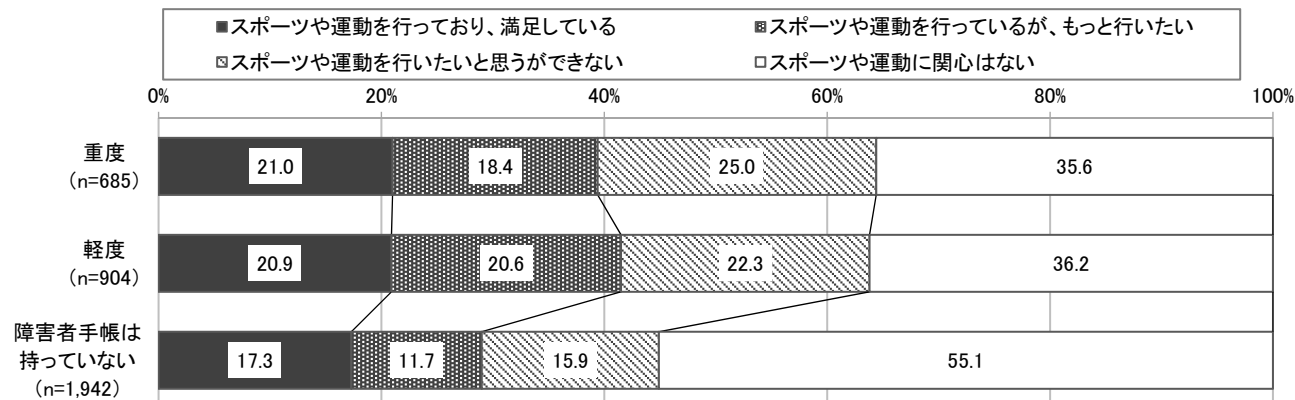
障害種別にみると、「肢体不自由」と「知的障害」では、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が2割を超えた。「視覚障害」と「精神障害」では「スポーツや運動に関心はない」が約半数であった。【図表 157】

【図表 157】現在のスポーツ・運動への取組(障害種別)



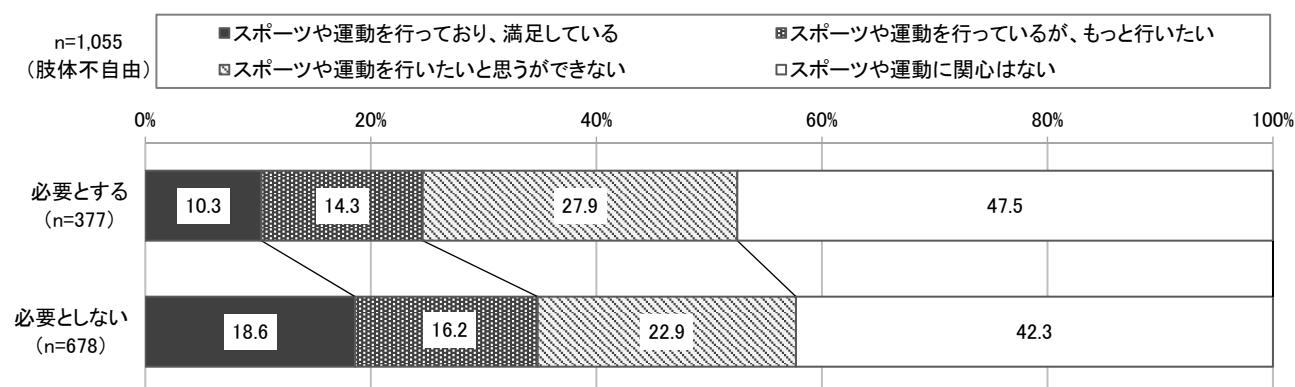
障害の程度別にみると、「障害者手帳は持っていない」で「スポーツや運動に関心はない」が 55.1% となり、「重度」と「軽度」を大幅に上回った。【図表 158】

【図表 158】現在のスポーツ・運動への取組(障害の程度別)



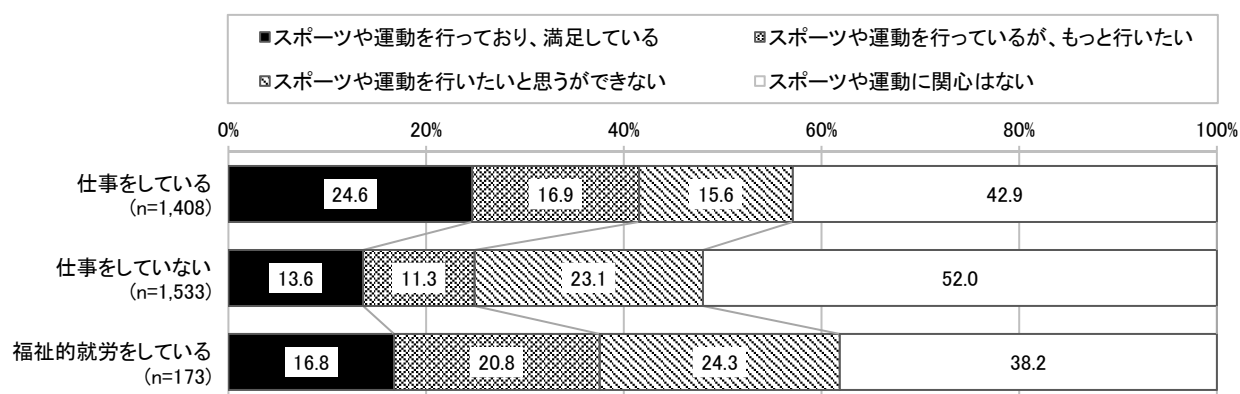
日常生活で車いす必要／不要別では、「必要とする」で「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が27.9%と「必要としない」よりも高い一方で、「スポーツや運動に関心はない」についても47.5%と「必要としない」よりも高かった。【図表 159】

【図表 159】現在のスポーツ・運動への取組(日常生活で車いす必要／不要別)



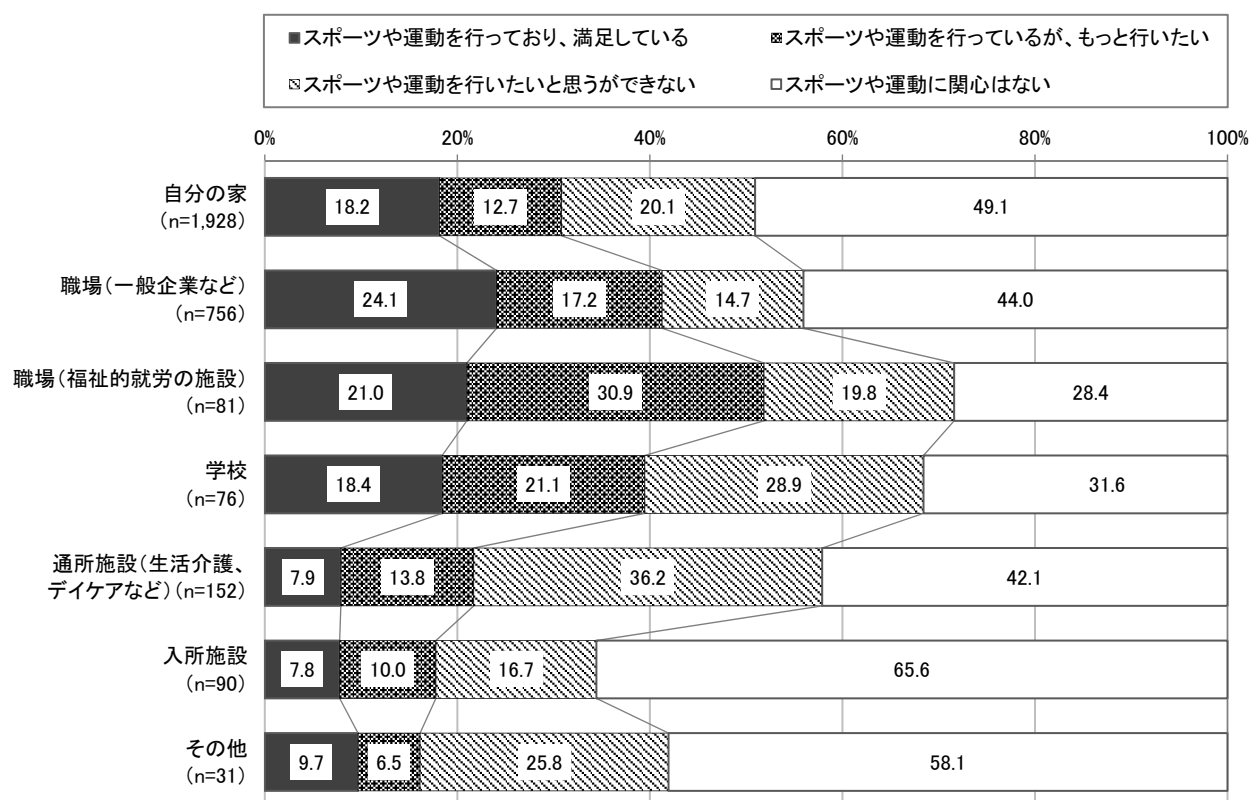
就業状況別にみると、「仕事をしている」は「スポーツや運動を行っており、満足している」(24.6%)の割合が他の区分と比べて高かった。「仕事をしていない」では「スポーツや運動に関心はない」が5割を超えた。【図表 160】

【図表 160】現在のスポーツ・運動への取組(就業状況別)(18歳以上)



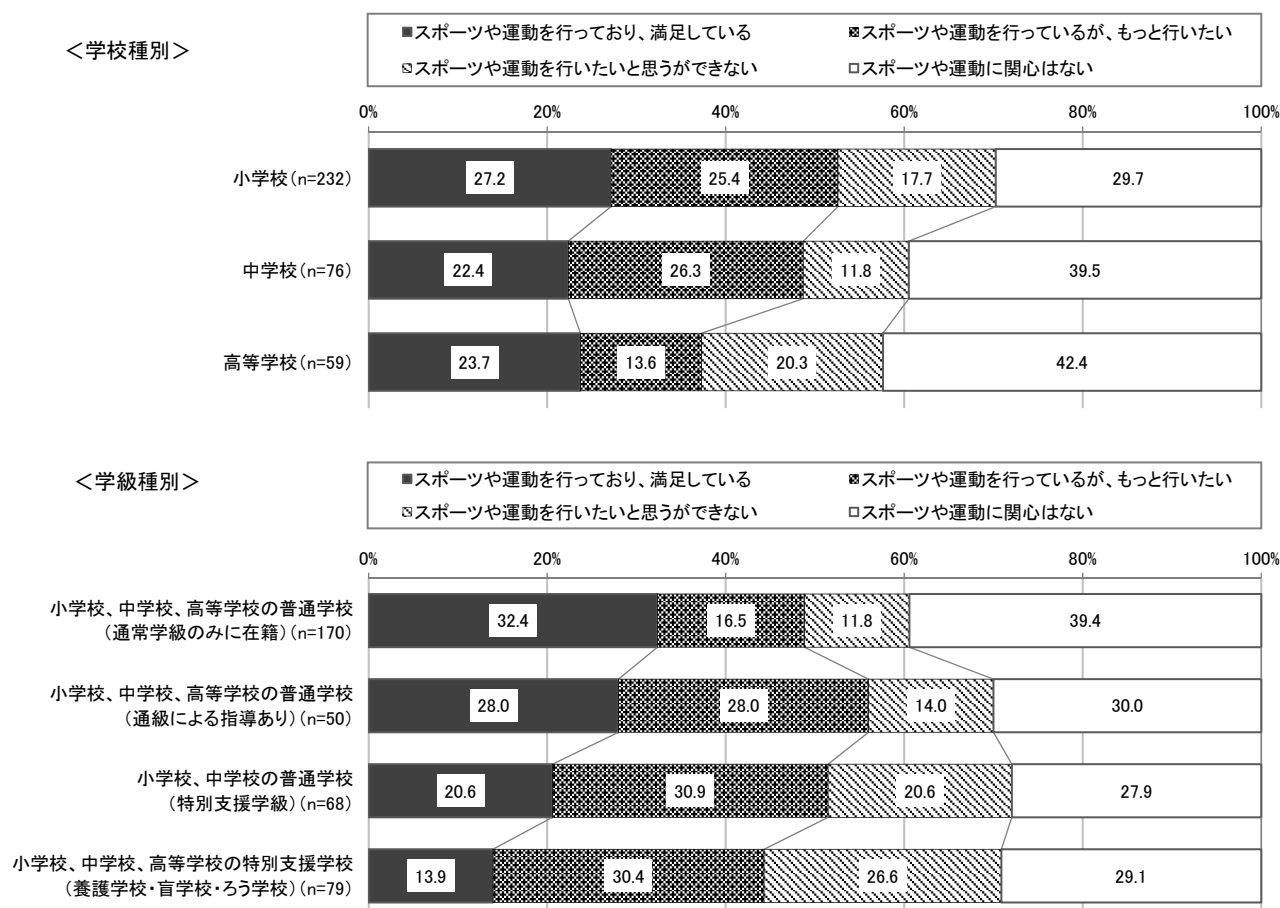
平日・日中の居場所別にみると、「職場（福祉的就労の施設）」で過ごす人では「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」（30.9%）が、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」においては「スポーツや運動を行いたいと思うができない」（36.2%）が他の区分と比較して高かった。また、「入所施設」において「スポーツや運動に関心はない」が6割を超えた。【図表 161】

【図表 161】現在のスポーツ・運動への取組（平日・日中の居場所別）（18 歳以上）



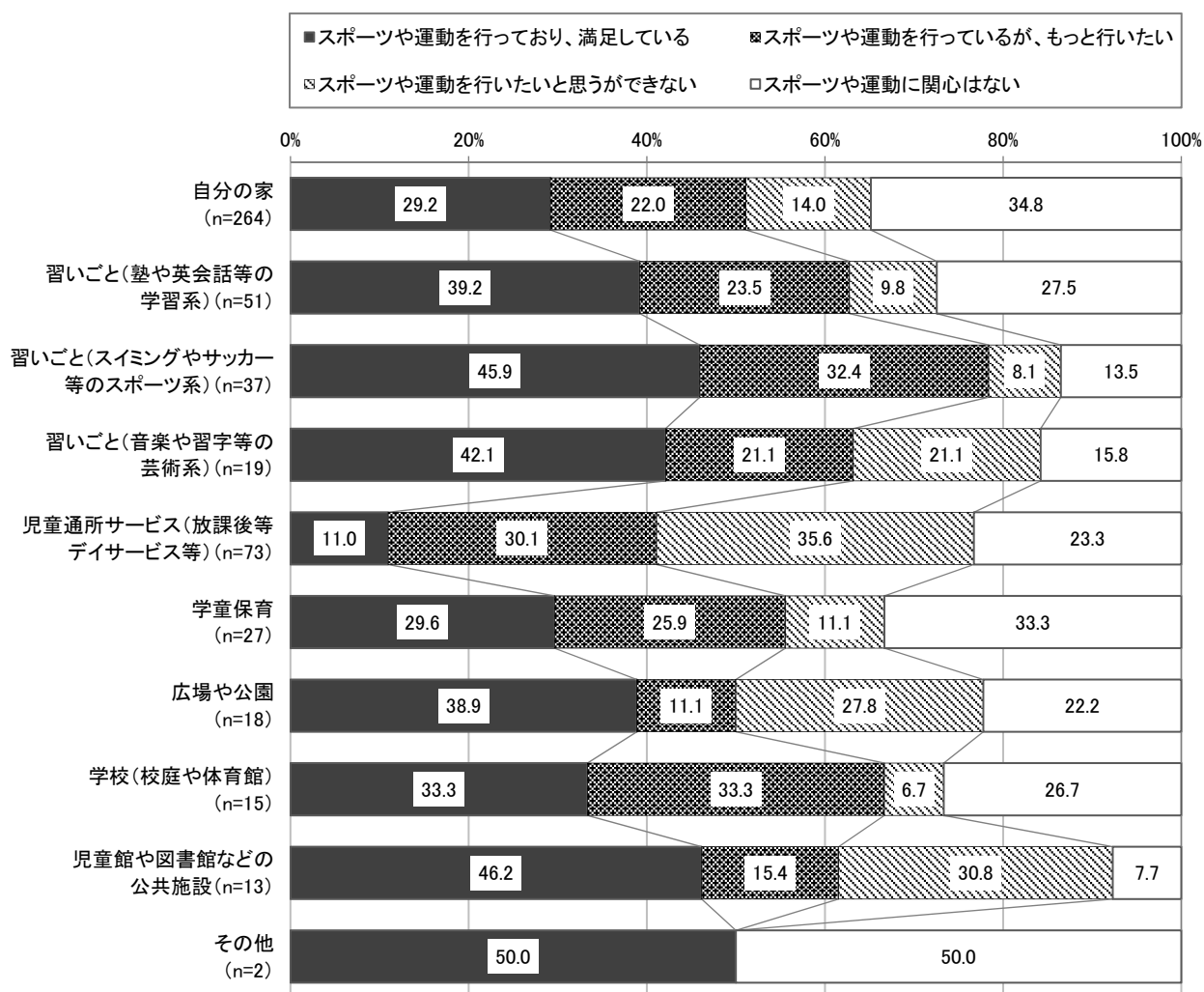
学級種別にみると、「普通学校（特別支援学級）」「特別支援学校」でいずれも「スポーツや運動を行っており、満足している」の割合が低く、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」「スポーツや運動を行いたいと思うができない」「スポーツや運動に関心はない」の合計が半数を超えた。【図表 162】

【図表 162】現在のスポーツ・運動への取組(学校種別)



放課後の居場所別でみると、「学校（校庭や体育館）」や「習い事（スイミングやサッカー等のスポーツ系）」、「児童通所サービス（放課後等デイサービス等）」において「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」が3割を超えた。また、「児童通所サービス（放課後等デイサービス等）」においては「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が35.6%と他の区分と比較して高かった。【図表 163】

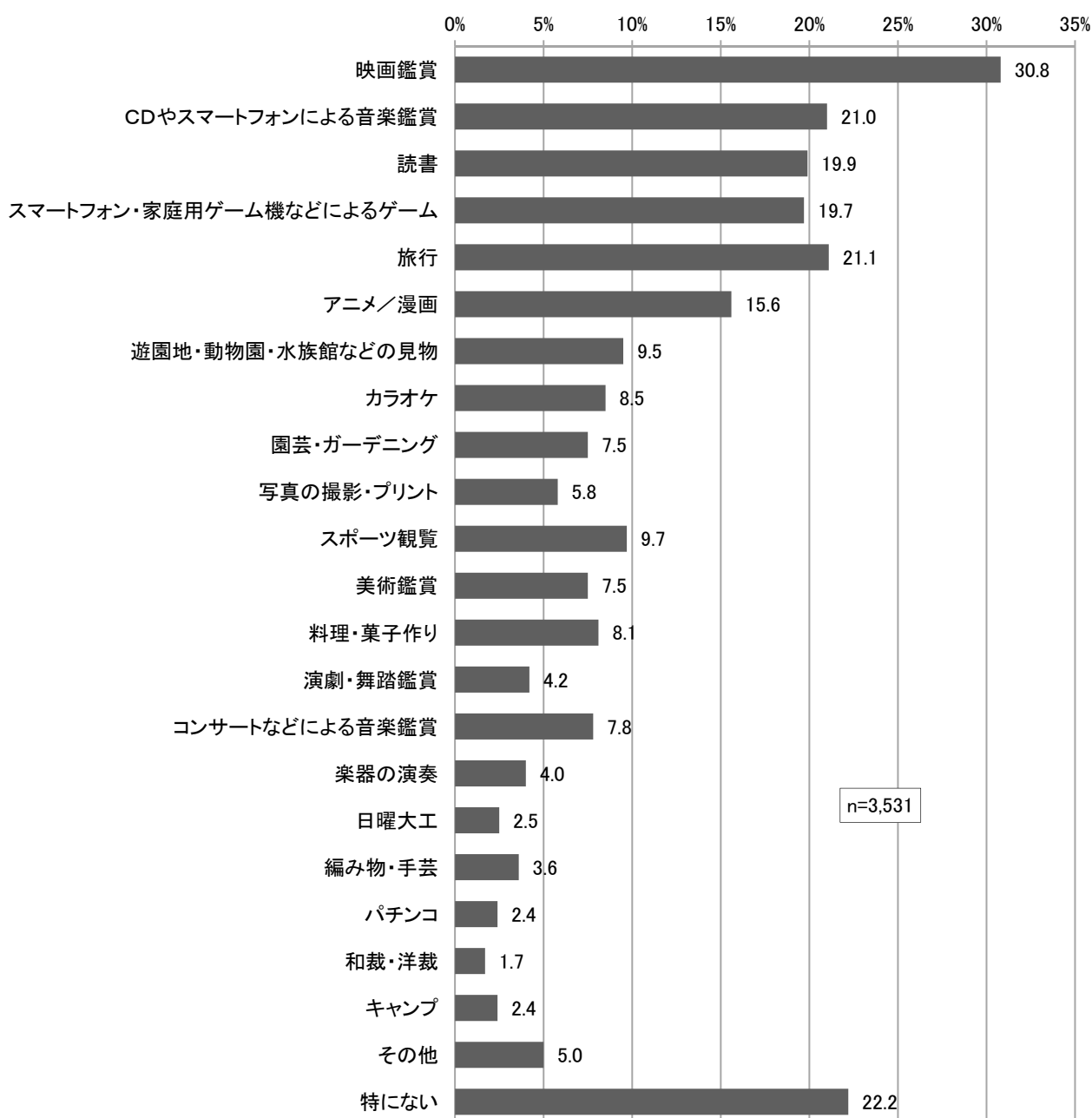
【図表 163】現在のスポーツ・運動への取組（放課後の居場所別）



(17) スポーツ・運動以外の関心

スポーツ・運動以外に好きなことや関心のあることでは、「映画鑑賞」（30.8%）の割合が最も高く、「特にない」（22.2%）を除くと、次いで「旅行」（21.1%）、「CDやスマートフォンによる音楽鑑賞」（21.0%）、「読書」（19.9%）の順であった。【図表 164】

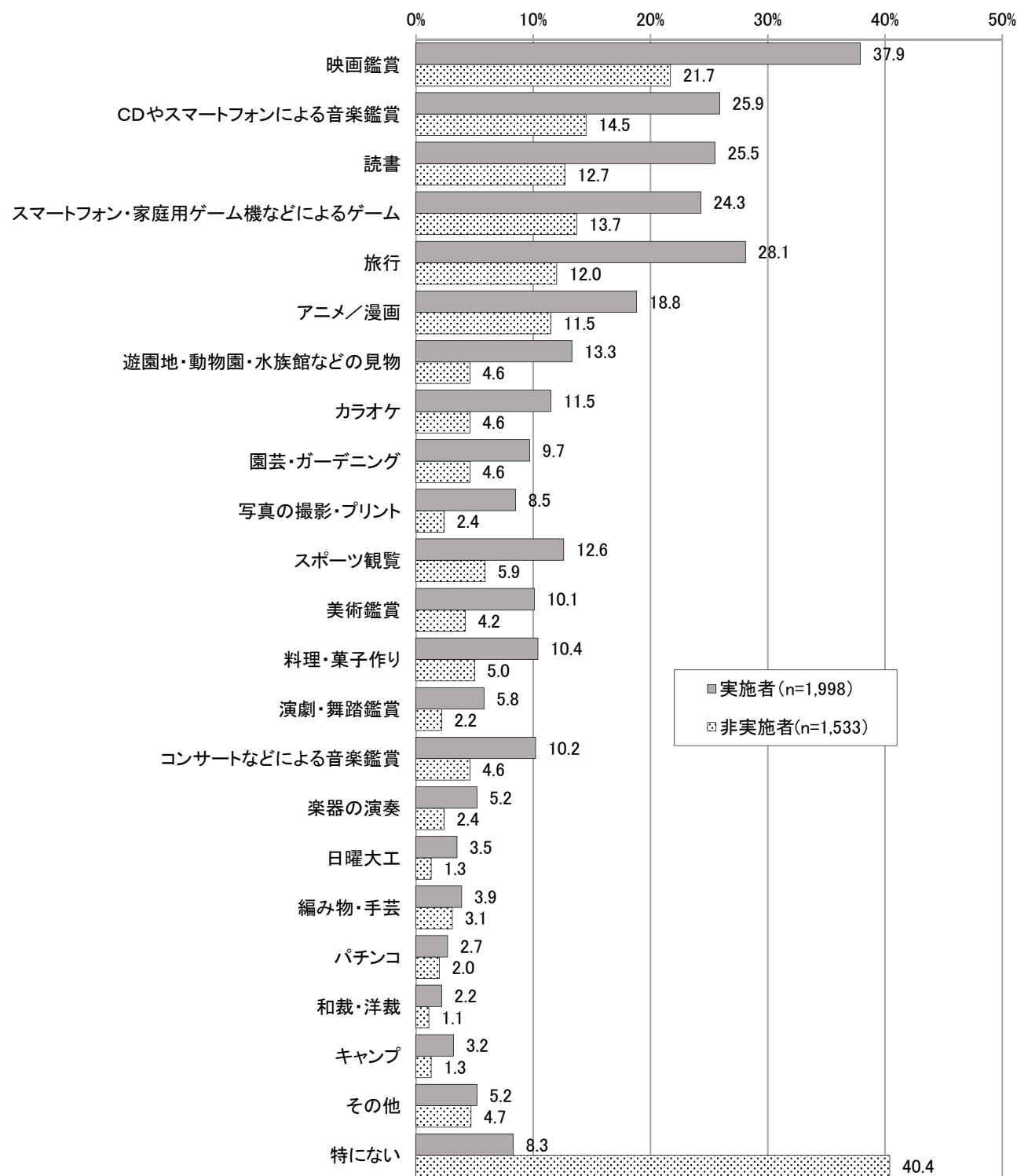
【図表 164】スポーツ・運動以外の関心〔複数回答〕



スポーツ・運動の実施の有無別でみると、実施者は「特にない」を除くすべての項目で非実施者よりも割合が高かった。非実施者では「特にない」（40.4%）が最も多く、実施者（8.3%）を大きく上回った。

【図表 165】

【図表 165】 スポーツ・運動以外の関心(スポーツ・運動の実施の有無別)[複数回答]



年齢別でみると、「7～17歳」では「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」「アニメ／漫画」の割合が高かったが、同項目は年齢が上がるにつれて割合が下がった。また、「読書」や「旅行」は年齢とともに割合が高くなる傾向にあった。「特にない」は「20歳代」で16.8%と最も低く、「70歳代以上」で28.8%と最も高かった。【図表166】

【図表166】スポーツ・運動以外の関心(年齢別)[複数回答]

(単位: %)

	映画鑑賞	CDやスマートフォンによる音楽鑑賞	読書	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	旅行	アニメ／漫画	水族館・動物園・遊園地など動物園・水族館など動物園・水族館	カラオケ	園芸・ガーデニング	写真の撮影・プリント	スポーツ観戦	美術鑑賞
7歳～17歳(n=417)	24.2	20.9	16.1	39.8	11.3	30.7	17.0	8.9	3.4	3.6	6.0	3.1
18歳～19歳(n=52)	25.0	36.5	11.5	34.6	17.3	26.9	9.6	17.3	3.8	7.7	7.7	3.8
20歳代(n=328)	31.4	26.5	14.0	28.0	15.9	23.8	13.4	10.7	4.0	6.7	6.7	5.2
30歳代(n=445)	29.7	22.0	16.9	24.7	20.9	24.7	11.7	11.0	4.5	6.5	8.1	5.8
40歳代(n=491)	31.2	21.4	18.5	22.0	22.2	17.9	10.8	7.3	5.9	6.7	11.8	8.6
50歳代(n=564)	37.9	25.4	19.5	15.1	22.0	12.2	8.3	6.7	5.7	5.7	9.4	8.5
60歳代(n=512)	40.0	22.5	25.8	13.5	32.4	8.6	7.4	8.4	10.2	6.6	12.3	12.3
70歳代以上(n=722)	23.3	12.0	24.5	6.5	20.2	2.9	3.6	7.2	14.1	5.1	11.2	7.6
18歳以上(n=3,114)	31.7	21.0	20.5	17.0	22.4	13.6	8.5	8.4	8.0	6.1	10.2	8.1

	料理・菓子作り	演劇・舞踏鑑賞	音楽鑑賞 コンサートなどによる	楽器の演奏	日曜大工	編み物・手芸	パチンコ	和裁・洋裁	キャンプ	その他	特にない
7歳～17歳(n=417)	7.4	1.0	3.6	4.3	2.2	3.1	1.2	1.4	3.8	3.8	19.2
18歳～19歳(n=52)	5.8	5.8	7.7	9.6	3.8	1.9	0.0	1.9	3.8	5.8	23.1
20歳代(n=328)	8.2	3.7	5.8	5.2	2.4	2.7	1.5	0.6	2.4	5.2	16.8
30歳代(n=445)	6.1	2.9	7.6	4.3	1.3	2.7	1.3	1.8	2.0	2.0	21.3
40歳代(n=491)	7.9	4.7	8.4	3.1	1.6	3.3	2.4	0.6	3.1	3.9	21.8
50歳代(n=564)	9.0	3.4	9.2	4.3	2.3	1.8	3.5	0.9	2.3	4.4	23.6
60歳代(n=512)	10.9	6.6	11.1	4.3	3.9	4.5	2.9	2.9	3.1	5.1	18.4
70歳代以上(n=722)	7.1	5.7	7.3	2.9	3.2	5.8	2.9	2.8	0.7	8.4	28.8
18歳以上(n=3,114)	8.2	4.7	8.3	3.9	2.6	3.6	2.5	1.7	2.2	5.1	22.6

障害種別では、「映画鑑賞」の割合が「知的障害」を除くすべての障害で最も高かった。「知的障害」では「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」（32.7%）や「アニメ／漫画」（24.7%）、「CDやスマートフォンによる音楽鑑賞」（25.2%）が他の障害種別に比べて高かった。「特にない」は「内部障害」で17.5%と最も低かった。【図表 167】

【図表 167】スポーツ・運動以外の関心(障害種別)[複数回答]

	映画鑑賞	CDやスマートフォンによる音楽鑑賞	読書	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	旅行	アニメ／漫画	遊園地・動物園・水族館などの見物	カラオケ	園芸・ガーデニング	写真の撮影・プリント	スポーツ観戦	美術鑑賞
視覚障害(n=475)	26.7	20.2	14.3	13.5	20.4	14.1	8.0	7.8	7.6	5.5	7.6	5.9
聴覚・平衡機能障害(n=302)	32.1	16.6	25.5	17.5	22.2	16.9	12.3	9.3	14.2	9.3	13.9	9.6
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	28.1	15.6	16.1	19.3	20.3	12.5	13.5	10.4	8.9	6.3	15.1	10.9
肢体不自由(n=1,055)	31.5	20.9	24.5	17.7	24.5	12.1	9.7	9.3	10.1	6.4	11.2	9.2
内部障害(n=611)	37.8	21.3	25.4	17.3	27.8	14.6	9.7	8.7	11.3	7.5	12.8	11.3
知的障害(n=441)	22.7	25.2	12.2	32.7	15.4	24.7	13.4	12.5	3.9	4.5	7.7	3.9
精神障害(n=716)	32.4	25.0	18.9	22.5	16.3	20.9	10.8	9.5	4.9	8.1	8.7	9.1
その他(n=142)	35.2	19.7	21.8	29.6	25.4	22.5	14.8	11.3	7.0	7.7	12.0	10.6

	料理・菓子作り	演劇・舞踏鑑賞	音楽鑑賞 コンサートなどによる	楽器の演奏	日曜大工	編み物・手芸	パチンコ	和裁・洋裁	キャンプ	その他	特にない
視覚障害(n=475)	4.6	4.2	6.9	5.1	3.2	3.2	3.8	2.5	4.2	1.9	32.0
聴覚・平衡機能障害(n=302)	8.9	5.3	9.3	4.3	6.0	7.6	4.3	3.3	4.3	3.3	21.5
音声・言語・そしゃく機能障害(n=192)	10.9	5.2	8.3	4.7	5.2	5.7	5.7	6.8	4.2	2.6	23.4
肢体不自由(n=1,055)	10.4	6.7	9.4	4.4	3.7	5.6	3.1	2.6	2.7	6.2	20.0
内部障害(n=611)	11.0	5.2	10.5	4.9	4.1	3.9	3.6	2.6	4.1	5.1	17.5
知的障害(n=441)	6.3	2.7	7.5	4.8	2.3	3.6	2.0	2.3	3.2	7.5	22.2
精神障害(n=716)	8.2	4.7	8.1	5.3	2.8	3.9	2.8	1.7	2.8	4.2	26.7
その他(n=142)	14.8	6.3	12.0	4.9	2.8	4.2	2.1	2.8	4.9	14.1	16.9

3 まとめ（調査結果の概要）

- 週1日以上スポーツ・運動を実施した人は35.2%、スポーツ・運動を実施していない人は44.4%

18歳以上で週に1日以上、何らかのスポーツ・運動を実施した人は35.2%で、昨年度の35.4%から0.2ポイント減少したが、ほぼ同水準となった。一方、スポーツ・運動を実施していない人は44.4%で、昨年度より1.5ポイント減少した。

7～17歳では、週に1日以上スポーツ・運動をした人は40.0%であった。【図表59】（P43参照）

- 過去1年間に実施したスポーツ・運動の上位種目は、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「室内運動器具を用いる運動」

過去1年間にスポーツ・運動を実施した人が行った種目は、昨年度と同様、「ウォーキング、散歩」が74.1%で最も高く、次いで「体操」（26.7%）、「室内運動器具を用いる運動」（14.9%）であった。【図表70】（P50参照）

- スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」、「自宅」、「広場や公園」

スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」が42.5%と最も高く、次いで「自宅」（40.3%）、「広場や公園」（28.7%）であった。【図表78】（P58参照）

- スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「一人」、「家族」、「福祉施設の職員・仲間」

スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「一人」が46.8%と最も高く、次いで「家族」（34.3%）、「福祉施設の職員・仲間」（9.4%）であった。【図表86】（P64参照）

- スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」、「運動不足解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」

スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」が64.4%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」（45.3%）、「楽しみや気晴らしのため」（34.8%）であった。【図表95】（P71参照）

- 東京オリンピック・パラリンピック前後でのスポーツ・運動実施に関して約4割が何らかの変化を実感（新規設問）

スポーツや運動の実施にあたり東京オリンピック・パラリンピック前後で感じた変化を尋ねたところ、「変わったことはない」（61.3%）を除くと、「身近な場所で運動ができる機会が増えた（区市町村や都が実施するスポーツ教室等）」（17.1%）、「スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ」（12.9%）、「スポーツ施設のバリアフリーが整備されたことにより、障害者の受入が進んだ」（10.0%）などが挙げられた。【図表102】（P75参照）

● スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」、「活動したいが、身体的にできない」、「活動したいが、一緒にできる人がいない」

スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」（73.6%）が最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」（17.5%）、「活動したいが、一緒にできる人がいない」（4.2%）であった。【図表 109】（P81 参照）

● 新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響では、約四分の一の人の活動量が減（新規設問）

新型コロナウイルス感染症による影響では、「前からスポーツ・運動をしておらず、現在もしていない」（35.1%）が最も高く、「前からスポーツ・運動をしており、活動の量は変わらない」（20.9%）と合わせて、活動量に変化がない人が約半数であった。一方で、「前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が減った」（16.2%）、「前はスポーツ・運動をしていたが、現在はやらなくなってしまった」（8.0%）の活動量が減った人の合計は 24.2% となった。【図表 120】（P90 参照）

● 参加したいスポーツ活動では「自分のペースに合わせてできる」、「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」、「ルールが簡単」など（新規設問）

どのようなスポーツや運動であれば参加したいと思うかを尋ねたところ、「自分のペースに合わせてできる」（36.8%）が最も高く、次いで「予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる」（24.7%）、「ルールが簡単」（21.1%）の順であった。【図表 139】（P105 参照）

● スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、「会場までの送迎」、「適切な指導者」、「スタジアム、体育館など建物や設備のバリアフリー化」など様々

スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、必要な支援があると回答した中では、「会場までの送迎」が 13.1% と最も高く、次いで「適切な指導者」（12.3%）、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（11.7%）、「障害にあわせたプログラムの充実」（11.2%）と様々であった。【図表 145】（P110 参照）

● 全体の約半数が「スポーツや運動に関心はない」

現在のスポーツや運動への取組に対して、「スポーツや運動に関心はない」との回答が 46.5% と最も高く、次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」（19.3%）、「スポーツや運動を行っており、満足している」（18.9%）となった。【図表 154】（P120 参照）

参考文献・付録

参考文献

東京都生活文化スポーツ局，『都民のスポーツ活動に関する実態調査』，令和5年3月
スポーツ庁，『障害者スポーツ推進プロジェクト（障害児・者のスポーツライフに関する調査研究）』，令和4年3月

資料・調査設問

《予備調査》

	分野	設問 番号	設 問																																																																																																												
属性	回答者性別	1	あなたの性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 男性 2 ☐ 女性																																																																																																												
属性	回答者年齢	2	あなたの年齢をお答えください。 歳																																																																																																												
属性	回答者居住地域	3	あなたが住んでいる区市町村をお答えください。 区市町村																																																																																																												
属性	障害の有無	4	あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか。(当てはまるものすべて) ※障害者手帳の有無は問いません 1 ☐ あなたご自身 2 ☐ 配偶者(夫や妻) 3 ☐ 父親 4 ☐ 母親 5 ☐ 兄弟 6 ☐ 姉妹 7 ☐ 子ども 8 ☐ 上記の中で障害のある方はいない																																																																																																												
※以下の項目は、障害のある方それぞれについて、お答えください。																																																																																																															
属性	障害者の年齢	5	ご家族で障害のある方の年齢をお答えください。(それぞれ数値をご記入ください。) 障害のある兄弟、姉妹、お子様が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番下の方についてのみお答えください。 <table><tr><th>ここに回答</th><th>年齢</th></tr><tr><td>あなたご自身</td><td> 歳</td></tr><tr><td>配偶者(夫や妻)</td><td> 歳</td></tr><tr><td>父親</td><td> 歳</td></tr><tr><td>母親</td><td> 歳</td></tr><tr><td>兄弟</td><td> 歳</td></tr><tr><td>姉妹</td><td> 歳</td></tr><tr><td>子ども</td><td> 歳</td></tr></table>	ここに回答	年齢	あなたご自身	歳	配偶者(夫や妻)	歳	父親	歳	母親	歳	兄弟	歳	姉妹	歳	子ども	歳																																																																																												
ここに回答	年齢																																																																																																														
あなたご自身	歳																																																																																																														
配偶者(夫や妻)	歳																																																																																																														
父親	歳																																																																																																														
母親	歳																																																																																																														
兄弟	歳																																																																																																														
姉妹	歳																																																																																																														
子ども	歳																																																																																																														
属性	障害者の性別	6	障害のあるお子さまの性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 男性 2 ☐ 女性																																																																																																												
属性	障害種別	7	あなた、あるいはご家族で障害のある方の障害の種類をお答えください。(それぞれ当てはまるものすべて) <table><tr><th>ここに回答</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th></tr><tr><td></td><td>視覚障害</td><td>聴覚・平衡機能障害</td><td>音声・言語・そしやく機能障害</td><td>肢体不自由(上肢)</td><td>肢体不自由(下肢)</td><td>肢体不自由(体幹)</td><td>(脳原性運動機能障害※)</td><td>内部障害</td><td>知的障害</td><td>精神障害</td><td>その他</td></tr><tr><td>あなたご自身</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>配偶者(夫や妻)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>父親</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>母親</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>兄弟</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>姉妹</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>子ども</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※脳性まひによる脳病変上肢機能障害、脳病変移動機能障害など	ここに回答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしやく機能障害	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	(脳原性運動機能障害※)	内部障害	知的障害	精神障害	その他	あなたご自身												配偶者(夫や妻)												父親												母親												兄弟												姉妹												子ども											
ここに回答	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11																																																																																																				
	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしやく機能障害	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	(脳原性運動機能障害※)	内部障害	知的障害	精神障害	その他																																																																																																				
あなたご自身																																																																																																															
配偶者(夫や妻)																																																																																																															
父親																																																																																																															
母親																																																																																																															
兄弟																																																																																																															
姉妹																																																																																																															
子ども																																																																																																															
属性	障害種別	7-1	問7で、選択肢4, 5, 6, 7のうち1つ以上あてはまる方にお聞きます あてはまる方は日常生活で車いすを必要としていますか。(それぞれ当てはまるものを1つ) <table><tr><th>ここに回答</th><th>必要とする</th><th>必要としない</th></tr><tr><td>あなたご自身</td><td></td><td></td></tr><tr><td>配偶者(夫や妻)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>父親</td><td></td><td></td></tr><tr><td>母親</td><td></td><td></td></tr><tr><td>兄弟</td><td></td><td></td></tr><tr><td>姉妹</td><td></td><td></td></tr><tr><td>子ども</td><td></td><td></td></tr></table>	ここに回答	必要とする	必要としない	あなたご自身			配偶者(夫や妻)			父親			母親			兄弟			姉妹			子ども																																																																																						
ここに回答	必要とする	必要としない																																																																																																													
あなたご自身																																																																																																															
配偶者(夫や妻)																																																																																																															
父親																																																																																																															
母親																																																																																																															
兄弟																																																																																																															
姉妹																																																																																																															
子ども																																																																																																															

《本調査》

	分野	設問 番号	設 問
			障害のある()についてお伺いします。
(属性)	障害者手帳の有無	1	障害のある()は障害者手帳を持っていますか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 身体障害者手帳 1級 8 ☐ 療育手帳(愛の手帳)2度(重度) 2 ☐ 身体障害者手帳 2級 9 ☐ 療育手帳(愛の手帳)3度(中度) 3 ☐ 身体障害者手帳 3級 10 ☐ 療育手帳(愛の手帳)4度(軽度) 4 ☐ 身体障害者手帳 4級 11 ☐ 精神障害者保健福祉手帳 1級 5 ☐ 身体障害者手帳 5級 12 ☐ 精神障害者保健福祉手帳 2級 6 ☐ 身体障害者手帳 6級 13 ☐ 精神障害者保健福祉手帳 3級 7 ☐ 療育手帳(愛の手帳)1度(最重度) 14 ☐ 障害者手帳は持っていない
(属性)	受傷の時期	2	障害のある()は何歳から障害がありますか。 複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 生まれたとき 2 ☐ 生まれた後 歳の時
アンケート	学校の種別	3	障害のある()が現在通っている学校の種別はどれですか。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 小学校の普通学校(通常学級のみ)に在籍) 9 ☐ 高等学校の普通学校(通常学級のみ)に在籍) 2 ☐ 小学校の普通学校(通級による指導あり) 10 ☐ 高等学校の普通学校(通級による指導あり) 3 ☐ 小学校の普通学校(特別支援学級) 11 ☐ 高等学校の特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校) 4 ☐ 小学校の特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校) 12 ☐ 大学・短期大学 5 ☐ 中学校の普通学校(通常学級のみ)に在籍) 13 ☐ 特別支援学校高等部専攻科、高等学校専攻科 6 ☐ 中学校の普通学校(通級による指導あり) 14 ☐ 職業能力開発校、障害者職業能力開発校等 7 ☐ 中学校の普通学校(特別支援学級) 15 ☐ なし 8 ☐ 中学校の特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)
アンケート	仕事の有無	4	障害のある()は、この1年間に収入を伴う仕事をしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 仕事をしている 3 ☐ 福祉的就労をしている (就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援) 2 ☐ 仕事をしていない
アンケート	平日・日中の居場所	5	障害のある()は、この1年間に平日の日中、主にどこで過ごしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 自分の家 5 ☐ 通所施設(生活介護、デイケアなど) 2 ☐ 職場(一般企業など) 6 ☐ 入所施設 3 ☐ 職場(福祉的就労(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)の施設) 7 ☐ その他 4 ☐ 学校
アンケート	放課後の居場所	6	障害のある()は、放課後は主にどこで過ごしていますか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 自分の家 6 ☐ 学童保育 2 ☐ 習いごと(塾や英会話等の学習系) 7 ☐ 広場や公園 3 ☐ 習いごと(スイミングやサッカー等のスポーツ系) 8 ☐ 学校(校庭や体育館) 4 ☐ 習いごと(音楽や習字等の芸術系) 9 ☐ 児童館や図書館などの公共施設 5 ☐ 児童通所サービス(放課後等デイサービス等) 10 ☐ その他
アンケート	情報入手先(スポーツ)	7	障害のある()は、日頃、どこからスポーツ・運動についての情報を得ていますか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 家族や友人 8 ☐ 障害者団体の会合や機関誌 2 ☐ 学校や職場、施設の人 9 ☐ インターネット 3 ☐ ボランティア、ヘルパーなどの支援者 10 ☐ SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど) 4 ☐ 医師や看護師、理学療法士、作業療法士などの医療関係者 11 ☐ 行政の窓口 5 ☐ テレビやラジオ 12 ☐ その他 6 ☐ 新聞 13 ☐ わからない 7 ☐ 区市町村などの広報誌
アンケート	情報入手先	8	障害のある()が、日常的に情報を得る手段は何ですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ テレビ 7 ☐ SNS (サービス名:) 2 ☐ ラジオ 8 ☐ 動画配信サービス (サービス名:) 3 ☐ 新聞 9 ☐ 行政の広報 4 ☐ 雑誌 (雑誌名:) 10 ☐ 駅や街頭のポスターや画面広告 5 ☐ インターネットサイト 11 ☐ その他 6 ☐ インターネットニュースサイト

アンケート	過去1年間の 実施種目	9	障害のある()は、この1年間にスポーツや運動を行いましたか。(当てはまるものすべて) ※ なお、ここでいう「スポーツ」や「運動」には、ルールに基づいて勝敗や記録を競うスポーツや運動だけでなく、散歩、体操をはじめ、健康づくりのために、目的を持って自主的に行う身体活動を広く含めます。 1 ☐ ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など) 14 ☐ アウトドアスポーツ(ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど) 2 ☐ 体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど) 15 ☐ サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ 3 ☐ 室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動 16 ☐ ブラインドサッカー 4 ☐ 陸上競技(ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます) 17 ☐ 車いすテニス 5 ☐ 水泳・遊泳(水中歩行・水中運動) 18 ☐ サウンドテーブルテニス 6 ☐ 球技(キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます) 19 ☐ シットティングバレーボール 7 ☐ ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、パレエ、民謡踊りなど) 20 ☐ 車いすバスケットボール 8 ☐ 格闘技(ボクシング、レスリング、相撲(すもう)など) 21 ☐ 車いすラグビー 9 ☐ 武道(柔道、剣道、空手、合気道など) 22 ☐ ボッチャ 10 ☐ 射的(弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など) 23 ☐ 運動あそび(鬼ごっこ、かくれんぼ、鉄棒、ぶらんこなど) 11 ☐ ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど) 24 ☐ その他 12 ☐ ウォータースポーツ(ボート、ヨット、スキンドайビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど) 25 ☐ 特にない 13 ☐ スカイスポーツ(ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど)
アンケート	実施頻度 (1年間)	10	障害のある()のスポーツや運動を実施した日数を全部足し合わせると、この1年間に何回くらい行っていますか。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 週3日以上(年151日以上) 5 ☐ 3か月に1,2日程度(年4日～11日) 2 ☐ 週2日程度(年101日～150日) 6 ☐ 年に1～3日程度 3 ☐ 週1日程度(年51日～100日) 7 ☐ わからない 4 ☐ 月に1～3日程度(年12日～50日)
アンケート	実施した場所	11	障害のある()がスポーツや運動を行った場所はどこですか。(当てはまるものすべて) ※障害のある()が学校に通っている場合、学校体育や行事以外を回答してください。 1 ☐ 自宅 9 ☐ 職場のスポーツ施設 2 ☐ 道路や遊歩道 10 ☐ 福祉施設 3 ☐ 広場や公園 11 ☐ 児童通所サービス(放課後等デイサービス等) 4 ☐ 民間のスポーツ施設 12 ☐ 医療機関(病院やリハビリ施設) 5 ☐ 公共のスポーツ施設(障害者専用施設) 13 ☐ 山・川・海 6 ☐ 公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外) 14 ☐ その他 7 ☐ 小中高校の体育施設 15 ☐ わからない 8 ☐ 特別支援学校の体育施設
アンケート	一緒に 実施する人	12	障害のある()がスポーツや運動を一緒にするのは誰ですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 一人 8 ☐ 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間 2 ☐ 家族 9 ☐ ボランティアの人たち 3 ☐ 福祉施設の職員・仲間 10 ☐ 学校の先生や学校の友達 4 ☐ スポーツ教室の指導者・仲間 11 ☐ 児童通所サービス(放課後等デイサービス等)の職員・仲間 5 ☐ 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間 12 ☐ その他の友人・知人 6 ☐ 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間 13 ☐ その他 7 ☐ 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間 14 ☐ わからない
アンケート	実施した理由	13	障害のある()が、スポーツや運動をするのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 健康・体力づくりのため 7 ☐ 家族のふれあいのため 2 ☐ 楽しみや気晴らしのため 8 ☐ 友人・仲間との交流のため 3 ☐ 運動不足解消のため 9 ☐ 美容や肥満解消(ダイエット)のため 4 ☐ 精神の修養や訓練のため(心をきたえるため) 10 ☐ 障害者スポーツ大会に参加するため 5 ☐ 自己の記録や能力を向上させるため 11 ☐ その他 6 ☐ リハビリテーションや医療・治療のため 12 ☐ わからない

アンケート	東京2020大会前後の変化	14	障害のある()が、スポーツや運動をしたり続けたりする上で、東京2020オリンピック・パラリンピック前後で変わったと感じることはありますか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 身近な場所で運動ができる機会が増えた(区市町村や都が実施するスポーツ教室等) 2 ☐ スポーツ施設スタッフの障害者に対する理解が進んだことにより、障害者の受入が進んだ 3 ☐ スポーツ施設のバリアフリーが整備されたことにより、障害者の受入が進んだ 4 ☐ 障害のある人に対する理解が進んだことにより、外出がしやすくなった 5 ☐ 街のバリアフリーが整ったことにより、運動する場所まで行きやすくなった 6 ☐ テレビや新聞等のメディアで、パラアスリートや障害者スポーツを目にすることが多くなった 7 ☐ 目標とする選手や大会ができた 8 ☐ その他 9 ☐ 変わったことはない
アンケート	実施していない理由	15	障害のある()が、スポーツや運動を行っていないのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 活動したいが、身体的にできない 2 ☐ 活動したいが、身近なところにスポーツや運動ができる場所がない 3 ☐ 活動したいが、スポーツや運動ができる場所への移動手段がない 4 ☐ 活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報が無い 5 ☐ 活動したいが、一緒にできる人がいない 6 ☐ 活動したいが、時間がない 7 ☐ 活動したいが、必要な競技用具や補助具がない 8 ☐ その他 9 ☐ 活動したいと思わない
アンケート	活動したいと思わない理由	16	問15で、「活動したいと思わない」と回答したのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ スポーツ・運動が嫌いだから 2 ☐ スポーツ・運動に興味がないから 3 ☐ 疲れるから 4 ☐ 人前に出るのが好きではないから 5 ☐ 学校の体育や部活動等で苦手意識を持ったから 6 ☐ スポーツ以外に興味があるから 7 ☐ 忙しいから 8 ☐ その他 9 ☐ わからない
アンケート	コロナによる影響	17	新型コロナウイルス感染症により、障害のある()のスポーツ・運動活動は、どのように変わりましたか。新型コロナウイルスの感染が広がる前と比べてお答えください。(当てはまるもの1つ) 【コロナ前にスポーツ運動をしていなかった】 1 ☐ 前からスポーツ・運動をしておらず、現在もしていない 2 ☐ 前はスポーツ・運動をしていなかったが、現在はするようになった 【コロナ前にスポーツ・運動をしていた】 3 ☐ 前はスポーツ・運動をしていたが、現在はやらなくなってしまった 4 ☐ 前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が減った 5 ☐ 前からスポーツ・運動をしており、活動の量は変わらない 6 ☐ 前からスポーツ・運動をしているが、活動の量が増えた 7 ☐ その他
アンケート	学校体育の参加状況	18	障害のある()の、学校体育への参加状況を教えてください。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ 参加していて、体育が好きである 2 ☐ 参加しているが、体育は好きではない 3 ☐ 参加していない 4 ☐ わからない
アンケート	学校体育に参加しない理由	19	問18で学校体育に「参加していない」と回答した方にお聞きします。障害のある()が、学校体育の授業に参加しない理由は何ですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 授業の内容のとおり身体を動かすことができないから 2 ☐ 自分にはできないと思ったから 3 ☐ 他の生徒や先生に迷惑をかけると思ったから 4 ☐ 参加するために必要なスポーツ用具がなかったから 5 ☐ 医師から止められていたから 6 ☐ 学校の先生から見学するように言われたから 7 ☐ 身体を動かすことが怖いから 8 ☐ その他
アンケート	学校におけるスポーツ・運動活動	20	障害のある()は、放課後や休日、長期休暇(夏休みや冬休みなど)中に、学校で運動やスポーツを行いますか。(当てはまるもの1つ) (ダンスやサッカー、体操などのクラブ活動や部活動、プール開放等、体育の授業以外のものへの参加について、お答えください。) 1 ☐ 行っている 2 ☐ 学校にクラブ活動や運動部等はあるが、行っていない 3 ☐ 学校にクラブ活動や運動部等はない
アンケート	参加したいスポーツ活動	21	障害のある()は、どのようなスポーツや運動であれば参加したいと思いますか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 予約や申し込みなしに、参加したいときに参加できる 2 ☐ ルールが簡単 3 ☐ 新しい道具やウェアを買わなくてよい 4 ☐ 自分のペースに合わせてできる 5 ☐ 上達したことが分かる 6 ☐ 失敗しても笑われたり恥ずかしい思いをしない 7 ☐ 好きな種目を選べる 8 ☐ やったことがないスポーツを試せる 9 ☐ 汗をかかない 10 ☐ 有名な選手に会える 11 ☐ 親子で一緒に参加ができる 12 ☐ 新しい友達をつくることできる 13 ☐ スポーツ以外に芸術・文化的なパフォーマンスも楽しめる 14 ☐ その他

アンケート	必要な支援	22	障害のある()が、スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。 特に、現在不足していて、今後活動する際に必要だと思われる支援をお答えください。(当てはまるもの3つまで) 1 ☐ スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化 2 ☐ 交通機関(電車やバス)やまちのバリアフリー化 3 ☐ 会場までの送迎 4 ☐ 障害者への施設開放の促進 (障害者が優先的に使える施設が増える) 5 ☐ 障害にあわせたプログラムの充実 6 ☐ 介助者や手話通訳などの支援 7 ☐ 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実 8 ☐ 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援 9 ☐ 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解 促進 10 ☐ 適切な指導者 11 ☐ 一緒に行う仲間 12 ☐ スポーツ用具等の貸出し 13 ☐ 施設の利用料減免 (利用料が安くなったり、無料になったりする) 14 ☐ リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、 またはその充実 15 ☐ 自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、 またはその充実 16 ☐ その他 17 ☐ 特にない 18 ☐ 活動したいと思わない 19 ☐ わからない
アンケート	スポーツ・運動への取組	23	障害のある()の現在のスポーツや運動への取組みについて、最も近いものを選んでください。(当てはまるもの1つ) 1 ☐ スポーツや運動を行っており、満足している 2 ☐ スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい 3 ☐ スポーツや運動を行いたいと思うができない 4 ☐ スポーツや運動に関心はない
アンケート	スポーツ・運動への取組	24	問23の回答理由を具体的にお答えください。
アンケート	スポーツ以外に関心のある事	25	障害のある()が、スポーツ以外に好きなことや関心のあることは何ですか。(当てはまるものすべて) 1 ☐ 映画鑑賞 2 ☐ CDやスマートフォンによる音楽鑑賞 3 ☐ 読書 4 ☐ スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム 5 ☐ 旅行 6 ☐ アニメ／漫画 7 ☐ 遊園地・動物園・水族館などの見物 8 ☐ カラオケ 9 ☐ 園芸・ガーデニング 10 ☐ 写真の撮影・プリント 11 ☐ スポーツ観覧 12 ☐ 美術鑑賞 13 ☐ 料理・菓子作り 14 ☐ 演劇・舞踏鑑賞 15 ☐ コンサートなどによる音楽鑑賞 16 ☐ 楽器の演奏 17 ☐ 日曜大工 18 ☐ 編み物・手芸 19 ☐ パチンコ 20 ☐ 和裁・洋裁 21 ☐ キャンプ 22 ☐ その他 23 ☐ 特にない

障害者のスポーツに関する意識調査報告書

令和5年3月発行

登録番号(4)115

発行／東京都生活文化スポーツ局

スポーツ総合推進部パラスポーツ課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4241(直通)

FAX 03-5388-1229

調査委託／株式会社サンビジネス